栃木県埋蔵文化財調査報告書第182集

横倉遺跡

一般国道4号（新4号国道）改築に伴う埋蔵文化財発掘調査

1995.9

栃木県教育委員会
(財)栃木県文化振興事業団

栃木県埋蔵文化財調査報告書第182集

横倉遺跡

一般国道4号（新4号国道）改築に伴う埋蔵文化財発掘調査

1995.9

栃木県教育委員会
(財)栃木県文化振興事業団

よこくら

横倉遺跡

一般国道4号（新4号国道）改築に伴う埋蔵文化財発掘調査

1995.9

栃木県教育委員会
(財)栃木県文化振興事業団

序

近年における首都圏の急激な拡大とともに、栃木県においても幹線道路の整備が緊急の課題となって参りました。こうした状況を踏まえて、建設省により策定された新4号国道の建設は、4号国道の渋滞解消を目的としたものであります。この計画路線内には多数の埋蔵文化財が所在しておりましたので、建設に先立ち記録保存を目的とした発掘調査を実施することになりました。

小山市域の新4号国道関連の発掘は、昭和55年度から着手し、13ヶ所の遺跡について発掘調査を実施しました。

横倉遺跡は小山市南部に所在し、昭和63年度から平成元年度にかけて試掘調査を行い、平成2年度に本調査を実施いたしました。その結果、旧石器時代から近世に至るまでの遺物が出土しております。本遺跡の中心となる時期は中世であり、掘立柱建物跡群や土壙墓群等が発見されました。中世小山の集落の様子を探るための一資料になるものと思われます。この度整理作業が終了し発掘報告書として刊行する運びとなりました。

本書が、県民の皆様にとりまして、郷土の歴史を理解する一助となるとともに、広く研究資料として活用していただければ幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大なる御指導、御協力をいただきました建設省宇都宮国道工事事務所、小山市教育委員会をはじめ関係機関並び関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成7年9月

栃木県教育委員会
教育長　石川　格

例　　言

1．本書は、栃木県小山市大字横倉字戸館・長谷に所在する横倉遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、一般国道4号（新4号国道）改築工事に伴う事前調査である。

3．調査は、建設省関東地方建設局宇都宮国道工事事務所の委託事業であり、栃木県教育委員会事務局文化課の指導により、財団法人栃木県文化振興事業団が実施したものである。これまでは建設省との契約名により、長谷遺跡と称していたが、小山市の遺跡台帳に従い、横倉遺跡と改称する。遺跡の略号は「ＯＹＨ」である。

4．調査期間及び担当者は以下のとおりである。

確認調査　昭和63年

岩上照朗・進藤敏雄

発掘調査　平成2年4月～平成3年3月

岩上照朗・片柳　茂・進藤敏雄・赤羽孝浩・本田剛弘

整理作業　平成7年2月～平成7年7月

5．報告書の作成は、（財）栃木県文化振興事業団が行い、担当者は以下のとおりである。

本文執筆　岩上照朗（第1章第1節）　亀田幸久（第３章第２節・第３節）　小筆一成（その他）

遺構写真　岩上照朗・進藤敏雄・本田剛弘

遺物写真　亀田幸久

遺物実測　亀田幸久（旧石器・縄文）・斎藤　弘（その他）

編　　集　小筆一成

6．本報告に係わる遺物・図面等は、（財）栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センターで保管している。

7．本遺跡の概要については、『一般国道4号（新4号国道）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の経過－平成元年度－』・『同－平成2年度－』で一部公表されているが、本書をもって正報告とする。

8．報告書作成関係者

赤荻タマエ・荒井　光枝・生駒　幸子・池沢　恵子・池沢ヨシ子・池杉　映子・池田留美子・板垣きみ子・岩本　文子・上杉　玲子・大平　洋子・大滝　久子・奥貫　ミイ・川村太加子・北島　洋子・北野登美子・小瀬　洋恵・佐伯智恵子・佐山　延子・菅原　澄子・鈴木キクイ・鈴木　典子・鈴木　則子・関　　ハル・瀬野佳代子・高橋　春恵・高橋ユリ子・舘野キヨ子・鳥山　初枝・鳥山　泰子・中野　里子・中村しま子・根本ひろ子・信末　シナ・長谷川明美・藤田八重子・峯　　容子・宮野美智子・山口　啓子・山滝　光枝・山中　さわ・山中　治子・山中　真弓

9．発掘調査関係者

赤荻タマエ・阿久津しげ・阿久津トキ・飯野　みつ・稲葉　良吉・遠藤江美子・大関キシエ・大関　スイ・大関　信之・　大橋　キイ・奥貫　ミイ・久保谷益枝・小井田イセ・小菅　恵子・小林　ミエ・佐山　みよ・鈴木キクイ・鈴木　　淑・　鈴木　正一・鈴木マサノ・鈴木美代子・関　　ハル・関口　定雄・染谷　モン・高橋　照江・舘野キヨ子・舘野　テル・　中島　ミキ・中村　キノ・中村　きん・中村　金三・中村しま子・

中村　セイ・中村　ミヨ・中村　米子・　中山　孝子・中山トヨ子・宮田　タイ・宮田　基司・山中　さわ・山中　タイ・山中マツ江・渡辺　成士

10. 発掘調査及び整理報告にあたり、次の諸氏・諸機関からご協力を賜わった。厚くお礼を申し上げる次第である。（50音順、敬称略）

秋山　隆雄・栗原　　淳・鈴木　一男・中島　敏也・福田　定信・藤貫　久子・野口　静男、建設省関東地方建設局宇都宮国道工事事務所、栃木県立博物館、小山市教育委員会、小山市博物館

凡　　例

1．本書で扱う遺構は、次の記号を付け、3桁の番号で表現した。

ＳＢ：掘立柱建物跡、ＳＤ：溝跡、ＳＥ：井戸跡、ＳＫ：土坑、ＳＸ：地下式壙・不明遺構

2．遺構実測図の縮小率は、次のとおりである。

ＳＢ：1/80、ＳＤ：1/160、ＳＥ：1/60、ＳＫ：1/60、ＳＸ：1/60、全体図：1/800、ピット群：1/250

3．遺物実測図等の縮小率は、次のとおりである。

1/1：古銭拓影

1/2：旧石器時代の遺物・縄文時代の石器（石鏃等）・鉄製品・石製模造品

1/3：縄文時代の土器・縄文時代の石器（磨石・礫器等）・砥石

1/4：古墳時代以降の土器・近世の土製品・鉄滓

4．遺構実測図に示した断面水準線数値は、海抜標高を示す。

5．遺構実測図に示した方位は、国土座標による座標北（国土座標第Ⅸ系）である。

6．実測図のスクリーントーンは、次のとおりである。

遺構：掘立柱建物跡に施し、主軸の向きにより3種類に分類した。

　　：撹乱部分に施した。

遺物：胎土に多量の繊維を含む縄文土器、油煙の付着した灯明具、獣骨の火を受けた部分に施した。

目　　次

序
例言
凡例
目次
第1章　発掘調査に至る経緯及び経過 …… 1
第1節　発掘調査の経緯 …… 1
第2節　発掘調査の経過と方法 …… 7
第2章　遺跡の環境 …… 9
第1節　地理的環境 …… 9
第2節　歴史的環境 …… 11
第3章　検出された遺構と遺物 …… 20
第1節　遺跡の概要 …… 20
第2節　旧石器時代の遺物 …… 22
第3節　縄文時代の遺物 …… 22
(1) 土器 …… 22
(2) 石器 …… 31
第4節　古墳時代の遺物 …… 32
第5節　中世の遺構・遺物 …… 37
(1) 掘立柱建物跡 …… 37
(2) 井戸跡 …… 46
(3) 溝跡 …… 54
(4) 土坑 …… 60
(5) 地下式壙・性格不明遺構 …… 107
(6) ピット群 …… 110
(7) 表採遺物 …… 110
第4章　まとめ …… 115

挿　図　目　次

第1図　新4号国道路線と発掘調査遺跡（栃木県）位置図 …… 5～6
第2図　横倉遺跡試掘トレンチ配置図 …… 8
第3図　遺跡位置図 …… 9
第4図　周辺地形図 …… 9
第5図　横倉遺跡周辺地形図 …… 10
第6図　八幡根東遺跡出土石器 …… 11
第7図　周辺の遺跡 …… 12
第8図　寺野東遺跡環状盛土・谷部遺構配置図 …… 13
第9図　清六Ⅲ遺跡検出再葬墓・出土土器 …… 14
第10図　塚崎遺跡出土石製模造品 …… 14
第11図　塚崎遺跡石製模造品工房跡 …… 15
第12図　溜ノ台遺跡鍛冶遺構出土遺物 …… 15
第13図　溜ノ台遺跡鍛冶遺構 …… 16
第14図　鷲城跡測量図 …… 17
第15図　遺跡周辺の古道と館跡 …… 19
第16図　横倉遺跡基本土層図 …… 20
第17図　基本土層実測位置図 …… 20
第18図　横倉遺跡グリッド配置図 …… 21
第19図　横倉遺跡旧石器実測図 …… 22
第20図　横倉遺跡縄文土器実測図 (1) …… 24
第21図　横倉遺跡縄文土器実測図 (2) …… 25
第22図　横倉遺跡縄文土器実測図 (3) …… 26
第23図　横倉遺跡縄文土器実測図 (4) …… 27
第24図　横倉遺跡縄文土器実測図 (5) …… 28
第25図　横倉遺跡縄文石器実測図 (1) …… 33
第26図　横倉遺跡縄文石器実測図 (2) …… 34
第27図　横倉遺跡遺構全体図 …… 35～36
第28図　横倉遺跡ＳＢ－001実測図 …… 37
第29図　横倉遺跡ＳＢ－002実測図 …… 38
第30図　横倉遺跡ＳＢ－003実測図 …… 38
第31図　横倉遺跡ＳＢ－004実測図 …… 39

第32図　横倉遺跡ＳＢ－007実測図 …… 40
第33図　横倉遺跡ＳＢ－009実測図 …… 41
第34図　横倉遺跡ＳＢ－012実測図 …… 42
第35図　横倉遺跡ＳＢ－013実測図 …… 42
第36図　横倉遺跡ＳＢ－016実測図 …… 43
第37図　横倉遺跡ＳＢ－017実測図 …… 44
第38図　横倉遺跡ＳＢ－056実測図 …… 44
第39図　横倉遺跡ＳＢ－057実測図 …… 45
第40図　横倉遺跡井戸跡実測図（1）…… 47
第41図　横倉遺跡井戸跡実測図（2）…… 48
第42図　横倉遺跡井戸跡実測図（3）…… 49
第43図　横倉遺跡井戸跡実測図（4）…… 50
第44図　横倉遺跡井戸跡実測図（5）…… 51
第45図　横倉遺跡井戸跡出土遺物実測図（1）・53
第46図　横倉遺跡井戸跡出土遺物実測図（2）・54
第47図　横倉遺跡溝跡実測図（1）…… 55～56
第48図　横倉遺跡溝跡実測図（2）…… 57
第49図　横倉遺跡溝跡出土遺物実測図 …… 59
第50図　横倉遺跡土坑実測図（1）…… 61
第51図　横倉遺跡土坑実測図（2）…… 63
第52図　横倉遺跡土坑実測図（3）…… 65
第53図　横倉遺跡土坑実測図（4）…… 67
第54図　横倉遺跡土坑実測図（5）…… 69
第55図　横倉遺跡土坑実測図（6）…… 71
第56図　横倉遺跡土坑実測図（7）…… 73
第57図　横倉遺跡土坑実測図（8）…… 75
第58図　横倉遺跡土坑実測図（9）…… 77
第59図　横倉遺跡土坑実測図（10）…… 79
第60図　横倉遺跡土坑実測図（11）…… 81
第61図　横倉遺跡土坑実測図（12）…… 83
第62図　横倉遺跡土坑実測図（13）…… 85
第63図　横倉遺跡土坑実測図（14）…… 87
第64図　横倉遺跡土坑実測図（15）…… 89
第65図　横倉遺跡土坑実測図（16）…… 91
第66図　横倉遺跡ＳＫ－239遺物出土状況図 … 93
第67図　横倉遺跡土坑出土遺物実測図 …… 106
第68図　横倉遺跡ＳＸ－052実測図 …… 107
第69図　横倉遺跡ＳＸ－219実測図 …… 108
第70図　横倉遺跡ＳＸ－219出土遺物実測図 … 109
第71図　横倉遺跡掘立柱建物跡群・
　　ピット群実測図 …… 111～112
第72図　横倉遺跡表採遺物実測図（1）…… 113
第73図　横倉遺跡表採遺物実測図（2）…… 114

表　目　次

第1表　一般国道4号（新4号国道）改築工事に
　　係わる埋蔵文化財包蔵地一覧表 …… 3
第2表　調査工程表 …… 4
第3表　横倉遺跡基本土層説明 …… 20
第4表　石器計測表 …… 32
第5表　遺構一覧表 …… 116
第6表　遺構別出土遺物点数表 …… 120
第7表　掲載遺物観察表 …… 121

写 真 図 版 目 次

図版1　遺構 …… 137
低地部分遠景
ＳＸ－052　完掘
図版2　遺構 …… 138
ＳＤ－051
ＳＤ－193
図版3　遺構 …… 139
ＳＤ－051　セクション
ＳＫ－239　遺物出土状況（1）
ＳＫ－239　遺物出土状況（2）
ピット群
ＳＤ－193　セクション
ＳＥ－074　上部完掘
ＳＥ－074　下部セクション
作業風景
図版4　遺構 …… 140
ＳＥ－093　上部完掘
ＳＥ－093　セクション
ＳＥ－099　完掘（平面）
ＳＥ－099　完掘
ＳＥ－153　完掘（平面）
ＳＥ－153　セクション
ＳＫ－070　完掘
ＳＫ－070セクション
図版5　遺構 …… 141
ＳＫ－090　完掘
ＳＫ－090　セクション
ＳＫ－097　完掘
ＳＫ－097　セクション
ＳＫ－115　完掘
ＳＫ－115　セクション
ＳＫ－159　完掘
ＳＫ－159　セクション
図版6　遺構 …… 142
ＳＫ－163　完掘
ＳＫ－163　セクション
ＳＫ－166・167　完掘
ＳＫ－166・167　セクション
ＳＫ－184　完掘
ＳＫ－184　セクション
ＳＫ－173～178　完掘
作業風景
図版7　周辺の中世遺跡 …… 143
塚田館跡
三蔵神社館跡遠景
三蔵神社館土塁跡
三蔵神社館跡内湧水池
横倉館跡
旧鎌倉街道跡
横倉遺跡現況
整理作業風景
図版8　遺物 …… 144
旧石器1・2
縄文土器（1）
縄文土器（2）
縄文土器（3）1～16
縄文土器（3）17～25
縄文土器（4）1～14
縄文土器（4）15～21
縄文土器（5）22～40
図版9　遺物 …… 145
縄文土器（5）41～51
縄文石器（1）1・2
縄文石器（1）3～14
縄文石器（2）15～21
ＳＥ－015-1
ＳＥ－015-2
ＳＥ－015-3

ＳＥ－074-1
ＳＥ－127-2
ＳＥ－127-3
ＳＥ－127-4
ＳＥ－127-6
ＳＥ－127-7
図版10　遺物 …… 146
ＳＥ－127-8
ＳＥ－127-11
ＳＥ－127-9
ＳＥ－127-12
ＳＥ－215-1
ＳＥ－224-2
ＳＥ－226-1
ＳＥ－226-2
ＳＥ－226-3
ＳＥ－226-4
ＳＤ－051-1
ＳＤ－051-2
ＳＤ－051-3
ＳＤ－193-2
ＳＤ－201-1
ＳＤ－213-2
ＳＫ－079-1
ＳＫ－079-2
ＳＫ－171-1
図版11　遺物 …… 147
ＳＫ－171-2
ＳＫ－171-3
ＳＫ－181-1
ＳＫ－181-2
ＳＫ－218-1
ＳＫ－218-2
ＳＫ－218-3
ＳＫ－218-5
ＳＫ－229-1
ＳＫ－239-1
ＳＫ－239-2
ＳＫ－239-3
ＳＫ－239-4
ＳＫ－239-5
ＳＫ－239-6
ＳＫ－239-7
ＳＫ－239-8
ＳＫ－239-9
ＳＫ－239-10
図版12　遺物 …… 148
ＳＫ－239-11
ＳＫ－239-12
ＳＫ－239-13
ＳＫ－239-14
ＳＫ－239-15
ＳＫ－239-16
ＳＫ－239-17
ＳＫ－239-18
ＳＫ－239-19
ＳＸ－219-1
ＳＸ－219-2
ＳＸ－219-3
ＳＸ－219-4
ＳＸ－219-5
ＳＸ－219-7
表採（1）-1
表採（1）-2
表採（1）-3
表採（1）-4
表採（1）-5
図版13　遺物 …… 149
表採（1）-6
表採（1）-7
表採（1）-8
表採（1）-9
表採（1）-10
表採（1）-11
表採（1）-12
表採（1）-13
表採（1）-14
表採（1）-16
表採（1）-17
表採（1）-18
表採（1）-20
表採（1）-21
表採（1）-22
表採（1）-23
表採（1）-26
表採（1）-27
表採（1）-28
表採（1）-32
図版14　遺物 …… 150
表採（2）-38
表採（2）-39
表採（2）-40
表採（2）-41
表採（2）-42
表採（2）-43
表採（2）-45
表採（2）-51
表採（2）-52
表採（2）-53
古銭Ｘ線写真
鉄製品Ｘ線写真

第１章　発掘調査に至る経緯及び経過

第１節　発掘調査の経緯

新４号国道は、関東・東北を貫く我が国における最重要幹線のひとつである。栃木県においても、ほぼ中央部を縦断するように設定されており、小山・宇都宮・矢板・黒磯市など５市７町を結ぶ最も長大な幹線となっている。交通量も他を圧して多く、近年の地域開発を契機として今後更に増加が見込まれる路線である。しかし、各市町の中心部を通るため、交通量の増加に対し、例えば現道の拡幅で対応することは極めて困難な状況にあった。とくに、宇都宮市以南の地区については、市街化の進行が著しく現国道の拡幅は不可能に近い。これらの状況を踏まえた建設省においては、新たな路線の策定が急務とされ、昭和39年度より国道４号バイパス（新４号国道）として計画線の調査及びそれに関する諸事業に着手していたところである。

計画路線の大略決定に従い、昭和44年７月７日付け宇国発第2041号により建設省関東地方建設局宇都宮国道工事事務所長より栃木県教育委員会教育長あて、国道４号バイパス（新４号国道）建設計画が提示された。併せて、当該路線上の埋蔵文化財の有無とその位置並びに取り扱いについて照会がなされている。

県教育委員会は、これを受けて宇都宮国道工事事務所（以下「国道事務所」と略す）と密接な連絡をとるとともに、道路建設予定地内の埋蔵文化財所在調査を実施した。実施時期は、昭和44年７月～８月と昭和53年９月の２回にわたり、主として県教育委員会事務局文化課職員がこれに当たった。初回は、主に国道50号以北に関わる地区について実施し、昭和44年９月４日付け文化第258号により国道事務所長あて回答している。昭和53年は、主に国道50号以南の地区についての所在調査を実施した。この結果、以下の16箇所に及ぶ埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」と略す）を確認した。

宇都宮市地区：

久部台古墳群	（宇都宮市石井町所在）	猿山遺跡	（宇都宮市下栗町所在）

南河内町地区：

薬師寺南遺跡	（河内郡南河内町薬師寺所在）

小山市地区：

鷹の巣前遺跡	（小山市鉢形所在）	本郷前遺跡	（小山市鉢形所在）
向野原遺跡	（小山市中久喜所在）	八幡根東遺跡	（小山市中久喜所在）
八幡根遺跡	（小山市中久喜所在）	横倉遺跡	（小山市横倉所在）
横倉戸館遺跡	（小山市横倉所在）	横倉宮ノ内遺跡	（小山市横倉所在）
田間東道北遺跡	（小山市田間所在）	西裏遺跡	（小山市田間所在）
塚崎遺跡	（小山市塚崎所在）	金山遺跡	（小山市東野田所在）
大境遺跡	（小山市東野田所在）		

遺跡所在調査終了後、これらの取り扱いについて建設省と事前協議に移った。昭和66年度供用開始を目処とする建設スケジュールと遺跡調査スケジュールとの間の調整を図ったわけである。その際、発掘調査より報告書刊行に至るまでの作業工程の概要を示し、建設省側の理解と協力を要請した。何回かの打ち合わせを実施したが、対象とする発掘調査対象面積がかなりの数量にのぼること、それに見合うだけの調査担当職員確保の困難さ、建設計画の緊急性などから、協議はしばしば難航した。

種々の議論を重ねた結果、大筋で次のような合意が成立した。新４号国道の全線開通は昭和66年度を目標とすること。新４号国道の開通は本県行政の立場からも重要事項のひとつであることから、発掘調査をこれに向けて効率良く実施するよう調査体制を整備していくことなどであった。具体的には、発掘調査は工事優先地区に応じ、用地取得の進捗を考慮しながら進めることとした。取り敢えず、小山市地区と小山市以北地区と県内全線を二分割して発掘調査を実施することとなった。これは、小山市以北地区の南河内町～宇都宮市間の工事を建設省としては先行させたいとの要望と、同時に用地取得についても当地区では既に交渉中であり、早期に達成できるとのことによる。これを受けて県教育委員会では、南河内町に所在する薬師寺南遺跡と宇都宮市に所在する猿山遺跡・久部台古墳群の発掘調査を優先させて実施することになった。

薬師寺南遺跡については、昭和48年度から50年度まで計３次にわたる発掘調査を実施している。その後、整理作業・報告書の作成を順次行い、昭和54年３月、栃木県埋蔵文化財調査報告第23集「薬師寺南遺跡」として公刊した。猿山遺跡・久部台古墳群については、昭和49年度から53年度まで発掘調査を実施し、昭和56年３月、栃木県埋蔵文化財調査報告第39集「猿山遺跡付久部台古墳群」として報告書刊行がなされている。

次いで、小山市地区内所在の各遺跡についても、その取り扱いについて建設省側と打合せが実施された。その結果、小山市地区内を一般国道50号を境としてその以北と以南に分け、優先工事区域である以北より、発掘調査を実施することになった。発掘調査は、鷹の巣前・本郷前・向野原・八幡根東・八幡根の５遺跡について、昭和55年度より58年度まで４年間にわたり実施した。このうち、鷹の巣前・本郷前・向野原の３遺跡については、昭和60年３月、栃木県埋蔵文化財調査報告第70集「一般国道４号（新４号国道）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　鷹の巣前遺跡・本郷前遺跡・向野原遺跡」を刊行し、一連の作業が完結している。尚、新４号国道に係わる各遺跡の概要・調査期間等については第１表に掲載した。

新４号国道改築工事関係の発掘調査は、昭和48年度より平成３年度まで実施した。この間昭和56年度は、県段階の埋蔵文化財行政にとって大きな転機となった年度である。

それ以前まで、調整・発掘調査・遺物等整理・報告書作成という一連の流れを県教育委員会文化課文化財調査係において一手に担っていた。昭和56年度は、効率的な埋蔵文化財行政を企図し、４月１日をもって財団法人栃木県文化振興事業団が発足した。以後、各種開発行為との調整協議は、主として県教育委員会が担当し、発掘調査・整理作業・報告書作成を当事業団が実施するとの明瞭な役割分担が整い、より緻密な埋蔵文化財行政が可能となったわけである。これにより、国・公社・公団に係わる発掘調査については、県教育委員会の指導・推薦を受けた当事業団が、当該諸機関と直接に受委託契約を締結する方向が定められた。第１表各遺跡のうち、久部台古墳群から向野原遺跡までは当事業団発足以前のものである。八幡根東遺跡以後の発掘調査等については、当事業団がこれに当たっている。

尚、平成３年４月１日には栃木県埋蔵文化財センターが下都賀郡国分寺町に開所した。埋蔵文化財の調査研究及び保存・資料普及事業の充実を図り、より広範な埋蔵文化財行政の成果を高めようとするものである。当事業団事務局内にあった文化財調査部がこれに移行し、以後の発掘調査・整理作業・報告書作成は当センターで実施することになった。

さて、当事業団が設立された昭和56年度以降の調査の経過について記述する。調査工程を第２表に提示する。発掘調査対象地はすべて小山市地区にあり、旧石器・縄文時代から近世初期にかけての各時代の遺跡が所在する。当初の調査面積は約25万㎡に及び、計10箇所の遺跡が対象となっている。

調査は、八幡根東遺跡から着手している。次いで、昭和57年度八幡根遺跡と進むわけであるが、第２表調

番号	遺跡名	所在地	種類（時期）	面積（㎡）	主な検出遺構	備考
1	久部台古墳群	宇都宮市石井町久部	古墳群（古墳）	18,500 （全対象）	円墳3基、前方後円墳1基	昭和50年度調査 昭和56年度報告書刊行
2	猿山遺跡	宇都宮市下栗町さるやま	集落跡（奈良～平安）	27,400 （全対象）	住居跡61軒、掘立柱建物跡８棟、円形周溝遺構3基、その他井戸跡、ピット群等	昭和49～53年度調査 昭和56年度報告書刊行
3	薬師寺南遺跡	河内郡南河内町薬師寺	集落跡（古墳～平安）	18,000 （調査面積）	住居跡130軒余、掘立柱建物跡3棟、円墳1基、方形周溝墓、その他井戸跡、土坑等	昭和48～50年度調査 昭和54年度報告書刊行
4	鷹の巣前遺跡	小山市鉢形鷹の巣前		13,750 （調査面積）	遺構なし	昭和55年度調査 昭和60年度報告書刊行
5	本郷前遺跡	小山市鉢形鷹の巣前	包含層（旧石器） 集落跡（平安）	28,200 （調査面積）	住居跡5軒 その他土坑等	昭和55年度調査 昭和60年度報告書刊行
6	向野原遺跡	小山市中久喜上野原	集落跡（古墳）	28,200 （調査面積）	住居跡5軒 その他土坑等	昭和55年度調査 昭和60年度報告書刊行
7	八幡根東遺跡	小山市中久喜八幡根	包含層（旧石器） 集落跡（弥生・奈良～平安）	上層 25,100 下層 16,100 （調査面積）	旧石器ブロック9ヶ所、同炉跡2ヶ所、住居跡55軒、井戸跡3基、その他土坑等	昭和56～57年度調査 平成7年度報告書刊行予定
8	八幡根遺跡 （中久喜）	小山市中久喜八幡根	集落跡（古墳～平安）	7,700 （調査面積）	住居跡66軒、井戸跡2基、その他土坑	昭和57年度調査 平成8年度報告書刊行予定
9	横倉遺跡 （長谷）	小山市横倉戸館・長谷	集落跡（縄文～中世）	10,000 （調査面積）	掘立柱建物跡12棟、地下式壙1基、井戸跡15基、溝跡9条、土坑164基、不明遺構・ピット群等	平成2年度調査 平成7年度報告書刊行予定
10	横倉戸館遺跡	小山市横倉戸館	集落跡（縄文）	5,000 （調査面積）	住居跡2軒、埋甕2基、その他土坑等	平成2年度調査 平成8年度報告書刊行予定
11	横倉宮ノ内遺跡 （横倉宮の内）	小山市横倉宮の内	集落跡（縄文～中世）	19,600 （調査面積）	住居跡9軒、掘立柱建物跡7棟、井戸跡35基、地下式壙18基、方形竪穴12基、その他土坑等多数	平成2～3年度調査 平成6年度報告書刊行
12	田間東道北遺跡 （宿尻）	小山市田間東道北	散布地（縄文～中世）	10,000 （調査面積）	住居跡8軒、土坑130基、溝跡5条	平成元年度調査 平成5年度報告書刊行
13	西裏遺跡（谷中島）	小山市田間西裏	集落跡（縄文～古墳）	11,400 （調査面積）	住居跡42軒、円形周溝遺構６基、方形周溝遺構2基、土坑	昭和63～平成3年度調査 平成7年度報告書刊行予定
14	塚崎遺跡（西浦）	小山市塚崎	包含層（旧石器） 集落跡（縄文～古墳）	12,000 （調査面積）	住居跡6軒 旧石器ブロック2ヶ所	平成元～3年度調査 平成5年度報告書刊行
15	金山遺跡（東野田）	小山市東野田金山・大門前	集落跡（旧石器～近世）	57,100 （全対象）	住居跡430軒、掘立柱建物跡135棟、井戸跡155基、地下式壙57基、方形竪穴15基、土坑多数、その他中世道路跡、近世初期の溝区画、ピット群等	昭和60～平成3年度調査 平成4～8年度報告書刊行予定
16	大境遺跡（六軒）	小山市東野田六軒	製鉄関連遺跡（平安）	5,400 （調査面積）	溝	昭和60・62年度調査 平成4年度報告書刊行

※　これは建設予定路線内の遺跡について北から列記したものである。

第1表　一般国道4号（新4号国道）改築工事に係わる埋蔵文化財包蔵地一覧表

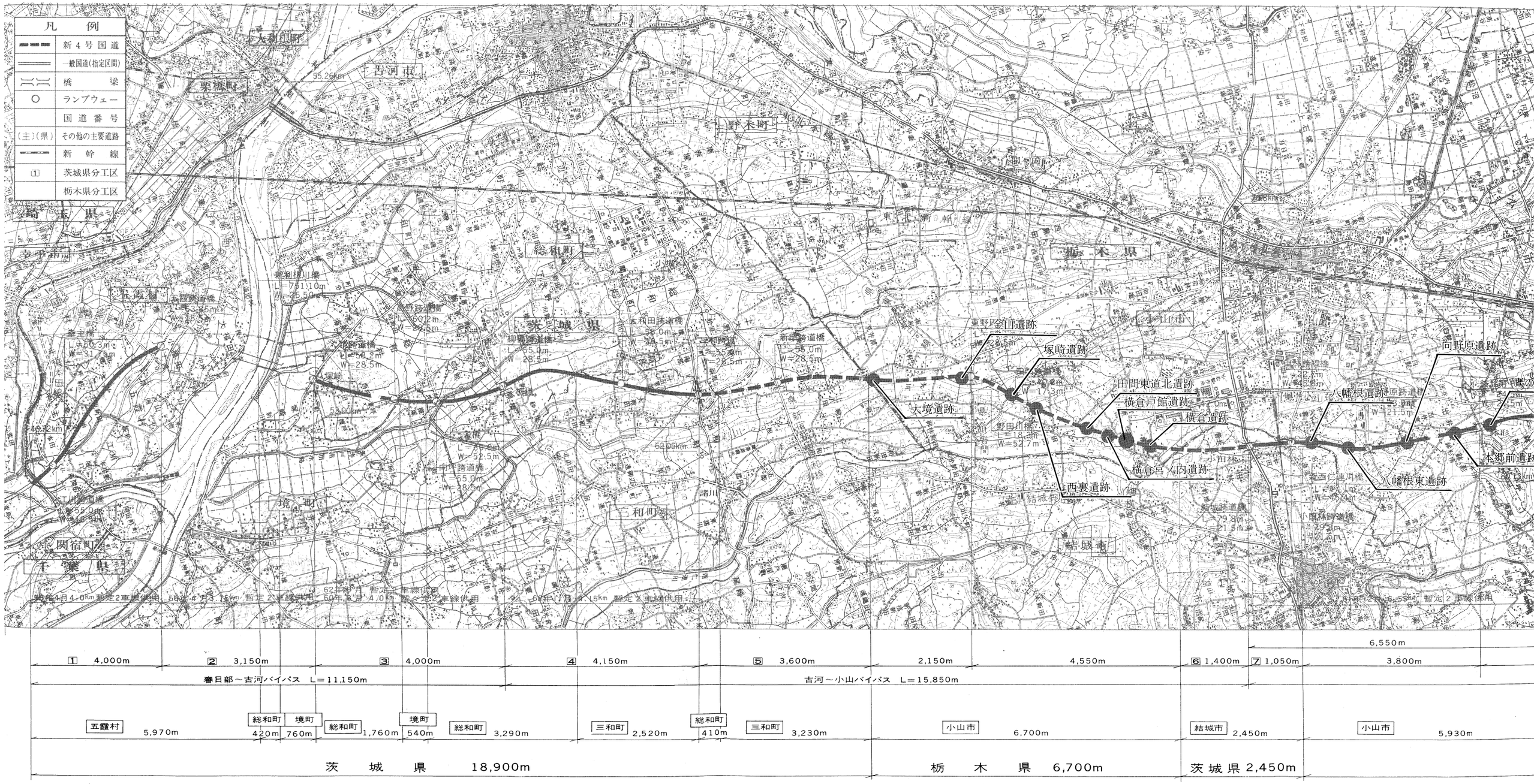
査工程表の通り、昭和58年度から59年度にかけて現地での調査は一時中断している。これは、国道50号以北の道路建設工事を優先したいとの建設省側の意図によるものであった。つまり、この両遺跡は国道50号の北側に所在する遺跡であること、これより以北の遺跡調査及び用地取得が終了していること、国道50号が新４号国道全線の大きな結節点であることなどによる。２年間の中断の後、昭和60年度金山遺跡の調査を再開した。尚、昭和60年度には、茨城県との境に位置する大境遺跡の調査も併せて実施した。

金山遺跡については、当初都合３年間の調査期間を設定していた。しかし、確認した遺構・遺物量ともに予想量をはるかに上回り、調査開始間もなく調査予定期間の見直しが必要となった。また、その他の遺跡数及び調査対象面積と調査担当者数を勘案すると、国道全線開通昭和66年度内という計画に支障をきたすのは明らかとなったのである。この問題を解決するために必要なのは、今後調査対象とする各遺跡のより具体的な内容を確認し、それに沿って調査担当者数・経費などの調査計画を練ることである。具体的には、本調査以前に試掘を実施し、それによって得られた資料をもとに調査計画を見直すことであった。こうして、昭和62年度より、金山遺跡等の継続的な調査と併行して調査対象各遺跡の試掘を実施した。次いで、試掘の結果を基に、担当者の員数・調査経費・調査対象面積の確定（各遺跡の調査面積は、結果的には第１表のように移行した。）等調査計画の見直しを図った。同時に、出土遺物量などを勘案して、将来の整理・報告書作成の日程を見越し、整理作業の一部（出土遺物の水洗・注記・復元など）についても同年度より開始した。

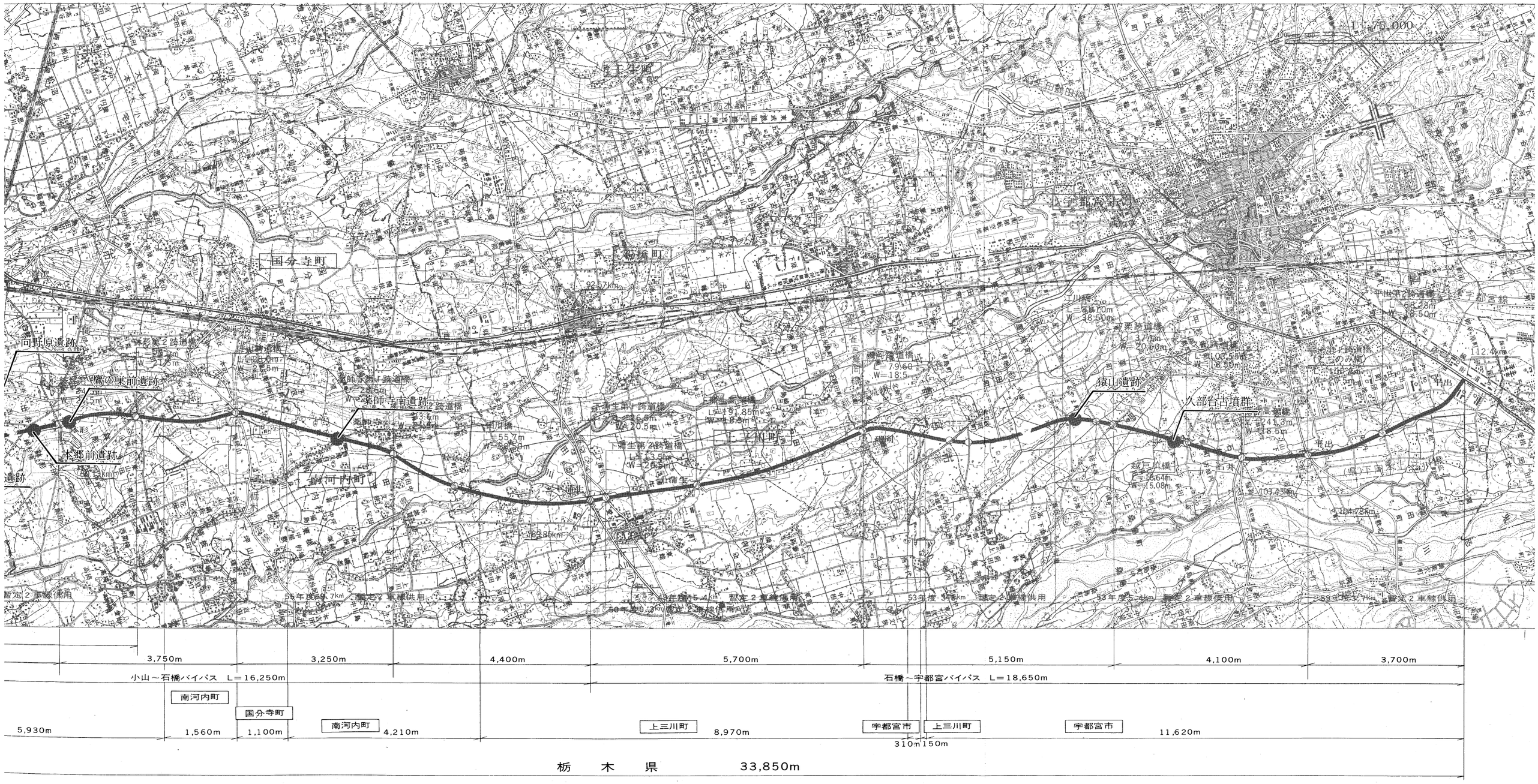
新４号国道改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成３年度をもってほぼ終了し、暫定二車線ではある

番号	遺　跡　名	昭和56年	57	58	59	60	61	62	63	平成元年	2	3	調査担当者
7	八幡根東遺跡												川原由典、藤田典夫
8	八幡根遺跡（中久喜）												川原、藤田
9	横倉遺跡（長谷）								試掘				岩上照朗、片柳茂、進藤敏雄、赤羽孝浩、本田剛弘
10	横倉戸館遺跡								試掘				岩上、赤羽
11	鎌倉宮ノ内遺跡（横倉宮の内）								試掘				岩上、飯田誠、進藤、斎藤弘、片柳、須藤孝浩(旧姓赤羽）、本田
12	田間東道北遺跡（宿　尻）							試掘					岩上、菊井和美、進藤、本田
13	西裏遺跡（谷中島）							試掘					岩上、飯田、本田、仲山英樹
14	塚崎遺跡（西　浦）							試掘					岩上、柳瀬安栄、飯田、菅谷豊、片柳、須藤、津野仁
15	金山遺跡（東野田）												岩上、金田隆、阿部茂、柳瀬、飯田、菅谷、小田部信男、須藤、津野、仲山、（嘱託）松本昌久、（補助員）三沢京子
16	大境遺跡（六　軒）												岩上、阿部、松本
受託費（千円）		19,191	29,725			60,814	41,107	100,999	139,342	198,770	183,361.63	156,554.84	

第2表　調査工程表



第1図　新4号国道路線と発掘調査遺跡（栃木県）位置図（縮尺1：75,000）


1:75,000
国分寺町
向野原遺跡
本郷前遺跡
薬師寺南遺跡
猿山遺跡
八部台古墳群
南河内町
上三川町
宇都宮市
92.7km
103.4km
112.4km
暫定2車線供用
55年度 9.7km 暫定2車線供用
59年度 5.4km 暫定2車線供用
50年度 10.7km 暫定2車線供用
53年度 3.6km 暫定2車線供用
53年度 5.4km 暫定2車線供用
59年度 3.7km 暫定2車線供用
3,750m
3,250m
4,400m
5,700m
5,150m
4,100m
3,700m
小山～石橋バイパス L＝16,250m
石橋～宇都宮バイパス L＝18,650m
5,930m
1,560m
1,100m
4,210m
8,970m
310m
150m
11,620m
栃　木　県　33,850m

が、当初の予定どおり平成４年４月全線供用開始したのである。

約20年にわたる新４号国道関連の発掘調査の間は、前述のように本県埋蔵文化財行政が大きく変容・発展する時期であった。金山遺跡発掘調査開始以後をみても、調査期間は７年間に及び、この間埋蔵文化財センターの設置に伴う組織改変も断行された。併せて、調査担当者の異動などもあり、一貫した体制のもとに調査が遂行されたとは言いがたい。但し当事業団としては、新４号国道開通の重要性を鑑みて、より多くの努力をこの事業に注いできたのもまた事実である。

これらに関する整理・報告書作成作業は、発掘調査の終了に引き続き平成４年度から本格的に開始している。但し、新４号国道関連の諸遺跡出土の遺構・遺物は、未報告の八幡根東遺跡・八幡根遺跡も含め、膨大な量にのぼる。平成４年度は、金山遺跡Ⅰ（Ⅰ～Ⅲ区）及び大境遺跡。平成５年度は、金山遺跡Ⅱ（Ⅳ区）、田間東道北遺跡、塚崎遺跡、石神遺跡（拡幅工事　高根沢町）。平成６年度は、金山遺跡Ⅲ（Ⅴ区）、横倉宮ノ内遺跡を刊行した。本年度は、金山遺跡Ⅳ（Ⅴ～Ⅷ区）、西裏遺跡、八幡根東遺跡、横倉遺跡（本書）刊行予定である。

尚、本章以降の各遺跡名は「小山市遺跡地名表」に登録された遺跡名称を使用する。従って、建設省との受委託に関わる契約遺跡名とは異なっているわけである。しかし、地名表登録遺跡名称は永久保存される遺跡基本台帳に記載されたものであることから、こちらを使用するのが望ましい。建設省には、その旨了解していただいている。遺跡名称の変更は以下のとおりである。

六軒遺跡　→大境遺跡、　東野田遺跡→金山遺跡、　西浦遺跡　→塚崎遺跡、
谷中島遺跡→西裏遺跡、　宿尻遺跡　→田間東道北遺跡、　横倉宮の内遺跡→横倉宮ノ内遺跡、
長谷遺跡　→横倉遺跡、　中久喜遺跡→八幡根遺跡

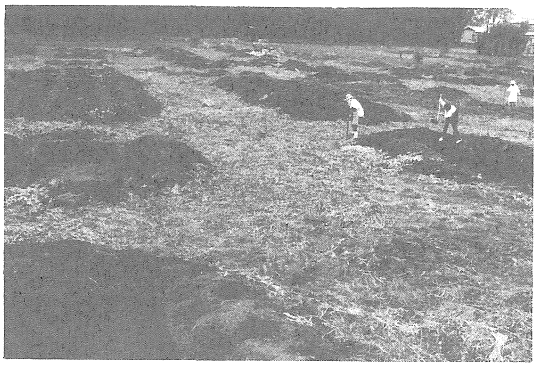
発掘調査・本書の作成に当たり、建設省関東地方建設局宇都宮国道工事事務所及び栃木県教育委員会の指導を受けるとともに、長期間にわたり種々の御協力を戴いた。ここに記して謝意を表する次第である。

第２節　発掘調査の経過と方法

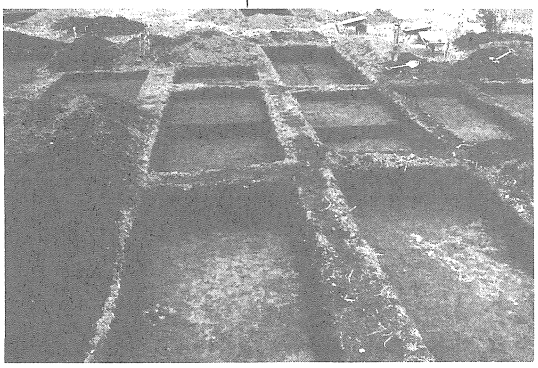
本遺跡では本調査に先立ち、遺跡の範囲と期間を予測するための確認調査を実施した。確認調査は平成元年2月から7月中旬まで実施した。試掘は、南北方向に主軸をとる10ｍ四方のグリッドの北西コーナー部分に2×5ｍのトレンチを設定し、遺構に当った部分を拡張する方法で行った。調査区の南より順次北に向かって確認調査を行い、調査区北部の低地は2×10ｍと南北に長い試掘トレンチを設定して調査した。台地上及び台地縁辺部では、耕作土直下で黄褐色のソフトローム面が確認されたが、低地部分では耕作土の下に黒色土の厚い層が存在し、さらにその下でハードロームの面が検出された。地表面からローム面までの最深は、約70cmを測る。この低地部分からは、瀬戸の平碗をはじめとする中世の遺物が出土し、中世遺構の存在が確認された。また、台地上から縁辺部にかけて南北に長い薬研掘りの溝が確認された。

確認調査の結果、台地の縁辺部と低地に遺構が密集することが認められ、調査区のほぼ中央を東西に横断する市道以南では遺構が確認されなかったため、市道以北を本調査することにした。本調査の計画立案・準備の後、9月より本調査を実施した。現在の耕作土を30cm程重機により除去すると、遺構はその直下で確認され始めた。調査は磁北に沿った10×10ｍのメッシュをかけ、南から北に向けて調査を開始した。水位の下がる11月より低地の調査と井戸の断ち割りを行い、同時に南西部の拡幅部分も調査した。本調査により、その部分に土坑群が存在することが判明し、調査は平成2年12月に終了した。

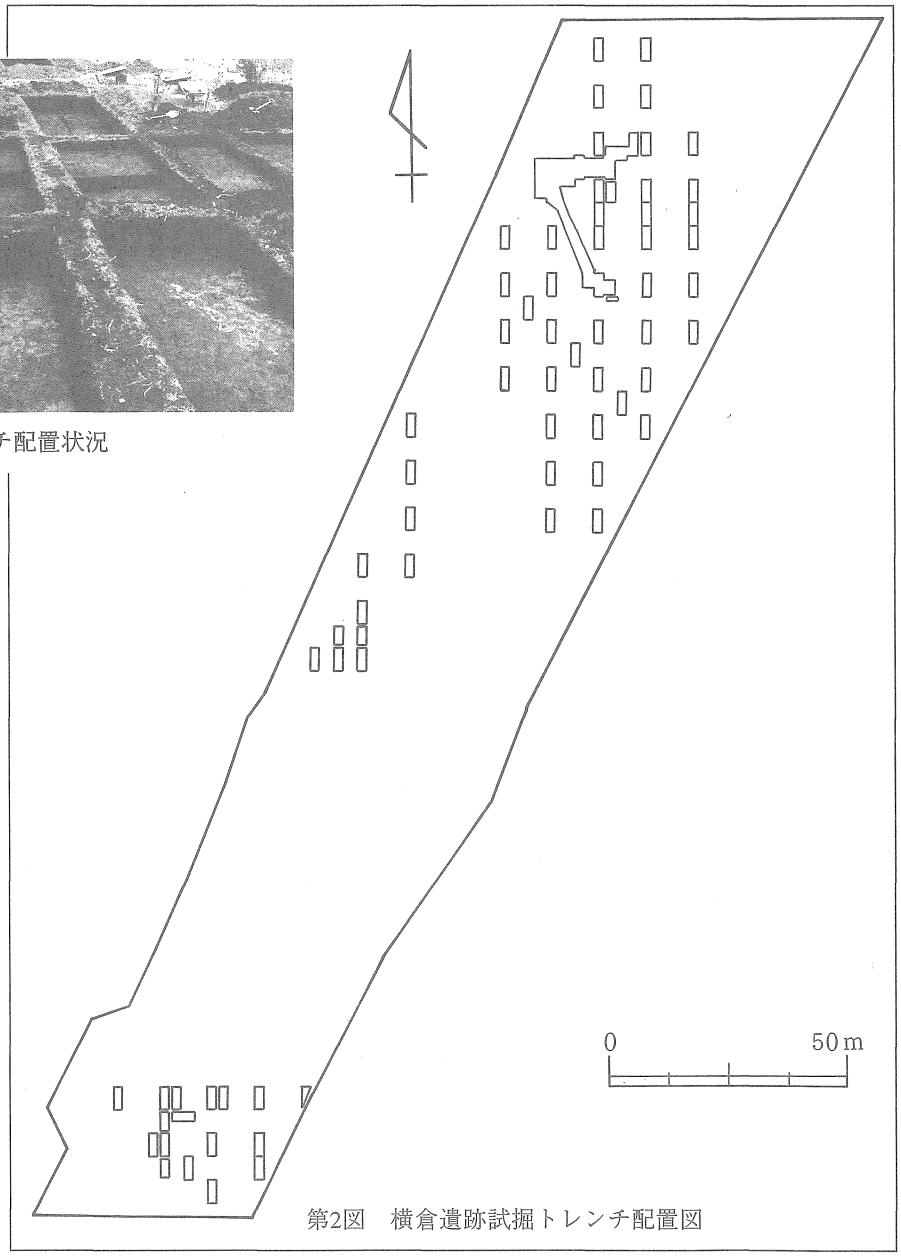
整理作業は、調査直後に水洗い・注記等が行われ、平成6年2月より図面整理や出土遺物実測を本格的に行い、本年度の報告書刊行に至ったのである。



確認調査風景



トレンチ配置状況



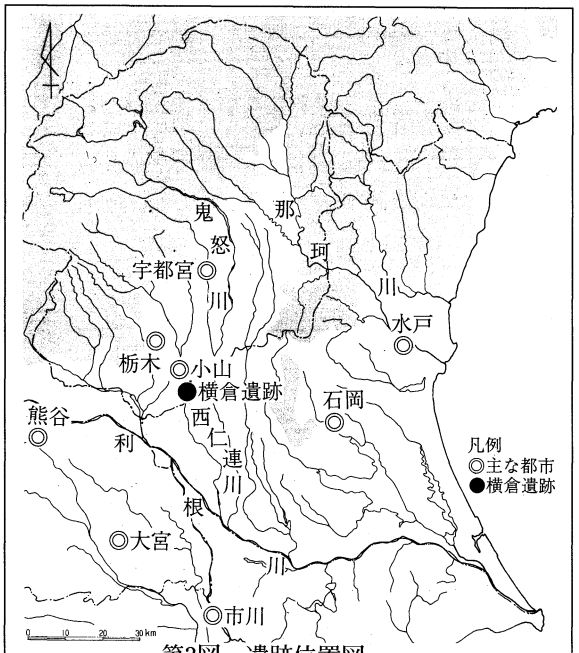
第2図　横倉遺跡試掘トレンチ配置図

第２章　遺跡の環境

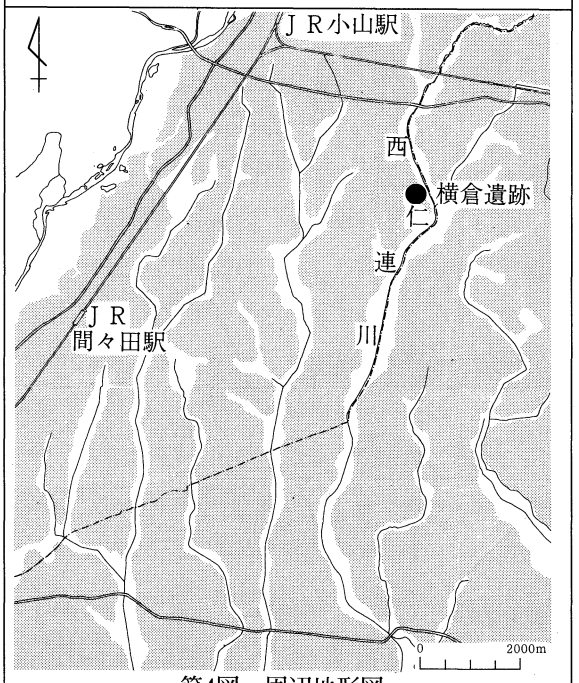
第１節　地理的環境

本遺跡の所在する小山市は、栃木県の南部に位置し、東西約20.3km、南北約21.4km、面積約174k㎡である。南東部は県境をもって茨城県下館市・結城市・三和町・総和町と接している。

国道50号線と国道4号線が、更にＪＲ両毛線・ＪＲ水戸線と東北新幹線・ＪＲ宇都宮線が市の中央で交差する小山市は、北関東の東と西をそして首都圏と東北を結ぶ交通の要衝となっている。首都圏から新幹線で45分、70km程の距離であるため、近年、近郊都市としてめざましい発展をとげてきた。人口の増加に加え、昭和36年からの工業団地・企業の誘致により、県内第2位の工業都市になるとともに、大型店舗の進出も相次ぎ、商業都市としての一面も注目されている。また、広く知られている「結城紬」は鎌倉・室町時代以来の伝統を守る織り方で、伝統染織工芸品として結城市のみならず、小山市でも生産され、全国にその名を知らしめている。こうした様々な好条件が重なり、開発は急激に増加した。それに比例して発掘調査も増加し、多くの成果がみられる昨今である。

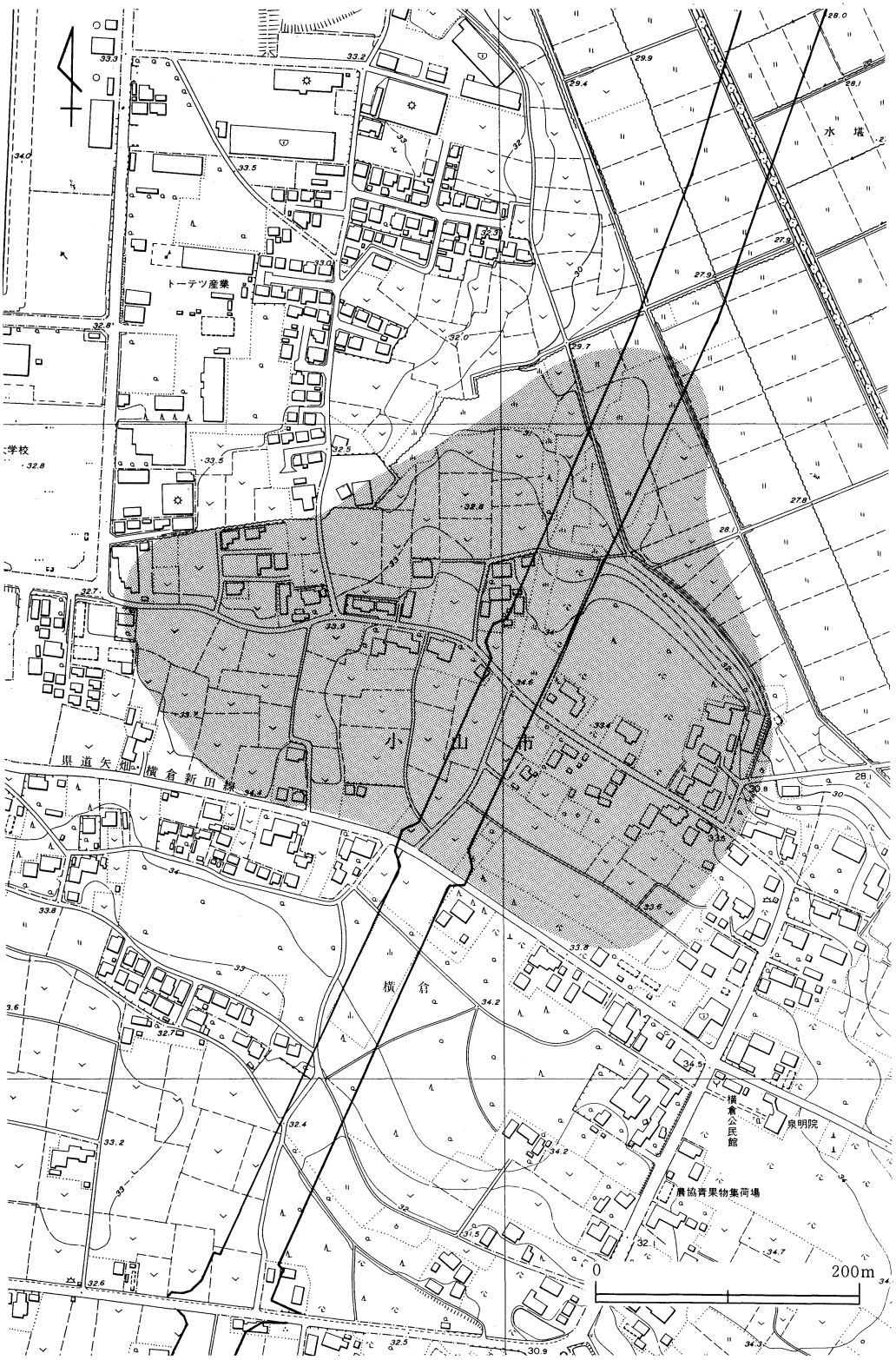


第3図　遺跡位置図



第4図　周辺地形図

小山市周辺の地形は、主に低地と台地に分けられる。西側には思川や巴波川・永野川等によって形成され、西方町から藤岡町にかけて広がる低地の南半分に相当する思川低地、市街地東側の小山台地、鬼怒川や田川等に沿って分布し、宇都宮北部から南に広がる低地の一部をしめる東部の鬼怒川低地である。小山台地の表部は、宇都宮市から国分寺町を経て小山市にかけて南北に連なる宝木面の一部からなり、北から南に3/1000ｍ程の緩やかな傾斜をもつ。この台地は、南流する西仁連川などの小河川により開析され、小支谷が樹枝状に広がっている。周辺の河川は、本遺跡から南へ20km程の位置を南東に流れ、太平洋にいたる利根川に注ぐものが多く、西から渡良瀬川・思川・西仁連川・鬼怒川・小貝川などがある。いにしえより水上ルートとして、物資運搬に重要な役割を果たしていたことがうかがえる。



第5図　横倉遺跡周辺地形図

横倉遺跡は小山駅から南東へ約4km、国道50号より南に約1.5kmの位置にあり、小山市大字横倉字戸館・長谷に所在する。東南東に突出した舌状台地上から、北東斜面を経て西仁連川の沖積低地にかけて広がる。台地上はほぼ平坦で、低地に降りる斜面は比較的緩やかである。台地縁辺部と低地との標高の差は、およそ5.0

mである。現況は台地上が畑や竹林、低地が水田等であった。調査区の東に隣接する竹林や民家の敷地内には、土塁、堀、円墳1基（戸館古墳群7号墳）が存在し、西側の畑には縄文時代中期から後期の土器が散布しており、該期の遺構の存在も予想される。

〈参考文献〉

小山市史編さん委員会　1984　『小山市史』　通史編。自然　原始・古代　中世

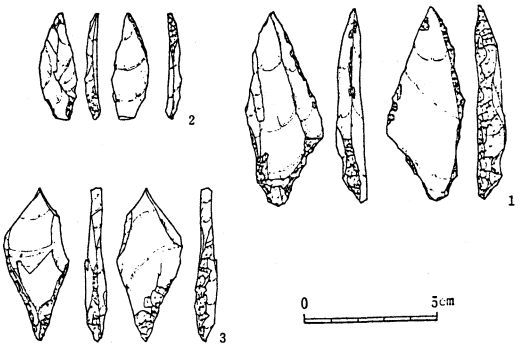
小山市役所　　1988　『小山市勢要覧』

第２節　歴史的環境

小山市内の遺跡については、昭和51年に始まった『小山市史』編さん事業により詳細な分布調査等が行われ、195の遺跡が確認された。それにより以前からよく知られていた思川東岸のみならず、市内全域にわたって遺跡が分布することが判明した。更に現在では、開発にともなう多くの発掘調査により、次々と遺跡の性格が明らかになってきている。ここでは、各時代ごとに、本遺跡周辺の遺跡と歴史的環境について考えてみたい。

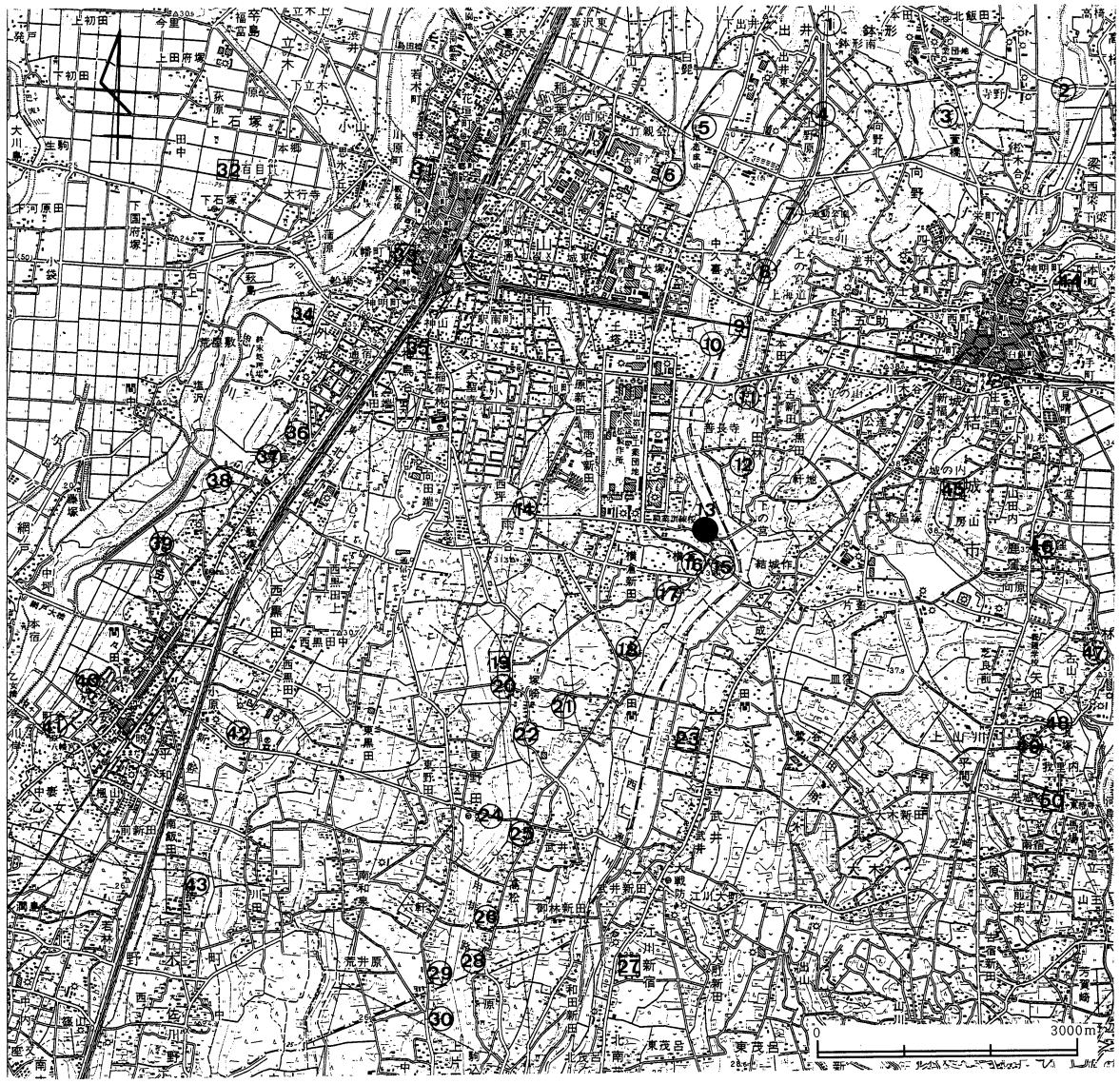
旧石器時代

小山市内の旧石器時代遺跡は、すべて小山台地上に立地している。遺物が確認されている遺跡は、一里山遺跡・本郷北浦遺跡・西ノ台遺跡（3）・宮内遺跡（37）・乙女不動原北浦遺跡（40）・前畑遺跡（43）・寺野東遺跡（2）等である。更に新4号国道関連の遺跡では、本郷前遺跡（1）・鷹ノ巣前遺跡・八幡根東遺跡（7）・塚崎遺跡（22）・金山遺跡（24）等を調査し遺物を検出した。また、結城市の才光寺遺跡からは頁岩製のナイフ形石器や石槍が、三和町の香取遺跡・二十五里寺遺跡からはナイフ形石器が出土している。



第6図　八幡根東遺跡出土石器

細かく見てみると、一里山遺跡からはナイフ形石器、本郷北浦遺跡からは小型のナイフ形石器・石刃、西ノ台遺跡（3）からは尖頭器、宮内遺跡（37）からはナイフ形石器・尖頭器・掻器・彫器、乙女不動原北浦遺跡（40）からは細石器・尖頭器、前畑遺跡（43）からはナイフ形石器・尖頭器、鷹ノ巣前遺跡からはナイフ形石器・尖頭器・掻器が出土している。遺物集中ブロックが検出された遺跡は、以下の通りである。本郷前遺跡（1）では2ヶ所のブロックが調査され、小型でその終末期の段階に相当すると考えられるナイフ形石器5点や彫器4点が出土した。八幡根東遺跡（7）では、ブロック9ヶ所と焼土遺構2ヶ所が検出された。出土した石器は、ナイフ形石器・尖頭器・削器・彫器・掻器等で総計およそ740点である。砂川遺跡の段階に比定される本県を代表する遺跡である。塚崎遺跡（22）では、2枚の文化層から3ヶ所のブロックが検出された。出土石器はナイフ形石器や石核等である。ＡＴ降灰期の2ヶ所のブロックは注目されるところである。金山遺跡（24）では、4枚の文化層と13ヶ所のブロックが調査され、ナイフ形石器・剥片・石核等が出土した。寺野東遺跡（2）では、3枚の文化層から4ヶ所のブロックが検出された。鹿沼軽石層直上からの石器群、ハードローム中の石器群、細石刃をともなう浅い層からの石器群で、総計およそ2400点を数え、本県の旧石器時代研究の貴重な資料となるであろう。



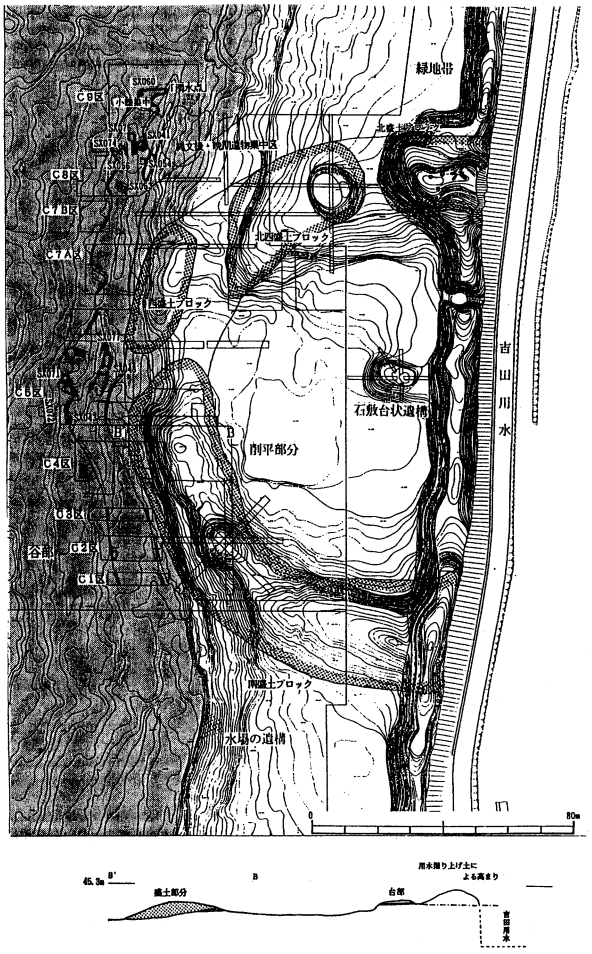
１．本郷前遺跡　２．寺野東遺跡　３．西ノ台遺跡　４．向野原遺跡　５．西山遺跡　６．溜ノ台
７．八幡根東遺跡　８．八幡根遺跡　９．中久喜城　１０．下犬塚遺跡　１１．小田林遺跡
１２．善長寺遺跡　１３．横倉遺跡　１４．宮遺跡　１５．戸館古墳群　１６．横倉戸館遺跡
１７．横倉宮ノ内遺跡　１８．田間東道北遺跡　１９．塚田館　２０．塚崎古墳群　２１．西裏遺跡
２２．塚崎遺跡　２３．三蔵神社遺跡　２４．金山遺跡　２５．橋向遺跡　２６．稗穀田遺跡
２７．水書氏屋敷　２８．雉子尾遺跡　２９．大境遺跡　３０．上片田Ｂ遺跡　３１．祇園城
３２．石塚館　３３．長福城　３４．鷲城　３５．神鳥谷曲輪　３６．宮内東遺跡　３７．宮内遺跡
３８．千駄塚浅間遺跡　３９．牧ノ内古墳群　４０．乙女不動原遺跡群　４１．亀田遺跡
４２．六本木遺跡　４３．前畑遺跡　４４．結城城　４５．城の内館　４６．坂の上遺跡
４７．林古墳群　４８．旧結城寺瓦窯跡　４９．結城廃寺　５０．東持寺館

第７図　周辺の遺跡

縄文時代

小山市周辺の縄文時代の遺跡を概観すると、西仁連川や大川流域に濃密に分布している。南東部には前期黒浜式期を中心とする遺跡が数多く認められ、中・後期になると遺跡の数は減少し、その中心は北東部に移る傾向が見られる。晩期になると、遺跡は更に激減し、思川低地の井岡遺跡、思川流域の乙女不動原北浦遺跡（40）、田川流域の寺野東遺跡（2）、藤岡町の藤岡神社遺跡のみである。

南東部の主な遺跡としては、井草式を中心とする早期初頭の土器群が出土し、前期黒浜式期の住居跡8軒が検出された金山遺跡（24）、早期夏島式期と前期関山式期の住居跡が検出された、間々田所在の六本木遺跡（42）、前期関山式期の住居跡が2軒検出された乙女不動原北浦遺跡（40）等がある。茨城県結城市の小田林遺跡（11）では、早期の炉穴が15基検出されている。前期黒浜式期の遺跡は多く、横倉宮ノ内遺跡（17）で住居跡7軒、塚崎遺跡（22）で住居跡2軒、田間東道北遺跡（18）で住居跡1軒、結城市小田林遺跡（11）で住居跡2軒、乙女不動原北浦遺跡（40）で住居跡7軒、萩山遺跡で住居跡1軒が検出された他、亀田遺跡（41）でも住居跡が検出されている。更に東野田所在の橋向遺跡（25）、稗殻田遺跡（26）、武井所在の雉子尾遺跡（28）、茨城県三和町所在の上片田Ｃ遺跡、茨城県結城市の田間権現遺跡、香取前Ａ遺跡、塚越遺跡、神田遺跡等、川に面した台地上に位置する遺跡で、同期の土器群が出土している。



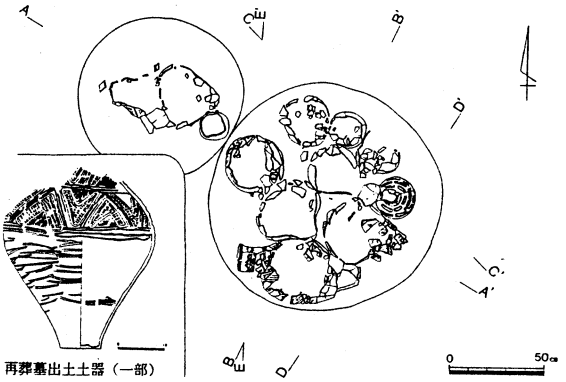
第8図　寺野東遺跡環状盛土遺構・谷部遺構配置略図

北東部の遺跡としては、後・晩期の環状盛土遺構や木組みの水場遺構の発見で話題を呼んだ寺野東遺跡（2）が挙げられ、同遺跡は中・後期の大規模集落の存在も確認されている。その他、北飯田所在の飯田浦遺跡、雨ヶ谷所在の宮遺跡（14）、犬塚町所在の溜ノ台遺跡（6）等が挙げられるが、その数は多くはない。

弥生時代

小山市周辺の弥生時代の遺構・遺物は少ない。特に中期までの遺跡は希有であり、溜ノ台遺跡（6）で中期末葉の住居跡2軒が検出されたにとどまる。後期になると、遺跡の範囲は狭く遺物量も少ないが、いくつかの遺跡が出現する。後期二軒屋式期の住居跡1軒と土坑1基が検出された、乙女不動原北浦遺跡（40）の他、亀田遺跡（41）で住居跡2軒、金山遺跡（24）で住居跡1軒、西山遺跡（5）で住居跡1軒、八幡根東遺跡（7）で住居跡2軒、土坑1基、田間東道北遺跡（18）で集石をともなう隅丸方形土坑1基等である。土器片が確認された遺跡は、本郷前遺跡（1）、茨城県結城市の善長寺遺跡（12）、田間権現遺跡、香取前Ｂ遺跡等であり、付

加条縄文に櫛描き文をもつ後期に特徴的な文様をもつ。また、国分寺町柴工業団地遺跡では、中期前半の再葬墓5基と後期二軒屋式期の住居跡3軒が、烏森遺跡では後期初頭長岡式期の住居跡1軒、二軒屋式期の住居3軒が確認されており、本郷前遺跡（1）と同じ台地上にあり、近接することから関連が予想される。更に野木町の清六Ⅲ遺跡でも再葬墓7基が検出されている。このように小山市近辺の弥生期の集落は、小規模であり拠点集落と考えられるものは確認できない。

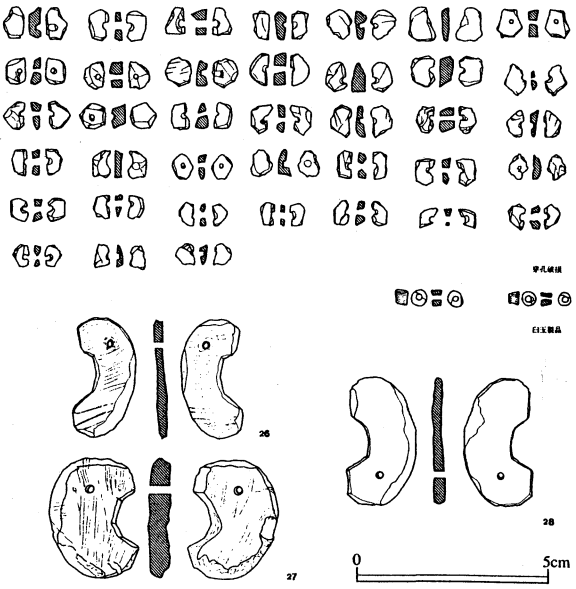


第9図　清六Ⅲ遺跡検出再葬墓・出土土器

古墳時代

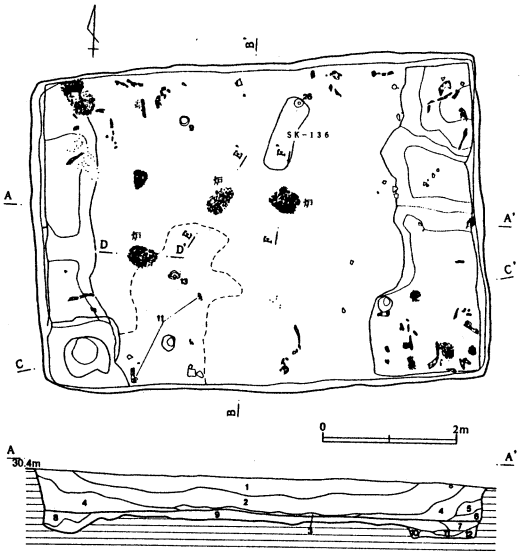
昭和16年（1941）の地名表に、その数416基と記された小山市内の古墳は、昭和52年に行われた遺跡分布調査時には、234基と激減している。遺存するこれらの古墳は、小河川の川筋ごとに群を成して分布するものが多く、その大半が思川・姿川流域に集中している。本遺跡周辺では、思川沿いに、小形の前方後円墳を含む外城古墳群、周溝より子持勾玉や須恵器などが出土し埴輪をもつ宮内二号墳を中核とする宮内古墳群、直径70ｍという県下最大級の規模の円墳である千駄塚（浅間山）古墳を含む千駄塚古墳群、35基の小円墳からなる後期群集墳である牧ノ内古墳群（39）などが挙げられる。大川沿いの塚崎古墳群（20）は、円墳9基からなり、横穴式石室をもつ後期群集墳と考えられている。時期・立地等から金山遺跡との関連も考えられる。六軒古墳群は円墳が3基確認されているが、未調査である。西仁連川沿いには、戸館古墳群（15）があり、円墳が7基現存する。塚崎・六軒の二古墳群と同様の終末期の群集墳と思われる。田川水系には、6世紀代のものと思われる絹古墳群と高椅古墳群がある。絹四号墳は全長30ｍと小規模ながら前方後円墳で、形象埴輪などの多くの埴輪を出土した。両古墳群とさほど距離を置かず、下流の結城市松木合には13基からなる古墳群があり、すべての古墳に埴輪を伴っていたといわれる。その中でも松木合浅間塚古墳は、5世紀末の古墳で、勾玉・直刀・土師器が出土した。結城市小田林の富士浅間塚古墳は全長30ｍ程の帆立貝式古墳で、共に当地域の首長墓と伝えられている。姿川沿いには、国指定史跡の琵琶塚・摩利支天塚の両前方後円墳の他、蛇行剣や天冠・方格規矩鏡等が出土した帆立貝式古墳である桑57号墳など、著名なものが多い。

次に、小山市周辺の集落遺跡について見てみると、古墳の分布と同様に小河川に沿うように点在している。前期の遺跡としては、住居跡が6軒検出された西山遺跡（5）と住居跡1軒・方形周溝遺構5基が検出された溜ノ台遺跡（6）が西仁連川を挟んで分布している。更に、住居跡が31軒検出さ



第10図　塚崎遺跡出土石製模造品

れた結城市の小田林遺跡（11）と住居跡が41軒検出された善長寺遺跡（12）が西仁連川東岸に位置し、西岸には15軒の住居跡とそれを囲む環濠が検出した下犬塚遺跡（10）がある。同じ台地の南には、住居跡2軒検出の横倉戸館遺跡（16）、住居跡1軒検出の塚崎遺跡（22）、更に西裏遺跡（21`）、金山遺跡（24）でも住居跡が調査されている。大川沿いでは、東岸に住居跡2軒と方形周溝遺構1基検出の萩山遺跡が、住居跡6軒検出の神鳥谷遺跡が西岸に位置している。このように、同じ水系を生活基盤としてまとまりを形成していたことがうかがえる。



第11図　塚崎遺跡出土石製模造品工房跡

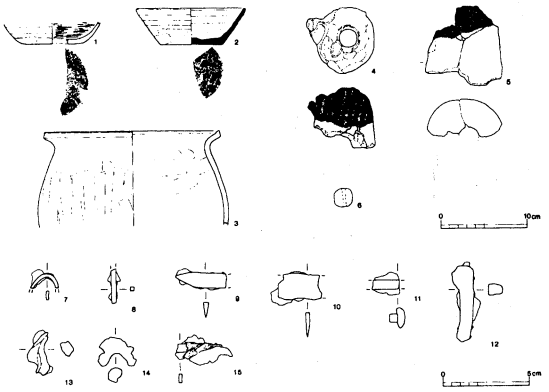
中期になると、大規模な集落は少なくなる。向野原遺跡（4）で住居跡5軒、八幡根遺跡（8）で住居跡2軒、西山遺跡（5）で住居跡8軒、溜ノ台遺跡（6）で住居跡4軒、塚崎遺跡（22）で住居跡3軒、田間東道北遺跡（18）で住居跡4軒等、10軒以内の集落が多い。小山市内の成沢遺跡は、溝と塀で区画された中に住居跡が検出しており、中期の居館と考えられている。また、西裏遺跡（21）では当該期の住居跡の他、円形周溝遺構2基、方形周溝遺構2基が検出され、更に、従来弥生時代の祭祀の道具と考えられていた小銅鐸が、古墳時代中期の土器と共に出土している。

後期の主な遺跡としては、舌状台地の先端に立地し、住居跡が31軒検出している八幡根遺跡（8）、住居跡15軒を検出している結城市所在の善長寺遺跡（12）、住居跡8軒検出の八幡根東遺跡（7）、住居跡4軒検出の田間東道北遺跡（18）等が挙げられる。

一方、生産関連遺跡としては、中期から後期にかけての石製模造品の工房跡や鍛冶関連遺跡が調査されている。滑石製品の工房跡としては、西山遺跡（5）、向野原遺跡（4）、八幡根遺跡（8）、塚崎遺跡（22）、田間東道北遺跡（18）、西黒田遺跡、結城市の善長寺遺跡（12）等を挙げることができる。製鉄関連遺跡では、首長墓と考えられている桑57号墳との関連が注目される喜沢海道間遺跡や西裏遺跡（21）等があり、生産組織や製品の流通など今後の研究が待たれるところである。

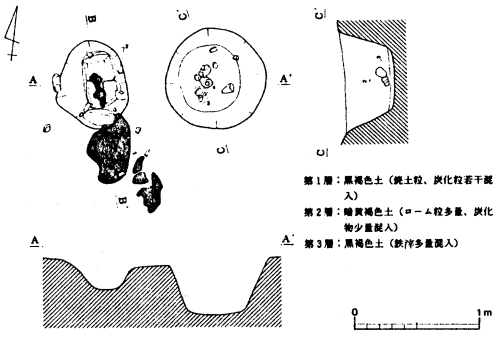
奈良・平安時代

奈良時代になると、小山市内域の遺跡の数は減少するが、集落規模は大きなものが目立つようになる。溜ノ台遺跡（6）で住居跡43軒、乙女不動原北浦遺跡（40）で住居跡29軒、金山遺跡（24）で住居跡およそ460軒、八幡根遺跡（8）で住居跡31軒、八幡根東遺跡（7）で住居跡45軒、宮内東遺跡（36）で住居跡18軒等である。一方、周辺には製鉄関連遺跡が多く、地域的な特色



第12図　溜ノ台遺跡鍛冶遺構出土遺物

を反映しているものと考えられる。小山市内では、金山遺跡（24）、大境遺跡（精錬）（29）、六軒遺跡、金くそラント遺跡、鏡田遺跡（精錬）、溜ノ台遺跡（6）等があり、茨城県では総和町を中心に、金糞Ｂ遺跡、本田山Ｂ遺跡、東小路遺跡、磯ノ木Ｃ遺跡、萩山Ｃ遺跡、弁才天Ｂ遺跡、八千代町の尾崎前山遺跡がある。尾崎前山遺跡以外は、およそ10kmの範囲内に集中しており、この近辺が大規模な鉄の生産地帯であったと考えられる。その経営主体と後に興る武士勢力との関連も、注目されるところである。また、三和町浜ノ台遺跡では須恵器窯が検出され、大境遺跡とほぼ同時期に操業していたものと思われる。その他、下野薬師寺に用いられた瓦を生産した乙女不動原瓦窯跡（40）、結城市の結城寺瓦窯跡（48）と結城廃寺（49）等が知られている。



第13図　溜ノ台遺跡鍛冶遺構

中世

本遺跡周辺の中世の遺跡は、小山氏・結城氏関連の遺跡が古くから知られていたが、最近の調査で集落や墓域等も確認されている。

小山氏関連の遺跡としては、祇園城（31）、鷲城（34）、長福城（33）があり、三城一体となり組織的に防衛体制をとっていたものと考えられている。鷲城の東には、鎌倉時代の小山氏の居館とみられる神鳥谷曲輪（35）があり、この三城一館の分布する地域が、小山領の中枢部であった。更に東には小山氏の城として築かれた後、小山の支族、結城氏の管轄下にあった中久喜城（9）がある。西部の低地に位置する榎本城は、榎本領の支配とともに、西の皆川氏・佐野氏に対する押さえの城として、重要な拠点であった。その他、戦国期まで使用が確認できる城は、地籍図によって概略がつかめる卒島城と小山秀綱書状（小山市史・史料補遺19）にみられる国府館である。かつて土塁がみられた塚田館（19）と石塚館（32）は、戦国期にはすでに使用されていなかった可能性が高い。御城は鎌倉公方・古河公方の奉公衆として使えた梶原氏の居城であり小山氏の城ではないが、梶原氏と小山氏との関係から小山氏との関連の強い城であろう。また、宿尻にかつて土塁と堀を巡らす館跡が存在したが、明治年間に開墾されたという記録を実証したのが田間東道北遺跡（18）である。一辺125m程の方形に堀が巡っていると考えられる。この北隣りには土壙群が検出され、この館に伴う墓と考えられる。

次に、結城氏関連の居城をみてみると、結城氏の本城である結城城（44）がある。小山氏の祇園城と水谷氏の下館城を直線で結んだほぼ中間に位置し、佐竹・宇都宮両軍に対抗する三氏の防衛戦略を垣間みることができよう。戦国時代、一度たりとも落城していない堅城である。結城惣領家の館と考えられているものが、城の内館（45）である。結城合戦時の結城城篭城の時に放棄されるまで、鎌倉時代からの結城氏の居城であると考えられている。結城城から南へ約9kmの位置には、綾戸城がある。結城氏と強い同盟関係にあった山川氏が戦国期（永禄8年と伝承）に東持寺館より移り、築城したものといわれている。東持寺館（50）は、前述の山川氏が鎌倉初期から戦国期まで居を構えた山川氏歴代の館であると考えられている。その他の館としては、結城晴朝の娘を妻とする江戸重通の居住地である小田林の富田屋敷、南北に長く土塁を巡らした田間の三蔵神社館（23）、湧水点に水堀を巡らした館である水書氏屋敷（27）などが伝えられている。このほかに結城氏は宇都宮氏や小田氏から奪取した小栗城、富谷（屋）城、大島城、海老島城等などにも家臣を派遣

している。

中世の集落や墓域と考えられる遺跡としては、祇園城の北隣に位置し、小山一族の墓所とみられている小山市民病院遺跡、方形竪穴遺構が検出された宮内北遺跡、掘立柱建物跡や方形竪穴遺構・区画溝・土壙群等が検出した横倉宮ノ内遺跡（17）、前述の田間東道北遺跡（18）、方形竪穴遺構が検出された亀田遺跡（41）、掘立柱建物跡・方形竪穴遺構・共同墓地・水田跡・古道等、周辺ではあまり例を見ない規模の中世の遺構が検出された金山遺跡（24）等があり、今後の中世研究の貴重な資料となるであろう。

小山市域は、鎌倉以来の古道が通っており、発掘調査でも一部確認されている。一本は古河・野木方面から市内に入るルートで、奥大道と呼ばれている。思川東岸を北上し、乙女不動原から粟宮を経て鷲城・神鳥谷曲輪・長福城・祇園城に沿ってのびており、更に南河内町薬師寺を通り、宇都宮方面に北進したと伝えられている。もう一本は、神鳥谷曲輪から小山城南高校（大聖寺跡地）を経て塚崎・大戦防へ向かう鎌倉街道である。更に、鎌倉大道は、結城から茂呂を経て猿島郡へ通じている。この他、神鳥谷曲輪から北東に向い、中久喜・結城方面への道なども古道であると考えられる。

最後に、文献に記された本遺跡周辺の地名等をみてみる。初見は、明応3年（1494）の小山成長安堵状にみられる、小山庄「野田郷」という記載である。次の記事は天文5年（1536）の、小山高朝伊勢役銭算用状写である。「西つかさき」、「東つかさき」、「よこくら」、「おゝや」、「たんま」とあり、戦国期には本遺跡近辺が、小山領であったことがうかがえる。続く天文23年（1554）には、足利義氏が重臣野田氏に対し、小山領11郷を宛行っており、この11郷には「野田」、「横倉」、「多摩（田間）」、「塚崎」等の地名がみられる。この地域は小山氏当主直轄の上郷北部と違って、鷲城主（小山氏の一族か）が支配していたものとみられる。このことは、これらの地域がかつて鎌倉府の御料所であったことなどから、古河公方の御料所に準ずる扱いを受けており、小山氏の支配にとって、安定性を欠く地域であったことを示唆している。更に後、小山氏の当主の座についた秀綱は、上杉謙信・足利藤氏方に従属することにより、活路を見いだそうとし、古河公方の御料所を押領し、旧小山領の回復を行った。これによって永禄3年（1560）、「野田」郷は野田氏による支配から小山氏の支配に移った。しかし、両「塚崎」、「田間」、「横倉」は依然として野田氏の知行地であった。この地域が小山氏の発

第14図　鷲城跡測量図

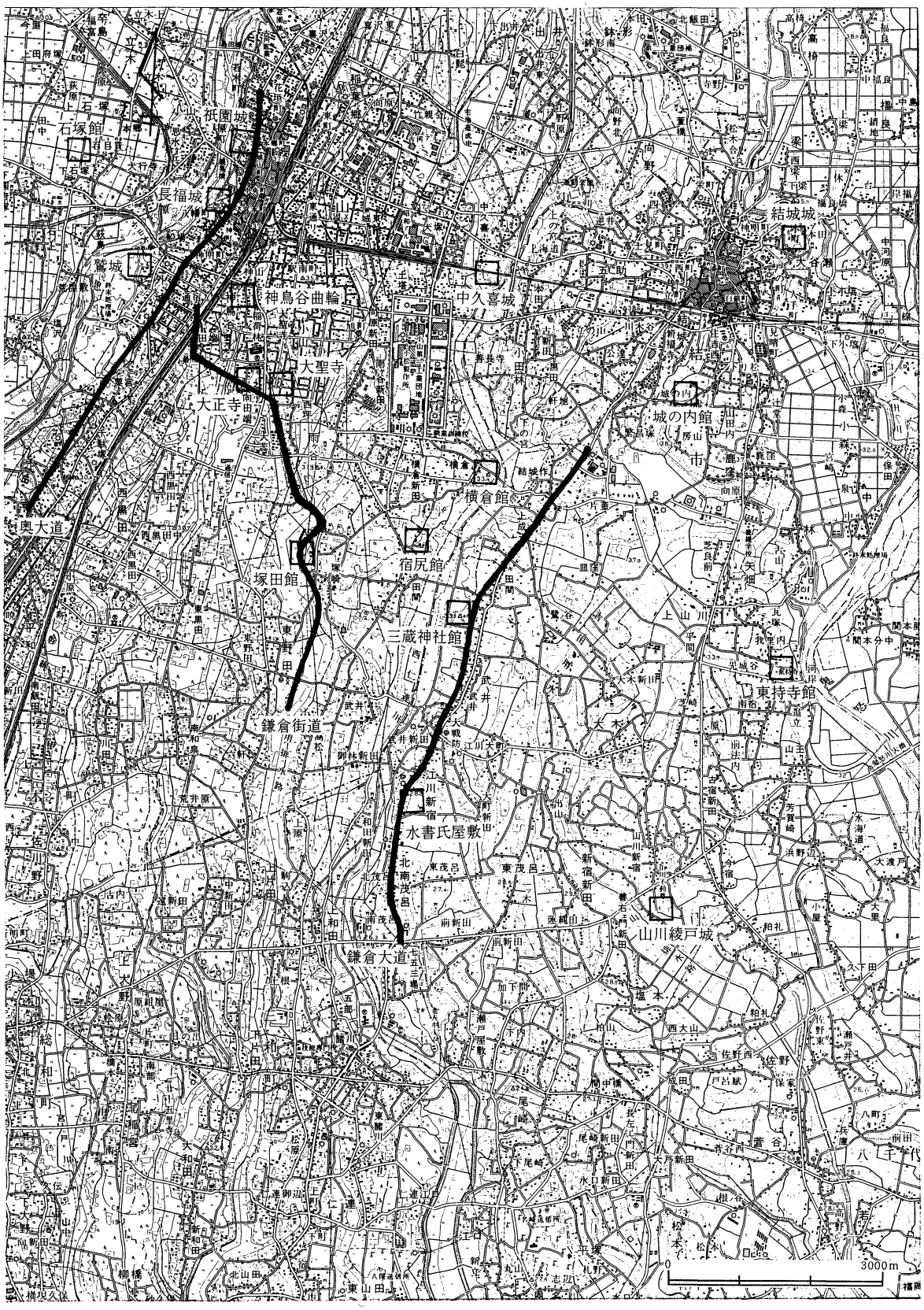
展を左右する、重要な意味をもっていたものであろう。

一方、小山秀綱の家臣団には、横倉郷が本貫地と推測される家臣が存在する。小山氏の重臣、横倉藤蔵とその一族とみれる横倉豊前である。また、安久津将監・与十郎兄弟のうち、弟の与十郎が横倉郷に田二反、畠7枚を宛行われている。ただし、この場合、知行地といっても自作の田畠と家屋敷であり、5貫文にもみたなかったと思われ、戦地には騎馬武者としてではなく、槍などをもった足軽として赴いたものであろう。更に橋本小四郎という人物は、野田郷に10貫文の知行地を与えられている。このほか、近世半ば頃原型ができ、幕末に現在の形に整えられた「小山家旧臣帳」には、野田村佐山筑前、東野田村山中衛守、塚崎村山中瀬六、田間村中村主水、横倉村阿久津藤蔵・鈴木治部の名前が残っている。

以上、横倉遺跡周辺の遺跡について、各時代ごとに概観してきた。西仁連川や大川流域の低地を生産の基盤として、両側の台地上に居を構え、栄枯盛衰を繰り返し生きてきた人々の生活の跡を見ることができたと思う。

〈参考文献〉

小山市史編さん委員会　1981　『小山市史』　史料編・原始古代
小山市史編さん委員会　1984　『小山市史』　通史編。自然原始・古代中世
結城市史編さん委員会　1980　『結城市史』　第4巻　古代中世通史編
三和町史編さん委員会　1992　『三和町史』　資料編　原始・古代・中世
小山市教育委員会　1986　『喜沢海道間遺跡発掘調査報告書』
小山市教育委員会　1987　『乙女不動原北浦遺跡Ｂ地点発掘調査報告書』
小山市教育委員会　1982　『乙女不動原北浦遺跡発掘調査報告書』
小山市教育委員会　1988　『西山遺跡発掘調査報告書』
小山市教育委員会　1992　『下犬塚遺跡発掘調査報告書』
小山市教育委員会　1990　『小山市文化財調査報告書　第25集』　鷲城跡
小山市博物館　1993　『小山の遺跡2』　10年間の発掘成果
（財）茨城県教育財団　1989　『一般国道4号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書2（結城地区）』本田遺跡・善長寺遺跡・小田林遺跡
栃木県教育委員会　1990　『溜ノ台遺跡』
栃木県教育委員会　1993　『大境遺跡』
栃木県教育委員会　1993　『金山遺跡Ⅰ』
栃木県教育委員会・（財）栃木県文化振興事業団　1994　『塚崎遺跡』
栃木県教育委員会・（財）栃木県文化振興事業団　1994　『田間東道北遺跡』
栃木県教育委員会・（財）栃木県文化振興事業団　1994　『金山遺跡Ⅱ』
（財）栃木県文化振興事業団　1983　『栃木県の中世城館跡』

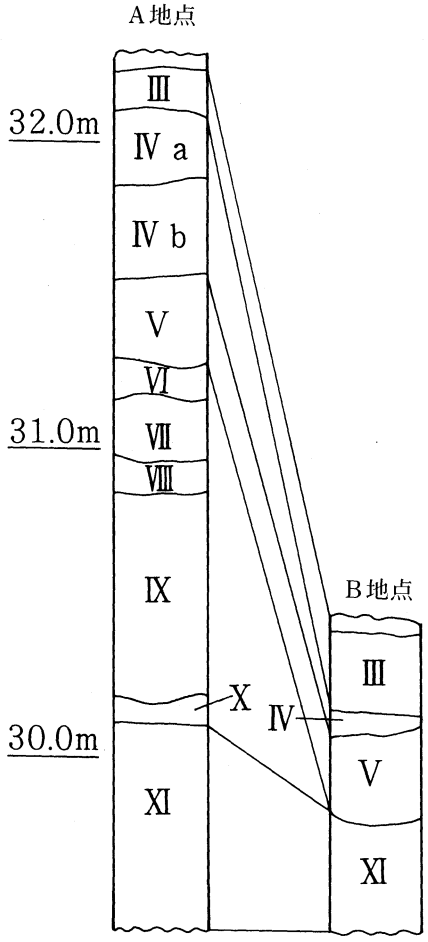


第15図　遺跡周辺の古道と館跡

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　遺跡の概要

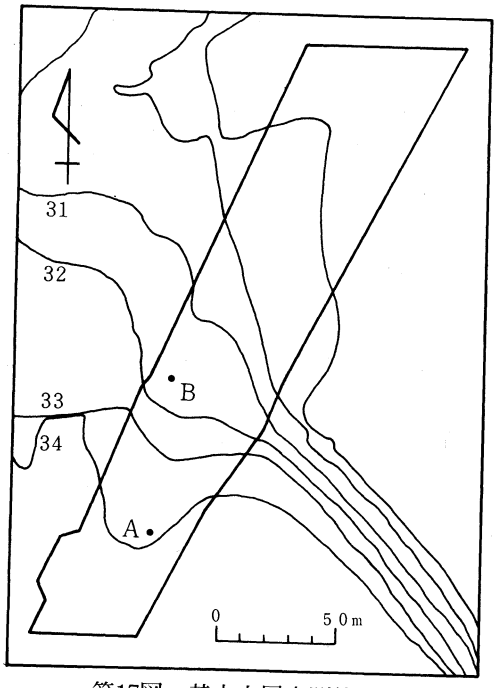
地理的環境でも述べたように、横倉遺跡は南南東に突出した舌状台地上から、北東斜面を経て西仁連川の沖積低地まで広がっている。舌状台地の付け根部分には、小さな谷が北北東から南南西に向かって入り込んでおり、この谷部と調査区の範囲が一致する。台地上から台地縁辺部では、耕作土直下で確認面とした黄褐色土のソフトローム面（基本土層図Ⅲ層）が確認され、耕作土の厚さは30cm前後であった。地山基本土層は、第16図に示したとおりであり、井戸の断ち割り時に確認したものである。第5節（2）井戸跡の地山の層にも対応する。台地上ではⅢ層からⅪ層まで確認できたが、斜面になると、Ⅶ層がみられない地点や、Ⅴ層



第16図　横倉遺跡基本土層図

Ⅲ　ソフトローム
Ⅳ　ハードローム
Ⅴ　ブラックバンド
Ⅵ　ソフトローム
Ⅶ　ハードローム（ＫＰを含む）
Ⅷ　ＫＰ
Ⅸ　ハードローム
Ⅹ　粘土化の進んだ層
Ⅺ　白色粘土層

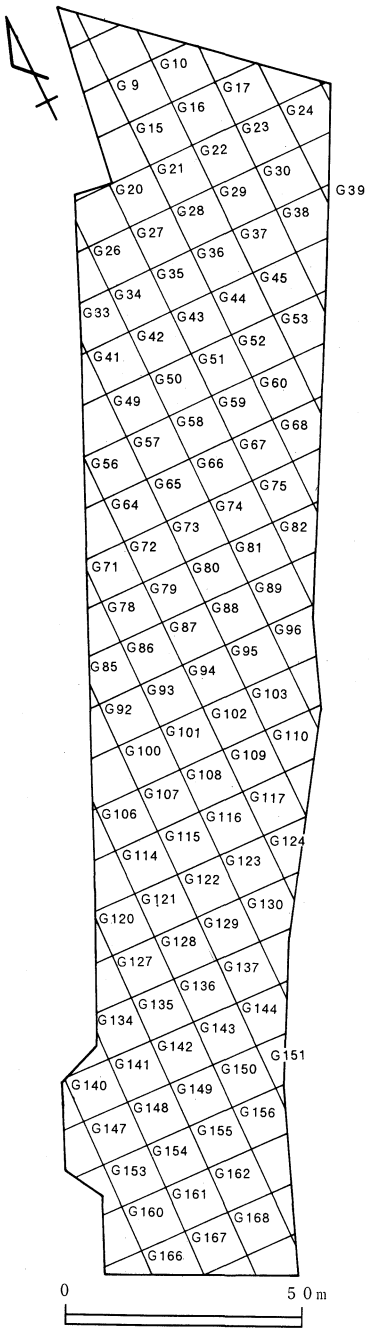
第3表　横倉遺跡基本土層説明



第17図　基本土層実測位置図

の直下にXI層が現れる地点、Ⅲ層・Ⅴ層・XI層のみ遺存している地点など様々であり、地層の堆積時からすでに現地形のように傾斜していたことが推測される。また、Ⅷ層の鹿沼パミスは堆積が薄く、本遺跡から南西に6km弱の位置にある間々田の六本木遺跡では、ハードローム中に鹿沼パミスが確認される程度であり、本遺跡近辺の鹿沼パミスの降灰は少なかったようである。低地部分は黒色土層が厚く堆積しており、Ⅲ層のソフトロームはみられない。地表からⅣ層のハードローム面までは、およそ70cm程あり、頻繁に湧水があり、調査は難航した。

遺構はすべて中世以降のものと思われ、台地の縁辺部と低地に集中しており、斜面では少ない。検出された遺構の種類と数は、掘立柱建物跡12棟、井戸跡15基、溝跡9条、地下式壙1基、土坑164基、ピット群1箇所、不明遺構1基である。



第18図　横倉遺跡グリッド配置図

図面掲載した遺物の総点数は269点である。旧石器時代の遺物は、2点図示した。縄文時代の遺物は、石器21点（石鏃2点、磨製石斧1点・打製石斧4点、石錘2点、石皿1点、磨石4点、鼓石2点、凹石1点、スクレイパー1点、礫器2点、礫1点）、土器110点（早期18点、前期16点、中期22点、後期54点）を図示した。古墳時代の遺物は、石製模造品2点、甕1点のみである。中世以降の遺物は133点を図示した。このうち搬入されたと思われる土器類は、33点を図示した。青磁4点（碗、高台付皿）、瀬戸21点（灰釉平碗・鉢・梅瓶・皿・瓶子・折縁鉢・盤・片口鉢・合子、鉄釉仏華瓶・小鉢）、瀬戸美濃2点（天目茶碗）、常滑6点（甕、大甕）である。産地を特定できないものは、66点を図示した。かわらけ29点、焙烙2点、内耳鍋25点、擂鉢4点、燈明具6点である。石類は16点を図示した。石臼2点、砥石13点、石臼の受け皿1点である。鉄製品は6点を図示した。、刀子1点、釘1点、不明鉄製品4点である。更に鍛冶関連遺物としては、鉄滓2点を図示した。古銭は5点出土し、判読できたものは寛永通宝、太平通宝の2点である。他は政（和）通宝、（淳又は紹）（熙）元（宝）、（天）（保）通宝であると推測される。その他の遺物として、近世のものと思われる人形土製品など18点を図示した。

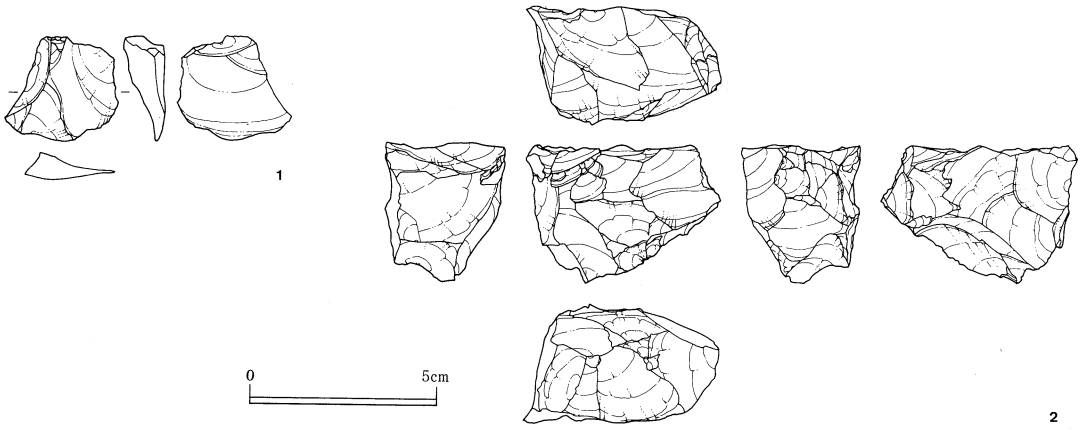
このように横倉遺跡は、中世を中心とする遺跡であり、他の時期の遺構は確認されていない。遺物のみが表採された。以下、中世の遺構と各時代ごとの出土遺物について説明する。

第２節　旧石器時代の遺物

旧石器時代に属すると思われる石器類は、総数33点が確認された。製品は確認されず、ほとんどが剥片で石核が１点のみ出土した。いずれも遺構には伴わない遺物である。石質は黒曜石及び珪質頁岩が主体をなし、剥片は比較的縦長のものが多い。計２点を図示した。

１はやや不整形を呈する剥片である。表面の剥片上端及び右側面の一部には、細かな調整が施される。長さ2.8cm、厚さ1.1cm、重さ5.0gである。石質は珪質頁岩と思われる。

2は石核である。打面の転移を何度か繰り返し、縦長剥片を連続して取り出そうとした様子がうかがえる。作業中に石の脈に当たり、剥片を取ることが困難となったため使用を断念したものと思われる。石質は珪質頁岩と思われる。長さ5.0cm、幅3.2cm、厚さ3.7cm、重さ67.0gである。



第19図　横倉遺跡旧石器実測図

第３節　縄文時代の遺物

（1）土器

本遺跡からは、およそ1200点の縄文土器片が出土した。このうち110点を図示した。（第20図～第24図）土器は、早期 撚糸文系土器から後期 加曽利Ｂ式にかけ認められる。主体となる時期は、中期後半 加曽利Ｅ2式から後期前半堀之内１式である。出土位置は台地の縁辺部から斜面を中心に広がりをみせる。

土器の記述は、本遺跡の分類に従って進めた。

第1群土器　早期 撚糸文系土器（第20図1～7）

1類　縄文が施されるもの

2類　撚糸文が施されるもの

第2群土器　早期 条痕文系土器（第20図8～18）

1類　微隆起線が貼付されるもの

2類　条痕文のみが施されるもの

第3群土器　前期 羽状縄文系土器（第21図1～16）

1類　文様が施されるもの

2類　地文のみ施されるもの

第4群土器　前期末葉～中期初頭の土器（第22図1～3）

1類　複合口縁を有するもの

2類　結節縄文が施されるもの

第5群土器　中期 加曽利Ｅ式土器（第22図4～25）

1類　隆帯の貼付される口縁部破片

2類　沈線・磨消縄文が施されるもの

3類　隆起線文を有するもの

第6群土器　後期 称名寺式期の土器（第23図1～21）

1類　交差する沈線の区画内に縄文が施されるもの

2類 沈線の区画内に文様が充填されるもの

3類　円形の把手をもつもの

4類　隆帯が貼付されるもの

第7群土器　後期 堀之内式土器（第24図22～47）

1類　太めの沈線・刺突が施されるもの

2類　縄文地に沈線文が施されるもの

3類　無文地に条線文が施されるもの

4類　沈線による区画内に刺突や短沈線が施されるもの

第8群土器　後期 加曽利Ｂ式土器（第24図50・51）

第9群土器　時期不明の土器（第24図48・49）

第1群土器　早期 撚糸文系土器

これらは胎土に白色粒子を多量含み、器厚は5～6mmと薄手である。

1類　縄文が施されるもの

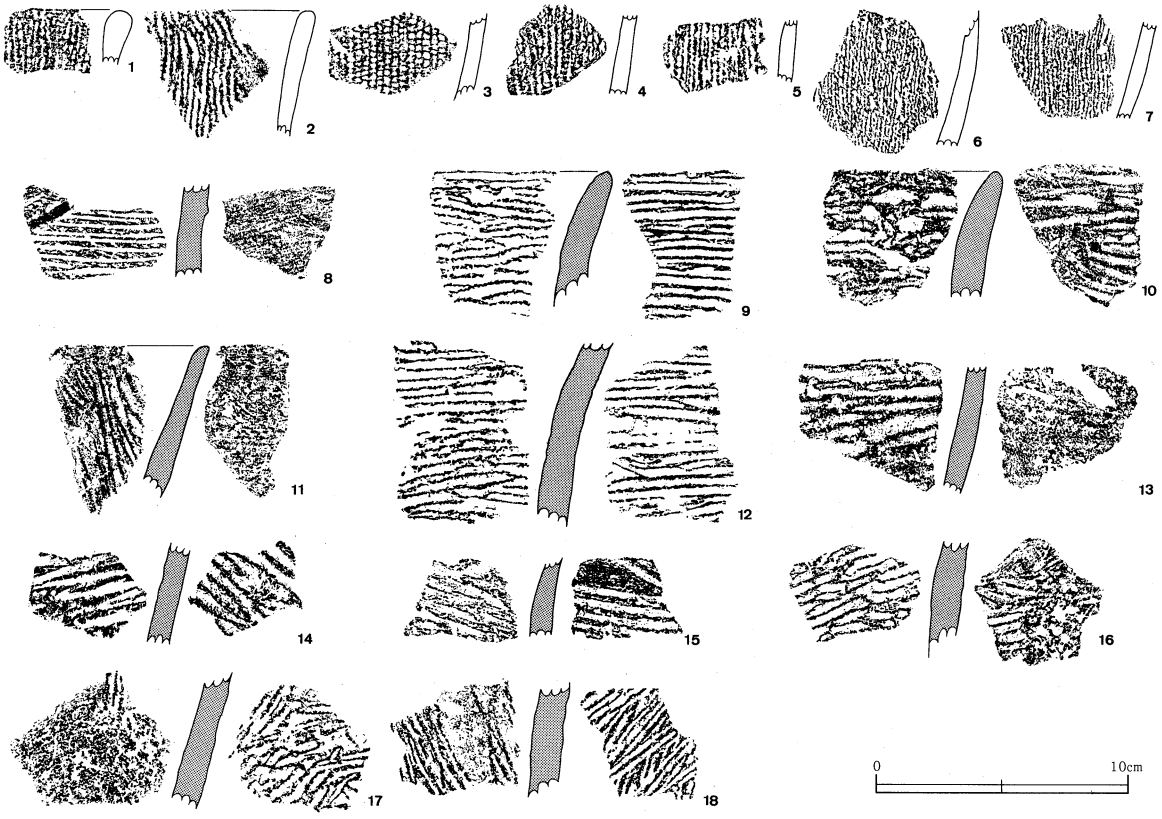
1は肥厚する口縁部破片である。口縁部直下から縦位の縄文が施される。2はわずかに肥厚する口縁部に、補修孔を有する。口縁部直下から縄文が施される。3～5は縄文が施される胴部破片であり、施文原体はいずれも2段ＲＬの縄である。

2類　撚糸文が施されるもの

6・7は細目の1段Ｒの縄を絡めた原体を用い、縦位に施文される。6の内面には擦痕がみられる。

第2群土器　早期 条痕文系土器

これらは表裏に条痕文を有し、胎土に繊維を含む。焼成は不良なものが多い。



第20図　横倉遺跡縄文土器実測図（1）

1類　微隆起線が貼付されるもの

8は断面三角形で細目の粘土紐が斜位に貼付される。条痕文は櫛歯状工具により浅めに施文される。焼成は良好である。野島式土器と思われる。

2類　条痕文のみが施されるもの

いずれもアナダラ属の貝殻背による条痕文が施される。9～11は口縁部破片である。9・10はやや外反し、11はほぼ直上する。12～18は胴部破片である。条痕文は9・10・12・13では横位に、その他は斜位に施文される。器厚は1cm前後のものが多く、色調は概ね暗褐色である。

第3群土器　前期 羽状縄文系土器

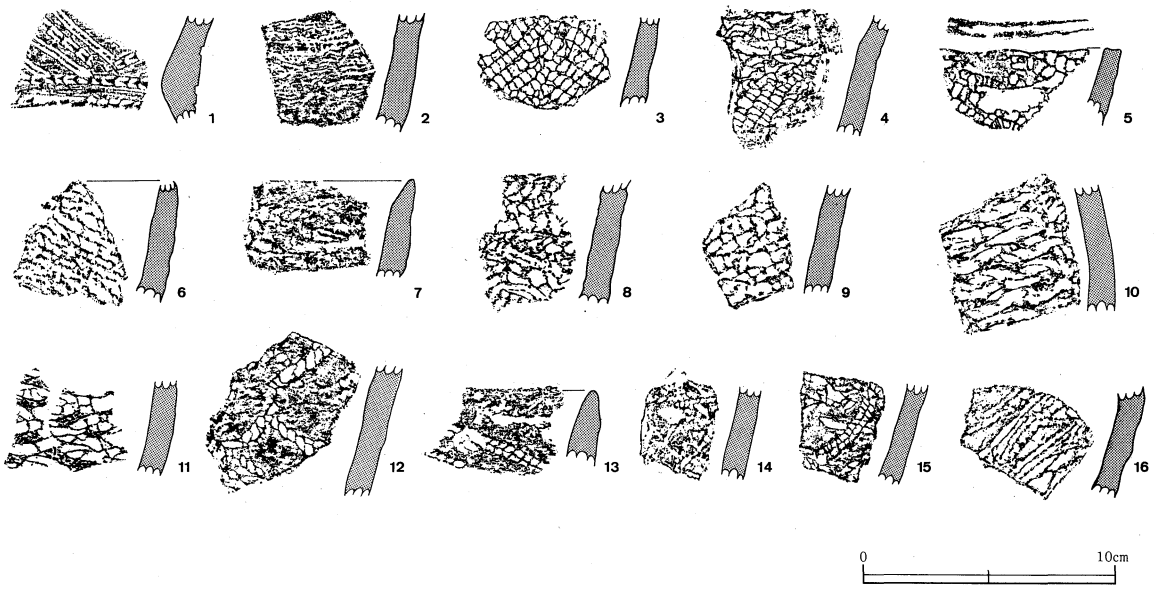
これらは胎土に繊維を多量含み、脆弱なものが多い。焼成は概ね不良である。

1類　文様が施されるもの

1は括部の破片である。半裁竹管による細目の押し引き文で、菱形の文様構成をとるものと思われる。2は櫛歯状工具による横位の波状文が施される。施文は細かく浅めである。

2類　地文のみが施されるもの

3～5は単節縄文が施される。3・4は2段ＲＬ及び2段ＬＲの縄を用い、羽状に施文される。5は2段ＲＬの縄を原体とし、口唇上には沈線状の整形痕がみられる。6・7は無節縄文がみられ、施文原体はいずれも1段Ｒの縄である。7の口縁部は先細り状を呈する。8・9はループ文が施される。8は末端環付き2段ＲＬの縄である。



第21図　横倉遺跡縄文土器実測図（2）

9は末端環付きで2段ＬＲの縄が用いられる。10・11は結節縄文が施される胴部破片である。胎土・焼成とも類似するため、同一個体と思われる。内面は黒褐色を呈し、良く磨かれている。12～17は附加条縄文が施される。いずれも軸縄の圧痕が表れないため、原体は不明である。附加した縄は、12では1段Ｒの縄1本と1段Ｌの縄により羽状構成をとる。13～16は1段Ｒの縄を2本1組としたものである。

第4群土器　前期末葉～中期初頭の土器

これらの土器は粗めの白色粒子・小石等を含み、焼成は良好である。器厚は1cm程である。

1類　複合口縁を有するもの

1は土器の外面の輪積み痕を残す。口縁部には1段Ｌの縄を横位に施文している。

2類　結節縄文が施されるもの

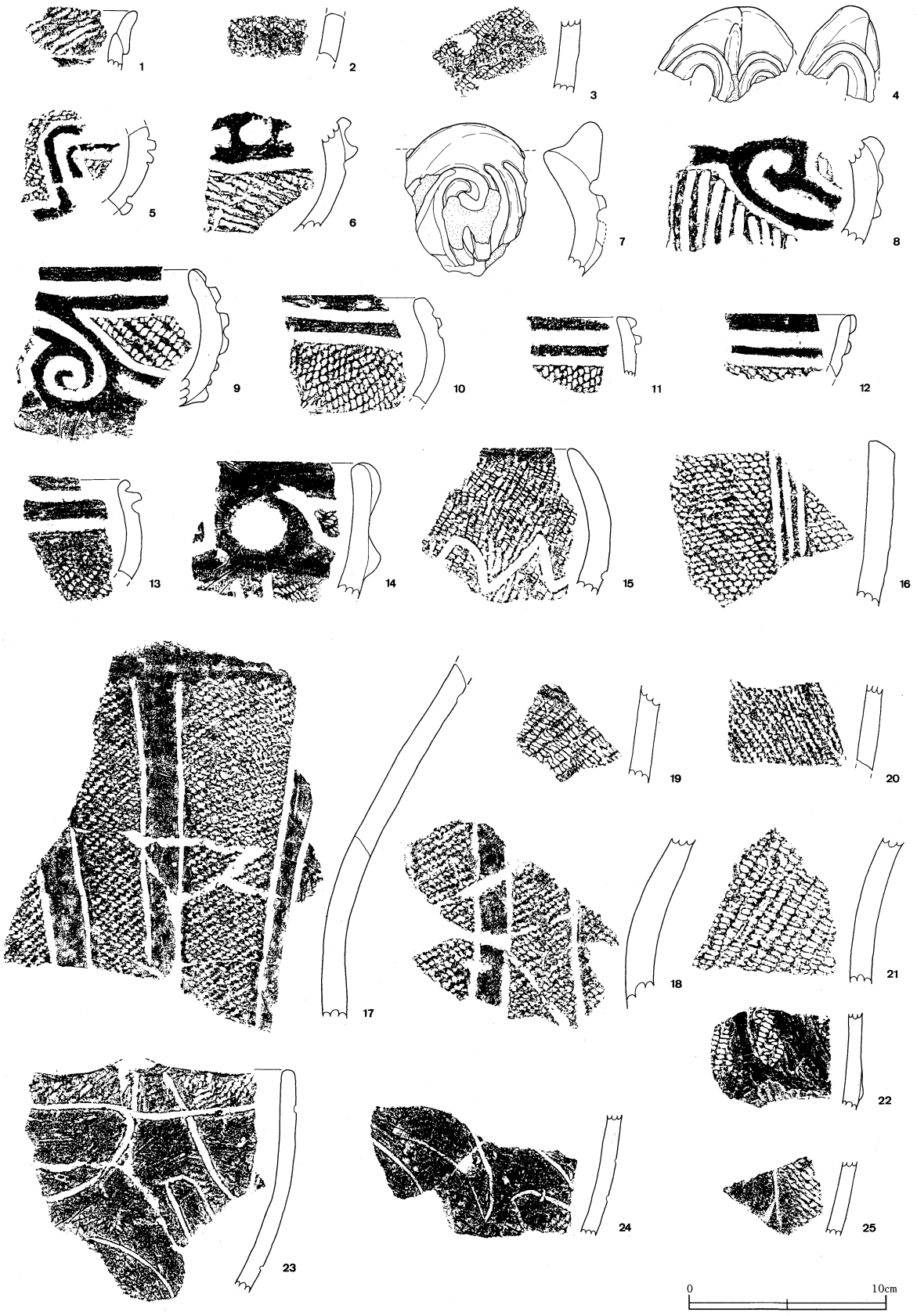
2・3は2段ＬＲの縄を地文とし、その後1段Ｒの結節縄文を横位に施文している。胎土・焼成が類似するため、同一個体の可能性がある。

第5群土器　中期 加曽利Ｅ式土器

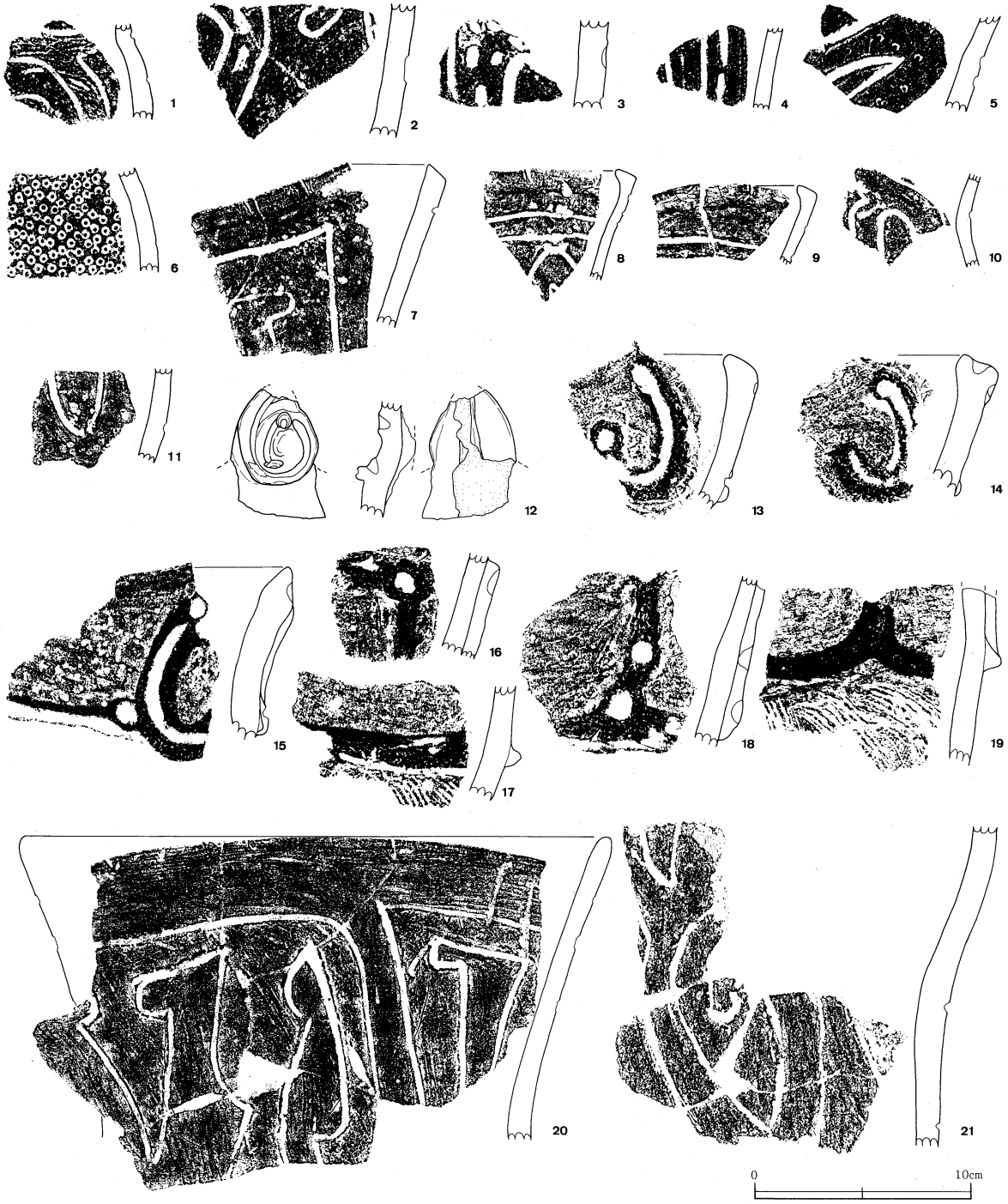
1類　隆帯の貼付される口縁部破片

これらはいずれも内湾する口縁部及び口縁部付近の破片で、隆帯に沿って太めの沈線が施される。胎土・焼成とも良好である。

4はメガネ状を呈する把手の破片である。5は地文に2段ＲＬの縄を用い、2本のクランク状の隆帯が貼付される。6～9・14は隆帯による渦巻き文がみられる。7・8・9は比較的明確な渦巻き状を呈するが、6・14はやや省略されるようである。6・9・14の地文は2段ＲＬの縄を用い、8は太めの沈線を地文とする。10～13は口縁と平行して2条の隆帯が貼付される。9と同様の文様構成をとるものと思われる。いずれもやや内湾する平口縁の土器である。10・11の施文原体は2段ＬＲであり、13は2段ＲＬ、12は3段ＲＬＲの複節の縄を用いている。9は胎土に雲母片が混入する。



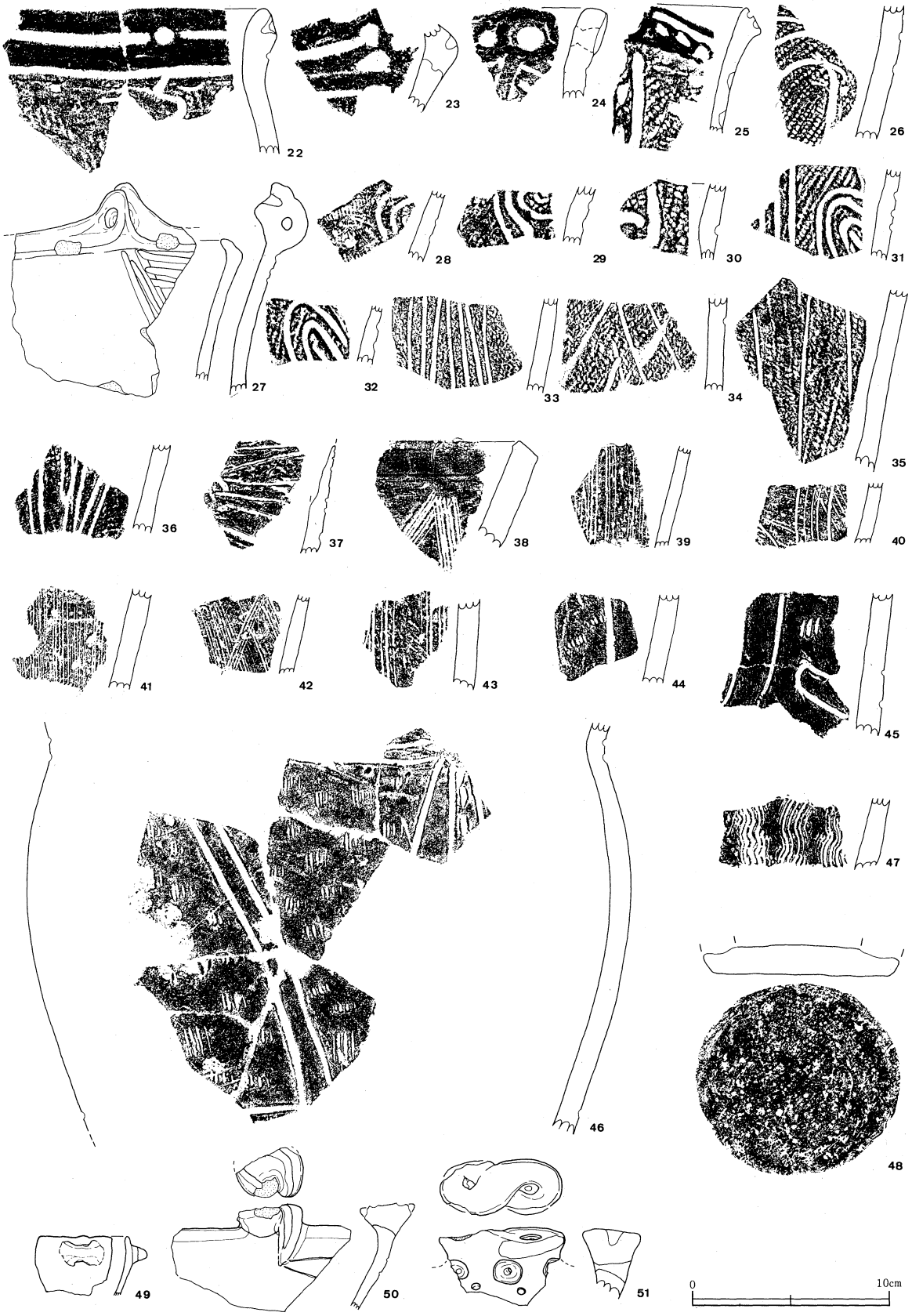
第22図　横倉遺跡縄文土器実測図（3）



第23図　横倉遺跡縄文土器実測図（4）

2類　沈線・磨消縄文が施されるもの

15は平口縁の土器で、口縁部に7mm程の無文部を有し、2段ＲＬの縄が施される。隆帯は貼付されず、太めの沈線による鋸歯文がみられる。16は地文に2段ＬＲの縄文を有し、太めの3条の沈線が縦位に施文される。



第24図　横倉遺跡縄文土器実測図（5）

17は開き気味に立ち上がる、胴部から頸部の大型破片である。施文原体は2段ＲＬの縄を用いる。浅めの沈線により頚部との区画がなされ、以下同様の工具により、縦位の幅の狭い無文部が作り出される。18は同一個体の可能性がある。胎土には砂粒のほか雲母片を含み、器厚は15mmと厚手である。19～21は縄文のみが施される。19・21の施文原体は2段ＲＬの縄であるが、0段多条の可能性がある。20は2段ＬＲの縄が施される。これらは1類土器の胴部破片と考えられる。

3類　隆起線文を有するもの

22は2段ＲＬの縄を地文とし、断面三角形の薄目の隆帯が貼付される。隆帯は篦状工具による磨きが施される。器厚は7mm程で、内面には炭化物の付着がみられる。加曽利Ｅ3式期の土器と思われる。

第6群土器　後期 称名寺式期の土器

1類　交差する沈線の区画内に縄文が施されるもの

23は胴部でやや丸味を帯び、直上する平口縁の土器である。篦削りにより内外面が調整された後、太めの沈線により区画が施される。その後1段Ｌの縄による縄文が施されるが、画一性がなく区画外にも施文される。24・25も同一の特徴を有することから、同一個体と考えられる。胎土に白色粒子を多量含み、焼成はやや不良である。24・25の外面には炭化物の付着がみられる。

2類　沈線による区画内に文様が充填されるもの

1は丸味を帯びる胴部破片である。沈線は浅めの棒状工具によって施され、施文原体は2段ＬＲの縄である。胎土・焼成とも良好である。2～4は太めの沈線による「Ｊ」字状のモチーフが描かれ、その内部には同様の工具による刺突が施される。5は同様のモチーフ内に、細目の円形竹管による刺突が充填される。6は区画はみられないが、5同様の刺突が施されるため、本類とした。7～11・20・21は区画内が無文のものを一括した。7～9は口縁部破片である。7は直線的に立ち上がる波状口縁の土器で、口唇部は外削ぎ状を呈する。太めの沈線による「Ｒ」字状の区画がみられる。8は口縁部が「く」の字に内湾する。口縁に平行して細目の沈線文が施され、以下「Ｊ」字状文がみられる。9は8と同一個体の可能性がある。10は括れ部の破片である。やはり「Ｊ」字状のモチーフが施される。8～10は器厚は5～6mmと薄く、器面は平滑に磨かれている。胎土・焼成とも非常に良い。20は6点の破片が接合した。復元口径は27cm、残存高は14cmである。平口縁の土器で、外面は篦削りによる整形痕を残し、太めの沈線による「Ｊ」字状の区画内は入念に磨きを施している。胎土・焼成とも良好で、黄褐色を呈する。21は4点の破片が接合した。やはり「Ｊ」字状のモチーフをもつが、上下の区画を欠いている。沈線が施された後、全面が磨かれている。器厚は13～15mmと厚く、胎土焼成ともに良好である。

2類　円形の把手をもつもの

12は波状口縁の波頂部につく把手の破片である。外面には縦位の隆帯が貼付されている。把手の内面は窪んでおり、渦巻き状の沈線が施された後、深めの刺突が縦に3ヶ所認められる。

3類　隆帯が貼付されるもの

13～15は波状口縁の波頂部から「Ｃ」字状の隆帯が垂下するものである。13・14はやや内湾し、肥厚する波頂部上端に刺突を有する。隆帯上には一条の太めの沈線が施され、その端部には刺突がみられる。15はやや外反する器形を有する。頚部には横位の断面三角形の隆帯が巡り、波頂部から垂下する2本1組の隆帯と接する。刺突は波頂部及び隆帯の接点に施される。16は横位と縦位の隆帯の接点に刺突が施されるが、沈線はみられない。18は隆帯の接点から上に延びる隆帯上に2ヶ所の刺突がみられる。16同様隆帯には沈線が施され

ない。13～16・18は胎土に砂粒を多く含み、焼成は概ね良好である。17・19は断面三角形の隆帯が貼付される。19は隆帯で区画された胴部に斜位の櫛歯状文が施される。17は同一個体の可能性がある。胎土は砂粒及び白色粒子を多量含み、焼成は極めて良好である。

第7群土器　後期 堀之内式土器

1類　太めの沈線・刺突が施されるもの

22は平口縁の土器である。胴部が張り、口縁部でわずかに外反する器形を有する。肥厚する口縁と平行して2条の沈線が巡り、上方の沈線内に刺突が施される。以下浅めの1段Ｌの縄文が施された後、蛇行する縦位の沈線文がみられる。23は波状口縁の波頂部付近の破片である。肥厚する口唇部には2ヶ所の刺突及び太めの沈線が施される。24は円孔が穿たれる口縁部破片である。孔の左は薄い隆帯が貼付され、円形の刺突が施される。以下無文地に沈線文が施される。25も波頂部付近の破片である。波頂部から口縁部に平行して施される沈線には刺突が沿い、胴部の平行沈線内にも刺突が施される。地文は2段ＬＲの縄である。27は環状の把手を有する口縁部破片である。口縁部は大きく開き、その後「く」の字に内湾する。胴部は無文であり波頂部から斜位の3条の沈線が施された後、横位に同様の沈線が施される。

2類　縄文地に沈線文が施されるもの

26～32は太めの沈線により直線及び渦巻き状のモチーフが描かれる土器である。33～37は沈線による縦位・斜位の直線が施される。34は菱形のモチーフを意図したものであろうか。地文はいずれも単節縄文であり、施文原体は29・30が2段ＲＬで、26・31～36は2段ＬＲの縄を用いる。37の地文は不明である。26は器厚1cmと厚いがそれ以外は6～7mmと薄手である。胎土は砂粒を多く含むが、焼成は良好なものが多い。色調は概ね明褐色を呈する。

3類　無文地に条線文が施されるもの

38・40・42は条線文が交差し、格子目状あるいは鋸歯状を呈するものである。39・41・43は縦位に47は波状の縦位の条線文がみられる。38は断面外削ぎ状を呈する平口縁の土器である。口唇部及び内面は入念に磨かれる。器厚は14mmと厚手である。39・41・42は器厚6mm程で比較的薄手である。40・43は胎土に砂粒を多量に含むが、その他は少量である。焼成は概ね良好であり、38は黒褐色でそれ以外は黄橙色を呈する。

4類　沈線による区画内に刺突や短沈線が施されるもの

44・45・46が本類に属する。46はやや胴部が張り、頸部でゆるやかにくびれる器形を呈する。復元による胴部最大径は31cm程である。頸部と胴部下半には横位の区画が巡る。頸部から垂下する平行沈線内には、太めの棒状工具による短沈線が充填される。また、胴部は斜位の平行沈線により三角形に区画され、4本一組の工具による短沈線が施される。色調は赤褐色及び黄褐色を呈し、焼成は良好である。45は胎土・焼成・器厚とも46と類似するため、同一個体と考えられる。44は櫛歯状工具による刺突が施される。内面は入念に磨かれ黒褐色を呈し、焼成は良好である。

第8群土器　後期 加曽利Ｂ式土器

50は内湾する口縁部破片で、隆帯による「の」の字状の把手が貼付される。隆帯上には太めの沈線が施され、51は「8」の字状の把手がみられる。把手の上面は平坦である。外面には2段にわたり刺突文が施されるが、把手中央の刺突は深く貫通している。

第9群土器　時期不明の土器

48は無文の底部破片である。内外面には磨きがみられ、底径は10cm程である。49はミニチュア土器であ

る。復元径は4.6cmである。細目の粘土紐による橋状把手が貼付される。器厚は3mmと薄く、黄褐色を呈する。焼成は良好である。

(2) 石器

縄文時代に属すると思われる石器は、剥片も含め総数およそ100点であり、うち21点を図示した。器種は石鏃・スクレイパー・石錘・打製石斧・磨製石斧・礫器・敲石・凹石・磨石・石皿などと多様である。遺物はいずれも遺構出土でないため、時期的なものは明確にできないが、土器類から考えて早期後半から前期中葉と中期後半から後期前半に属すものが主体を占めるものと思われる。

石鏃

１は非常に小型の有茎の石鏃である。茎部の下端は両脇に張り出しており、アメリカ鏃とも考えられる。チャート製と思われる。

２は無茎の石鏃である。基部のえぐりがわずかに認められる程度で、全体的に五角形を呈する。表裏面ともに入念な剥離が行われ、薄手に作られている。チャート製である。

スクレイパー

３は縦長の剥片を用い、裏面には主要剥離面を残す。両側縁には細かな調整がみられ、下端にはやや急角度の剥離が施される。珪質凝灰岩製と思われる。

石錘

４・５は扁平な楕円礫の両端を打ち欠いて作ったものであり、いずれも片面のみからの加工である。石材は安山岩と思われる。

打製石斧

６は厚手の剥片を用いている。破片のため全容は不明だが、小型の分銅形の打製石斧と思われる。凝灰岩製であろうか。７は中央部付近から欠損するが、分銅形を呈するものと思われる。扁平な石材を用い、縁辺を両面から加工しており、表裏ともに自然面を多く残している。安山岩製と思われる。９は撥形を呈するもので、厚手の剥片を用いている。剥離は主に自然面を多く残す背面から行われるが、刃部のみ両面から加工される。流紋岩製と思われる。10は表裏面に自然面を残す厚手の石材を用いる。刃部は片面のみの剥離で作り出されるが、縁辺及び基部は両面から加工される。刃部及び縁辺は鈍角に加工され、掻器状を呈する。ホルンフェルス製と思われる。この石器は早期から前期の片刃石器と類似している。

磨製石斧

８は定角形の磨製石斧である。器面は入念に研磨されており、擦痕は認められない。中央部より欠損するが、破面には一部細かな剥離がみられるため、再利用された可能性がある。緑泥片岩製と思われる。

礫器

11は下端部に刃部を有し、45度程の角度をもつ。左側面はほぼ垂直に加工され、中央には細かな調整が施される。ホルンフェルス製と思われる。12は石器下端部に一方向からの粗めの剥離による鈍角な刃部が作り出される。砂岩製と思われる。

敲石

13は表裏面の中央部及び下端部に敲打痕を有する。また、裏面の中央部、両側面及び下端部には磨痕がみられることから、敲石、磨石両方の使用が考えられる。安山岩製である。14の敲打痕は表面中央部及び側面全面に確認される。特に下端部の使用痕が顕著である。

凹石

15は表面に１ヶ所、裏面に２ヶ所の凹がみられる。凹はいずれも中央部にあり、比較的浅めである。側面に若干の凹凸があるが、磨耗しているため使用痕かどうかは不明である。安山岩製と思われる。

磨石

16は表面に浅い横方向の擦痕がみられ、右側面上部には2ヶ所の磨痕を有する。流紋岩製と思われる。17は小型の磨石である。平面形は概ね五角形を呈する。表裏及び側面全面が良く使い込まれており、器面は平滑で稜も明瞭である。安山岩製である。18は器面全面に鼠歯状痕を有する。断面が楕円形の扁平な礫を用いるが、磨耗のため使用痕は認められなかった。安山岩製と思われる。19は表面のみに鼠歯状痕がみられる。裏面は細かな凹凸を有するが、概ね平坦である。平滑な部分が多くみられるが、磨耗のため擦痕か磨痕かは不明である。安山岩製である。

礫

20は角棒状を呈する礫である。使用痕は認められないが、石質、形状とも14の敲石と類似しており、石器の原石とも考えられる。流紋岩製である。

石皿

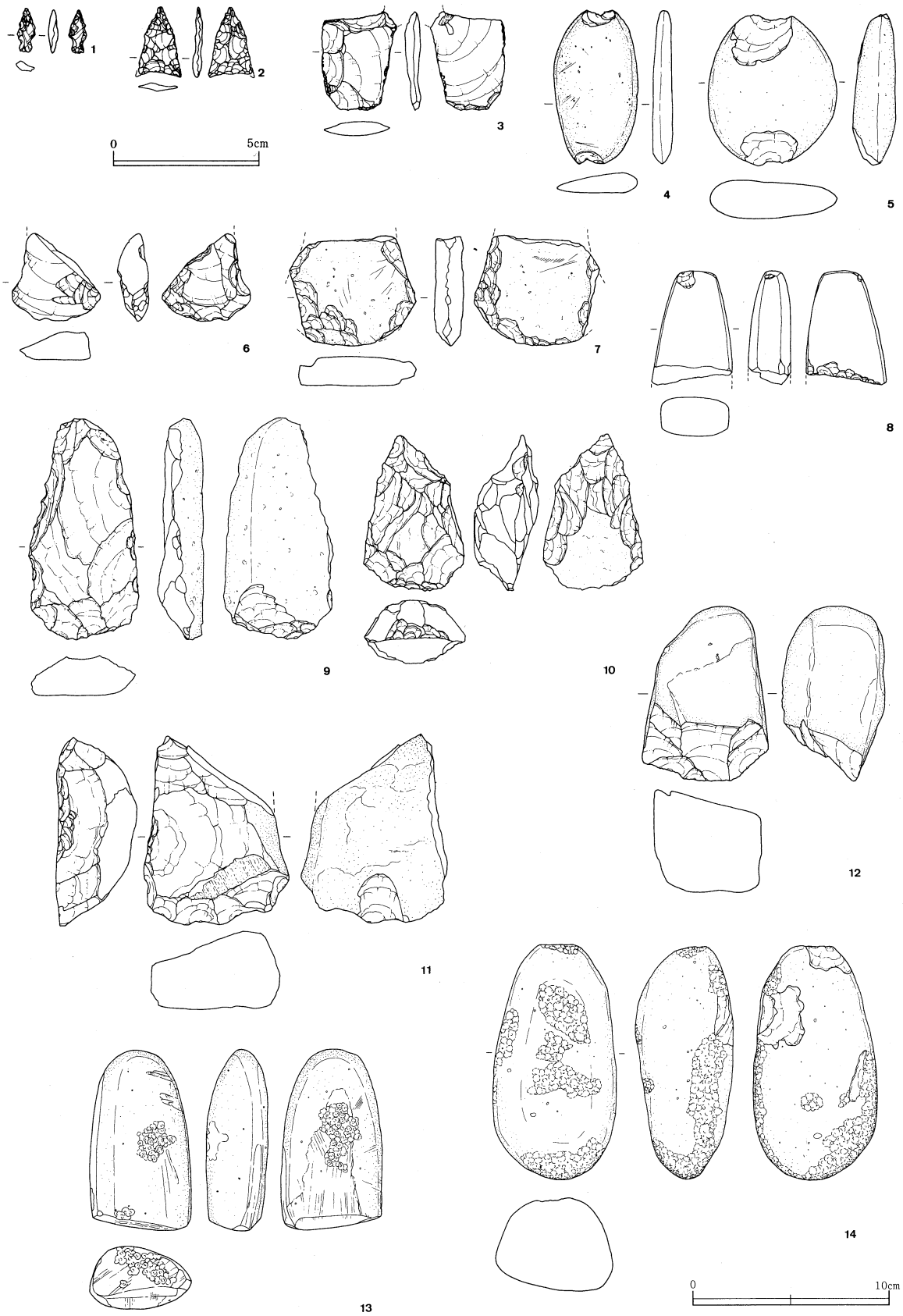
21はわずかに凹を有する表面及び側面に磨痕を有する。凹の中央部及び側面の一部にわずかに擦痕がみられる。流紋岩製である。

図版NO	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	図版NO	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質
1	石鏃	1.5	0.6	0.3	0.24	チャート	12	礫器	9.0	6.4	5.3	380	砂岩
2	〃	2.4	1.5	0.3	0.86	〃	13	敲石	9.3	5.2	3.2	229	安山岩
3	スクレイパー	(5.0)	(3.8)	0.8	12	珪質凝灰岩	14	〃	12	6.3	5.1	560	流紋岩
4	石錘	7.9	4.3	1.0	52	安山岩	15	凹み石	9.4	6.3	4.3	292	安山岩
5	〃	7.5	6.6	2.1	134	〃	16	磨石	10.5	7.1	4.2	440	流紋岩
6	打製石斧	4.5	4.5	1.6	22	凝灰岩	17	〃	5.5	4.7	2.3	54	安山岩
7	〃	5.6	(6.0)	1.5	74	安山岩	18	〃	12.8	5.3	2.4	228	〃
8	磨製石斧	(5.8)	4.1	2.2	90	緑泥片岩	19	〃	17.3	6.3	2.9	405	〃
9	打製石斧	11.4	5.5	2.3	184	流紋岩	20	礫	15.4	6.1	5.2	770	流紋岩
10	〃	8.1	5.1	3.2	126	ホルンフェルス	21	石皿	17.8	14.6	5.3	2130	〃
11	礫器	9.7	7.4	4.1	343	〃							

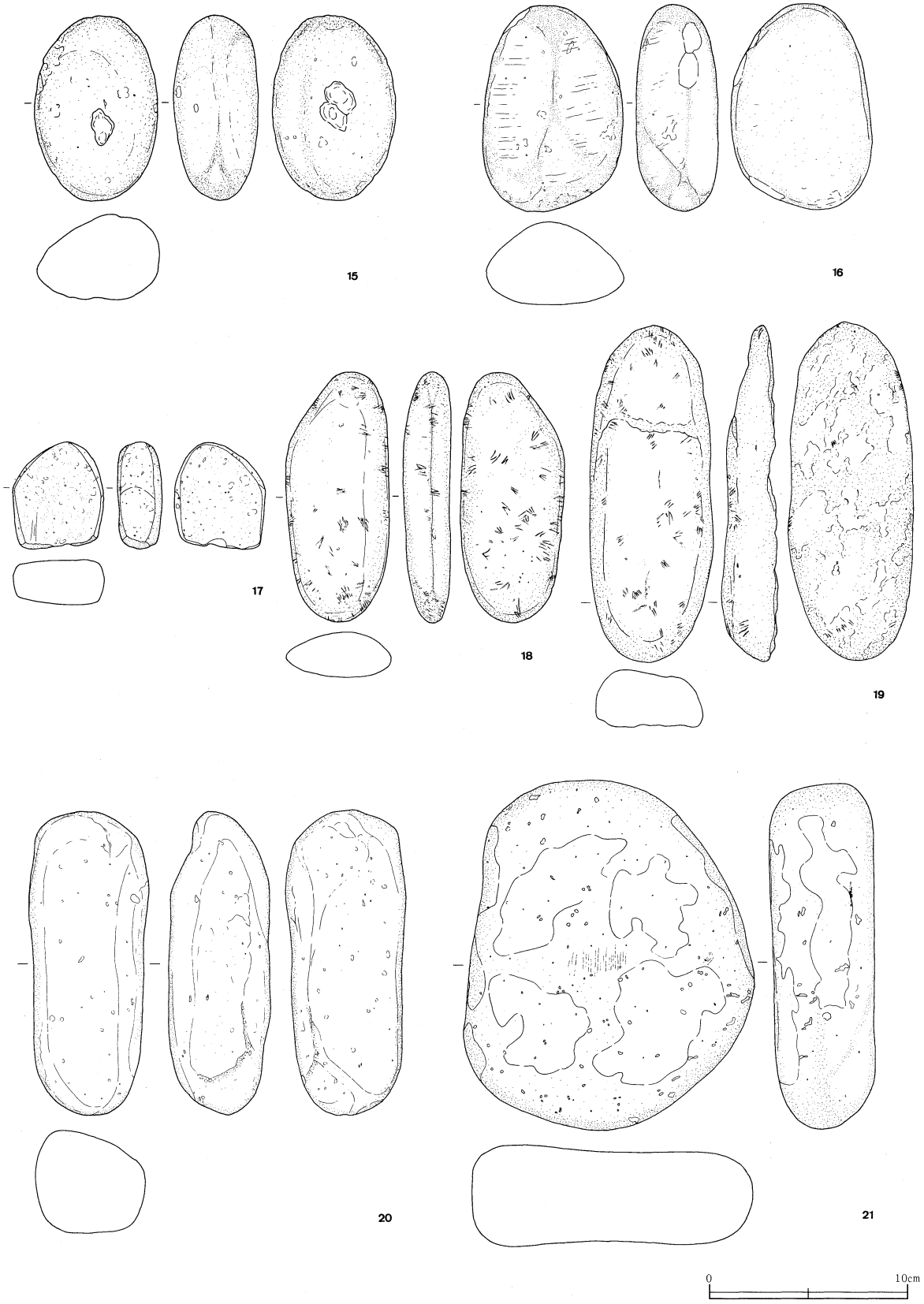
第4表　石器計測表

第４節　古墳時代の遺物

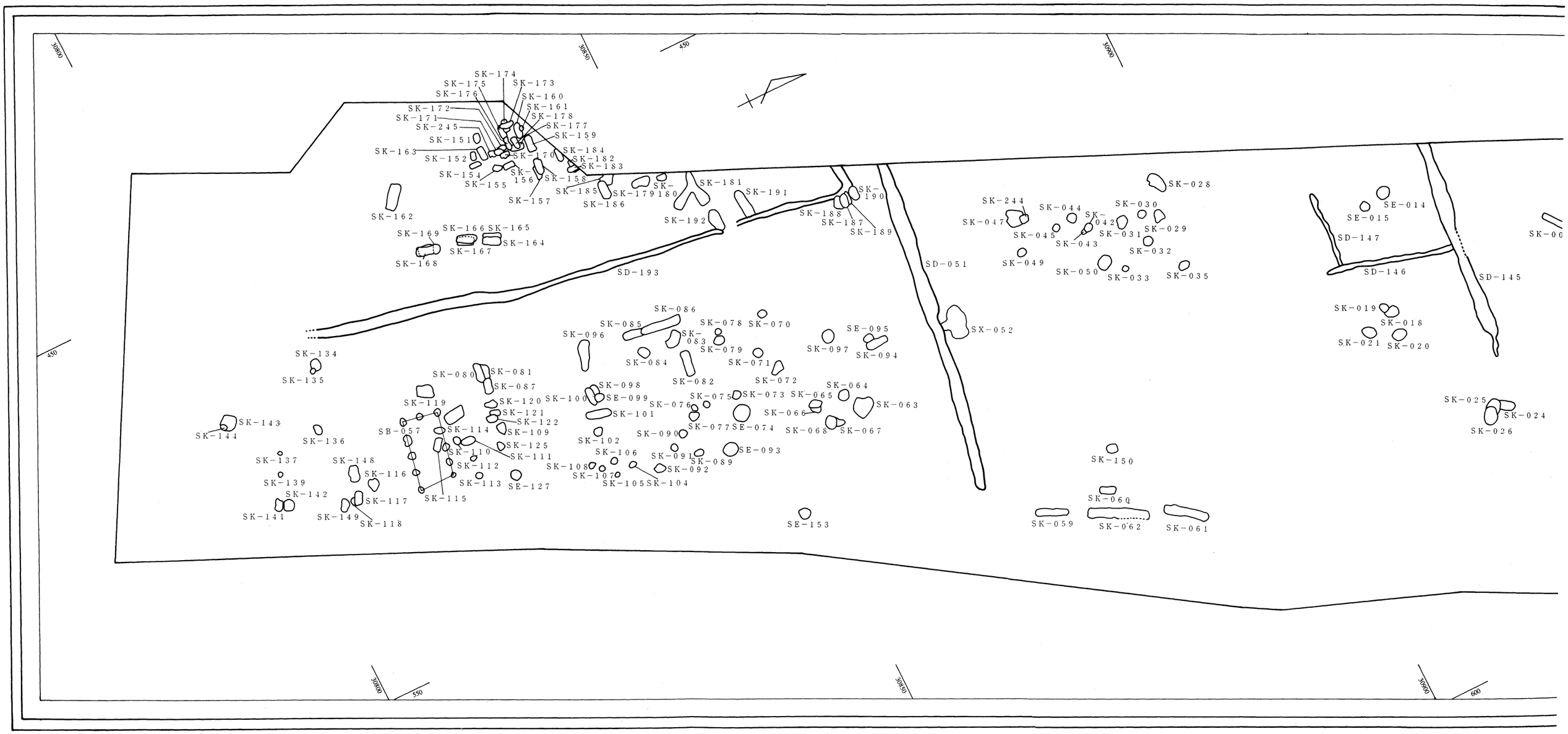
本遺跡で検出された古墳時代の遺構はなく、図示した石製模造品2点（単孔円板・未製品）と五領期の甕1点（口縁部）が表採されたのみである（第73図参照）。歴史的環境でも述べたように、小山市近辺は石製模造品の工房跡が数多く検出されており、本遺跡もこうした環境の中で存在していたことがうかがえる。



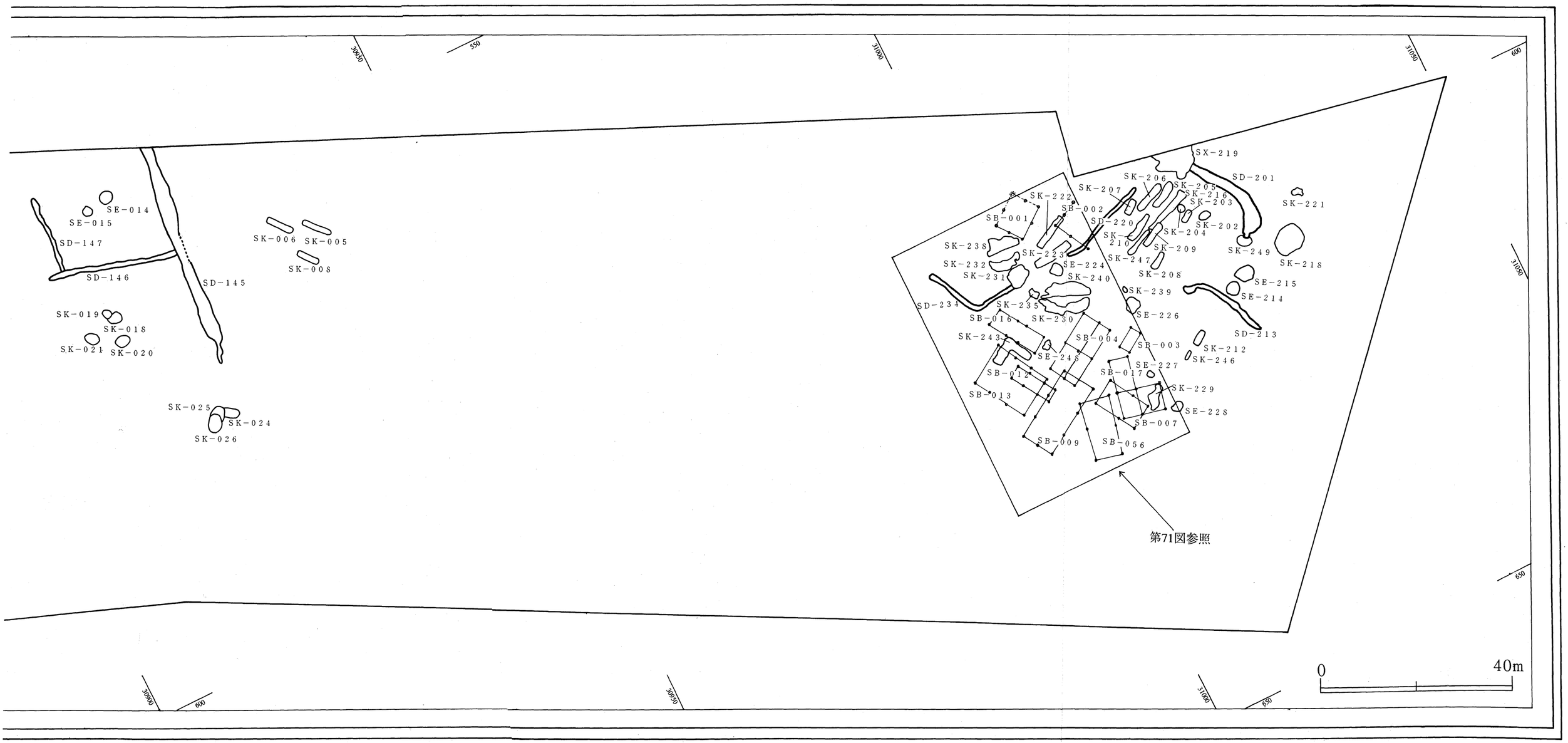
第25図　横倉遺跡縄文石器実測図（1）



第26図　横倉遺跡縄文石器実測図（2）



第27図　横倉遺跡遺構全体図


SE-014
SE-015
SD-147
SD-146
SD-145
SK-006
SK-005
SK-008
SK-019
SK-018
SK-021
SK-020
SK-025
SK-024
SK-026
SX-219
SD-201
SK-206
SK-205
SK-216
SK-203
SK-207
SK-222
SB-002
SB-001
SD-220
SK-202
SK-204
SK-210
SK-209
SK-221
SK-249
SK-218
SK-238
SK-223
SK-247
SK-232
SE-224
SK-231
SK-240
SK-208
SE-215
SE-214
SK-239
SD-234
SK-235
SB-016
SK-230
SE-226
SD-213
SK-243
SB-004
SB-003
SK-212
SE-248
SK-246
SE-227
SB-012
SB-017
SK-229
SB-013
SE-228
SB-007
SB-009
SB-056
第71図参照
0
40m

第５節　中世の遺構・遺物

(1) 掘立柱建物跡

ＳＢ－001

本掘立柱建物跡は、調査区北部の低地に位置する。重複する他の遺構はなく、本遺構東側にある溝跡ＳＤ－234を挟んで東側に広がる掘立柱建物跡群とは棟筋を異にする。側柱の掘立柱建物で、2×2間である。柱間は5尺であるが、東と西側は幾分間隔が広い。主軸方向は、Ｎ－54°－Ｗを示す。

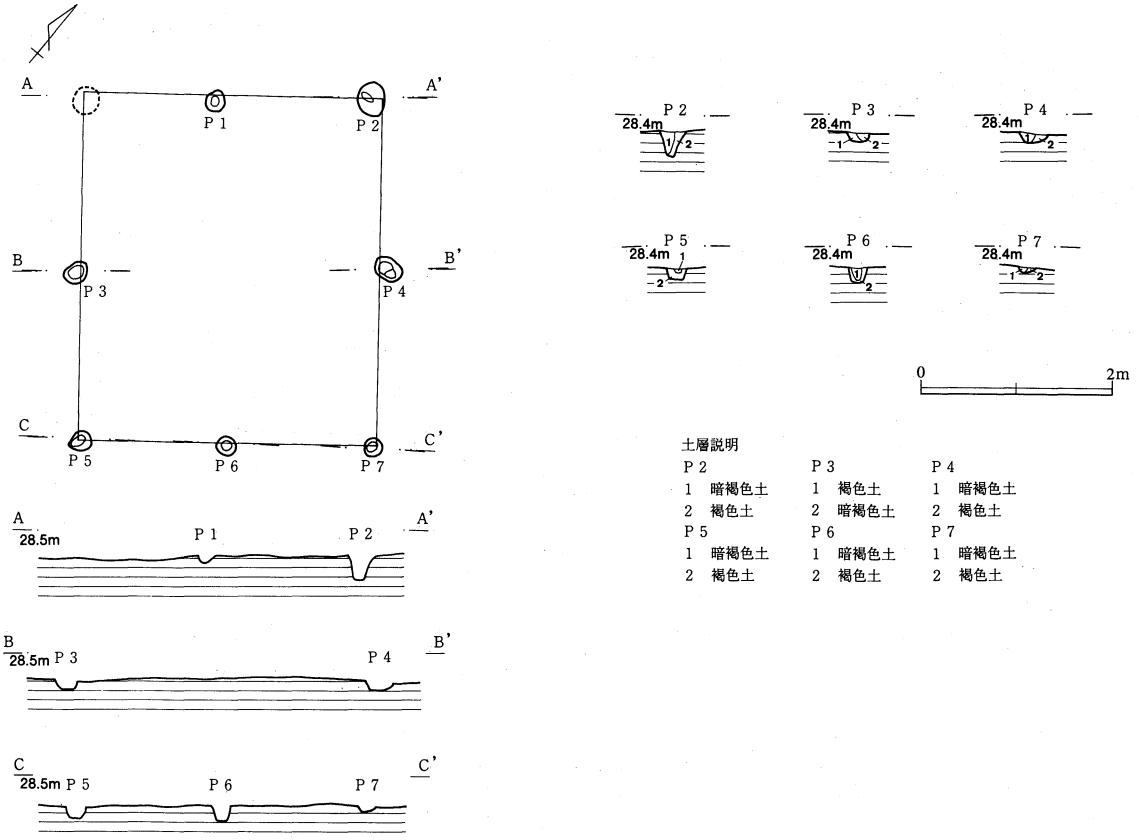
柱穴は7本検出された。確認面からの規模は、Ｐ1が径23cmの平面円形で、深さ9cmの断面擂鉢状である。Ｐ2は長径36cmの平面楕円形で、深さ28cmの断面擂鉢状である。Ｐ3は長径26cmの平面楕円形で、深さ10cmの断面逆台形である。Ｐ4は、長径32cmの平面楕円形で、深さ10cmの断面擂鉢状である。Ｐ5は長径25cmの平面楕円形で、深さ13cmの断面砲弾状である。Ｐ6は、径11cmの平面円形で、深さ17cmの断面円筒状である。Ｐ7は、径10cmの平面円形で、深さ7cmの断面擂鉢状を呈する。

土層観察の結果、柱痕を確認できた。径15cm前後のものであったと考えられ、褐色土を埋め戻している。

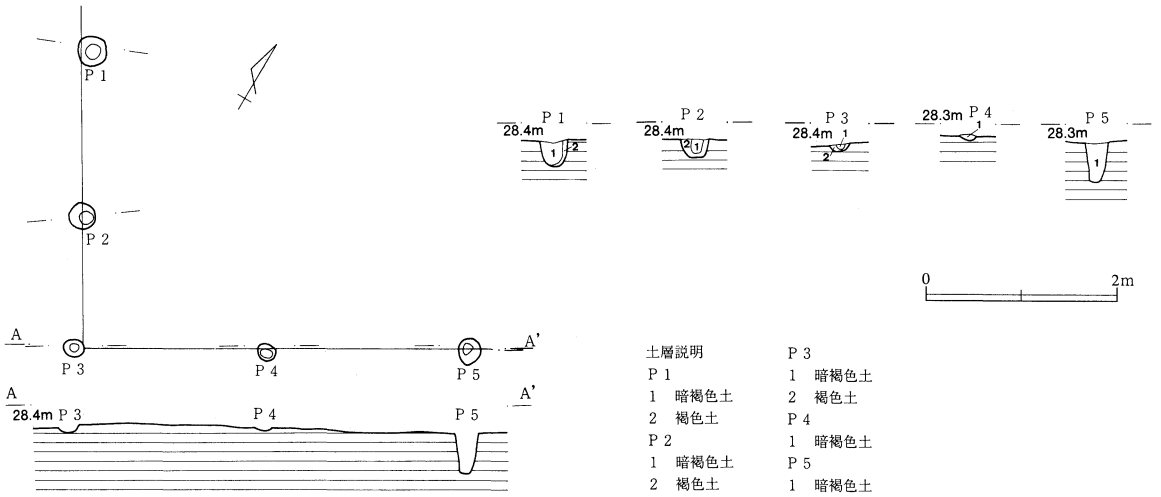
図示できる遺物は出土しなかった。

ＳＢ－002

本掘立柱建物跡は、調査区北部の低地に位置する。ＳＫ－222・ＳＤ－220と重複しているが、新旧関係は



第28図　横倉遺跡ＳＢ－001実測図



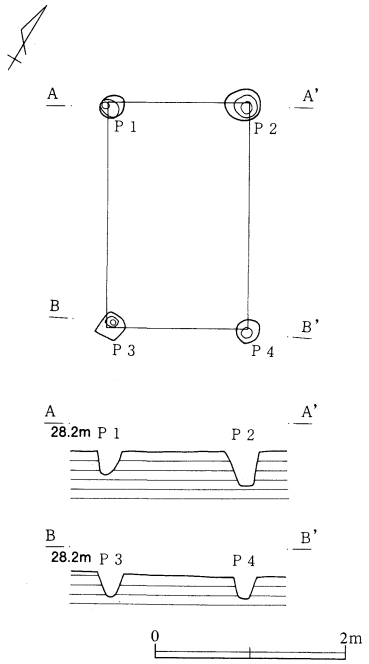
第29図　横倉遺跡ＳＢ－002実測図

不明である。北側と東側の柱列も存在したと思われるが、湧水と撹乱のため確認できなかった。規模は2×2間以上の側柱掘立柱建物であると考えられ、柱間は多少の差はあるものの6尺である。主軸方向は、Ｎ－60°－Ｗを示し、南西隣にあるＳＢ－001とは柱筋を異にする。

柱穴は5本確認できた。確認面での規模は、Ｐ1が一辺20cm程の平面隅丸方形で、深さ30cmの断面砲弾状である。Ｐ2は径30cmの平面円形で、深さ20cmの断面砲弾状である。Ｐ3は長径22cmの平面楕円形で、深さ8cmの断面擂鉢状である。Ｐ4は径21cmの平面円形で、深さ7cmの断面皿状である。Ｐ5は長径30cmの楕円形で、深さ44cmの断面円筒状を呈する。

土層観察の結果、柱痕が確認できた。径15～25cm程のものであり、褐色土で埋めていた。

図示できる遺物は検出されなかった。



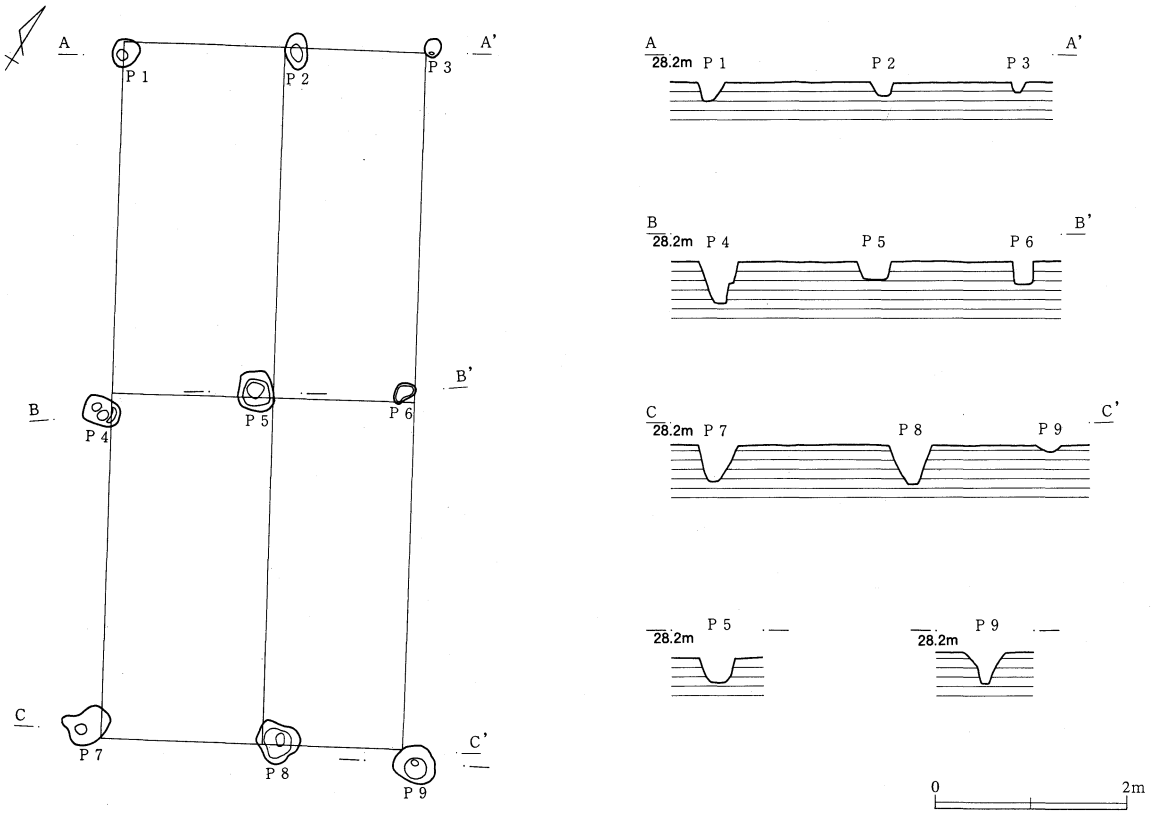
第30図　横倉遺跡ＳＢ－003実測図

ＳＢ－003

本掘立柱建物跡は、調査区北部の低地に位置する。重複する他の遺構はないが、柱筋を同じくする掘立柱建物跡群が近接する。規模は1×1間の側柱掘立柱建物であり、1間の間尺は長軸7尺・妻側5尺である。主軸方向は、Ｎ－60°－Ｗを示す。

柱穴は4本検出された。確認面からの規模は、Ｐ1が径26cmの平面円形で、深さ25cmの断面砲弾状である。Ｐ2は長径40cmの平面楕円形で、深さは38cmの断面擂鉢状である。Ｐ3は一辺25cmの平面方形で、深さ26cmの断面砲弾状である。Ｐ4は径26cmの平面円形で、深さ23cmの断面擂鉢状を呈する。

図示できる遺物は検出されなかった。



第31図　横倉遺跡ＳＢ－004実測図

ＳＢ－004

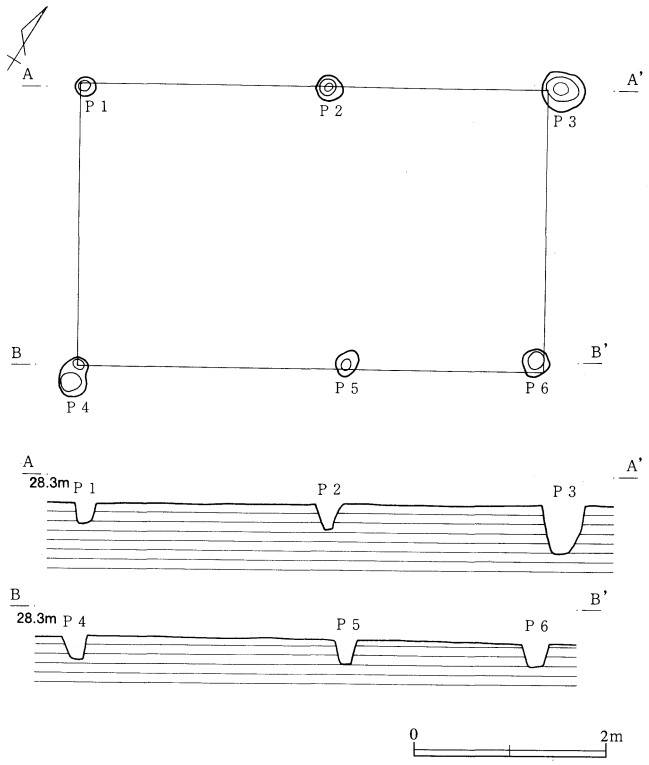
本掘立柱建物跡は、調査区北部の低地に位置する。ＳＢ－009と重複するが新旧関係は不明である。規模は2×2間の総柱掘立柱建物であり、1間の間尺は東・西側で11尺、妻側で5尺である。主軸方向は、Ｎ－60°－Ｗを示す。

柱穴は9本検出された。確認面での規模は、Ｐ1で径30cmの平面円形で、深さ21cmの断面擂鉢状である。Ｐ2は長径38cmの平面楕円形で、深さ14cmの断面擂鉢状である。Ｐ3は径20cmの平面円形で、深さ11cmの断面擂鉢状である。Ｐ4は長辺40cmの平面隅丸長方形で、深さ46cmの断面砲弾状で、2段に掘られている。Ｐ5は長辺43cmの平面不整方形で、深さ26cmの断面逆台形で、石が2個検出した。Ｐ6は長径24cmの不整楕円形で、深さ24cmの断面円筒状である。Ｐ7は長径48cmの不整楕円形で、深さ38cmの断面砲弾状である。Ｐ8は長径48cmの不整円形で、深さ42cmの断面砲弾状である。Ｐ9は長径46cmの楕円形で、深さ33cmを測り断面漏斗状を呈する。

図示できる遺物は検出されなかった。

ＳＢ－007

本掘立柱建物跡は、調査区北部の低地に位置する。掘立柱建物跡群内にあり、ＳＢ－017・ＳＢ－056と重複しているが、新旧関係は不明である。どちらの遺構とも棟筋を同じくしない。規模は2×1間の側柱掘立柱建物であり、1間の間尺は妻側は9尺、北側は8尺と7尺、南側は9尺と6尺である。主軸方向は、Ｎ－60°－Ｗを示す。



第32図　横倉遺跡ＳＢ－007実測図

柱穴は6本確認された。確認面での規模は、Ｐ1が径23cm程の平面円形で、深さ22cmの断面円筒状である。Ｐ2は径30cm程の平面円形で、深さ27cmの断面擂鉢状である。Ｐ3は径46cm程の平面円形で、深さ52cmの断面砲弾状である。Ｐ4は長径44cmの平面楕円形で、深さ26cmの断面砲弾状である。Ｐ5は長径30cmの平面楕円形で、深さは27cmの断面砲弾状である。Ｐ6は径30cm程の平面円形で、深さ24cmの断面擂鉢状を呈する。

図示できる遺物は検出されなかった。

ＳＢ－009

本掘立柱建物跡は、調査区北部の低地に位置する。掘立柱建物跡群内にあり、ＳＢ－004・ＳＢ－012・ＳＢ－056と重複するが、新旧関係は不明である。ＳＢ－004・ＳＢ－012とは棟筋を同じくする。規模は2×3間の側柱掘立柱建物であと考えられるが、北妻側中央の柱穴は確認できなかった。1間の間尺は、南妻側が5尺、東・西側が8尺程である。主軸方向は、Ｎ－60°－Ｗを示す。

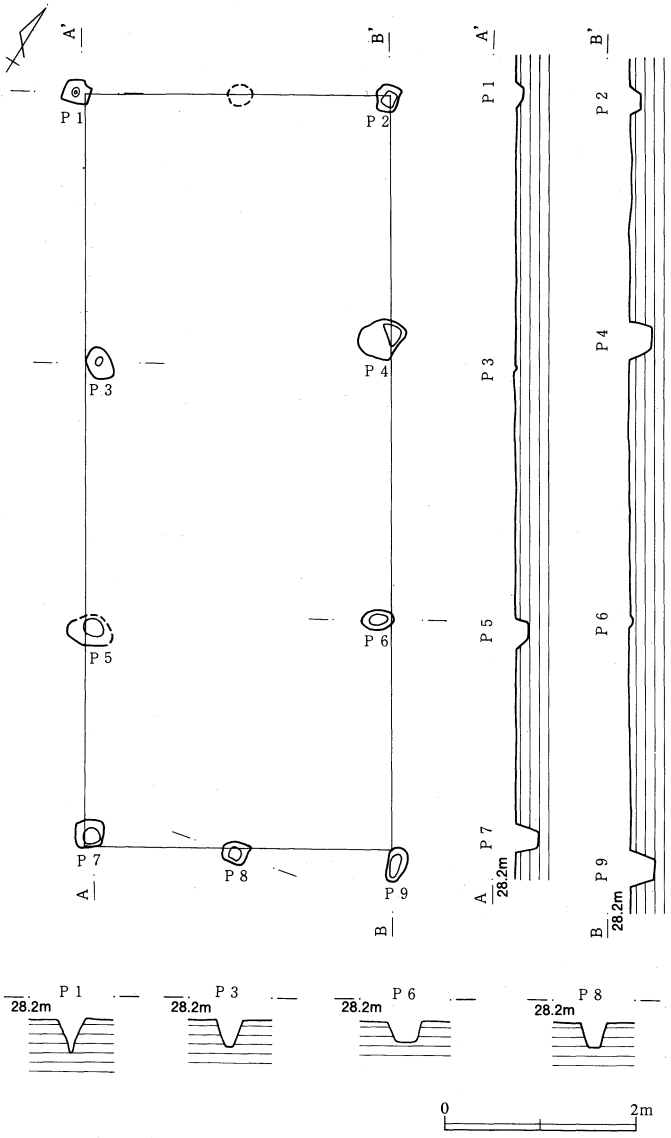
柱穴は9本確認された。確認面での規模は、Ｐ1が長辺30cmの平面長方形で、深さ36cmの断面漏斗状である。Ｐ2は長辺30cmの平面長方形で、深さ12cmの断面逆台形である。Ｐ3は長径36cmの平面楕円形で、深さ29cmの断面砲弾状である。Ｐ4は長径53cmの不整楕円形で、深さ24cmの断面擂鉢状である。Ｐ5は長径50cm程の平面楕円形で、深さ14cmの断面擂鉢状である。Ｐ6は長径34cmの平面楕円形で、深さ22cmの断面擂鉢状である。Ｐ7は一辺21cmの平面方形で、深さ25cmの断面擂鉢状である。Ｐ8は長辺30cm程の平面長方形で、深さ27cmの断面砲弾状である。Ｐ9は長径38cmの平面楕円形で、深さ26cmの断面擂鉢状を呈する。

図示できる遺物は検出されなかった。

ＳＢ－012

本掘立柱建物跡は、調査区北部の低地に位置する。掘立柱建物跡群内にあり、ＳＢ－009・ＳＢ－013と重複しているが、新旧関係は不明である。ＳＢ－009・ＳＢ－013と棟筋を同じくする。規模は3×1間の側柱掘立柱建物で、柱間は5尺である。主軸方向は、Ｎ－60°－Ｗを示す。

柱穴は8本確認された。確認面での規模は、Ｐ1が一辺27cmの平面不整方形で、深さ38cmの断面砲弾状である。Ｐ2は長径31cmの平面楕円形で、深さ30cmの断面砲弾状である。Ｐ3は長径26cmの平面不整楕円形で、深さ31cmの断面砲弾状である。Ｐ4は長径27cmの平面楕円形で、深さ39cmの断面円筒状である。Ｐ5は長径40cmの平面楕円形で、深さ21cmの断面擂鉢状を呈し、底面付近から石が出土した。Ｐ6は長径38cmの平面楕円形で、深さ32cmの断面漏斗状である。Ｐ7は長辺24cmの平面長方形で、深さ46cmの断面円筒状である。Ｐ



第33図　横倉遺跡ＳＢ－009実測図

8は長径37cmの平面楕円形で、深さ46cmの断面円筒状を呈する。

図示できる遺物は検出されなかった。

ＳＢ－013

本掘立柱建物跡は、調査区北部の低地に位置する。掘立柱建物跡群内にあり、ＳＢ－012・ＳＫ－243と重複しているが新旧関係は不明である。規模は3×1間の側柱掘立柱建物であり、柱間は北・南側は6尺、東妻・西妻側は14尺であり、中間に1～2本の柱穴があった可能性もある。主軸方向は、Ｎ－60°－Ｗを示す。

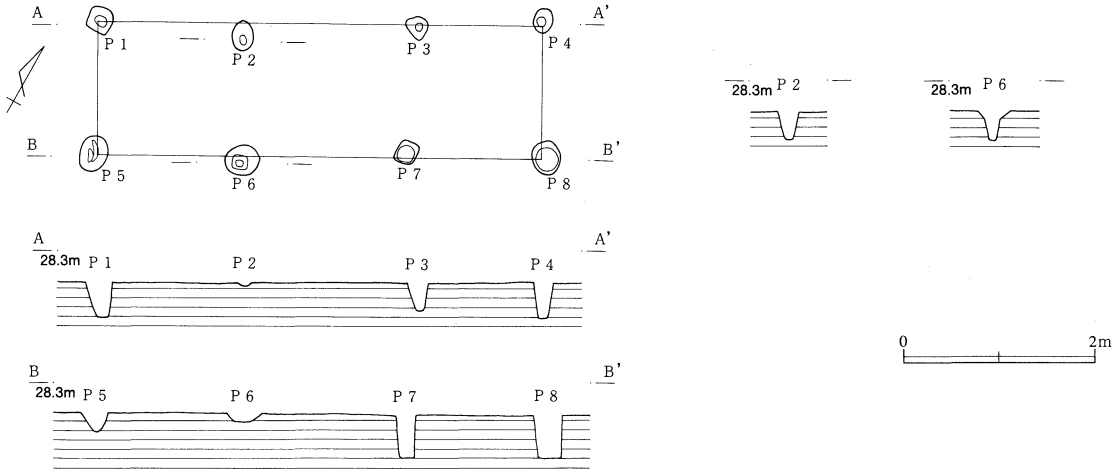
柱穴は8本検出された。確認面での規模は、Ｐ1が長径33cmの平面不整楕円形で、深さ34cmの断面砲弾状である。Ｐ2は長辺68cmの平面台形で、深さ36cmの断面逆台形である。Ｐ3は長径44cmの平面不整楕円形で、深さ45cmの断面擂鉢状である。Ｐ4は長径45cmの平面楕円形で、深さ46cmの断面擂鉢状である。Ｐ5は長径38cmの平面楕円形で、深さ32cmの断面擂鉢状である。Ｐ6は長径38cmの平面楕円形で、深さ44cmの断面擂鉢状である。Ｐ7は長径28cmの平面楕円形で、深さ23cmである。Ｐ8は一辺29cmの平面不整方形で、深さ33cmの断面砲弾状を呈する。

図示できる遺物は検出されなかった。

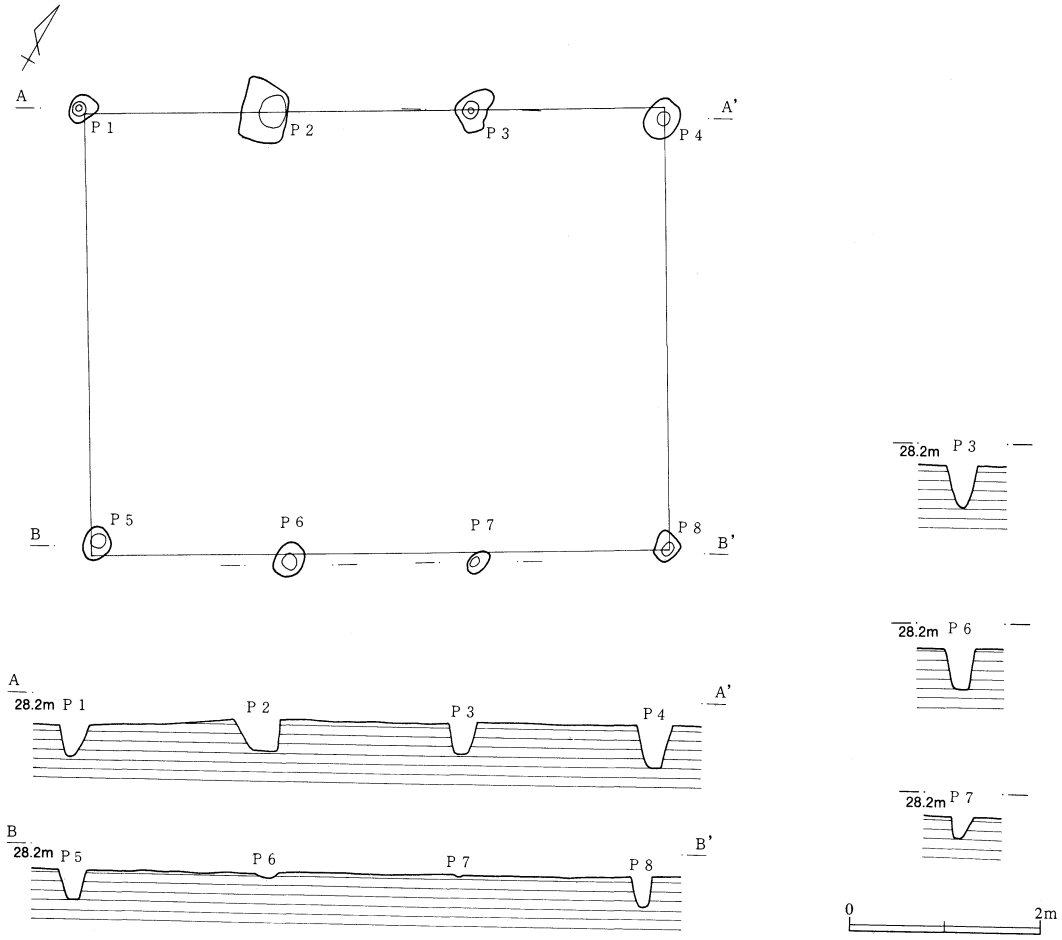
ＳＢ－016

本掘立柱建物跡は、調査区北部の低地に位置する。掘立柱建物跡群の西端にあり、ＳＫ－243と重複しているが、新旧関係は不明である。規模は3×1間の側柱掘立柱建物であり、柱間は6尺であるが、南・北側の中間部は間隔が狭くなっている。主軸方向は、Ｎ－60°－Ｗを示す。

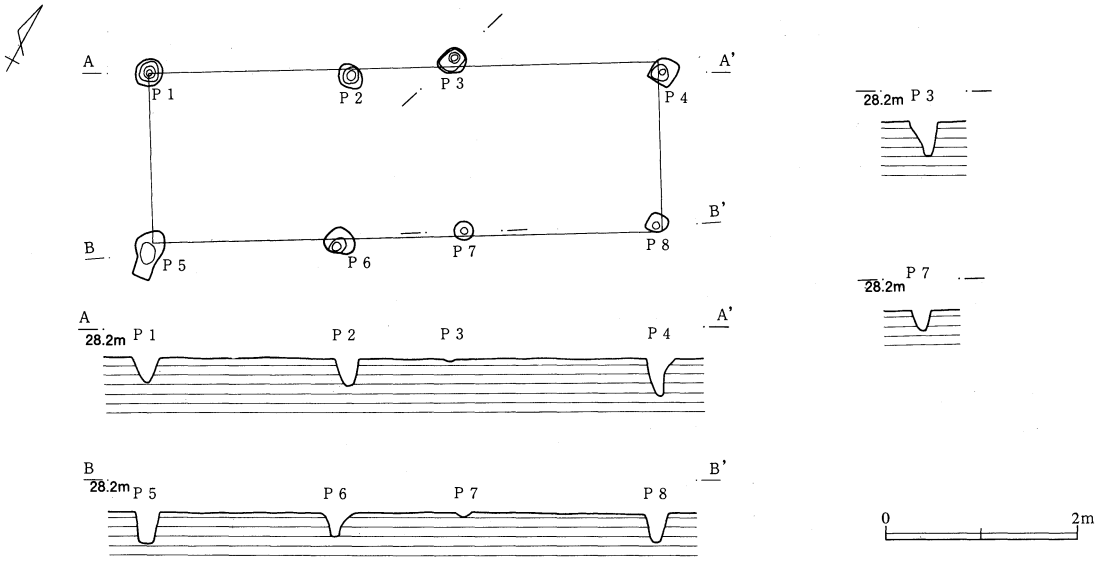
柱穴は8本検出された。確認面での規模は、Ｐ1が径30cmの平面円形で、深さ27cmの断面擂鉢状である。Ｐ2は長径30cmの平面楕円形で、深さ30cmの断面擂鉢状である。Ｐ3は長辺30cmの平面隅丸長方形で、深さ36cmの断面漏斗状である。Ｐ4は一辺28cmの平面方形で、深さ40cmの断面漏斗状である。Ｐ5は長径53cmの平面不整形で、深さ34cmの断面円筒状である。Ｐ6は長径34cmの平面楕円形で、深さ26cmの断面漏斗状である。Ｐ7は径20cmの平面円形で、深さ22cmの断面砲弾状である。Ｐ8は長径26cmの平面楕円形で、深さ31cm



第34図　横倉遺跡ＳＢ－012実測図



第35図　横倉遺跡ＳＢ－013実測図



第36図　横倉遺跡ＳＢ－016実測図

の断面擂鉢状を呈する。

図示できる遺物は検出されなかった。

ＳＢ－017

本掘立柱建物跡は、調査区北部の低地に位置する。掘立柱建物跡群内にあり、ＳＢ－007・ＳＫ－229と重複しているが新旧関係は不明である。ＳＢ－007とは棟筋を異にする。側柱掘立柱建物でＬ字状を呈する。柱間は東西を結ぶ柱列が10尺と8尺、南北を結ぶ柱列が7尺である。主軸方向は、Ｎ－12°－Ｅを示す。

柱穴は8本検出された。確認面での規模は、Ｐ1が一辺28cmの平面方形で、深さ38cmの断面円筒状である。Ｐ2は一辺19cmの平面方形で、深さ18cmの断面円筒状である。Ｐ3は長径30cmの平面楕円形で、深さ34cmの断面円筒状である。Ｐ4は長径26cmの平面楕円形で、深さ40cmの断面漏斗状である。Ｐ5は一辺20cmの平面方形で、深さ43cmの断面円筒状である。Ｐ6は長径24cmの平面楕円形で、深さ35cmの断面擂鉢状である。Ｐ7は長径40cmの平面楕円形で、深さ45cmの断面砲弾状である。Ｐ8は一辺26cmの平面方形で、深さ43cmの断面円筒状を呈する。

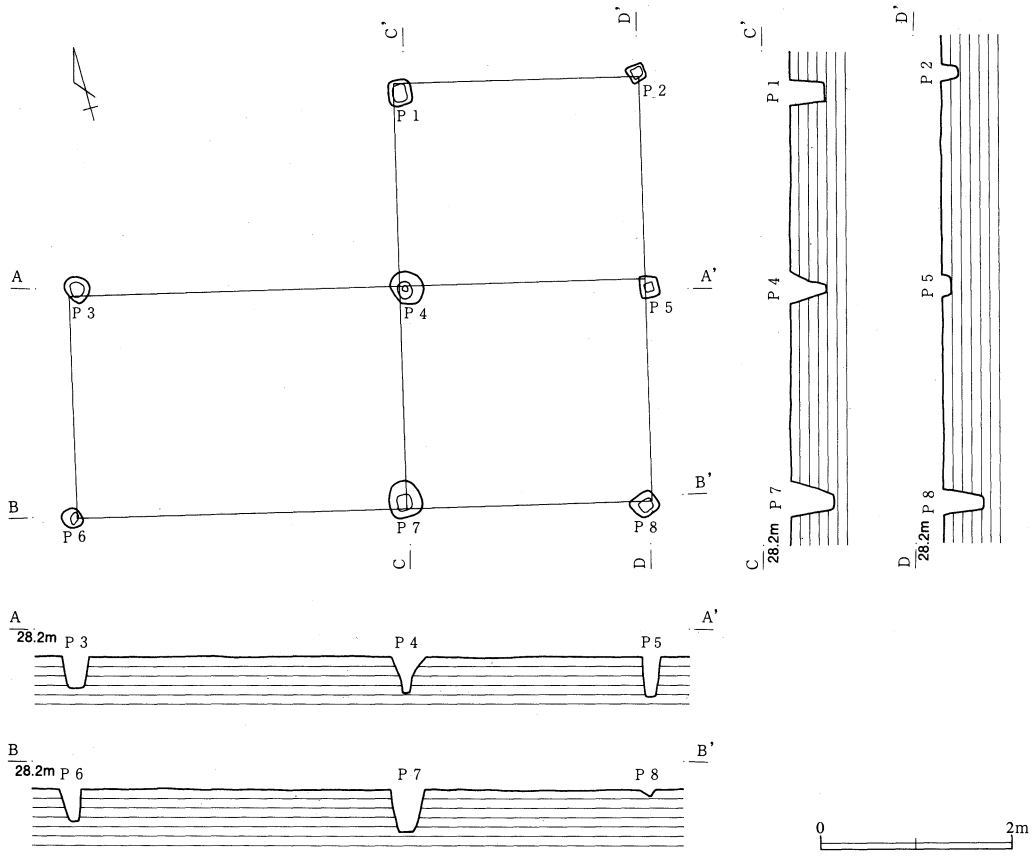
図示できる遺物は検出されなかった。

ＳＢ－056

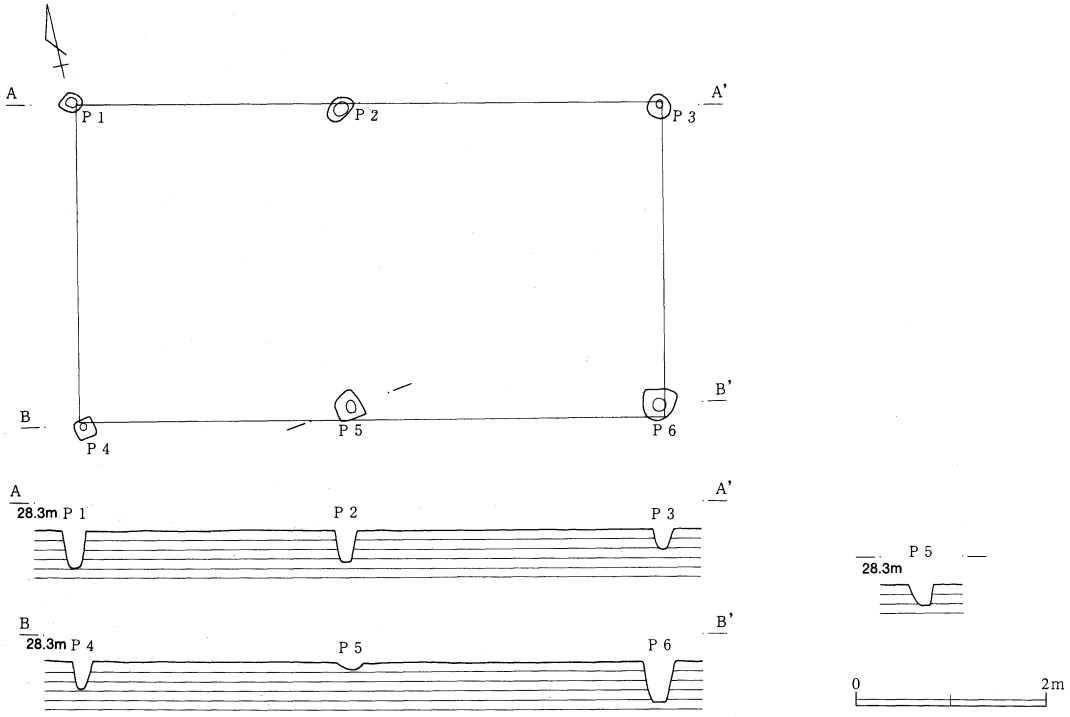
本掘立柱建物跡は、調査区北部の低地に位置する。掘立柱建物跡群内にあり、ＳＢ－007・ＳＢ－009と重複しているが、新旧関係は不明である。両遺構とは棟筋が異なる。規模は2×1間の側柱掘立柱建物であり、柱間は南・北側は9尺と10尺、東・西の妻側は10尺である。主軸方向は、Ｎ－12°－Ｅを示す。

柱穴は6本検出した。確認面での規模は、Ｐ1が長径26cmの平面楕円形で、深さ40cmの断面円筒状である。Ｐ2は長径32cmの平面楕円形で、深さ34cmの断面擂鉢状である。Ｐ3は径26cmの平面円形で、深さ22cmの断面砲弾状である。Ｐ4は一辺20cmの平面方形で、深さ30cmの断面擂鉢状である。Ｐ5は長辺30cmの平面台形で、深さ23cmの断面逆台形である。Ｐ6は径35cmの平面不整円形で、深さ44cmの断面擂鉢状を呈する。

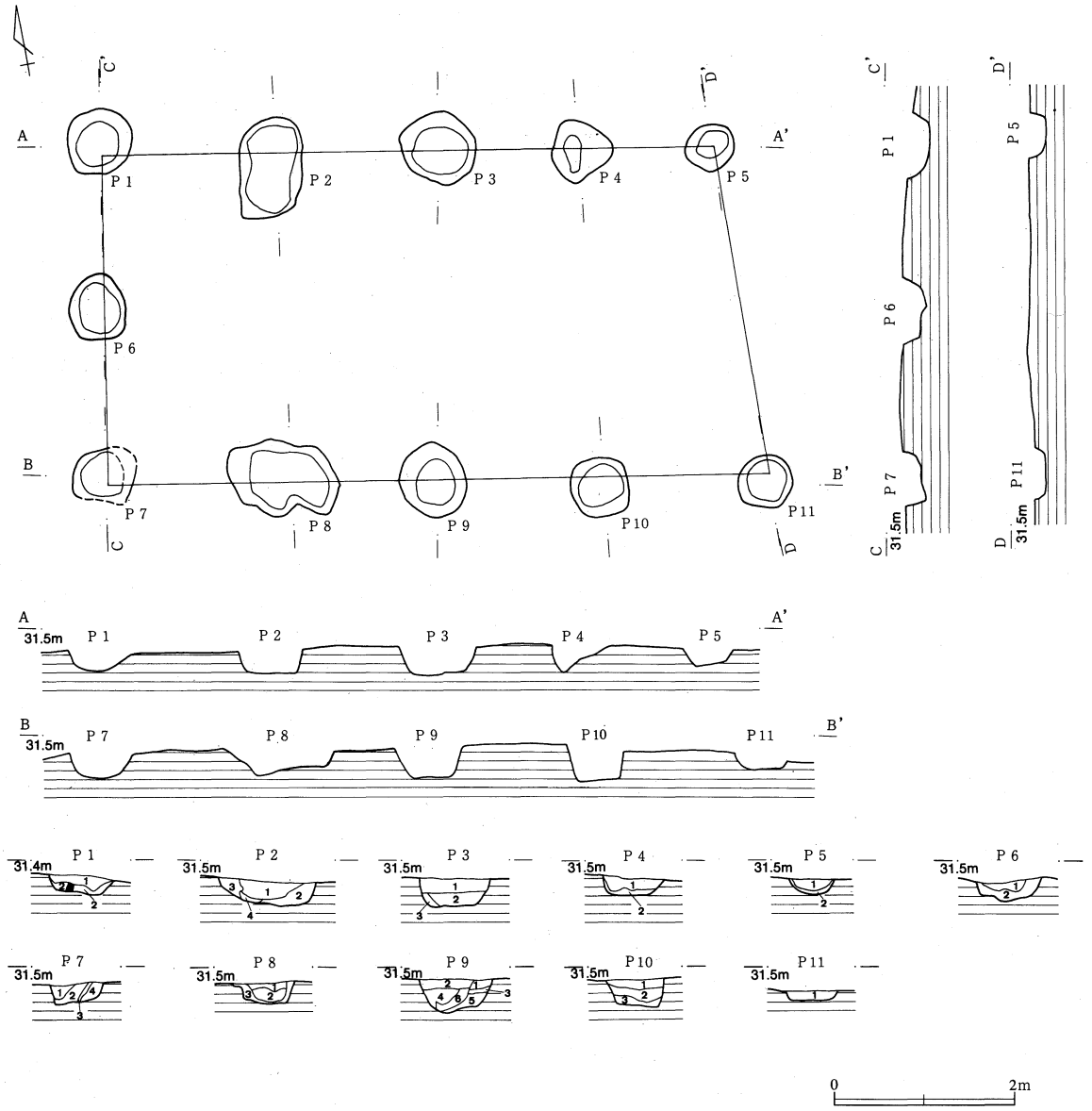
図示できる遺物は検出されなかった。



第37図　横倉遺跡ＳＢ－017実測図



第38図　横倉遺跡ＳＢ－056実測図



土層説明

P１
1　褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりあり。
2　黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりあり。

P２
1　褐色土　　ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　暗黄褐色土　ローム粒子多量含み、しまりあり。
3　褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりあり。
4　暗褐色土　ローム粒子多量含み、しまりなし。

P３
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。
2　暗褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。
3　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土微量含み、しまりあり。

P４
1　褐色土　　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　黄褐色土　ローム土多量・褐色土微量含み、しまりあり。

P５
1　褐色土　　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　黄褐色土　ローム土多量・褐色土微量含み、しまりあり。

P６
1　褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりあり。
2　黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりあり。

P７
1　暗褐色土　ローム粒子多量含み、しまりあり。
2　褐色土　　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりあり。
3　暗褐色土　ローム粒子多量含み、しまりあり。
4　黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりあり。

P８
1　褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりあり。
2　暗褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック微量含み、しまりあり。
3　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土微量含み、しまりあり。

P９
1　褐色土　　ローム粒子微量含み、しまりあり。
2　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック微量含み、しまりあり。
3　暗褐色土　ローム粒子微量含み、しまりあり。
4　暗褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック微量含み、しまりあり。
5　褐色土　　ロームブロック少量含み、しまりあり。
6　暗褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。

P10
1　褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりあり。
2　暗褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。
3　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土微量含み、しまりあり。

P11
1　暗褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。

第39図　横倉遺跡ＳＢ－057実測図

ＳＢ－057

本掘立柱建物跡は、調査区の南部にあり台地の縁辺部に位置する。周辺には掘立柱建物跡はなく、群在する調査区北部の状況とは対照的である。ＳＫ－115と重複するが、新旧関係は不明である。規模は4×2間の側柱掘立柱建物であるが、東妻側中間の柱穴は確認できなかった。柱間は概ね6尺である。ただし、Ｐ3とＰ4、Ｐ4とＰ5の間は1尺分短くなっており、東妻側の柱列は斜めにのび、建物全体が不整形を呈している。主軸方向は、Ｎ－10°－Ｅを示す。

柱穴は11本検出された。確認面での規模は、Ｐ1は径74cmの平面円形で、深さ20cmの断面擂鉢状である。Ｐ2は長径116cmの平面楕円形で、深さ28cmの断面皿状である。Ｐ3は径85cmの平面円形で、深さ33cmの断面擂鉢状である。Ｐ4は径70cm程の平面不整円形で、深さ21cmの断面逆台形である。Ｐ5は径56cmの平面円形で、深さ18cmの断面擂鉢状である。Ｐ6は長径75cmの平面楕円形で、深さ25cmの断面擂鉢状である。Ｐ7は長径75cmの平面楕円形で、深さ24cmの断面逆台形である。Ｐ8は長径128cmの平面不整楕円形で、深さ24cmの断面逆台形である。Ｐ9は長径87cmの平面楕円形で、深さ40cmの擂鉢状である。Ｐ10は径68cmの平面円形で、深さ32cmの断面逆台形である。Ｐ11は径60cmの平面円形で、深さ10cmの断面皿状を呈する。

土層観察の結果、柱痕は確認できなかった。埋土にはローム土を含む褐色土等を用いている。

図示できる遺物は検出されなかった。

(2) 井戸跡

ＳＥ－014

調査区の中央西寄りにあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、ＳＥ－015が近接する。

上端の平面形はほぼ円形で、径1.4ｍを測る。深さは確認面から2.2ｍを測り、暗灰色粘土層まで掘り込まれている。断面は円筒状であるが、上端付近でわずかに開いている。壁の崩落はほとんど見られない。底面は0.9ｍの円形で、その中心は上端の中心にほぼ一致する。底面は平坦である。壁との境は明瞭である。

埋土は、セクション図作成前に崩落してしまい、図示できなかった。

遺物は出土しなかった。

ＳＥ－015

調査区の中央西寄りにあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、ＳＥ－014が近接する。

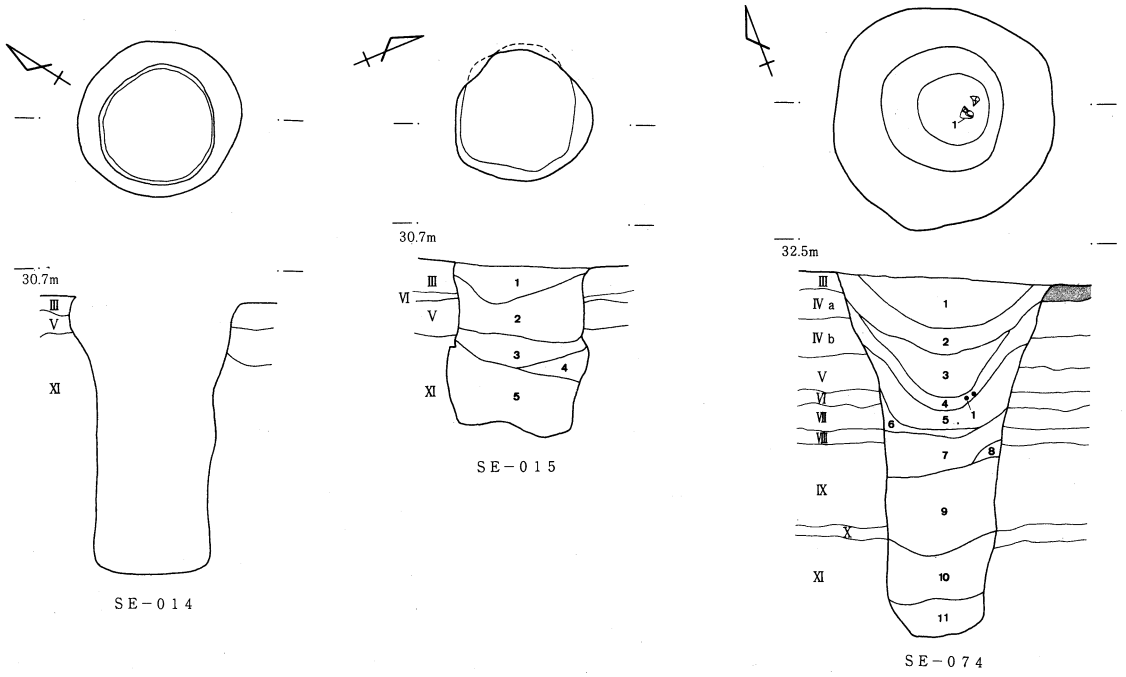
上端の平面形は不整円形を呈し、径1.1ｍ程を測る。深さは、確認面から1.2ｍを測り、暗灰色粘土層まで掘り込まれている。断面形は円筒状を呈し、白色粘土層でわずかに崩落がみられるが、全体として遺存状態は良好である。底面の平面形も径1.0ｍ程の不整円形を呈し、西壁付近でオーバーハングしている。底面の中心は、上端の中心にほぼ一致する。底面は凹凸が見られるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、粘土ブロックを含む層が見られることから、人為埋土の可能性がある。

遺物は、14世紀に遡るとみられる瀬戸片口鉢片1点、青磁碗片1点、かわらけ片1点が出土し図示した。

ＳＥ－074

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、ＳＥ－093が近接する。



0　　2m

土層説明

ＳＥ－０１５

1	黒色土	粘土粒子少量含み、しまりあり。
2	黒色土	粘土粒子多量含み、しまりあり。
3	黒色土	粘土粒子多量・粘土ブロック少量含み、ややしまりあり。
4	黒色土	粘土粒子多量・鉄分少量含み、ややしまりあり。
5	黒色土	粘土粒子微量含み、しまりなし。

ＳＥ－０７４

1	黒色土	しまりなし。
2	黒褐色土	ローム粒子微量含み、しまりなし。
3	黒褐色土	黒色土粒子多量・ローム粒子微量含み、しまりなし。
4	暗褐色土	黒色土粒子多量・ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりなし。
5	褐色土	黒色土粒子・ローム粒子少量含み、しまりなし。
6	黒褐色土	黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。
7	褐色土	ローム粒子少量含み、しまりなし。
8	褐色土	ローム粒子・黒色土粒子少量含み、しまりなし。
9	黒褐色土	ローム粒子・黒色土粒子多量含み、しまりなし。
10	褐色土	ローム粒子多量・黒色土粒子少量含み、しまりなし。
11	暗褐色土	黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。

第40図　横倉遺跡井戸跡実測図（1）

上端の平面形は円形を呈し、径は1.8ｍを測る。深さは確認面から2.9ｍ程で、白色粘土層まで掘り込んでいる。断面形は円筒状であるが、上半部は漏斗状を呈する。壁は崩落も少なく、遺存状態は良好である。底面は径0.6ｍ程の円形で、丸底気味である。その中心は上端の中心にほぼ一致する。

埋土は褐色土を主体とし、ロームブロック・ローム粒子を含む人為埋土であると考えられる。

出土した遺物は、内耳鍋1点である。埋土掘り下げ中に出土したものであり、人為埋土である可能性があることから、井戸の使用された時期を反映するものであろうか。

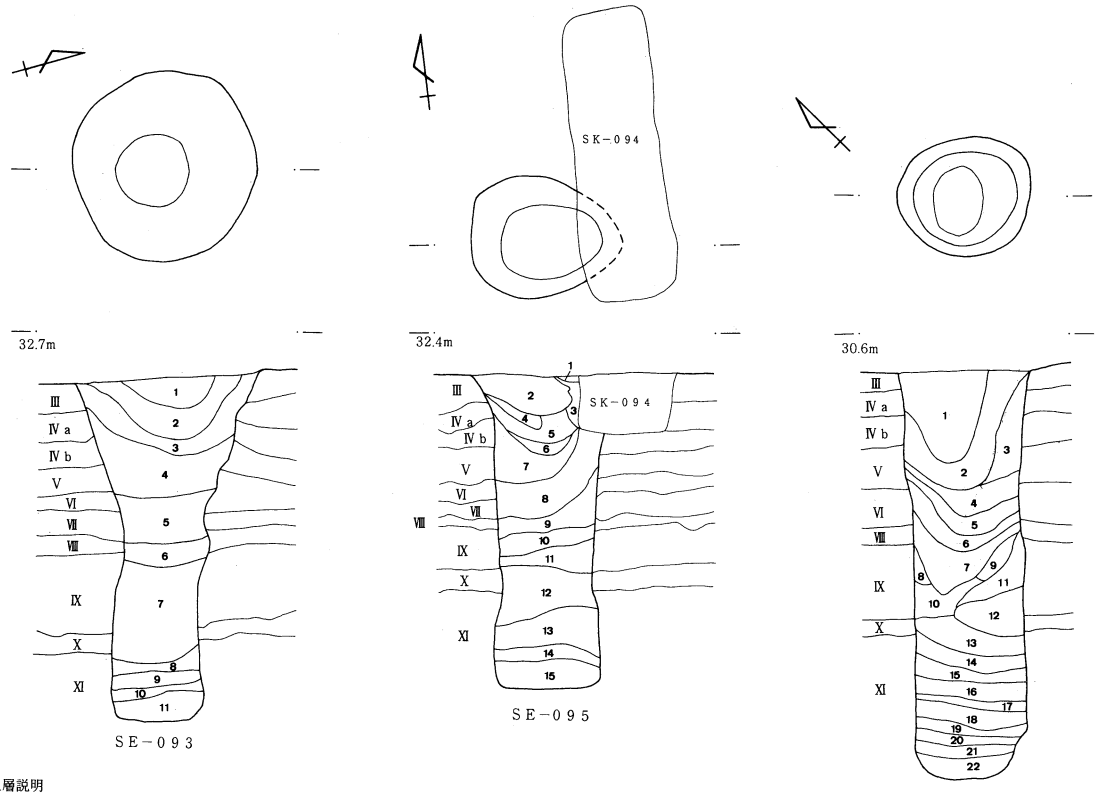
ＳＥ－093

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、ＳＥ－074が近接する。

上端の平面形は、径1.5ｍ程の円形を呈する。深さは確認面から2.8ｍ程を測り、白色粘土層まで掘り込んでいる。断面形は、上端から1.2ｍ程までが漏斗状で、以下底面までは円筒形である。壁は北側でわずかに崩落が見られるが、概ね遺存状態が良い。底面は径0.6ｍ程の円形であり、その中心は上端の中心よりやや南にずれいる。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土はロームブロック・ローム粒子を含むことから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土した遺物はなかった。



土層説明

ＳＥ－０９３

1	黒色土	しまりなし。
2	黒褐色土	黒色土多量・ローム粒子微量含み、しまりなし。
3	暗褐色土	黒色土粒子多量・ローム粒子微量含み、しまりなし。
4	暗褐色土	ローム粒子多量・ロームブロック・褐色土ブロック少量含み、しまりなし。
5	褐色土	ローム粒子・ロームブロック少量含み、しまりなし。
6	暗褐色土	ローム粒子・ロームブロック・黒色土微量含み、しまりなし。
7	黒色土	ローム粒子・白色粘土粒子微量含み、しまりなし。
8	褐色土	ローム粒子多量含み、しまりなし。
9	黒褐色土	ローム粒子多量含み、しまりなし。
10	褐色土	ローム粒子多量含み、ややしまりあり。
11	黒色土	ローム粒子少量含み、しまりなし。

ＳＥ－０９５

1	褐色土	黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、しまりあり。
2	黒色土	ローム粒子少量含み、しまりあり。
3	暗褐色土	黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、しまりあり。
4	暗褐色土	黒色土粒子・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
5	黒色土	ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
6	暗褐色土	黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
7	暗褐色土	黒色土粒子多量・ローム粒子微量含み、しまりなし。
8	黒色土	ローム粒子微量含み、しまりなし。
9	黒色土	ローム粒子少量含み、しまりなし。
10	黒色土	ローム粒子微量含み、しまりなし。
11	黒色土	ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりなし。
12	暗黄褐色土	ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりなし。
13	黒褐色土	ローム粒子少量・白色粘土微量含み、しまりなし。
14	暗黄褐色土	ロームブロック・黒褐色土・白色粘土少量含み、しまりなし。
15	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒子少量・褐色土微量含み、しまりなし。

ＳＥ－０９９

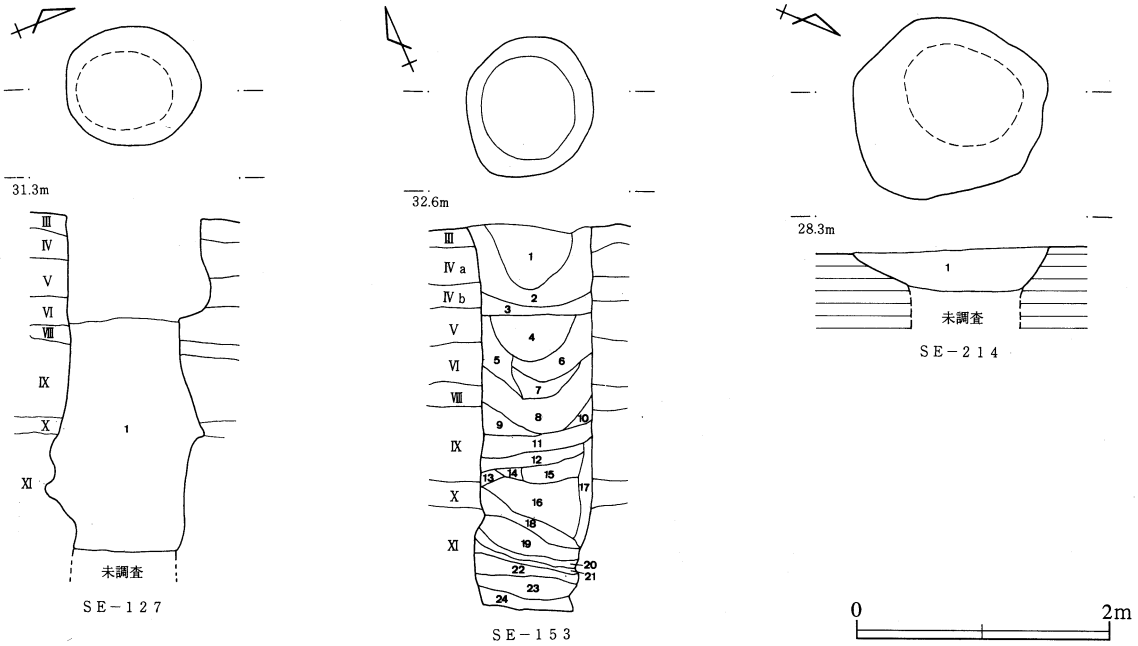
1	黒色土	ロームブロック少量・ローム粒子微量含み、しまりなし。
2	暗褐色土	黒色土粒子多量・ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりなし。
3	暗褐色土	黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。
4	褐色土	ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、ややしまりあり。
5	褐色土	灰褐色土ブロック・ローム粒子多量含み、ややしまりあり。
6	黒褐色土	ローム粒子・白色粘土多量含み、しまりなし。
7	暗灰褐色土	ロームブロック・灰褐色土ブロック多量・黒褐色土ブロック・白色粘土少量含み、しまりなし。
8	褐色土	ローム粒子・白色粒子多量・灰色粘土少量含み、ややしまりあり。
9	暗黄褐色土	褐色土少量・ローム粒子・白色粘土微量含み、ややしまりあり。
10	黒褐色土	白色粘土・灰色粘土多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。
11	暗褐色土	暗黄褐色土ブロック・ローム粒子多量・白色粘土少量含み、ややしまりあり。
12	黒褐色土	ロームブロック・白色粘土多量含み、ややしまりあり。
13	暗黄褐色土	黄褐色土ブロック・黒褐色土ブロック・灰色粘土少量含み、しまりなし。
14	黒褐色土	褐色土少量・白色粘土粒子微量含み、しまりなし。
15	褐色土	ロームブロック・ローム粒子多量・灰色粘土少量含み、しまりなし。
16	暗褐色土	ローム粒子多量・白色粘土少量含み、しまりなし。
17	暗灰褐色土	橙色ローム土・灰色粘土多量・褐色土少量含み、しまりなし。
18	黒褐色土	黒色土・暗褐色土多量・ロームブロック少量含み、しまりなし。
19	暗褐色土	ローム土多量・褐色土少量・白色粘土微量含み、しまりなし。
20	暗褐色土	ロームブロック少量・白色粘土微量含み、しまりなし。
21	暗褐色土	橙色ローム土・褐色土・灰色粘土多量含み、しまりなし。
22	暗褐色土	橙色ローム土・灰色粘土多量・ロームブロック少量含み、しまりなし。

第41図　横倉遺跡井戸跡実測図（2）

ＳＥ－095

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－094よりも古い。

上端の平面形は、長軸1.2ｍ程、短軸1.0ｍ程の楕円形を呈し、西側は直線的に伸びる。深さは確認面から2.5



土層説明

ＳＥ－１２７

1　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりなし。

ＳＥ－１５３

1　黒褐色土　ローム粒子・白色粒子少量含み、ややしまりあり。
2　黒褐色土　ローム粒子多量・白色粒子少量含み、ややしまりなし。
3　褐色土　ローム粒子多量・白色粘土少量含み、ややしまりなし。
4　黒褐色土　ローム粒子・白色粘土少量含み、ややしまりあり。
5　褐色土　白色粒子・ローム粒子多量含み、しまりなし。
6　褐色土　ローム粒子多量・白色粘土少量含み、しまりなし。
7　褐色土　白色粘土多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
8　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒子・白色粘土少量・炭化物微量含み、ややしまりあり。
9　褐色土　ローム粒子・白色粘土少量・ロームブロック微量含み、ややしまりあり。
10　黒褐色土　白色粘土多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
11　暗黄褐色土　白色粘土ブロック・黄褐色土ブロック多量・褐色土少量含み、ややしまりあり。
12　黒褐色土　白色粘土ブロック・暗黄褐色土ブロック多量含み、しまりなし。
13　褐色土　白色粘土ブロック・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
14　黒褐色土　ローム粒子多量・白色粘土少量含み、ややしまりあり。
15　暗褐色土　ロームブロック・黒褐色土多量含み、ややしまりあり。
16　褐色土　黒褐色土少量・暗黄褐色粘土・白色粘土ブロック微量含み、ややしまりあり。
17　褐色土　ローム粒子・白色粘土少量含み、ややしまりあり。
18　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子・黒褐色土少量含み、ややしまりあり。
19　暗褐色土　暗灰褐色土多量・灰色粘土少量含み、しまりなし。
20　黒褐色土　暗褐色土ブロック少量含み、しまりなし。
21　暗灰褐色土　橙色粘土・灰色粘土・褐色土少量含み、しまりなし。
22　黒褐色土　ロームブロック・灰色粘土少量含み、しまりなし。
23　暗褐色土　ロームブロック少量含み、しまりなし。
24　暗褐色土　橙色粘土・灰色粘土少量含み、しまりなし。

ＳＥ－２１４

1　褐色土　ローム粒子多量・暗黄褐色土ブロック少量含み、しまりあり。

第42図　横倉遺跡井戸跡実測図（3）

ｍ程を測り、白色粘土層まで掘り込んでいる。断面形は円筒形を呈し、白色粘土層に入ると幾分径を大きくする。上端付近ではラッパ状に開いている。壁は崩落も見られず、遺存状態は良好である。底面は長径0.8ｍ程、短径0.6ｍ程で、その中心は上端の中心にほぼ一致する。底面平坦で、壁との境は明瞭である。

埋土はロームブロック・ローム粒子を含む、人為埋土であると考えられる。

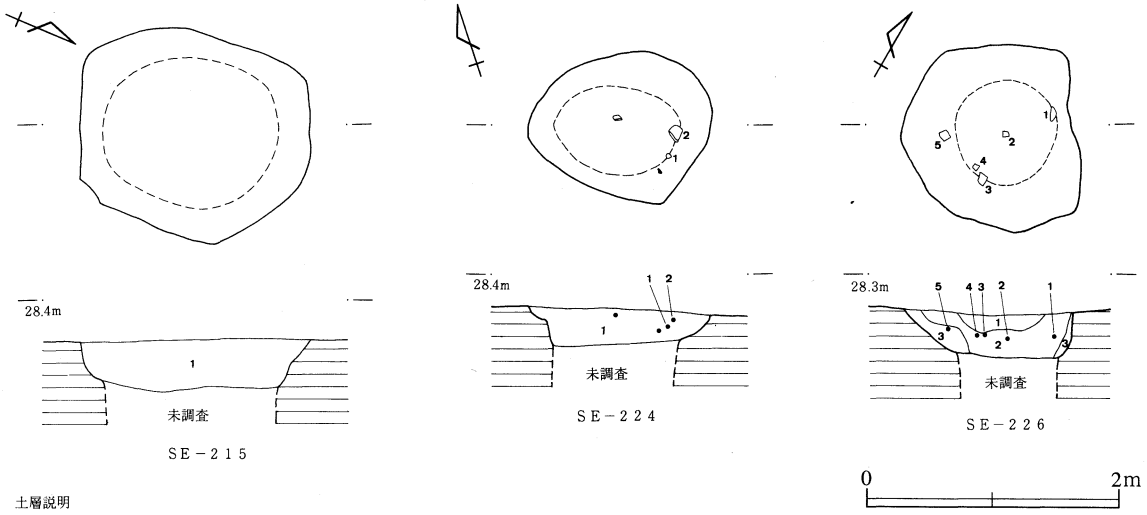
出土した遺物はない。

ＳＥ－099

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する遺構としては、ＳＫ－098、ＳＫ－100よりも新しい。

上端の平面形は長径1.1ｍ、短径1.0ｍ程の不整円形を呈する。深さは、確認面から3.3ｍを測り、白色粘土層まで掘り込んでいる。断面形は円筒状で、上端付近での広がりも見られない。壁は崩落もなく、遺存状況は良好である。底面は長径0.6ｍ、短径0.4ｍ程の楕円形を呈し、その中心は上端の中心にほぼ一致する。底面は丸みを帯びており、壁との境は明瞭ではない。

埋土はロームブロック・ローム粒子・粘土を多く含むことから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。



土層説明

ＳＥ－２１５

1　褐色土　　ローム粒子少量・暗黄褐色土ブロック微量含み、しまりあり。

ＳＥ－２２４

1　褐色土　　ローム粒子・暗黄褐色土粒子微量含み、しまりなし。

ＳＥ－２２６

1　暗褐色土　　ローム粒子少量含み、ややしまりあり。

2　黄褐色土　　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりなし。

3　褐色土　　ローム粒子少量含み、ややしまりあり。

第43図　横倉遺跡井戸跡実測図（4）

遺物は出土しなかった。

ＳＥ－127

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

上端の平面形は長径1.1ｍ、短径1.0ｍ程の楕円形を呈する。深さは湧水のため、確認面より2.7ｍ程までしか調査できなかったが、白色粘土層まで掘り込まれている可能性がある。断面形は円筒状である。壁はブラックバンド層と鹿沼軽石層以下のハードローム層で崩落が見られ、長期間の使用を思わせる。底面は湧水のため確認できなかった。

埋土は、上層でローム粒子や白色粘土が中層以下でロームブロックが確認され人為埋土と考えられるが、セクション図作成前に崩落し、正確な記録ができなかった。

出土した遺物のうち、瀬戸碗1点・高台付碗1点・在地系の土鍋1点・在地系の擂鉢1点・高台付入子1点・女瓦1点・石臼2点・砥石4点を図示した。

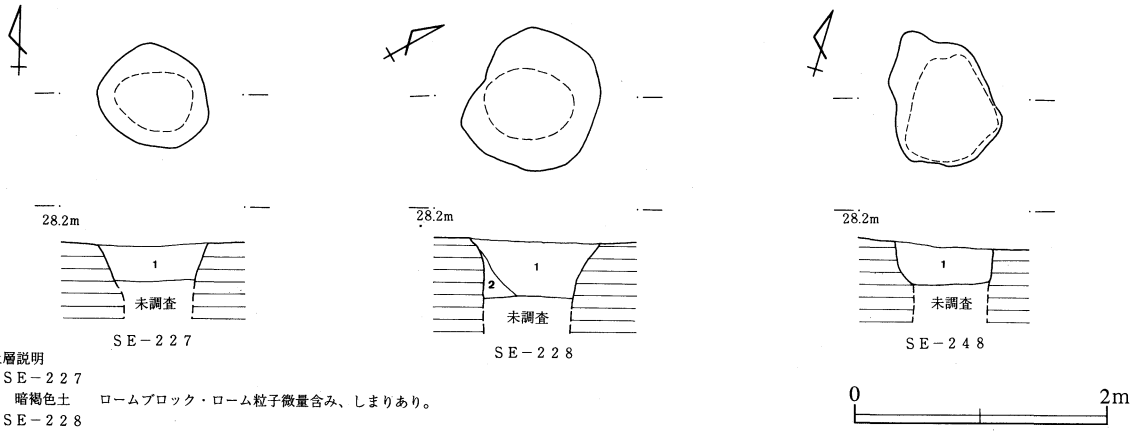
ＳＥ－153

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。単独で存在する。

上端の平面形は楕円形を呈し、長径1.2ｍ、短径1.0ｍ程を測る。深さは3.1ｍ程を測り、白色粘土層まで掘り込んでいる。断面形は円筒形を呈しており、上端付近でも広がりは見られない。壁はきちんと掘られており、遺存状況も良好であるが、白色粘土層に至り、わずかな崩落が見られる。底面は径0.8ｍ程の円形を呈し、その中心は上端の中心と一致する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は多くの層でロームブロック・ローム粒子・粘土ブロックが見られ、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は、木片・土器片・石が出土したが、図示できるものはなかった。



土層説明
ＳＥ－２２７
1　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりあり。
ＳＥ－２２８
1　暗褐色土　ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
2　暗灰褐色土　白色粘土多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。
ＳＥ－２４８
1　暗褐色土　ローム粒子少量・炭化物微量含み、しまりなし。

第44図　横倉遺跡井戸跡実測図（5）

ＳＥ－214

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、ＳＥ－215が隣接する。

上端の平面形は不整円形を呈し、長径1.7ｍ、短径1.4ｍを測る。深さは湧水のため、確認できなかったが、更に1.0ｍ以上は最低でも下がると思われる。断面形は上端付近で急激に開く、ラッパ状であると考えられる。壁・底面は未調査である。

埋土はローム粒子や暗黄褐色土ブロックを含む、人為埋土であると考えられる。

出土した遺物のうち、内耳鍋3点、砥石1点を図示した。

ＳＥ－215

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、ＳＥ－214が隣接する。

上端の平面形は長径2.0ｍ、短径1.6ｍ程の不整楕円形を呈する。深さは湧水のため確認できなかったが、更に1.0ｍ以上は最低でも下がるものと考えられる。断面形は、上端付近で幾分開いている円筒形であると思われる。壁・底面は未調査である。

埋土はローム粒子・暗黄褐色土を含むことから、人為埋土であると考えられる。

出土した遺物のうち、内耳鍋片1点を図示した。

ＳＥ－224

調査区の北部にあり、低地に位置する。掘立柱建物跡群が近接する。

上端の平面形は不整な楕円形を呈し、長径1.5ｍ、短径1.2ｍ程を測る。深さは湧水のため確認できなかったが、更に最低でも1.0ｍ以上は下がるものと考えられる。断面形は上端付近で幾分広がる円筒形を呈するものと思われる。壁・底面は未調査である。

埋土はローム粒子を含み、人為埋土の可能性がある。

出土した遺物のうち、瓦質の内耳鍋片1点、16世紀後半に遡るとみられるかわらけ片1点を図示した。

ＳＥ－226

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、掘立柱建物跡群が近接し、かわらけ19点が完形で出土したＳＫ－239が隣接する。

上端の平面形は、長径1.7ｍ、短径1.4ｍ程の不整円形を呈する。深さは湧水のため確認できなかったが、更に1.0ｍ以上は最低でも下がるものと考えられる。断面形は、上端付近で急激に開く、ラッパ状の円筒形であると考えられる。壁・底面は未調査である。

埋土は、ロームブロックやローム粒子を含むことから、人為埋土であると考えられる。

出土した遺物のうち、内耳鍋片2点、かわらけ片2点、燈明具1点を図示した。

ＳＥ－227

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、掘立柱建物跡群が近接する。

上端の平面形は不整な楕円形を呈し、長径0.9ｍ、短径0.8ｍを測る。深さは湧水のため確認できないが、最低でも更に1.0ｍ以上は下がるものと考えられる。断面形は、上端付近が漏斗状を呈する円筒形であると考えられる。壁・底面は未調査である。

埋土はロームブロック・ローム粒子が含まれるため、人為埋土の可能性がある。

出土した遺物はない。

ＳＥ－228

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複するたの遺構はないが、掘立柱建物跡群が近接する。

上端の平面形は長径1.2ｍ、短径1.0ｍ程の不整円形を呈する。深さは湧水のため確認できなかったが、最低でも更に1.0ｍ以上は下がるものと考えられる。断面形は上端付近がやや開く、ラッパ状の円筒形を呈するものと考えられる。壁・底面は未調査である。

埋土は白色粘土・ローム粒子を含むことから、人為埋土の可能性がある。

図示できる遺物はなかった。

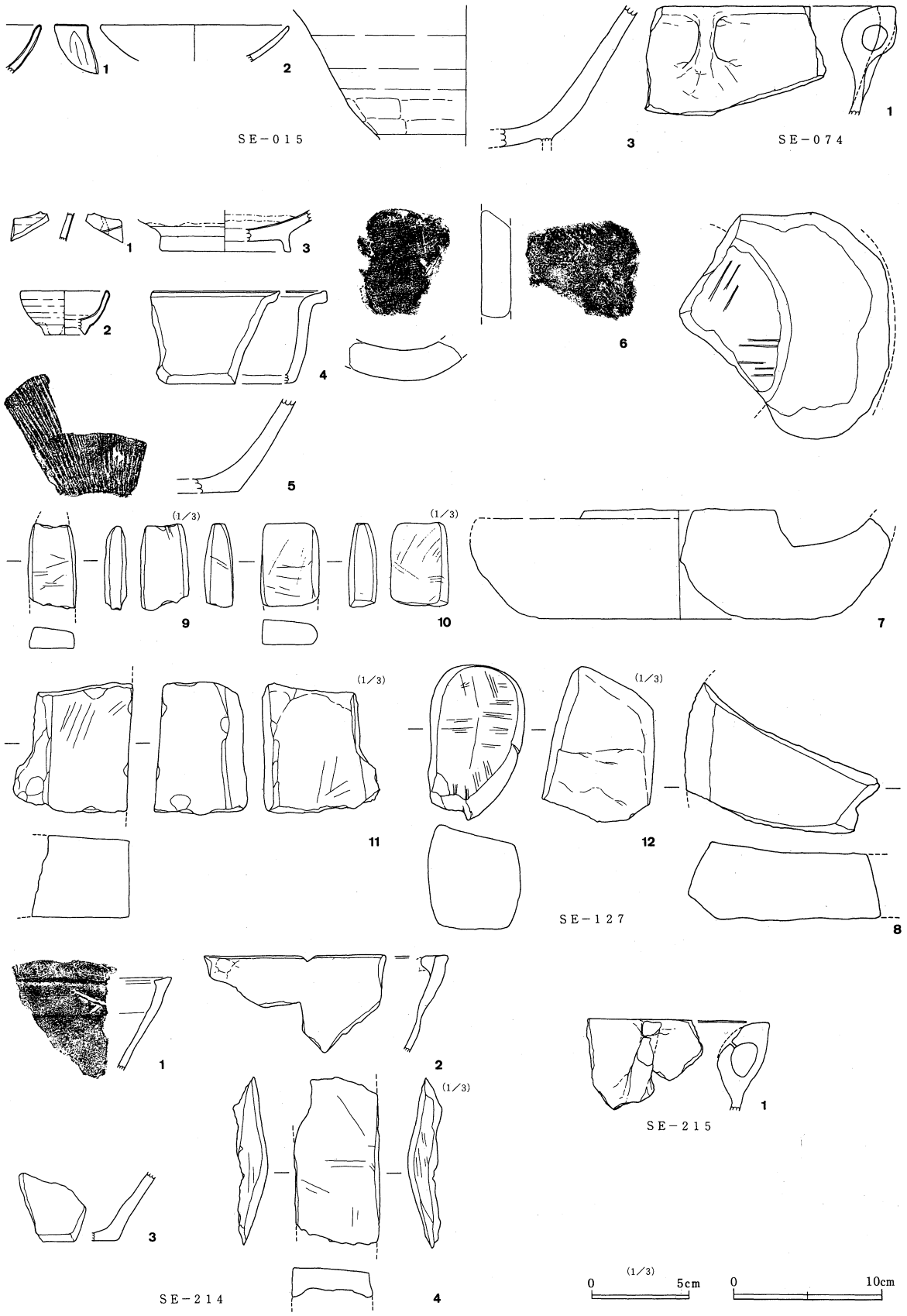
ＳＥ－248

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、掘立柱建物群が近接する。

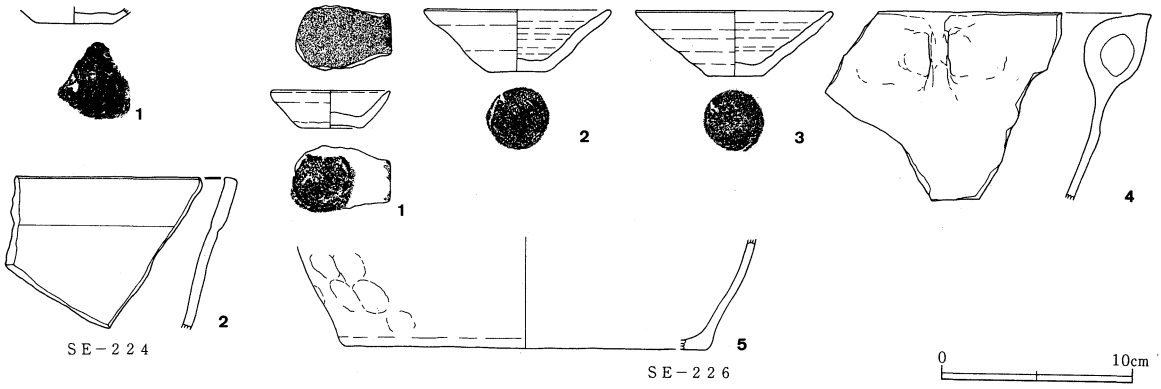
上端の平面形は、長径1.2ｍ、短径0.8ｍ程の不整形を呈する。深さは湧水のため確認できなかったが、最低でも更に1.0ｍ以上は下がるものと考えられる。断面形はほぼ円筒形を呈するものと考えられる。壁・底面は未調査である。

埋土はローム粒子・炭化物を含んでおり、人為埋土の可能性がある。

遺物は出土しなかった。



第45図　横倉遺跡井戸跡出土遺物実測図（1）



第46図　横倉遺跡井戸跡出土遺物実測図（2）

（3）溝跡

ＳＤ－051

調査区の中央南寄りにある。台地の斜面を横断し、東西に走っている。西側は調査区外にのび、全体を調査することはできなかった。ＳＸ－052と切りあっているが、倒木による撹乱のため新旧は不明である。

本遺構は、幅100～180cm程、深さ51～75cm程を測る。長さは調査区際まで36ｍ程で、更に長くなると考えられる。平面ではわずかに蛇行しており、東端は丸く掘られている。壁は60～70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面はやや凹凸があるものの、概ね平坦である。

埋土は3層に分層でき、最下層にロームブロックが含まれ、上2層は褐色土・暗褐色土である。

出土遺物のうち、かわらけ1点、13世紀に遡るとみられる常滑大甕1点、鉄製品（刀子）1点を図示した。

ＳＤ－145

調査区の中央部にあり、台地の斜面を横切るように東西に走っている。西側は調査区外にのび、全体を調査することはできなかった。重複する他の遺構はないが、ＳＤ－146と接している。なお、現代の地境のラインと一致している。

本遺構は、幅90～180cm程、深さ26～62cm程を測る。長さは調査区際まで23ｍ程で、更に長くなると考えられる。平面形はやや蛇行しており、東端2ｍ程は、20～40cm程と極端に幅が狭くなる。壁は65～70°程の傾斜で立ち上がり、上半で30°程に開いて確認面に至る。断面形は漏斗状を呈する。底面はわずかに凹凸があるものの、概ね平坦である。

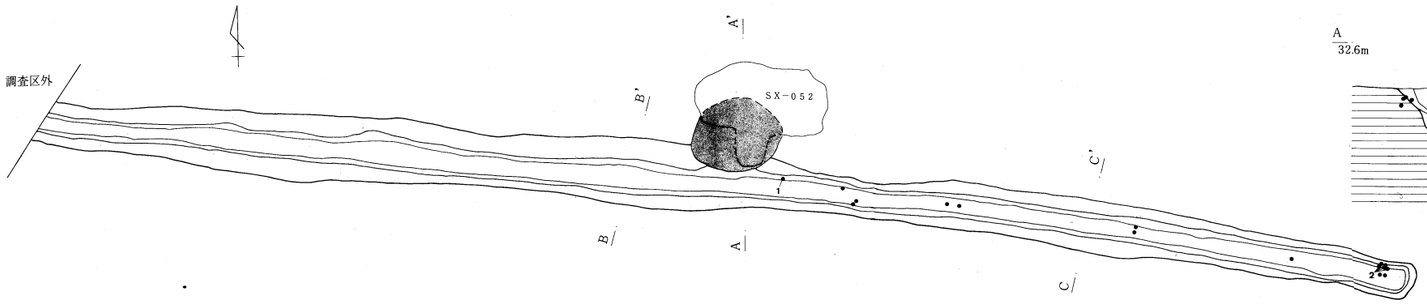
図示できる遺物は出土しなかった。

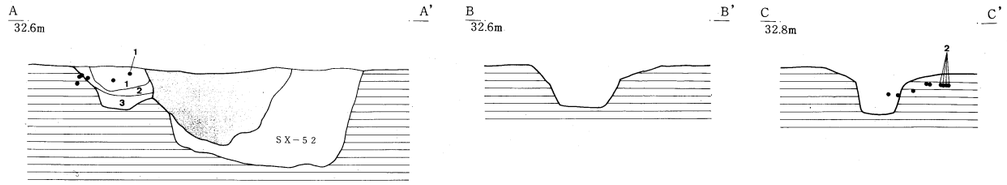
ＳＤ－146

調査区の中央部にあり、台地の斜面を南北に走っている。重複関係としては、ＳＤ－147と切りあっているが新旧は明らかではない。ＳＤ－145とは接している。また、いずれの遺構とも直交し、現代の地割りラインとも一致する。

本遺構は、幅44～64cm程、深さ26～30cm程を測る。長さは14ｍ程である。平面形はやや蛇行し、両端は丸く掘られている。壁は60～70°程の傾斜で立ち上がり、断面擂鉢状を呈する。底面はほぼ平坦である。

図示できる遺物は出土しなかった。

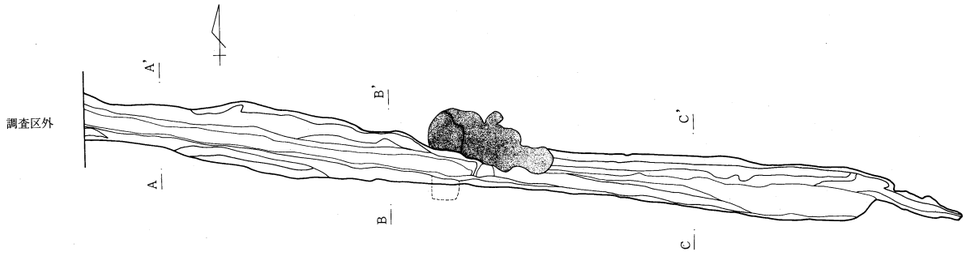


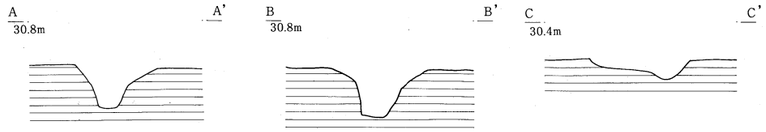


土層説明

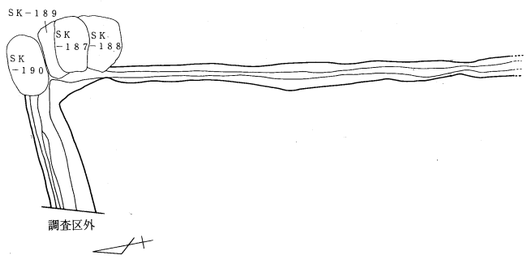
1	暗褐色土	ローム粒子少量・炭化物微量含み、しまりあり。
2	褐色土	ローム粒子多量含み、しまりあり。
3	黄褐色土	ローム土多量・褐色土少量・ロームブロック微量含み、しまりあり。

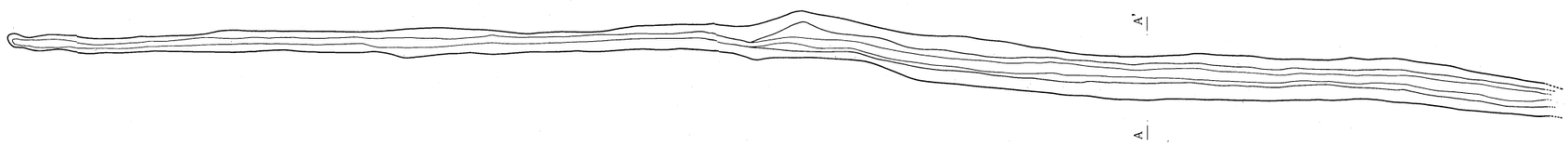
SD－051



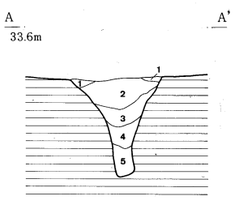


SD－145





SD－193



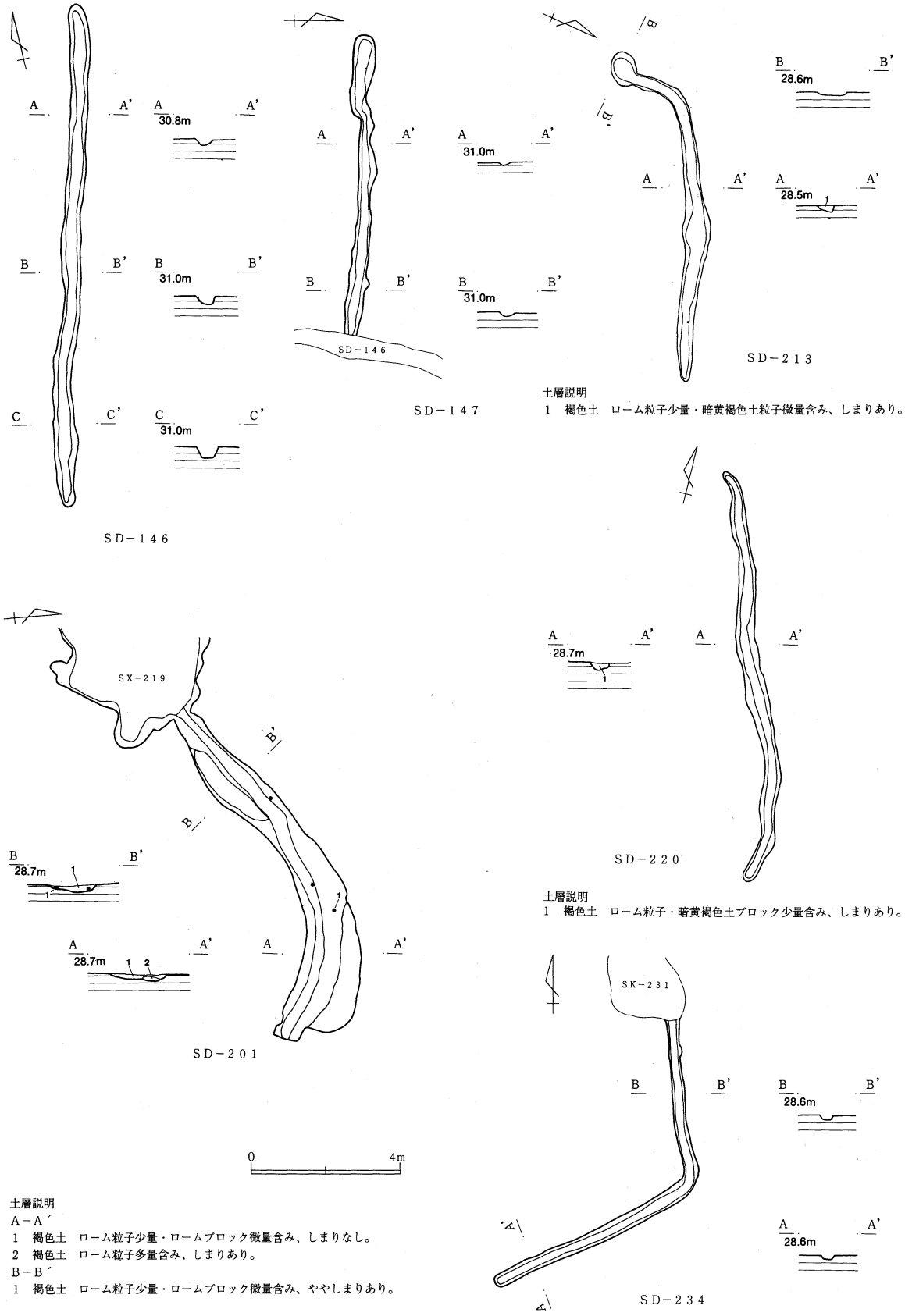
土層説明

1	褐色土	ローム粒子微量含み、しまりあり。
2	褐色土	ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりなし。
3	暗黄褐色土	ローム粒子少量・褐色土微量含み、しまりあり。
4	褐色土	ローム粒子多量・炭化物微量含み、しまりなし。
5	暗黄褐色土	ローム粒子多量・褐色土微量含み、しまりなし。

0　4m

0　2m

第47図　横倉遺跡溝跡実測図（1）



第48図　横倉遺跡溝跡実測図（2）

ＳＤ－147

調査区の中央部にある。台地の斜面を横切るように走り、ＳＤ－145に平行し、ＳＤ－146とは直交する。ＳＤ－146と重複するが、新旧は不明である。

本遺構は、幅28～62cm程、深さ12cm程を測る。遺存する範囲の長さは、8ｍ程である。平面的には蛇行しており、西から220cm程の部分で折れている。壁は30～50°程の傾斜で立ち上がる。底面は概ね平坦であるが、部分的に「Ｖ」字状になる。

図示できる遺物は出土しなかった。

ＳＤ－193

調査区の南部にあり、台地の縁辺部から斜面に向かって南北に走っている。　重複関係としては、ＳＫ－187・ＳＫ－188・ＳＫ－189・ＳＫ－190よりも古く、ＳＫ－191より新しい。ＳＫ－192とは接している。

本遺構は、最大幅136cm、最深132cm程、長さは60ｍ程を測る。本遺構の北にあるＳＤ－051の手前で西に折れ、調査区外にまで延びている。また、北から13～15ｍの2ｍは遺構が検出できず、途切れている。溝幅は、南の方が広くなっている。壁は底面から垂直気味に立ち上がり、上半部で50～60°程の傾斜で確認面に至り、断面形は漏斗状を呈する。底面は狭く、短軸方向ではほぼ平坦であるが、長軸方向では凹凸がある。

埋土は下層にローム粒子を、上層にロームブロックを含む5層に分別できた。溝から近・現代の遺物が出土していることから、竹林の「根切り溝」として使用されていたものと考えられるが、溝の西側に長方形の土壙墓が密集して存在することから、該期の溝を再利用している可能性もある。

出土した遺物のうち、煙突1点、古銭（□□通宝）1点を図示した。

ＳＤ－201

調査区北部の低地にあり、北東から南西に弧状に検出された。重複関係としてはＳＫ－249よりも新しいが、ＳＺ－219との新旧は不明である。

本遺構は、幅86～178cm程、深さ20cm程を測る。長さは10ｍ程である。平面は蛇行気味であり、東端部は方形に掘られている。北壁は50°程の傾斜で立ち上がるが、南壁は15°程の緩い傾斜で確認面に至る。底面は段差をもつが、概ね平坦である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の2層である。

出土した遺物のうち、14世紀まで遡るとみられる瀬戸灰釉盤1点を図示した。

ＳＤ－213

調査区北部の低地にあり、東北東から西南西に走っている。南端から2ｍ程は南に折れ、先端に楕円状の膨らみが検出された。重複する他の遺構はない。

本遺構は、幅32cm～76cm程、深さ18cm程を測る。長さは10ｍ程である。平面的には中程と南端が膨らんでおり、蛇行は少ない。壁は北側が70°程、南側は15°程の傾斜で立ち上がり、50°程になって確認面に至る。断面形は逆台形を呈する。底面は北側に向かって緩やかに傾斜している。

埋土は褐色土の1層である。

出土した遺物のうち、古銭2点（政□通宝・□□元宝）を図示した。

ＳＤ－220

調査区北部の低地にあり、北北西から南南東に走っている。重複する他の遺構はない。

本遺構は、幅34～60cm程、深さ22cm程を測る。長さは11ｍ程である。平面的には不整で蛇行しており、両端とも丸く掘られている。西壁は55°程の傾斜で立ち上がり、東壁は25°程で立ち上がり確認面付近で、ほぼ垂直になる。断面形は逆台形もしくは皿状で、丸味を帯びている。底面は幾分凸凹も見られるが、概ね平坦である。

埋土は、褐色土の1層である。

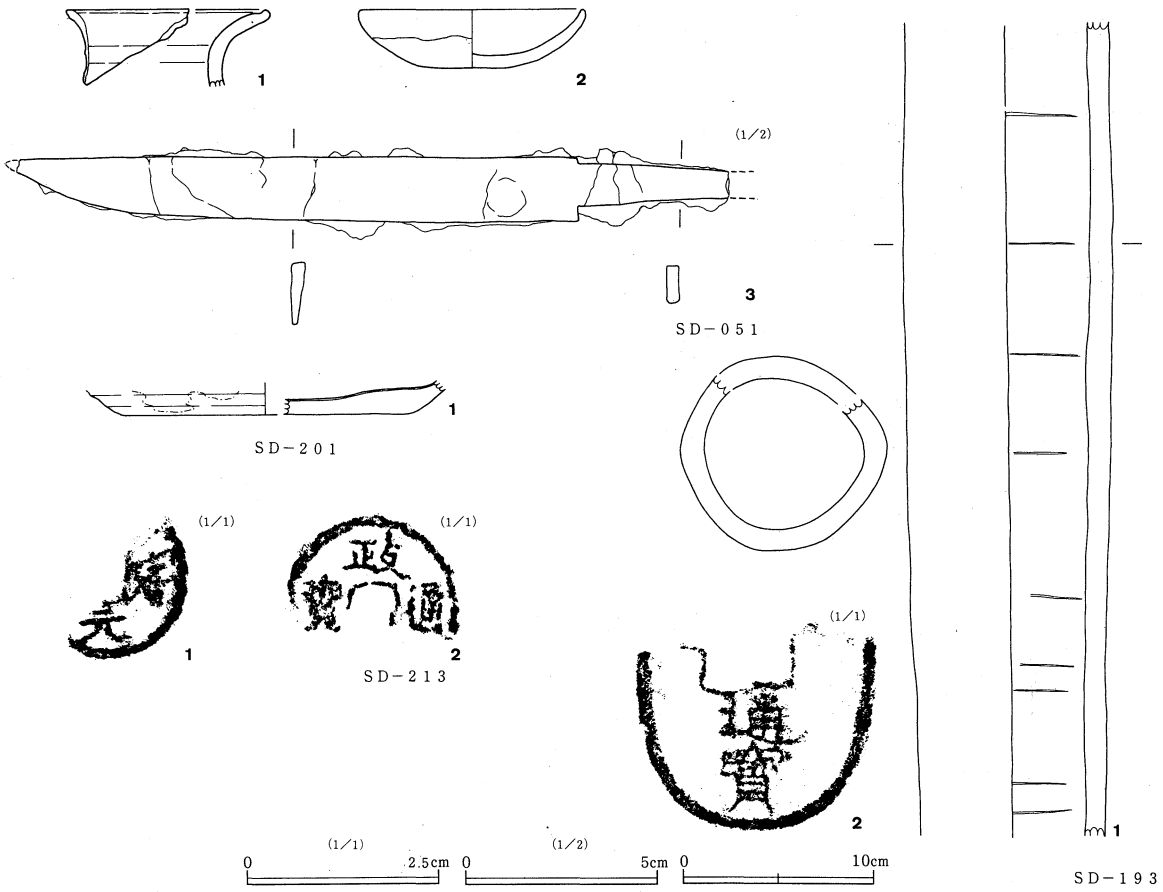
図示できる遺物は出土しなかった。

ＳＤ－234

調査区北部の低地にあり、北から南西方向に逆「く」の字に曲がっている。重複関係としては、ＳＫ－213よりも古い。

本遺構は、幅28～44cm程、深さ12～18cm程を測る。長さは遺存する範囲で、9ｍ程である。壁は60～70°程の傾斜で立ち上がり、断面擂鉢状である。比較的端正に掘られている。底面は平坦である。

図示できる遺物は出土しなかった。



第49図　横倉遺跡溝跡出土遺物実測図

(4) 土坑

ＳＫ－005

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形はやや隅丸の長方形で、規模は長軸320cm、短軸60cm、深さ20cmである。長軸方向は、Ｎ－50°－Ｅを示す。壁は70～80°程の傾斜で直線的に立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む黒色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－006

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は南西－北東に長い長方形を呈する。北東辺は丸みをもって掘られている。規模は長軸290cm、短軸60cm、深さ16cmである。長軸方向は、Ｎ－50°－Ｅを示す。壁は80°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状である。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む黒色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－008

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸250cm、短軸60cm、深さ20cmである。長軸方向は、Ｎ－50°－Ｅを示す。壁は65～90°程の傾斜で立ち上がり、断面形は逆台形である。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土はロームブロック・ローム粒子を含む黒色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－018

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－019よりも古い。

平面形は南北に長い楕円形で、規模は長軸160cm、短軸100cm、深さ16cmである。長軸方向は、Ｎ－5°－Ｅを示す。壁は西側で60°程、東側で35°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状である。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む黒褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－019

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－018よりも新しい。

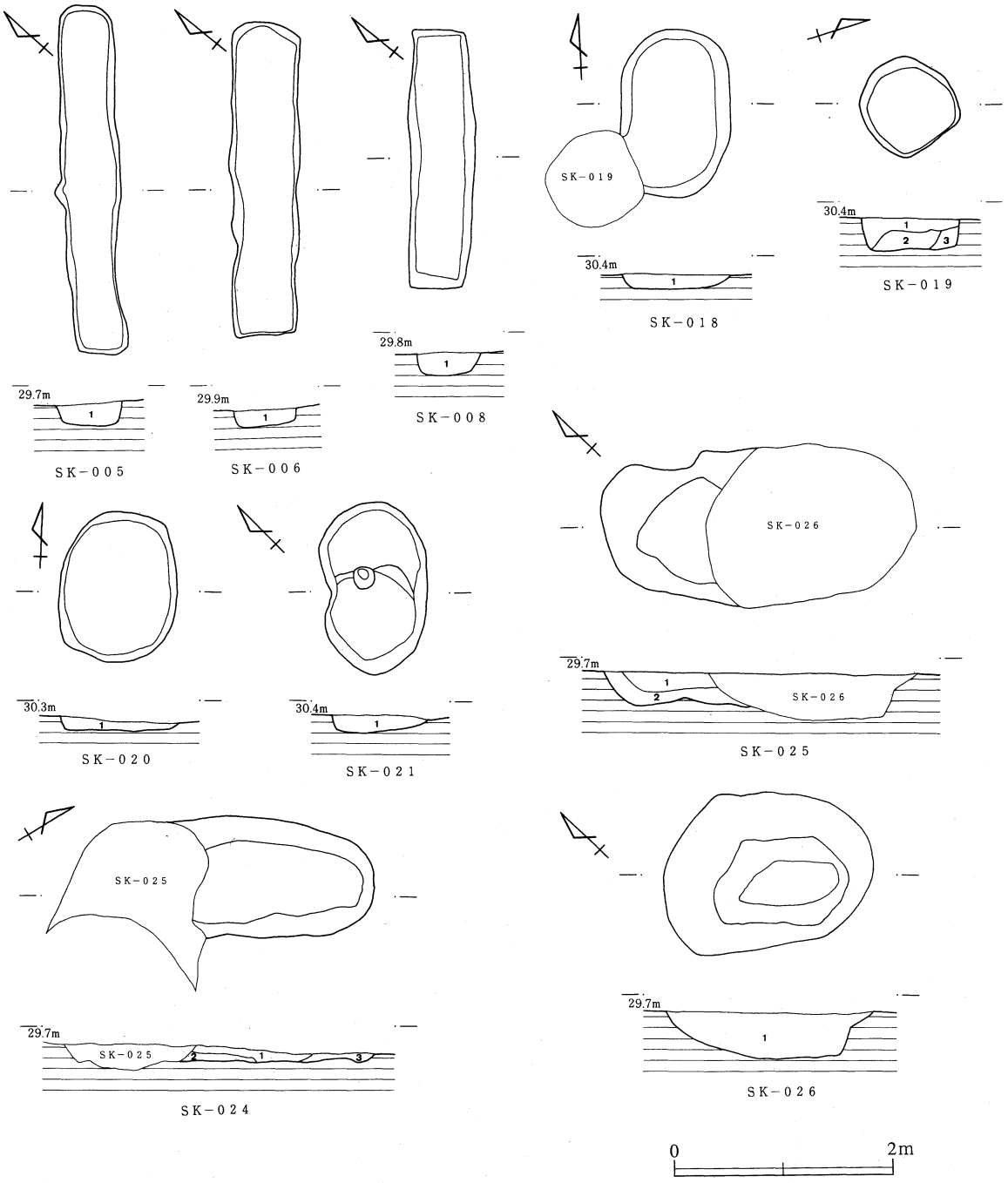
平面形は不整な円形を呈する。規模は径85～92cm程、深さ30cmである。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は浅い箱状である。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は3層に分層でき、ロームブロックを含む人為埋土と考えられる。

ＳＫ－020

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸140cm、短軸110cm、深さ14cm程である。長軸方向は、Ｎ－6°－Ｅを



土層説明

SK−005
1　黒色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりなし。

SK−006
1　黒色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりなし。

SK−008
1　黒色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりなし。

SK−018
1　黒褐色土　黒色土粒子多量・ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

SK−019
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりあり。
2　黒色土　　ローム粒子少量含み、しまりあり。
3　褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりあり。

SK−020
1　黒色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。

SK−021
1　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

SK−024
1　褐色土　　暗褐色土・暗黄褐色土少量含み、しまりあり。
2　暗黄褐色土　黄褐色土ブロック少量含み、しまりあり。
3　褐色土　　暗黄褐色土ブロック少量含み、しまりあり。

SK−025
1　暗褐色土　ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
2　暗黄褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量・粘土微量含み、しまりあり。

SK−026
1　暗褐色土　ローム粒子・粘土粒子少量含み、しまりあり。

第50図　横倉遺跡土坑実測図（1）

示す。壁は西側で80°、東側で35°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状である。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土はロームブロック・ローム粒子を含む黒色土の1層で、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－021

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸160cm、短軸90cm、深さ18cm程である。長軸方向は、Ｎ－43°－Ｅを示す。壁は北西側でほぼ垂直に立ち上がるが、南東側では緩やかに傾斜をもって確認面に至る。断面形は皿状である。底面はほぼ中央に段を有し、南西半分が10cm程低くなっている。段の中央と北西辺際にピットが確認されたが、本遺構に伴うものとは考えにくい。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む黒褐色土の1層で、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－024

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－025よりも古い。

平面形は遺存する範囲で判断すると、長楕円形を呈するものと考えられ、その規模は長軸170cm以上、短軸110cm、深さ15cm程である。長軸方向は、Ｎ－35°－Ｅを示す。壁は30°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状である。底面は小さな凹凸が見られ、壁との境も明瞭とはいえない。

埋土は3層に分層でき、人為的に埋め戻された可能性がある。

ＳＫ－025

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－024よりも新しく、ＳＫ－026よりも古い。

平面形は遺存する範囲で判断すると、不整楕円形を呈するものと判断される。規模は長軸150cm以上、短軸140cm、深さ30cm程である。長軸方向は、Ｎ－45°－Ｗを示す。壁は50～65°程の傾斜で立ち上がり、断面逆台形である。底面は凹凸が目立ち、壁の立ち上がりは明瞭とはいえない。

埋土は2層に分層でき、ロームブロック・ローム粒子・粘土を含むことから、人為埋土であると考えられる。

ＳＫ－026

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－025よりも新しい。

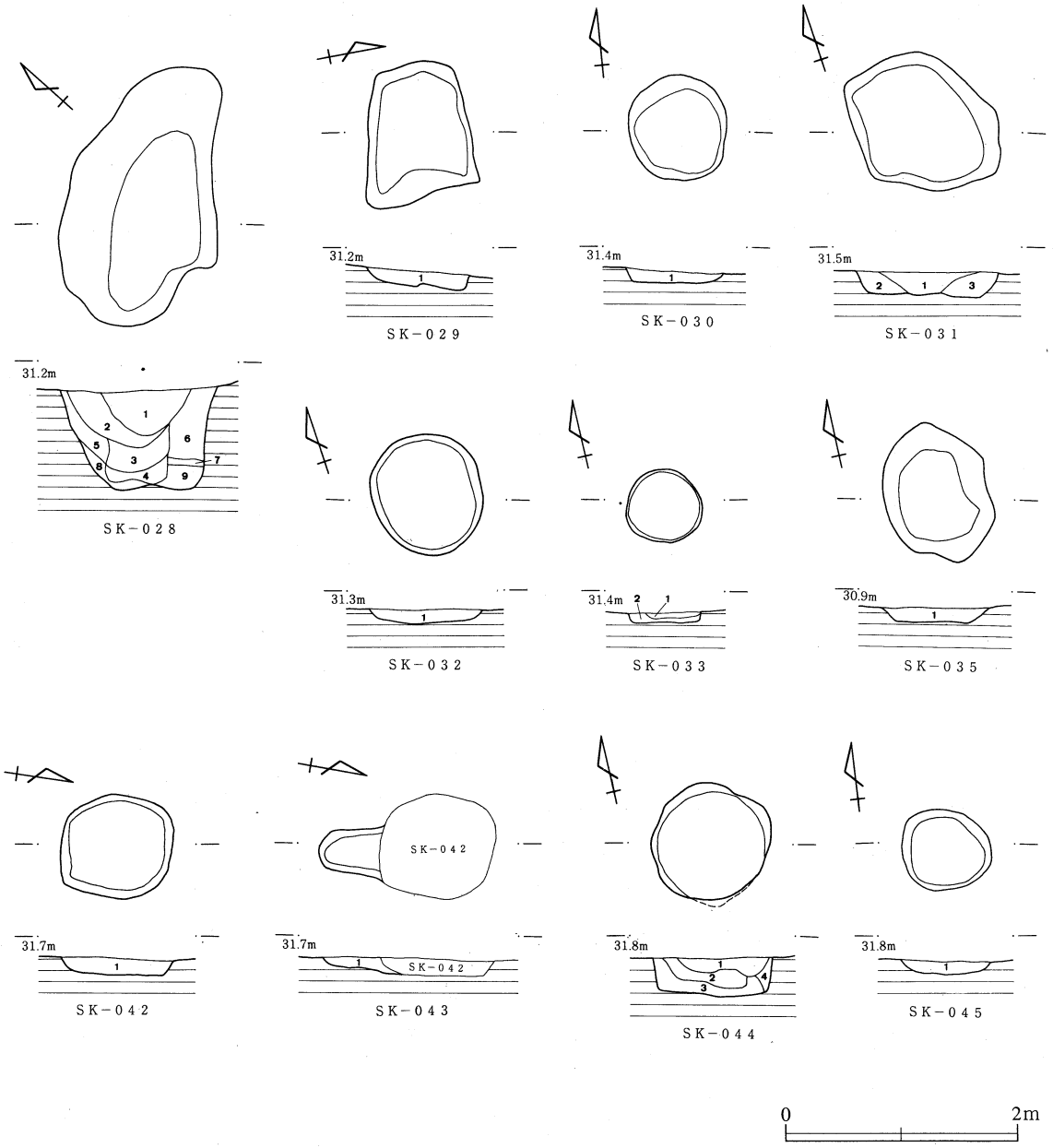
平面形は楕円形を呈する。ＳＫ－025と重複する北西部に比べ、南東部は端正に掘られている。規模は長軸200cm、短軸140cm、深さ40cm程である。長軸方向は、Ｎ－60°－Ｗを示す。北西側の壁は、底面から緩やかな傾斜をもって上端に至り、南東側の壁は70°程の急角度で立ち上がった後、上端付近で30°程と緩やかになる。底面はかすかに凹凸が見られ、壁との境は南東側のみ明瞭である。

埋土は、ローム粒子・粘土粒子を含む暗褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－028

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸240cm、短軸90～120cm、深さ90cm程である。長軸方向は、Ｎ－



土層説明

ＳＫ－０２８
1　褐色土　　ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。
3　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりあり。
4　暗黄褐色土　ローム土多量含み、しまりあり。
5　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土微量含み、しまりあり。
6　黄褐色土　ローム土多量含み、しまりあり。
7　暗褐色土　ロームブロック少量含み、しまりあり。
8　明黄褐色土　ローム土多量含み、しまりあり。
9　暗黄褐色土　ローム土多量含み、しまりあり。

ＳＫ－０２９
1　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量・炭化物微量含み、しまりあり。

ＳＫ－０３０
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－０３１
1　暗褐色土　ローム粒子多量・黒色土・焼土微量含み、しまりあり。
2　褐色土　　暗褐色土・ローム粒子少量含み、しまりあり。
3　褐色土　　ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－０３２
1　褐色土　　黒色土ブロック・ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－０３３
1　暗褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　褐色土　　明褐色土少量含み、しまりあり。

ＳＫ－０３５
1　褐色土　　ローム粒子・暗黄褐色土少量・ロームブロック微量含み、しまりあり。

ＳＫ－０４２
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－０４３
1　褐色土　　ローム土多量・ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－０４４
1　褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりあり。
2　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。
3　褐色土　　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、しまりあり。
4　黄褐色土　ローム土多量含み、しまりあり。

ＳＫ－０４５
1　褐色土　　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。

第51図　横倉遺跡土坑実測図（2）

65°－Ｅを示す。壁は60～80°程の傾斜で立ち上がり、断面擂鉢状である。底面には凹凸が見られるが、壁との境は明瞭である。

埋土は9層に分層され、ロームブロック・ローム土を含む人為埋土と考えられる。

ＳＫ－029

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整な方形を呈し、規模は長辺120cm、短辺70～100cm、深さ14cm程である。壁は南側で45°程、北側で70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状である。底面は中央に段があり、南半の方が低くなっている。壁との境は北側で明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子・炭化物を含む暗褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－030

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は、径90cm程、深さ14cm程の円形である。壁は45～60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－031

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸150cm、短軸120cm、深さ20cm程である。長軸方向は、Ｎ－45°－Ｗを示す。壁は45～65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状である。底面はやや凹凸が見られるが、壁の立ち上がりは明瞭である。

埋土は、褐色土を主体とする3層に分別される。

ＳＫ－032

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径100cm程の円形を呈し、深さは14cm程を測る。壁は緩やかに上端に向かい、断面皿状を呈する。底面はほぼ平坦であるが、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子等を含む褐色土の1層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－033

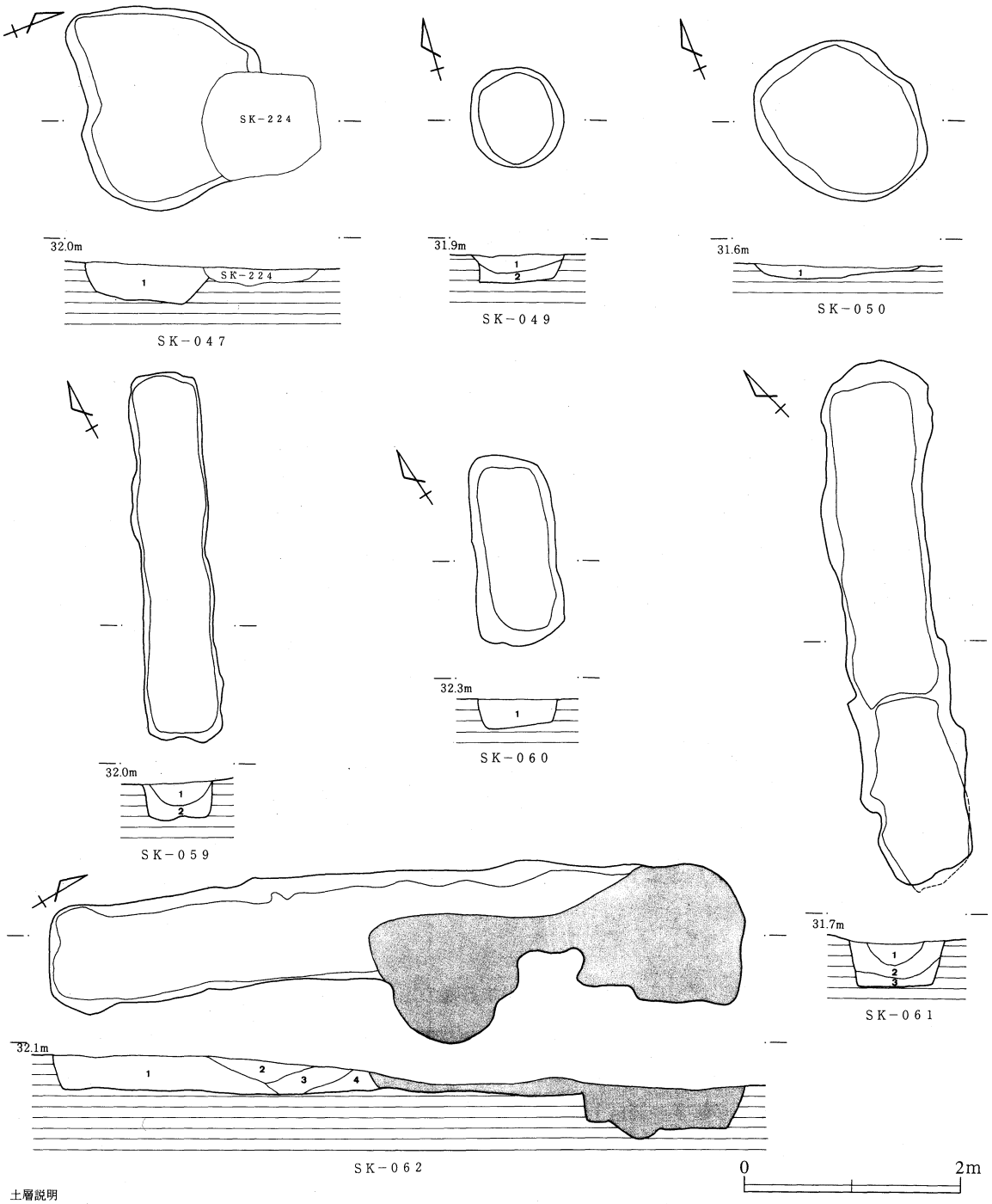
調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径70cm程の円形を呈し、深さは10cmを測る。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面皿状である。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、褐色土と暗褐色土の2層に分別できる。

ＳＫ－035

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。



土層説明

ＳＫ−０４７
1　暗褐色土　褐色土多量・ローム土を層状に含み、しまりあり。

ＳＫ−０４９
1　暗褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。
2　褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。

ＳＫ−０５０
1　褐色土　ローム土多量・ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりあり。

ＳＫ−０５９
1　黒褐色土　黒色土粒子多量・ロームブロック・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
2　暗褐色土　ローム粒子・黒色土粒子多量含み、ややしまりあり。

ＳＫ−０６０
1　黒褐色土　黒色土粒子多量・ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりなし。

ＳＫ−０６１
1　褐色土　ローム粒子多量含み、しまりなし。
2　暗褐色土　ローム粒子多量・黒色土粒子少量含み、しまりなし。
3　黒褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子微量含み、しまりなし。

ＳＫ−０６２
1　暗褐色土　ローム粒子・黒色土粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりなし。
2　暗褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子微量含み、しまりなし。
3　暗褐色土　黒色土粒子多量・ロームブロック微量含み、ややしまりあり。
4　褐色土　ローム粒子・黒色土粒子多量・ロームブロック微量含み、しまりあり。

第52図　横倉遺跡土坑実測図（3）

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸130cm、短軸90cm、深さ14cm程である。長軸方向は、Ｎ－2°－Ｗを示す。壁は35°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状である。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子等を含む、褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－042

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としてはＳＫ－043より新しい。

平面形は、径100cm程の不整円形を呈し、深さは16cm程を測る。壁は60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－043

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－042よりも古い。

平面形は遺存する範囲で判断すると、長楕円形を呈するものと考えられる。規模は長軸60cm以上、短軸40cm、深さ14cm程である。長軸方向は、Ｎ－5°－Ｗを示す。壁は40°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は、ＳＫ－042の上端直下付近で段をもち、深くなるが、ほぼ平坦である。壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム土を多量含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－044

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径100cm程の円形を呈し、深さは36cm程を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形を呈する。南側はオーバーハングしている。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロックを含む褐色土を主体とする4層に分別され、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－045

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径80cm程の円形を呈し、深さは12cmを測る。壁は40°程の傾斜でゆるやかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面はやや丸みを帯びており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロックを多量含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－047

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－244よりも古い。

平面形は不整形であり、径は180～200cm程を測る。深さは35cm程である。壁は45～60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

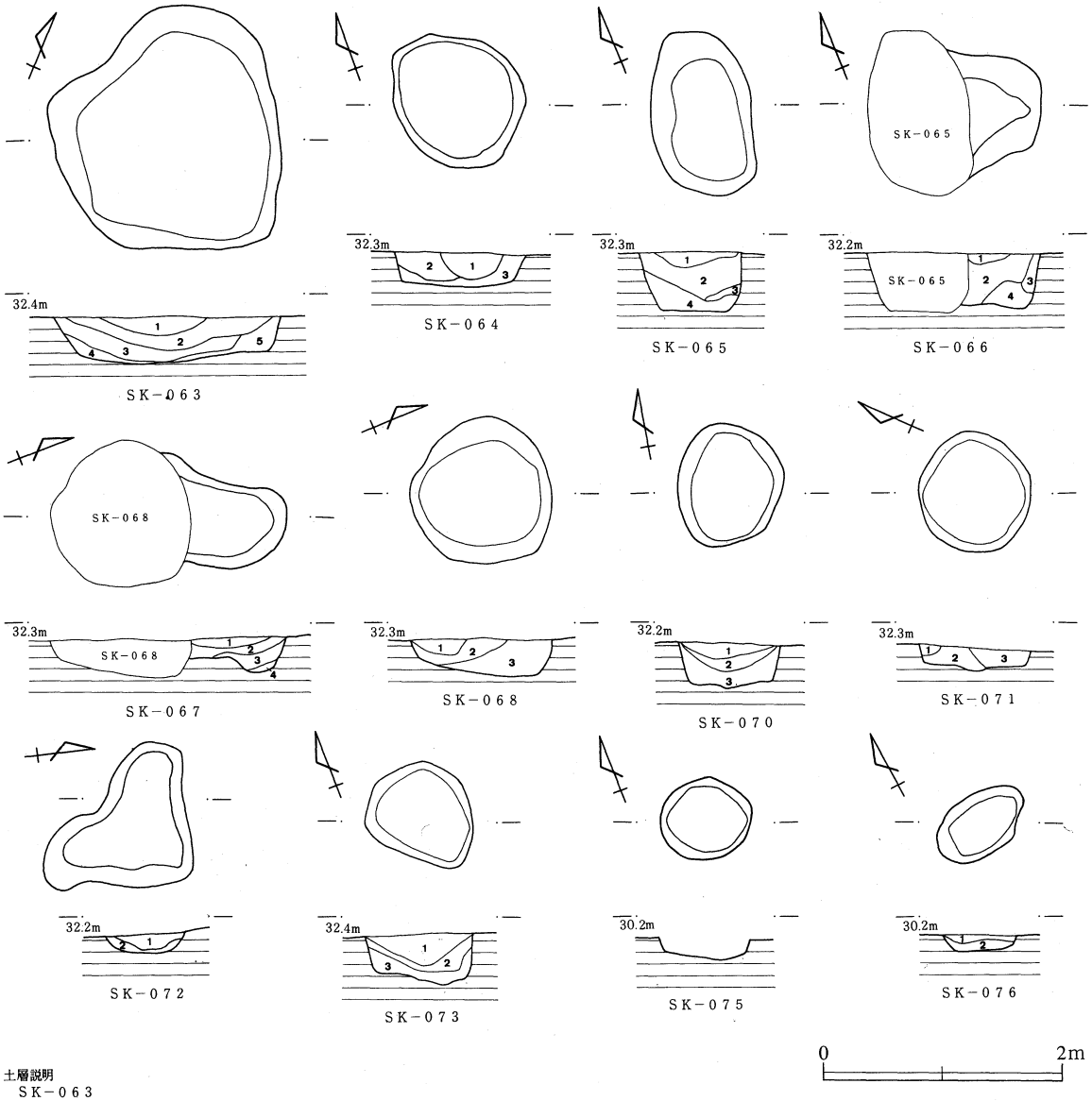
埋土は、褐色土とローム土を層状に含む暗褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

出土した遺物のうち、焦げ跡のある獣骨1点を図示した。

ＳＫ－049

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径90cm程の円形を呈し、深さは26cm程を測る。西壁は垂直気味に立ち上がった後、上端付近で40°程の緩い傾斜に変わり、東壁は70°程の傾斜で立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。底面は平坦であり、



土層説明

ＳＫ−０６３
1　暗褐色土　ローム粒子少量・褐色土微量含み、しまりあり。
2　褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
3　暗褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりあり。
4　暗褐色土　ローム土多量・褐色土微量含み、しまりあり。
5　黄褐色土　ローム土多量・褐色土微量含み、しまりあり。

ＳＫ−０６４
1　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりあり。
2　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土・黒褐色土少量含み、しまりあり。
3　黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりあり。

ＳＫ−０６５
1　褐色土　ロームブロック微量含み、しまりなし。
2　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりなし。
3　褐色土　ローム粒子少量含み、しまりなし。
4　黄褐色土　ローム土多量含み、しまりなし。

ＳＫ−０６６
1　褐色土　黒褐色土・ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　暗黄褐色土　ローム土多量含み、しまりなし。
3　暗褐色土　ロームブロック少量含み、しまりなし。
4　黄褐色土　ローム土多量含み、しまりなし。

ＳＫ−０６７
1　暗褐色土　ロームブロック・炭化物微量含み、しまりあり。
2　黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりあり。
3　褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。
4　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりなし。

ＳＫ−０６８
1　褐色土　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりあり。
2　黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりあり。
3　暗褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ−０７０
1　黒褐色土　黒色土粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。
2　暗褐色土　黒色土粒子多量・ロームブロック微量含み、ややしまりあり。
3　褐色土　ローム粒子多量・黒色土粒子微量含み、しまりあり。

ＳＫ−０７１
1　黒色土　ロームブロック少量含み、ややしまりあり。
2　褐色土　ロームブロック多量・黒色土粒子少量含み、ややしまりあり。
3　暗褐色土　ローム粒子・黒色土粒子少量含み、しまりなし。

ＳＫ−０７２
1　黒褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。
2　褐色土　ローム粒子多量・黒色土粒子少量含み、ややしまりあり。

ＳＫ−０７３
1　暗褐色土　黒色土多量・ロームブロック・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
2　暗褐色土　黒色土多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。
3　褐色土　ローム粒子多量・黒色土粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ−０７６
1　暗褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子微量含み、ややしまりあり。
2　褐色土　黒色土粒子微量含み、しまりなし。

第53図　横倉遺跡土坑実測図（4）

壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む2層に分別され、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－050

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸170cm、短軸140cm、深さ14cmを測る。長軸方向は、Ｎ－50°－Ｗを示す。壁は35°程の傾斜で緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は丸みを帯びており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ローム土を多量含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－059

調査区の中央部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸350cm、短軸70cm、深さ36cm程を測る。長軸方向は、Ｎ－25°－Ｅを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形を呈する。底面はやや凹凸が見られるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロックを含む2層に分層され、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－060

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸180cm、短軸80cm、深さ30cm程である。長軸方向は、Ｎ－30°－Ｅを示す。壁は60～70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む黒褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－061

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸490cm、短軸100cm、深さ42cm程である。長軸方向は、Ｎ－40°－Ｅを示す。壁は75°程の傾斜で立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。南壁はオーバーハングしている。底面は南西辺から170cm程のところに段があり、南の方が15cm程深くなるが、ほぼ平坦である。壁との境は明瞭である。

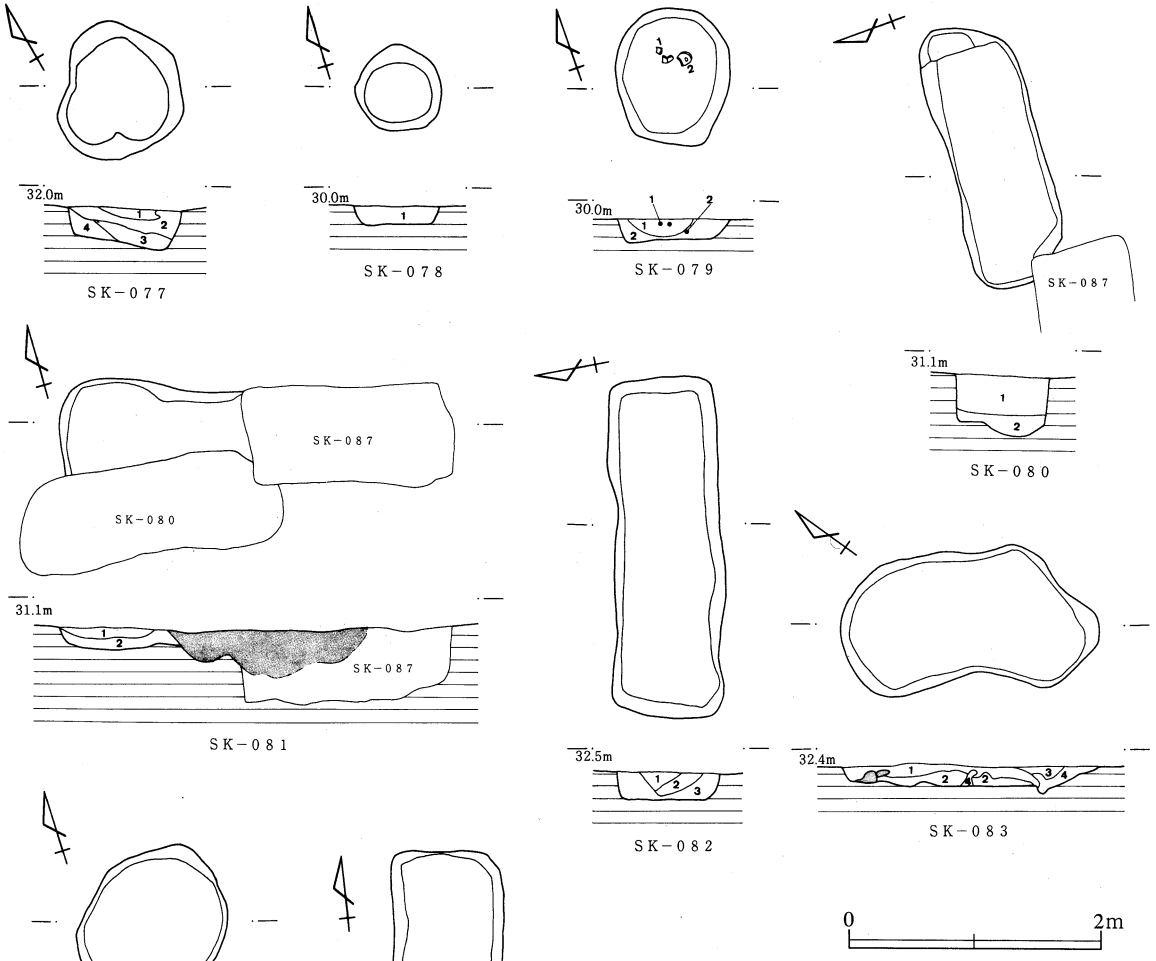
埋土は、褐色土を主体とした3層に分別でき、底面に近づくほど黒色が濃くなる。

ＳＫ－062

調査区の中央にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は北東部に大きく撹乱が入っているが、長方形を呈するものと考えられる。規模は長軸560cm以上、短軸100cm、深さ38cm程である。長軸方向は、Ｎ－30°－Ｅを示す。壁は65°程の傾斜で立ち上がる。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、暗褐色土を主体とする4層であり、ロームブロックを含むことから、人為的に埋め戻されたものと



土層説明

ＳＫ－０７７
1　褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりなし。
2　暗褐色土　　黒色土粒子多量含み、ローム粒子微量含み、しまりなし。
3　暗褐色土　　黒色土粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりなし。
4　褐色土　　ローム粒子多量・黒色土粒子微量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－０７８
1　暗褐色土　　ローム粒子・黒色土粒子少量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－０７９
1　暗褐色土　　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　暗褐色土　　ローム粒子多量・黒色土粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－０８０
1　褐色土　　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
2　暗褐色土　　ローム粒子少量含み、しまりなし。

ＳＫ－０８１
1　暗褐色土　　ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりあり。

ＳＫ－０８２
1　黒褐色土　　黒色土多量含み、しまりなし。
2　暗褐色土　　ロームブロック少量含み、しまりなし。
3　暗褐色土　　ロームブロック少量含み、しまりなし。

ＳＫ－０８３
1　暗褐色土　　黒色土粒子多量・ローム粒子微量含み、しまりあり。
2　褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりあり。
3　暗褐色土　　黒色土粒子多量・ローム粒子微量含み、ややしまりあり。
4　褐色土　　ローム粒子多量・黒色土粒子微量含み、しまりなし。

ＳＫ－０８４
1　暗褐色土　　ローム粒子・黒色土粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－０８６
1　暗褐色土　　黒色土粒子・ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりなし。
2　黒色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
3　褐色土　　ローム粒子多量・黒色土少量含み、しまりなし。

第54図　横倉遺跡土坑実測図（5）

考えられる。

ＳＫ－063

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径220cm程の不整円形を呈し、深さは40cm程を測る。壁は55～70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は凹凸が見られるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、暗褐色土を主体とする5層に分別され、ロームブロックやローム土を含むことから、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－064

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸130cm、短軸108cm、深さ30cm程である。長軸方向は、Ｎ－25°－Ｗを示す。壁は60～75°程の傾斜で立ち上がり、断面形は箱形を呈する。底面はやや丸みを帯びるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム土を多量含む暗黄褐色土の3層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－065

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－066よりも新しい。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸140cm、短軸90cm、深さ50cm程である。長軸方向は、Ｎ－15°－Ｅを示す。西壁は70°程の傾斜で立ち上がり、東壁は50°程の傾斜で立ち上がった後、垂直に立ち上がる。断面形は箱形を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は4層に分別でき、ロームブロック・ローム土を含むことから、人為埋土であると考えられる。

ＳＫ－066

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－065よりも古い。

平面形は遺存する範囲で判断すると、不整円形を呈したものと考えられる。規模は長辺80cm以上、短辺110cm以上、深さ48cm程である。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱形であったと推測される。底面はやや凹凸も見られるが、壁との境は明瞭である。

埋土は4層に分別され、ロームブロック・ローム土を含むことから、人為埋土であると考えられる。

ＳＫ－067

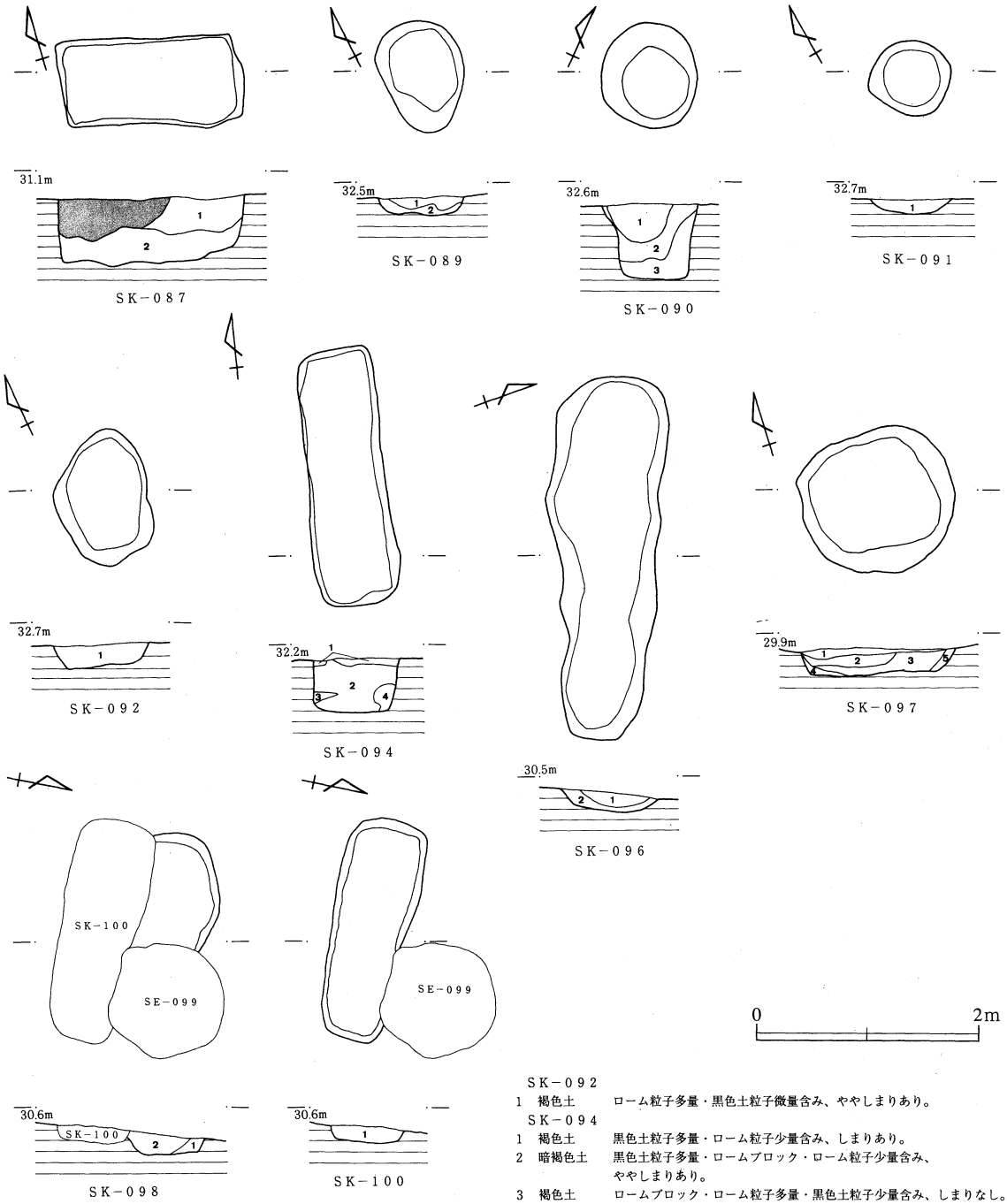
調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係はＳＫ－068よりも古い。類似する遺構が近接する。

平面形は遺存する範囲で判断すると、不整楕円形を呈するものと考えられる。規模は長軸110cm以上、短軸80cm以上、深さ30cm程である。長軸方向は、Ｎ－30°－Ｅを示す。壁は80°程の傾斜で立ち上がっている。底面は北壁から50cm程の範囲までが深く、それ以南では12cm程浅くなる。

埋土は、ロームブロック・ローム土を含む4層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－068

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係はＳＫ－067よりも新しい。類似する遺構が近接する。



土層説明

ＳＫ－０８７
1　褐色土　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。
2　褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりなし。

ＳＫ－０８９
1　暗褐色土　ロームブロック微量含み、ややしまりあり。
2　褐色土　黒色土粒子微量含み、しまりあり。

ＳＫ－０９０
1　黒褐色土　ローム粒子微量含み、しまりあり。
2　暗褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
3　暗褐色土　ローム粒子少量含む。

ＳＫ－０９１
1　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子微量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－０９２
1　褐色土　ローム粒子多量・黒色土粒子微量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－０９４
1　褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　暗褐色土　黒色土粒子多量・ロームブロック・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
3　褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量・黒色土粒子少量含み、しまりなし。
4　黒色土　ローム粒子少量含み、しまりなし。

ＳＫ－０９６
1　黒色土　ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
2　褐色土　ローム粒子多量・黒色土粒子少量含み、ややしまり。

ＳＫ－０９７
1　黒褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
2　暗褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
3　暗褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。
4　明褐色土　ローム粒子多量・黒色土粒子少量含み、ややしまりあり。
5　褐色土　黒色土粒子・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－０９８
1　黒褐色土　黒色土多量・ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりなし。
2　黒色土　ローム粒子少量含み、しまりなし。

ＳＫ－１００
1　褐色土　ローム粒子・黒色土粒子少量含み、ややしまりあり。

第55図　横倉遺跡土坑実測図（6）

平面形は径120cm程の円形を呈し、深さは30cm程である。壁は55°ほどの傾斜で立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、北壁際が最も深く、そこに向かって緩やかに傾斜している。

埋土は、ロームブロック・ローム土を含む3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－070

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸110cm、短軸90cm、深さ40cm程である。長軸方向は、Ｎ－20°－Ｅを示す。壁は75～80°程の傾斜で立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は凹凸が見られるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロックを含む3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－071

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径100cm程の円形を呈し、深さは22cm程を測る。壁は70～75°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は中央が5cm程窪んでいるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロックを含む3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－072

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整形を呈し、長辺120～130cm程、深さ18cm程を測る。壁は下半部では30～35°程、上半部では60～65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状である。底面は丸底気味であり、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む2層である。

ＳＫ－073

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整形を呈し、規模は長辺100cm、短辺80cm、深さ45cm程を測る。壁は75～85°程の傾斜で立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は凹凸が見られ、特に東半分は10cm程低く、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子・黒色土を含む3層である。

ＳＫ－075

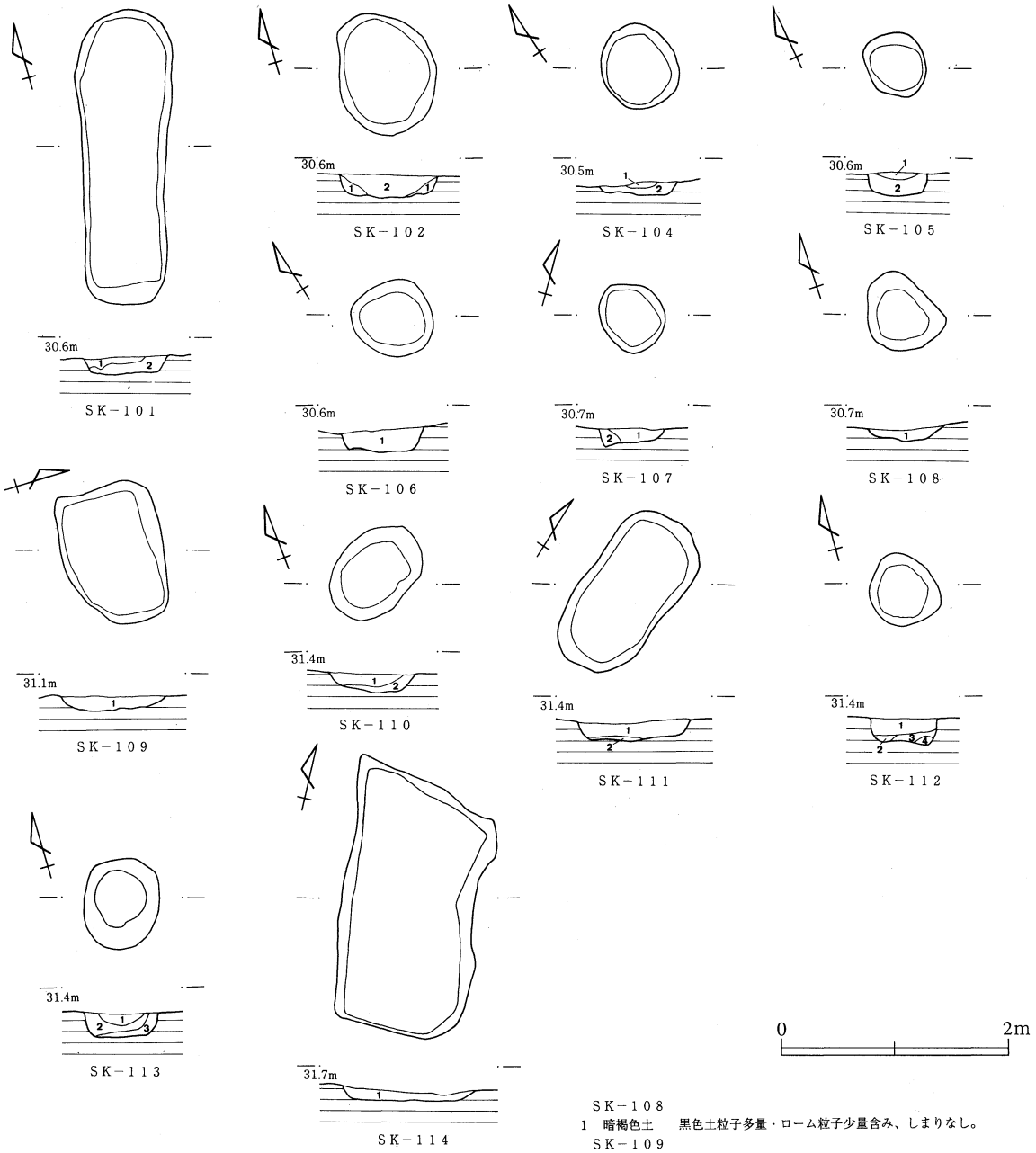
調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸80cm、短軸70cm、深さ18cm程である。長軸方向は、Ｎ－73°－Ｗを示す。壁は65～70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は東壁から20cm程が最も低く、そこに向かって、緩やかに傾斜している。壁との境は明瞭である。

ＳＫ－076

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸85cm、短軸52cm、深さ15cm程である。長軸方向は、Ｎ－80°－Ｅを



土層説明

ＳＫ－１０１
1　暗褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
2　暗褐色土　黒色土粒子多量・ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりなし。

ＳＫ－１０２
1　褐色土　ローム粒子多量・黒色土少量含む。
2　暗褐色土　黒色土多量・ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりなし。

ＳＫ－１０４
1　褐色土　ローム粒子多量・黒色土粒子少量含み、ややしまりあり。
2　暗褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。

ＳＫ－１０５
1　暗褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
2　褐色土　ローム粒子・黒色土粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１０６
1　暗褐色土　ローム粒子・黒色土粒子少量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－１０７
1　暗褐色土　黒色土粒子多量含み、ややしまりあり。
2　褐色土　ローム粒子・黒色土粒子少量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－１０８
1　暗褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。

ＳＫ－１０９
1　褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１１０
1　暗褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　暗黄褐色土　ローム粒子多量・褐色土微量含み、しまりあり。

ＳＫ－１１１
1　褐色土　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、ややしまりあり。
2　黄褐色土　ローム土多量・褐色土微量含み、しまりあり。

ＳＫ－１１２
1　暗褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　褐色土　ローム粒子多量含み、しまりあり。
3　暗褐色土　ローム粒子多量含み、しまりあり。
4　暗黄褐色土　ローム粒子多量・褐色土少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１１３
1　褐色土　ローム粒子・暗黄褐色土少量含み、しまりあり。
2　暗褐色土　褐色土・ロームブロック少量含み、しまりあり。
3　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－１１４
1　黒色土　ローム粒子少量含み、ややしまりあり。

第56図　横倉遺跡土坑実測図（7）

示す。壁は50～75°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は西壁下が最も深く、東壁に向かって緩やかに上っている。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む2層である。

ＳＫ－077

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径110cm程の不整円形を呈し、深さは33cm程を測る。壁は70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は東壁下が最も深く、西壁に向かって緩やかに上っている。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子・黒色土粒子を含む4層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－078

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径70cm程の円形を呈し、深さは15cm程を測る。壁は50～65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む1層である。

ＳＫ－079

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸115cm、短軸94cm、深さ20cm程である。壁は50～65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面はやや西側が低くなるものの、平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む2層である。

出土した遺物のうち、かわらけ2点を図示した。

ＳＫ－080

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－147よりも古く、ＳＫ－146よりも新しい。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸217cm、短軸72～82cm、深さ49cm程である。長軸方向は、Ｎ－85°－Ｗを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は南側が平坦であるが、北壁際から中央にかけては丸底状で、12cm程下がる。南側のみ壁との境が明瞭である。

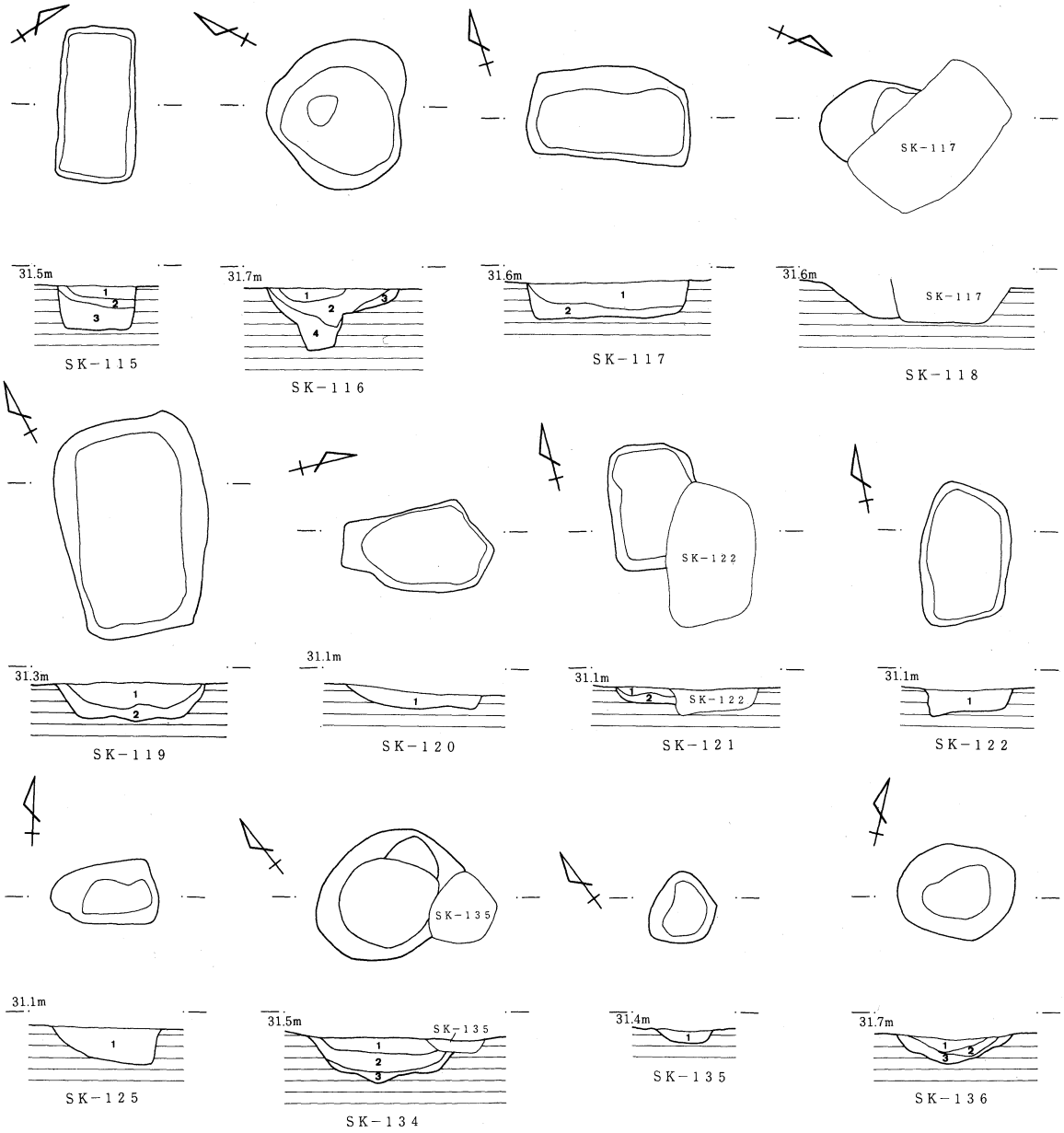
埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む2層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－081

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－145、ＳＫ－147よりも古い。

平面形は遺存する範囲で判断すると、隅丸長方形を呈するものと考えられる。規模は長軸155cm以上、短軸75cm以上、深さ18cm程である。長軸方向は、Ｎ－75°－Ｗを示す。壁は60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は幾分丸味を帯びており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む2層であり、人為埋土と考えられる。



土層説明

ＳＫ－１１５
1　黒色土　ローム粒子少量含み、しまりなし。
2　黒褐色土　ロームブロック少量含み、しまりなし。
3　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりなし。

ＳＫ－１１６
1　褐色土　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。
3　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土微量含み、しまりあり。
4　黄褐色土　ローム土多量含み、しまりあり。

ＳＫ－１１７
1　褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック・黒色土粒子微量含み、しまりあり。
2　暗褐色土　ローム粒子少量・ロームブロック・黒色土粒子微量含み、しまりあり。

ＳＫ－１１９
1　黒褐色土　黒色土粒子多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
2　暗褐色土　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－１２０
1　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりあり。

ＳＫ－１２１
1　褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　暗黄褐色土　ローム粒子多量含み、しまりあり。

0　2m

ＳＫ－１２２
1　暗黄褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－１２５
1　褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１３４
1　褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりあり。
2　褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりあり。
3　黄褐色土　ローム粒子多量含み、しまりあり。

ＳＫ－１３５
1　褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１３６
1　褐色土　ローム粒子・ロームブロック少量含み、しまりあり。
2　褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量含み、しまりあり。
3　褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量含み、しまりあり。

第57図　横倉遺跡土坑実測図（8）

ＳＫ－082

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸275cm、短軸90cm、深さ23cmである。西側3分の1は端正に掘られている。長軸方向は、Ｎ－80°－Ｗを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする3層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－083

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸210cm、短軸96～103cm、深さ24cm程である。長軸方向は、Ｎ－45°－Ｗを示す。壁は北西側で70°程、南東側で20°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は凹凸が見られ、壁との境は北西側で明瞭である。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む4層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－084

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸140cm、短軸112cm、深さ8cm程である。長軸方向は、Ｎ－65°－Ｅを示す。壁は45～55°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む1層である。

ＳＫ－085

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－086よりも古い。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸214cm以上、短軸90cm、深さ12cm程である。長軸方向は、Ｎ－8°－Ｅを示す。壁は30～40°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であるが、壁との境は東壁のみ明瞭である。

ＳＫ－086

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－085よりも新しい。

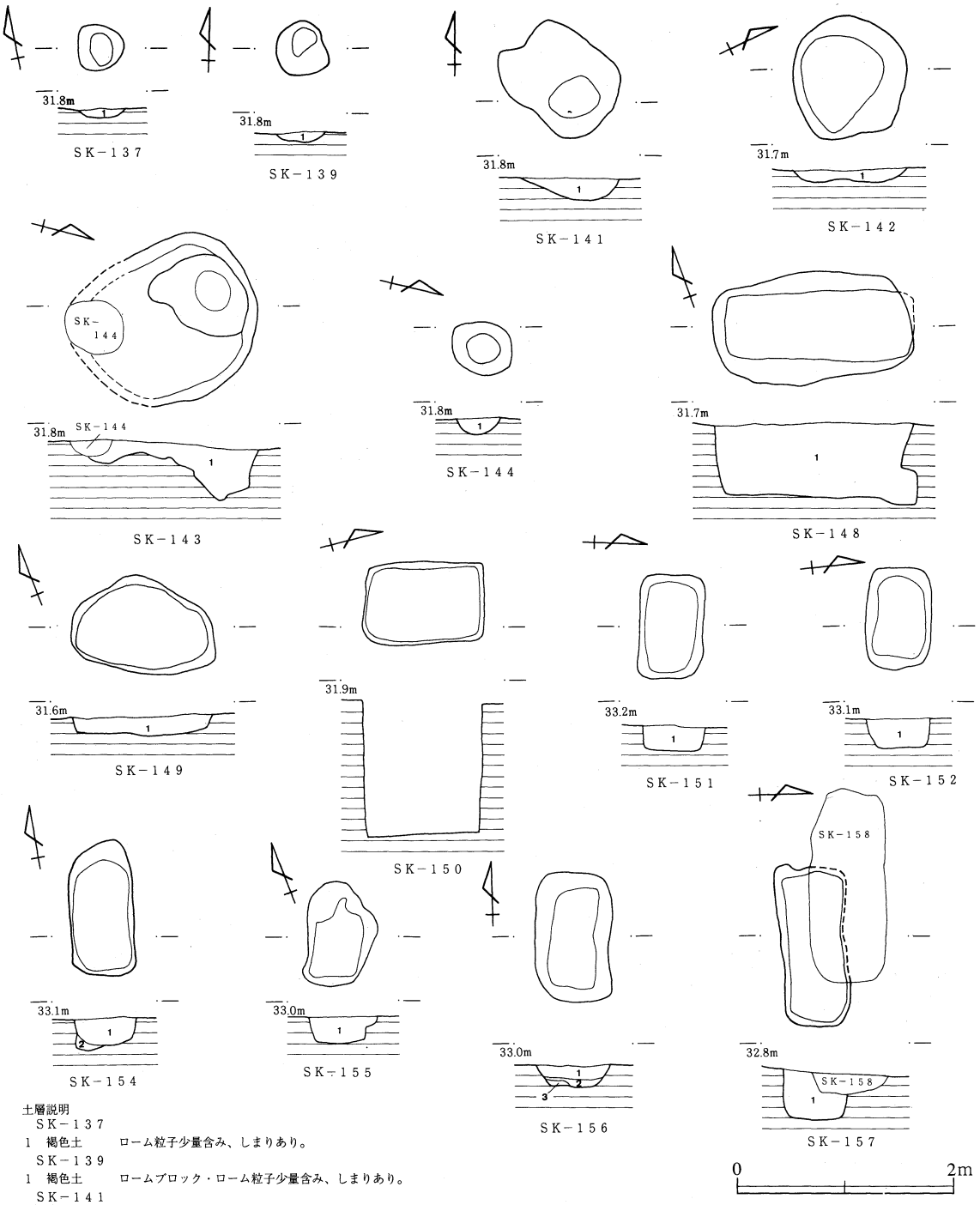
平面形は長方形を呈し、規模は長軸440cm、短軸80～90cm、深さ20cm程である。長軸方向は、Ｎ－8°－Ｅを示す。壁は50～60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子等を含む3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－087

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－145、ＳＫ－146よりも新しい。

平面形は長方形を呈し、北辺は端正に掘られている。規模は長軸166cm、短軸85cm、深さ62cm程である。長軸方向は、Ｎ－78°－Ｗを示す。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は凹凸が



土層説明

SK－137
1　褐色土　　ローム粒子少量含み、しまりあり。

SK－139
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

SK－141
1　暗黄褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりあり。

SK－142
1　暗黄褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりあり。

SK－143
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。

SK－144
1　褐色土　　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりあり。

SK－148
1　暗褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック微量含み、しまりあり。

SK－149
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。

SK－151
1　褐色土　　ローム粒子・ロームブロック多量含み、ややしまりあり。

SK－152
1　褐色土　　ローム粒子・ロームブロック多量含み、ややしまりあり。

SK－154
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、ややしまりあり。
2　明褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりなし。

SK－155
1　褐色土　　ローム粒子・ロームブロック少量含み、しまりあり。

SK－156
1　褐色土　　ローム粒子・ロームブロック少量含み、ややしまりあり。
2　褐色土　　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
3　黄褐色土　　ローム粒子多量含み、ややしまりあり。

SK－157
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、ややしまりあり。

第58図　横倉遺跡土坑実測図（9）

見られるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の2層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－089

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸104cm、短軸78cm、深さ18cm程である。長軸方向は、Ｎ－6°－Ｅを示す。壁は70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は丸味を帯びており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・黒色土粒子を含む2層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－090

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径90cm程の円形を呈し、深さは68cm程を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、西側では上端付近で幾分開き気味である。断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム粒子を含む暗褐色土を主体とする3層である。

ＳＫ－091

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径70cm程の円形を呈し、深さは14cm程を測る。壁は30～35°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は丸味を帯びており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－092

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸127cm、短軸85cm、深さ22cm程である。壁は55～65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は幾分凹凸が見られ、壁との境は西側でのみ明瞭である。

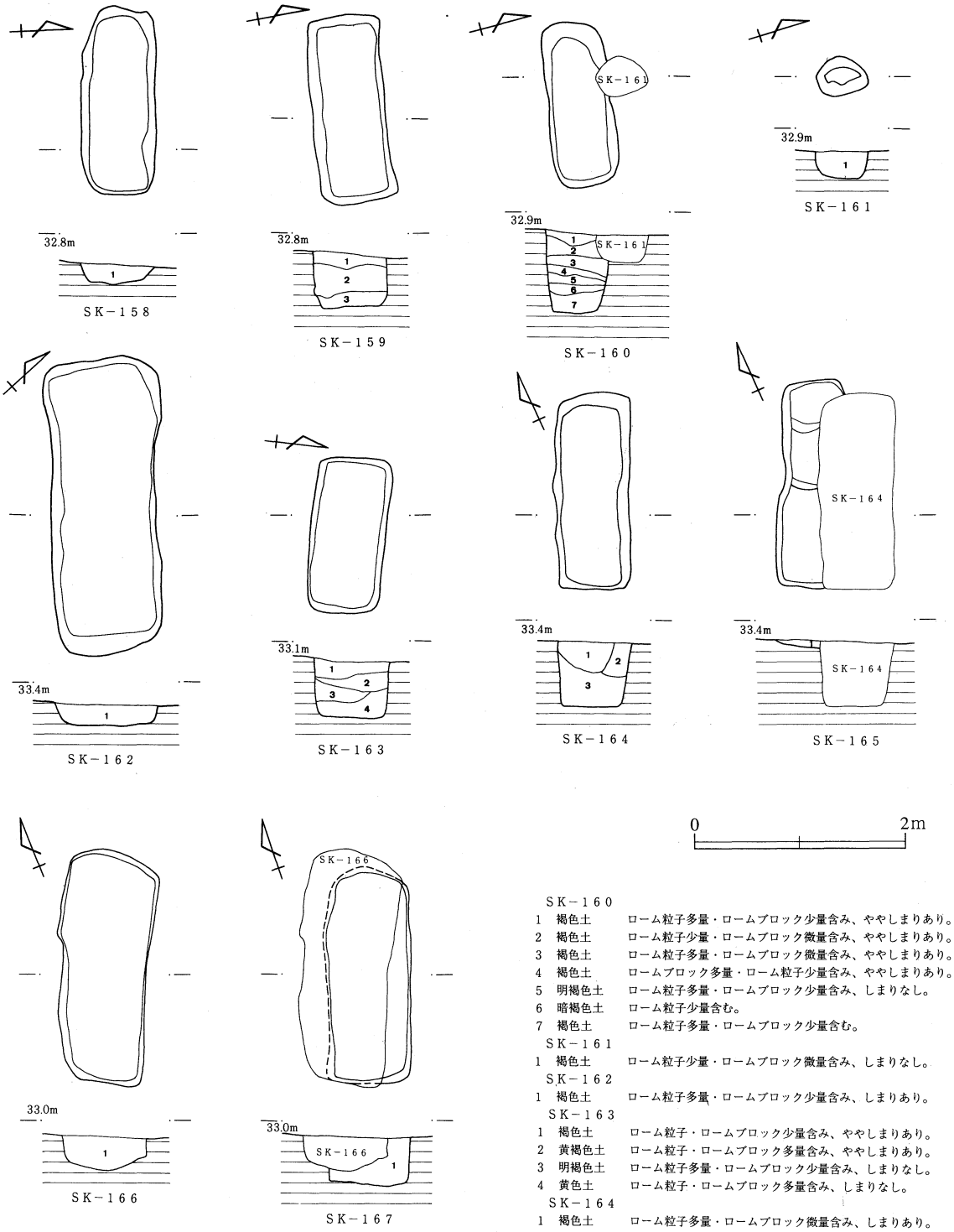
埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－094

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、ＳＥ－095と接している。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸236cm、短軸70～80cm、深さ50cm程である。長軸方向は、Ｎ－2°－Ｗを示す。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子・黒色土粒子を含む4層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。



土層説明

ＳＫ－１５８
1　褐色土　　ローム粒子・ロームブロック少量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－１５９
1　明褐色土　　ローム粒子・ロームブロック多量含み、ややしまりあり。
2　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、ややしまりあり。
3　暗褐色土　　ローム粒子・ロームブロック少量含み、しまりなし。

ＳＫ－１６０
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、ややしまりあり。
2　褐色土　　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、ややしまりあり。
3　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック微量含み、ややしまりあり。
4　褐色土　　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
5　明褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりなし。
6　暗褐色土　　ローム粒子少量含む。
7　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含む。

ＳＫ－１６１
1　褐色土　　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりなし。

ＳＫ－１６２
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１６３
1　褐色土　　ローム粒子・ロームブロック少量含み、ややしまりあり。
2　黄褐色土　　ローム粒子・ロームブロック多量含み、ややしまりあり。
3　明褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりなし。
4　黄色土　　ローム粒子・ロームブロック多量含み、しまりなし。

ＳＫ－１６４
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック微量含み、しまりあり。
2　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。
3　暗褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１６５
1　黄褐色土　　褐色土粒子少量・ローム粒子微量含み、しまりあり。

ＳＫ－１６６
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック微量含み、しまりあり。

ＳＫ－１６７
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック微量含み、しまりあり。

第59図　横倉遺跡土坑実測図（10）

ＳＫ－096

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整な長方形を呈し、規模は長軸332cm、短軸75～104cm、深さ18cm程である。長軸方向は、Ｎ－65°－Ｗを示す。壁は30～50°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であるが、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む1層である。

ＳＫ－097

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は径140cm程の不整円形を呈し、深さは24cmを測る。壁は40～65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面はやや凹凸があるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む暗褐色土を主体とする5層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－098

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としてはＳＥ－099・ＳＫ－100よりも古い。

平面形は遺存する範囲で判断すると、楕円形を呈するものと考えられる。規模は長軸110cm以上、短軸70cm以上、深さ22cm程である。壁は50～60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であるが、北側のみ壁との境が明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子・黒色土を含む2層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－100

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＥ－099よりは古く、ＳＫ－098よりは新しい。

平面形は不整な長方形を呈し、規模は長軸208cm、短軸64～76cm、深さ16cm程である。長軸方向は、Ｎ－89°－Ｅを示す。壁は60～70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む1層である。

ＳＫ－101

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

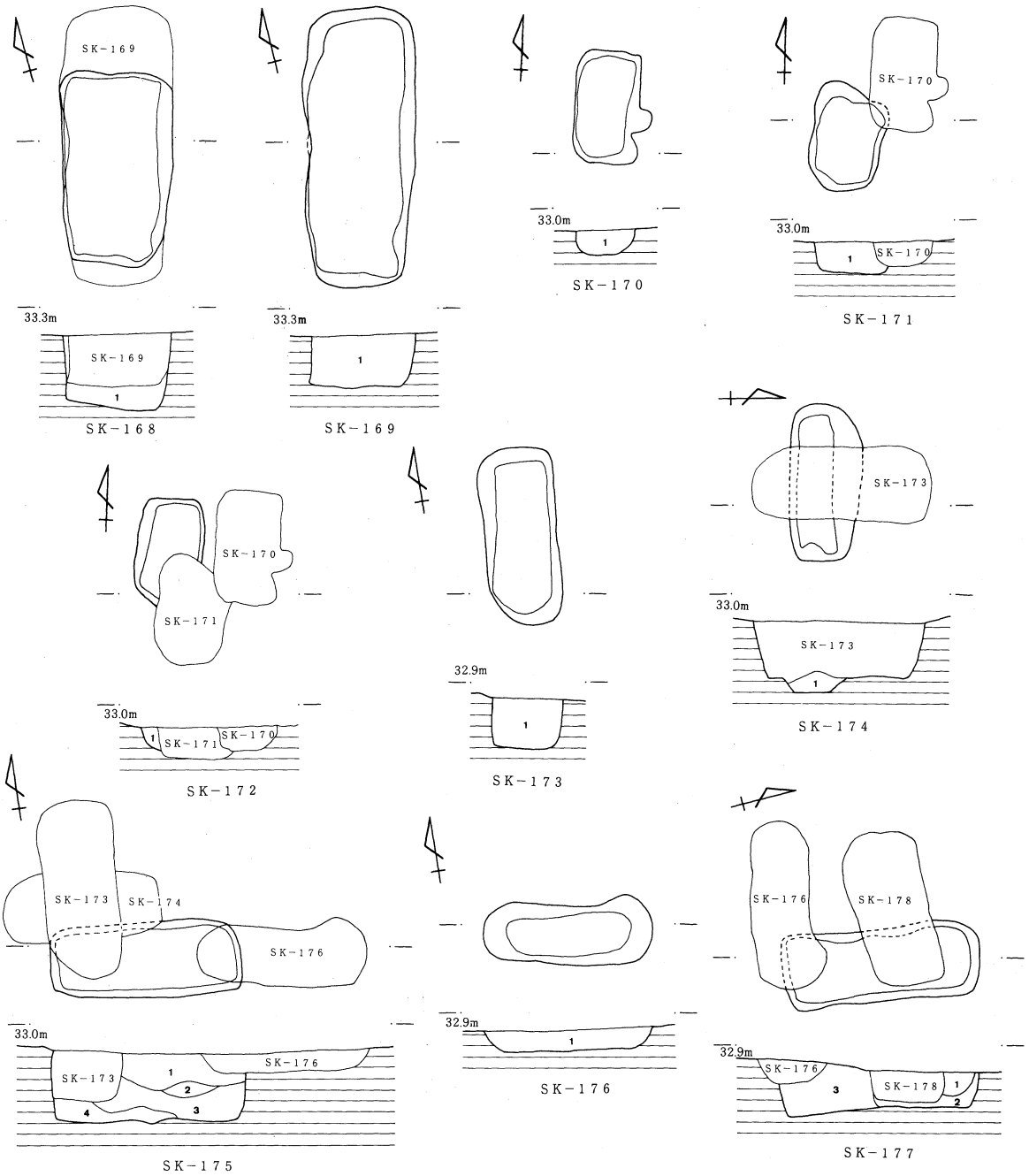
平面形は隅丸の長方形を呈し、規模は長軸265cm、短軸72～88cm、深さ16cm程である。長軸方向は、Ｎ－14°－Ｅを示す。壁は60～65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子・黒色土粒子を含む暗褐色土の2層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－102

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸112cm、短軸90cm、深さ21cm程である。長軸方向は、Ｎ－3°－Ｗを



土層説明

ＳＫ－１６８
1　褐色土　　ローム粒子・ロームブロック少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１６９
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量・炭化物微量含み、しまりあり。

ＳＫ－１７０
1　褐色土　　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりあり。

ＳＫ－１７１
1　褐色土　　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１７２
1　褐色土　　ローム土多量・ローム粒子少量含み、しまりなし。

ＳＫ－１７３
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりなし。

ＳＫ－１７４
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子多量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－１７５
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりなし。
2　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりなし。
3　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
4　明褐色土　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－１７６
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子多量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－１７７
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりなし。
2　褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりなし。
3　褐色土　　ローム粒子少量含み、しまりなし。

第60図　横倉遺跡土坑実測図（11）

示す。壁は70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は凹凸が見られ、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子・黒色土を含む2層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－104

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸76cm、短軸68cm、深さ13cm程である。長軸方向は、Ｎ－1°－Ｅを示す。壁は40～55°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面はわずかに凹凸が見られ、壁との境は明瞭ではない。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む2層である。

ＳＫ－105

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形はホームベース状の不整形を呈し、規模は南北62cm、東西52cm、深さ22cm程を測る。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む2層である。

ＳＫ－106

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径70cm程の不整円形を呈し、深さは23cm程を測る。壁は60～65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は凹凸が見られるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む暗褐色土の1層である。

ＳＫ－107

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形はホームベース状の不整形を呈し、径は55～65cm、深さは17cm程を測る。壁は60～70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は西側が低くなっており、東壁からそこに向かって緩やかに傾斜している。壁との境は、西側でのみ明瞭である。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む2層である。

ＳＫ－108

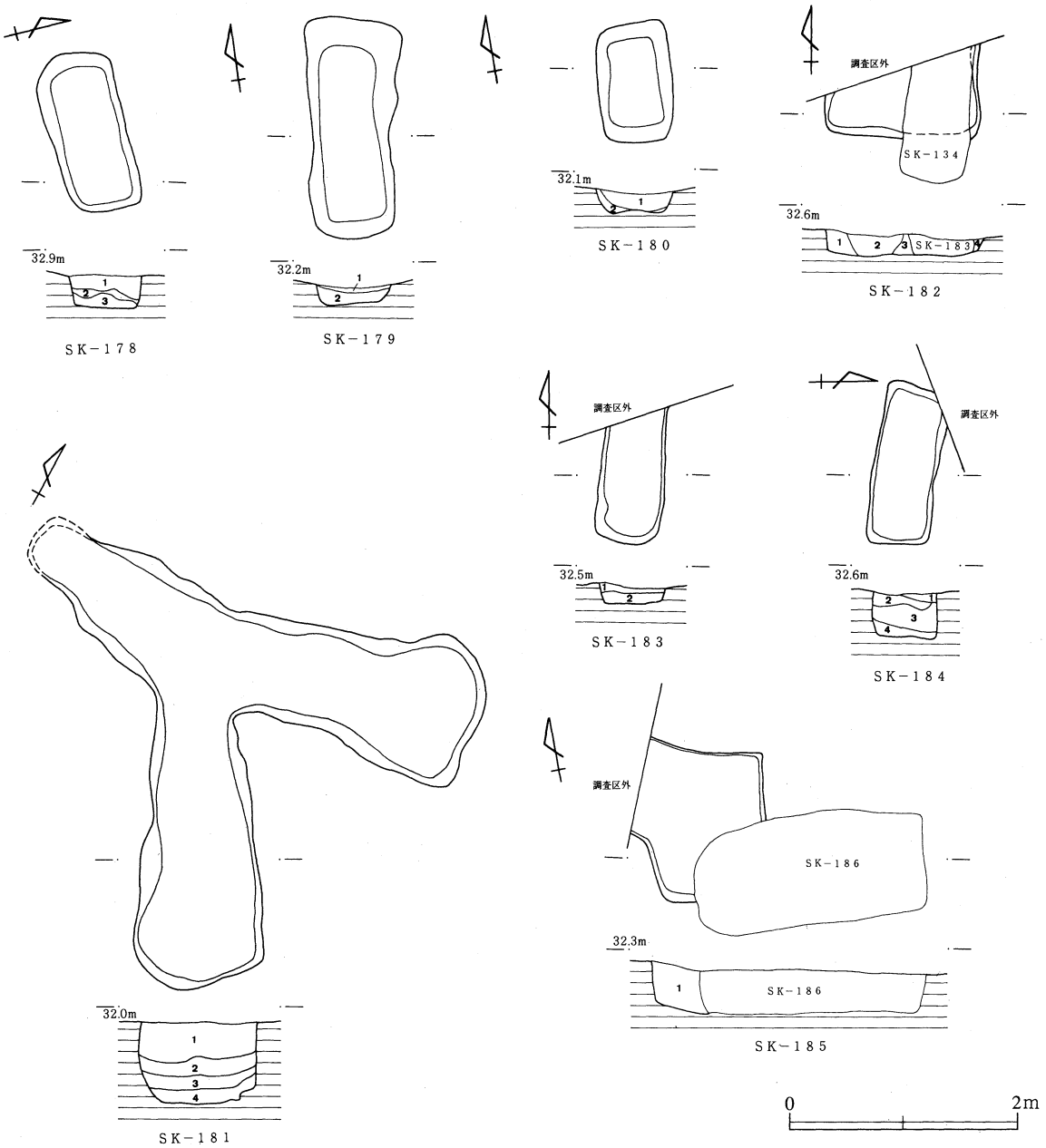
調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整な隅丸三角形を呈し、径は70cm、深さは14cm程を測る。壁は30～40°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は凹凸が見られ、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ローム粒子・黒色土粒子を含む暗褐色土の1層である。

ＳＫ－109

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。



土層説明

ＳＫ－１７８
1　褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりなし。
2　暗褐色土　ローム粒子少量含み、しまりなし。
3　明褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量含み、しまりなし。

ＳＫ－１７９
1　黒色土　ローム粒子微量含み、しまりなし。
2　黒色土　ローム粒子少量含み、しまりなし。

ＳＫ－１８０
1　黒色土　ローム粒子微量含み、しまりなし。
2　褐色土　ややしまりあり。

ＳＫ－１８１
1　明褐色土　褐色土との混合土。
2　褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりなし。
3　褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック微量含み、しまりなし。
4　褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量・炭化物微量含み、しまりなし。

ＳＫ－１８２
1　暗褐色土　ローム粒子少量含み、しまりなし。
2　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック微量含み、ややしまりあり。
3　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりあり。
4　褐色土　黒色土ブロック微量含み、しまりあり。

ＳＫ－１８３
1　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック微量含み、しまりあり。
2　褐色土　ローム粒子・ロームブロック微量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－１８４
1　褐色土　ローム粒子多量含み、ややしまりあり。
2　黒色土　ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりなし。
3　褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりなし。
4　暗褐色土　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりなし。

ＳＫ－１８５
1　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。

第61図　横倉遺跡土坑実測図（12）

平面形は不整な長方形を呈し、規模は長軸127cm、短軸60～92cm、深さ14cm程である。長軸方向は、Ｎ－0°を示す。壁は25～60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は丸味を帯びており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－110

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、ＳＫ－111と接している。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸95cm、短軸67cm、深さ18cm程である。長軸方向は、Ｎ－60°－Ｅを示す。壁は45～55°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は中央が窪んでおり、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ローム粒子を含む2層に分層できる。

ＳＫ－111

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、ＳＫ－110と接する。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸158cm、短軸82cm、深さ20cm程である。長軸方向は、Ｎ－5°－Ｅを示す。壁は60～70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦とはいえないが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む2層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－112

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径62cm程の不整円形で、深さは24cm程を測る。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は中央付近が幾分高くなっているが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム粒子含む4層に分別される。

ＳＫ－113

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸83cm、短軸68cm、深さ24cm程である。長軸方向は、Ｎ－20°－Ｅを示す。壁は40°程の傾斜で立ち上がり、上端付近ではほぼ垂直気味になる。断面形は逆台形を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

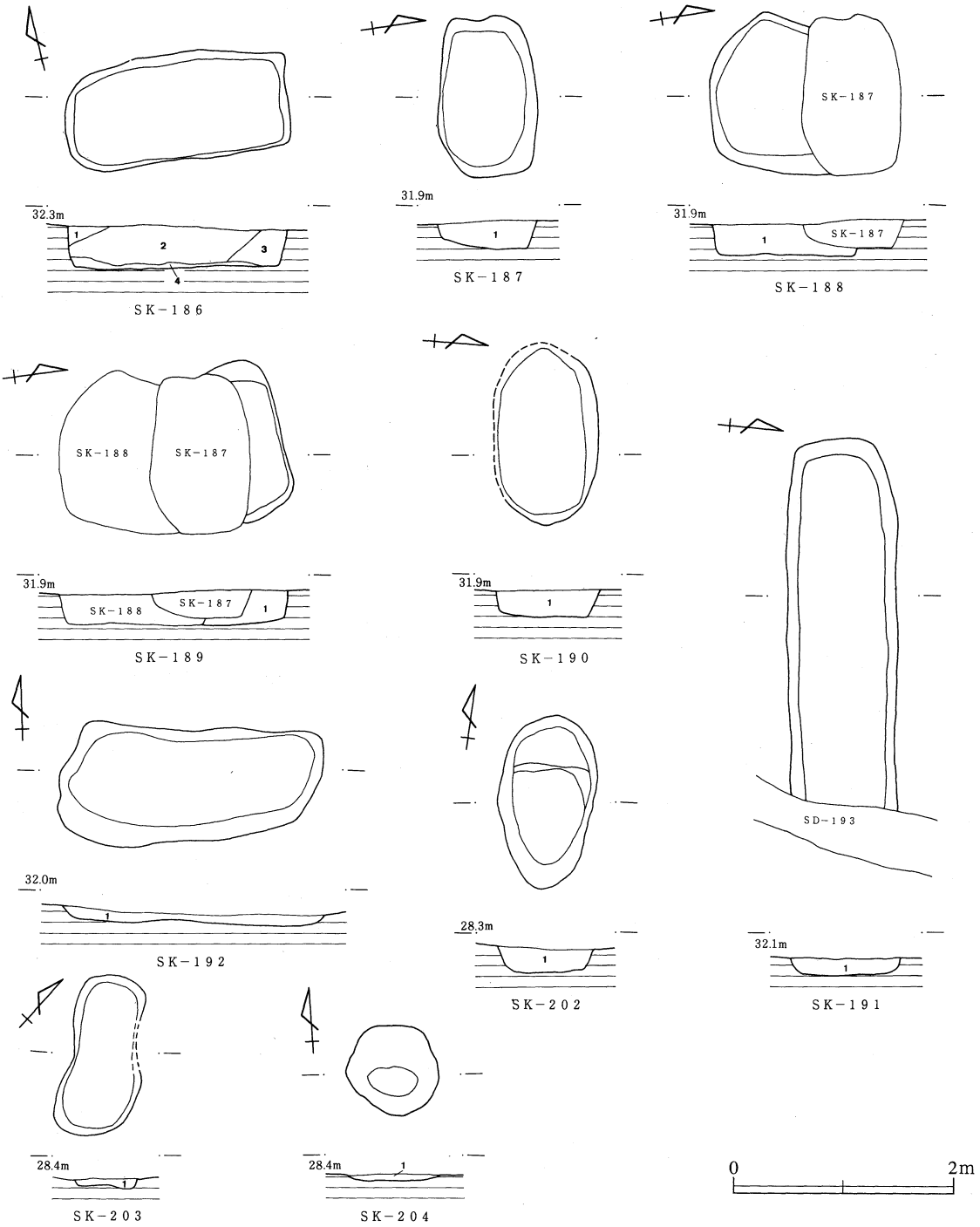
埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含3層に分別でき、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－114

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整な長方形を呈し、北西コーナーは鋭角に折れている。東辺以外は、端正に掘られている。規模は長軸240cm、短軸112～132cm、深さ13cm程である。長軸方向は、Ｎ－6°－Ｗを示す。壁は30～55°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であるが、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ローム粒子を含む黒色土の1層である。



土層説明

ＳＫ－１８６
1　暗褐色土　ローム粒子多量含み、ややしまりあり。
2　黄褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量含み、しまりなし。
3　黄褐色土　ローム粒子・黒色土粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりなし。
4　黒色土　ローム粒子多量含み、しまりなし。

ＳＫ－１８７
1　暗褐色土　ローム粒子少量・炭化物微量含み、しまりあり。

ＳＫ－１８８
1　褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１８９
1　褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１９０
1　褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。

ＳＫ－１９１
1　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量・褐色土微量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－１９２
1　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量・褐色土微量含み、しまりあり。

ＳＫ－２０２
1　褐色土　ローム粒子少量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－２０３
1　暗黄褐色土　ローム土多量・ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－２０４
1　褐色土　ローム土多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。

第62図　横倉遺跡土坑実測図（13）

ＳＫ－115

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。ＳＢ－057と重複しているが、新旧関係は明らかではない。

平面形は長方形を呈し、端正に掘られている。規模は長軸138cm、短軸68～70cm、深さ39cm程である。長軸方向は、Ｎ－52°－Ｗを示す。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む黒褐色土の3層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－116

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は径126～136cm程の不整円形を呈し、深さは22～54cm程を測る。壁は50～65°程の傾斜で立ち上がる。底面は中央よりやや北西寄りの位置で、長径32cm、短径23cmの範囲で30cm程の掘り込みがある。

埋土は、ロームブロックを含む4層に分別され、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－117

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－118よりも新しい。

平面形は、南辺と東辺が端正に掘られている長方形で、規模は長軸144cm、短軸70～85cm、深さ32cm程である。長軸方向は、Ｎ－68°－Ｗを示す。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状である。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子・黒色土粒子を含む2層に分別され、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－118

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－117よりも古い。

平面形は遺存する範囲で判断すると、楕円形を呈するものと考えられる。規模は長軸88cm以上、短軸72cm以上、深さ33cm程である。長軸方向は、Ｎ－22°－Ｗを示す。壁は35°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

ＳＫ－119

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

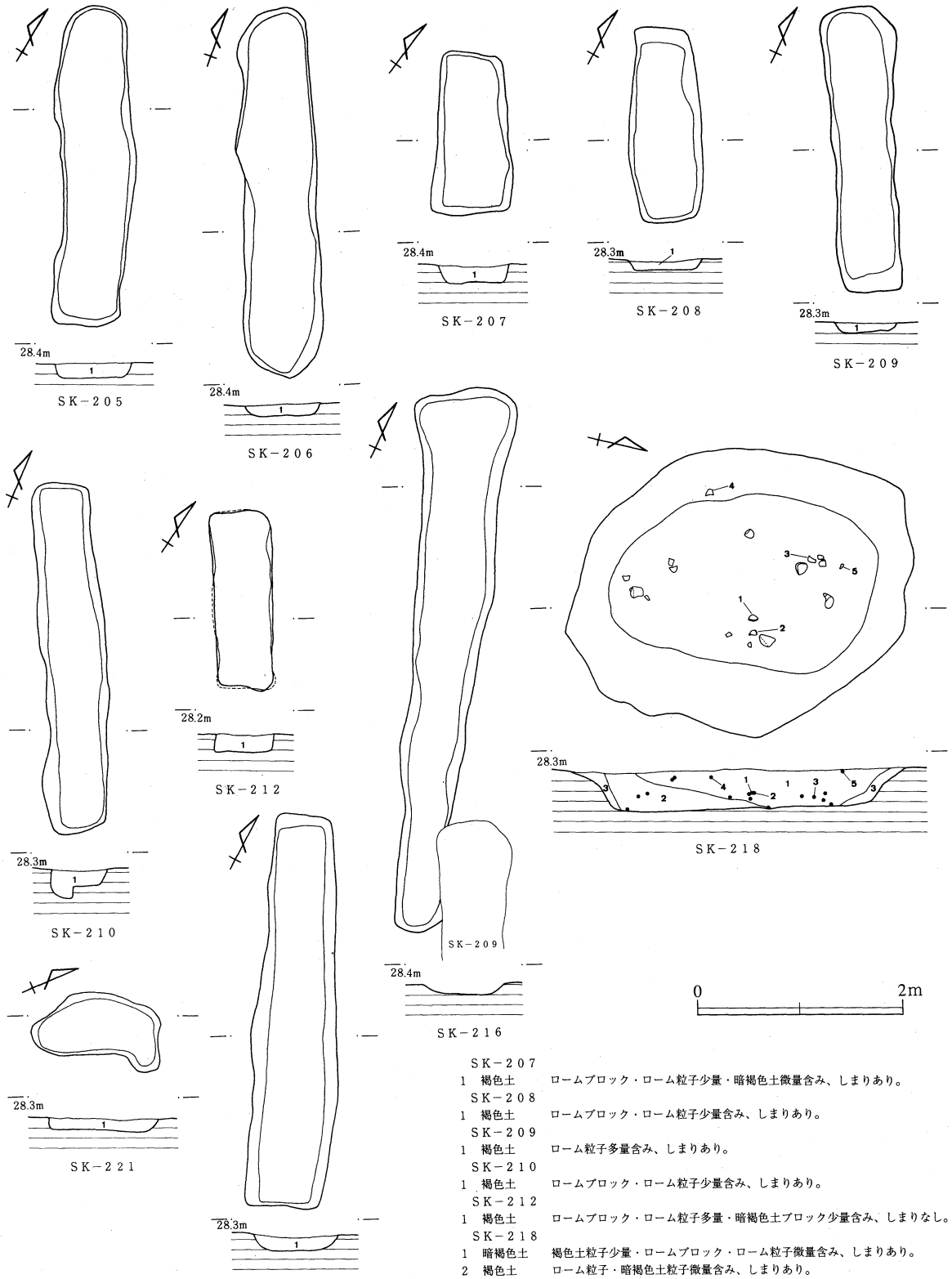
平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸190cm、短軸133cm、深さ33cm程である。長軸方向は、Ｎ－19°－Ｅを示す。壁は40～55°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状である。底面は凹凸があるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子・黒色土粒子を含む2層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－120

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は羽子板状の不整形を呈し、規模は長軸132cm、短軸37～82cm、深さ16cm程である。長軸方向



土層説明

SK－205
1　褐色土　　ローム粒子多量・ロームブロック微量含み、しまりあり。

SK－206
1　褐色土　　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりあり。

SK－207
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子少量・暗褐色土微量含み、しまりあり。

SK－208
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

SK－209
1　褐色土　　ローム粒子多量含み、しまりあり。

SK－210
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。

SK－212
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子多量・暗褐色土ブロック少量含み、しまりなし。

SK－218
1　暗褐色土　　褐色土粒子少量・ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりあり。
2　褐色土　　ローム粒子・暗褐色土粒子微量含み、しまりあり。
3　暗黄褐色土　ローム土多量・ロームブロック・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。

SK－221
1　暗黄褐色土　ローマ粒子・暗灰色土ブロック・暗褐色土少量含み、しまりあり。

SK－222
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子少量・暗褐色土微量含み、しまりあり。

第63図　横倉遺跡土坑実測図（14）

は、Ｎ－16°－Ｅを示す。南壁は30°程、北壁は63°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面はわずかに凹凸が見られ、北側でのみ壁との境が明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－121

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－122よりも古い。

平面形は、遺存する範囲で判断すると長方形を呈し、規模は長軸112cm、短軸77cm以上、深さ15cm程である。長軸方向は、Ｎ－8°－Ｅを示す。壁は50°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であるが、壁との境は明瞭ではない。

埋土は、ローム粒子を含む2層に分別される。

ＳＫ－122

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－121よりも新しい。

平面形は不整な隅丸長方形を呈し、規模は長軸128cm、短軸70～80cm、深さ25cm程である。長軸方向は、Ｎ－16°－Ｅを示す。壁は65～80°程の傾斜で立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は西壁際が最も深く、東壁に向かって緩やかに上っている。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗黄褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－125

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸96cm、短軸58cm、深さ32cm程である。長軸方向は、Ｎ－86°－Ｅを示す。西壁は35°程、東壁は70°程の傾斜で立ち上がる。底面は東壁下に向かって緩やかに傾斜しており、東壁のみ境が明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－134

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－135よりも古い。

平面形は遺存する範囲で判断すると、楕円形を呈するものと考えられる。規模は長軸131cm、短軸103cm以上、深さ40cm程である。長軸方向は、Ｎ－86°－Ｅを示す。壁は53°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は中央が10cm程窪んでおり、壁との境ははっきりしない。

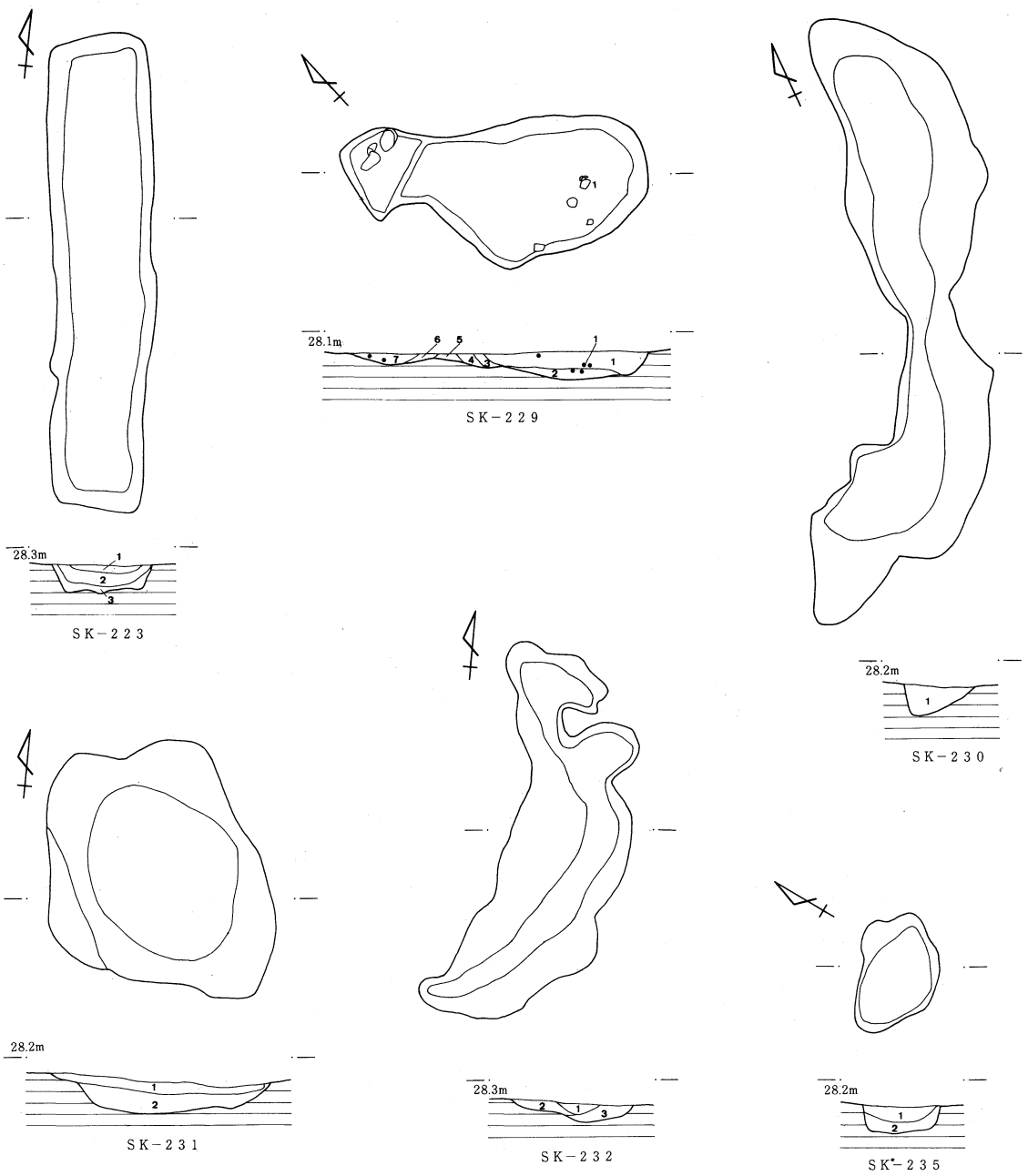
埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－135

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－134よりも新しい。

平面形は隅丸の台形状で、規模は上底65cm、下底32cm、高さ55cm程である。深さは12cm程を測る。壁は35～55°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は平坦であるが、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。



土層説明

ＳＫ－２２３

1　暗褐色土　ローム粒子微量含み、ややしまりあり。
2　暗褐色土　ローム粒子少量含み、ややしまりあり。
3　褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－２２９

1　黒褐色土　ローム粒子・灰褐色粘土ブロック少量含み、ややしまりあり。
2　褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック・粘土粒子少量含み、しまりなし。
3　褐色土　ローム粒子・粘土粒子少量含み、ややしまりあり。
4　明褐色土　ローム粒子・粘土粒子多量含み、しまりあり。
5　褐色土　ローム粒子・粘土粒子少量含み、ややしまりあり。
6　灰褐色土　ローム粒子少量・粘土ブロック微量含み、しまりなし。
7　明褐色土　ローム粒子・焼土粒子多量・炭化物少量含み、しまりなし。

ＳＫ－２３０

1　褐色土　ローム粒子少量・酸化鉄微量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－２３１

1　褐色土　ローム粒子・ロームブロック少量含み、しまりあり。
2　明褐色土　ロームブロック多量・ローム粒子少量含み、ややしまりあり。

ＳＫ－２３２

1　褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。
2　明褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック少量含み、しまりあり。
3　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック微量含み、しまりあり。

ＳＫ－２３５

1　褐色土　ローム粒子微量含み、ややしまりあり。
2　明褐色土　ローム粒子多量含み、ややしまりあり。

第64図　横倉遺跡土坑実測図（15）

ＳＫ－136

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸103cm、短軸80cm、深さ26cm程である。長軸方向は、Ｎ－78°－Ｅを示す。壁は30～55°程の傾斜で立ち上がる。底面は丸底状であり、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－137

調査区の南端にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は、西側が直線的に掘られている径44cm程の円形である。深さは10cm程を測る。壁は40°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は幾分丸味を帯びており、壁との境は不明瞭である。

埋土は、ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－139

調査区の南端にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は径50cm程の不整円形を呈し、深さは9cmを測る。壁は40°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は丸味を帯びており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－141

調査区の南端にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整な楕円形を呈し、規模は長軸116cm、短軸85cm、深さ22cm程である。長軸方向は、Ｎ－49°－Ｗを示す。西壁は20°程、東壁は45°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は丸味を帯びており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗黄褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－142

調査区の南端にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は径110cm程の不整な円形を呈し、深さは13cmを測る。壁は25～50°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は中央がわずかに高くなっており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗黄褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－143

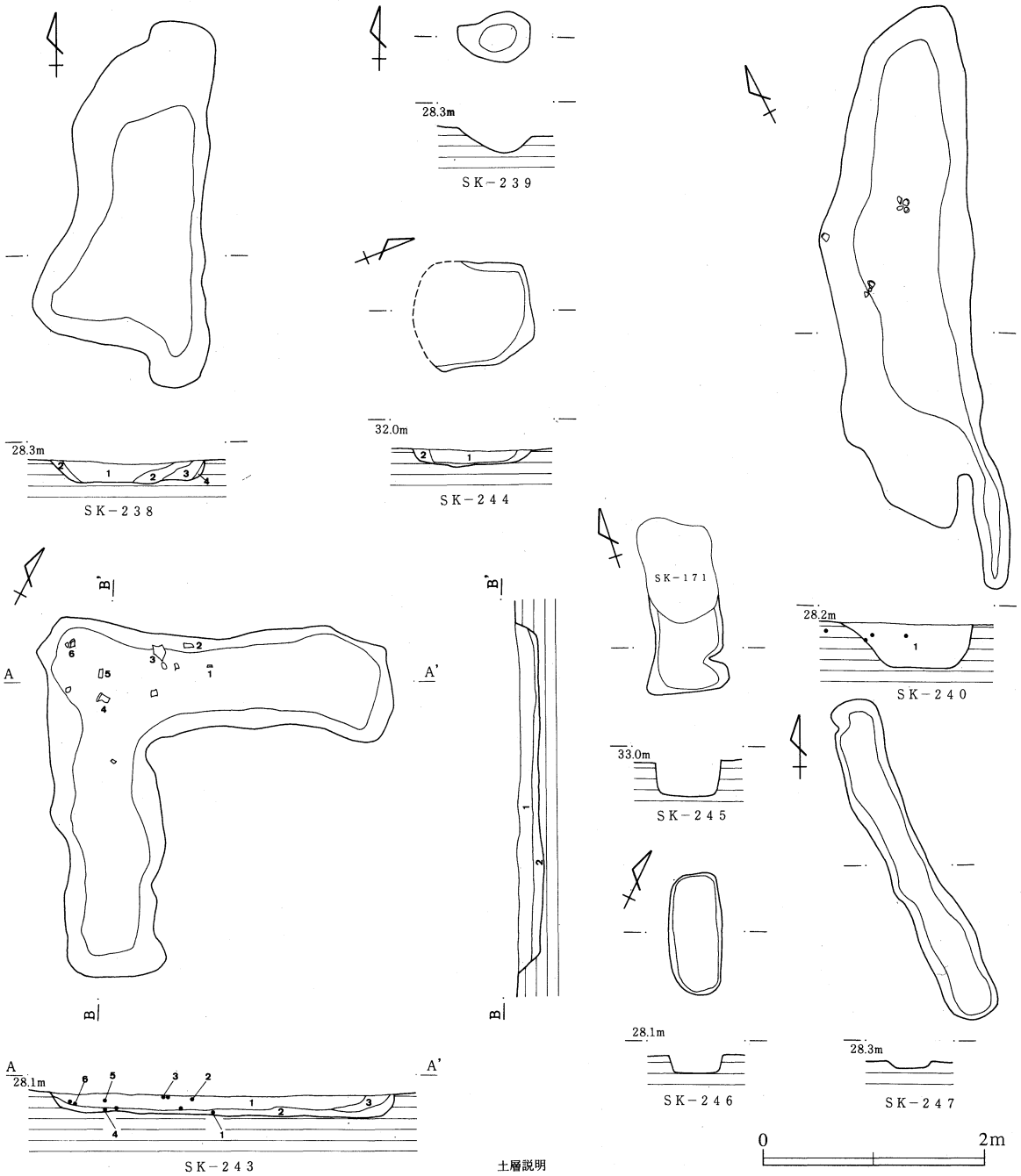
調査区の南端にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としてはＳＫ－144よりも古い。

平面形は径135cm程の円形を呈すものと考えられ、深さは10～56cm程を測る。壁・底面は不規則である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－144

調査区の南端にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－143よりも新しい。



土層説明

ＳＫ－２３８
1　暗褐色土　ローム粒子微量含み、しまりあり。
2　明褐色土　粘土ブロック少量・粘土粒子微量含み、しまりあり。
3　暗褐色土　粘土粒子微量含み、しまりあり。
4　灰褐色土　粘土ブロック多量・褐色土少量含み、しまりあり。

ＳＫ－２４０
1　黒色土　ローム粒子少量・酸化鉄少量含み、しまりあり。

ＳＫ－２４３
1　暗褐色土　ローム粒子多量・ロームブロック微量含み、しまりなし。
2　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック・暗褐色土ブロック少量含み、しまりあり。
3　褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。

ＳＫ－２４４
1　黄褐色土　ローム土多量・白色粘土少量含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含む。

ＳＫ－２４９
1　褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量・暗褐色土微量含み、ややしまりあり。

第65図　横倉遺跡土坑実測図（16）

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸50cm、深さ16cm程である。長軸方向は、Ｎ－7°－Ｅを示す。壁は45～60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は半円状を呈する。底面は丸底であり、壁との境は不明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－148

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は隅丸長方形を呈する。上端ラインに比して、下端は端正に掘られている。規模は長軸190cm、短軸107cm、深さ80cm程である。長軸方向は、Ｎ－72°－Ｗを示す。東壁は下半部がオーバーハングしているが、西壁は垂直気味に立ち上がり、南北壁は上端付近で外傾して立ち上がっている。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗褐色土の1層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－149

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整な楕円形を呈し、規模は長軸138cm、短軸92cm、深さ20cm程である。長軸方向は、Ｎ－64°－Ｗを示す。壁は65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は概ね平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－150

調査区の中央にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸116cm、短軸80cm、深さ128cm程である。長軸方向は、Ｎ－13°－Ｅを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

ＳＫ－151

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸100cm、短軸62cm、深さ24cm程である。長軸方向は、Ｎ－88°－Ｗを示す。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

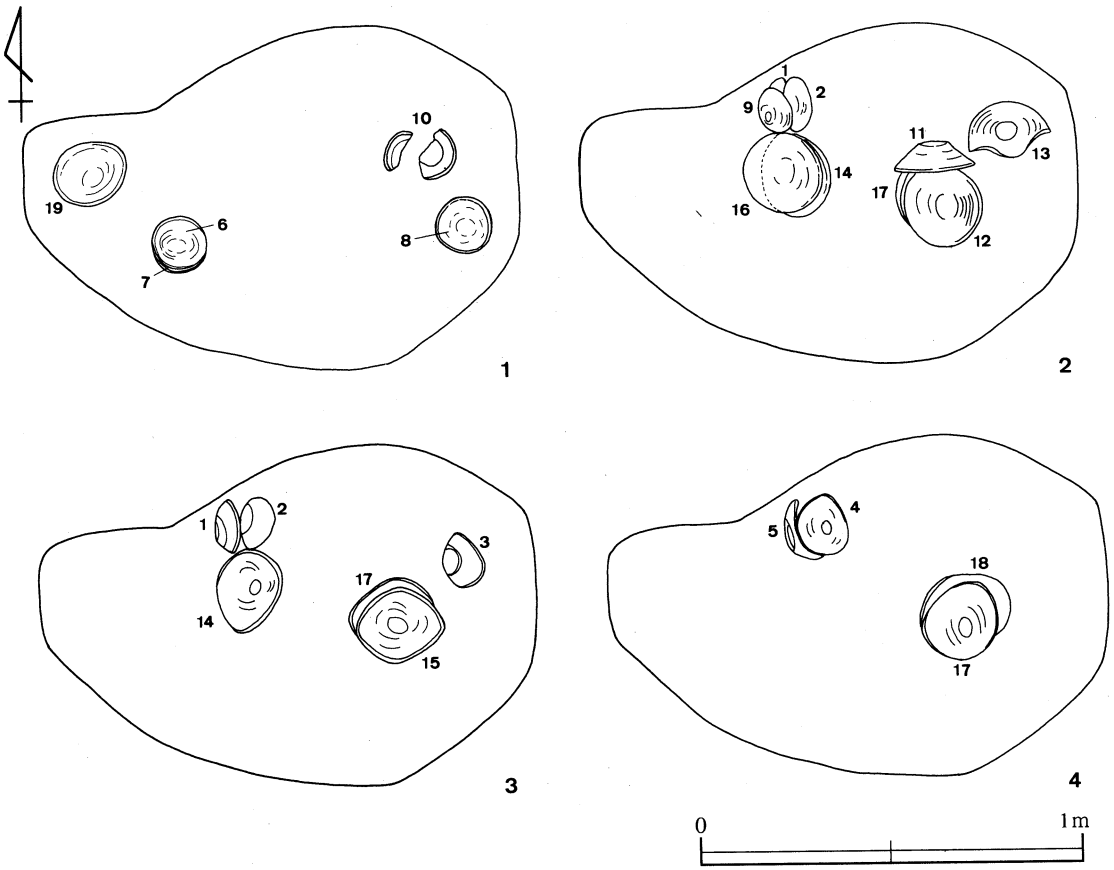
埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－152

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸97cm、短軸62cm、深さ28cm程である。長軸方向は、Ｎ－81°－Ｗを示す。壁は60～80°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。



第66図　横倉遺跡ＳＫ－239遺物出土状況図

ＳＫ－154

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸128cm、短軸60cm、深さ30cm程である。長軸方向は、Ｎ－10°－Ｅを示す。壁は75°程の傾斜で立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は西壁下が深くなっているが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む2層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－155

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸100cm、短軸68cm、深さ27cm程である。長軸方向は、Ｎ－30°－Ｅを示す。西壁は70°程、東壁は85°程の傾斜で立ち上がり、上端付近では段をもち確認面に至る。断面形は擂鉢状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－156

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸123cm、短軸73cm、深さ21cm程である。長軸方向は、Ｎ－4°－Ｅ

を示す。壁は55°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は幾分丸味を帯びており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－157

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－158よりも古い。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸155cm、短軸63cm、深さ46cm程である。長軸方向は、Ｎ－0°を示す。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－158

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－157よりも新しい。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸182cm、短軸64cm、深さ20cm程である。長軸方向は、Ｎ－86°－Ｗを示す。壁は40～65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は丸味を帯びており、南側でのみ壁との境が明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－159

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸184cm、短軸74cm、深さ56cm程である。長軸方向は、Ｎ－86°－Ｗを示す。壁は垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－160

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－161よりも古い。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸162cm、短軸60～65cm、深さ80cm程である。長軸方向は、Ｎ－82°－Ｗを示す。壁は75～80°程の傾斜で立ち上がり、断面形は円筒状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む7層に分別され、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－161

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－160よりも新しい。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸50cm、短軸38cm、深さ27cm程である。長軸方向は、Ｎ－11°－Ｅを示す。壁は70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はやや丸味を帯びており、壁との境は明瞭ではない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－162

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸286cm、短軸112cm、深さ22cm程である。長軸方向は、Ｎ－54°－Ｗを示す。壁は60～70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－163

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸152cm、短軸74cm、深さ56cm程である。長軸方向は、Ｎ－0°を示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む4層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－164

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－165よりも新しい。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸190cm、短軸74cm、深さ63cm程である。長軸方向は、Ｎ－22°－Ｅを示す。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－165

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－164よりも古い。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸200cm、短軸60cm以上、深さは最深部で42cm程である。長軸方向は、Ｎ－25°－Ｅを示す。壁は40°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は中央部と北東辺から3分の1程の位置に段がある。

埋土は、黄褐色土の1層である。

ＳＫ－166

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－167よりも新しい。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸228cm、短軸80～90cm、深さ33cm程である。長軸方向は、Ｎ－23°－Ｅを示す。壁ほぼ垂直に立ち上がり、断面形は浅鉢状を呈する。底面は丸味を帯びており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－167

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－166よりも古い。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸210cm以上、短軸80cm以上、深さ48cm程である。長軸方向は、Ｎ

－18°－Ｅを示す。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－168

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－169よりも古い。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸180cm、短軸104cm、深さ70cm程である。長軸方向は、Ｎ－15°－Ｅを示す。西壁はオーバーハング気味に内傾して立ち上がり、東壁は80°程の傾斜で立つ。断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－169

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－168よりも新しい。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸256cm、短軸105cm、深さ48cm程である。長軸方向は、Ｎ－15°－Ｅを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－170

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－171よりも新しい。

平面形は不整な長方形を呈し、規模は長軸105cm、短軸60cm、深さ24cm程である。長軸方向は、Ｎ－2°－Ｅを示す。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は浅鉢状を呈する。底面は丸味を帯びており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－171

調査区の南西部にあり、台地縁辺部のに位置する。重複関係としては、ＳＫ－170よりも古く、ＳＫ－172よりも新しい。

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸100cm、短軸65cm、深さ30cm程である。長軸方向は、Ｎ－8°－Ｅを示す。壁は80°程の傾斜で立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

出土した遺物のうち、16世紀に遡るとみられる瀬戸美濃天目茶碗1点と不明鉄製品2点を図示した。

ＳＫ－172

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－171よりも古い。

平面形は不整な長方形を呈し、規模は長軸100cm以上、短軸62cm、深さ23cm程である。長軸方向は、Ｎ－4°－Ｅを示す。壁は60°程の傾斜で立ち上がる。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、褐色土の1層である。

ＳＫ－173

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－174・ＳＫ－175よりも新しい。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸160cm、短軸70cm、深さ48cm程である。長軸方向は、Ｎ－5°－Ｅを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－174

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－173よりも古く、ＳＫ－175よりも新しい。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸144cm、短軸68cm、深さ65cm程である。長軸方向は、Ｎ－86°－Ｗを示す。壁は遺存する範囲で判断すると、40～50°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈するものと考えられる。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－175

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－173・ＳＫ－174・ＳＫ－176よりも古い。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸174cm以上、短軸70cm、深さ63cm程である。長軸方向は、Ｎ－83°－Ｗを示す。壁は垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面はやや凹凸が見られるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む4層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－176

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－175・ＳＫ－177よりも新しい。

平面形は隅丸長方形を呈するものと考えられ、規模は長軸155cm、短軸54～62cm、深さ21cm程である。長軸方向は、Ｎ－82°－Ｗを示す。壁は45～60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は小さな凹凸が見られ、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－177

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－176・ＳＫ－178よりも古い。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸180cm、短軸66cm、深さ50cm程である。長軸方向は、Ｎ－8°－Ｅを示す。壁は65～75°程の傾斜で立ち上がる。底面は南壁際が深くなっており、中央から傾斜している。壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－178

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－177よりも新しい。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸146cm、短軸70cm、深さ30cm程である。長軸方向は、Ｎ－0°を示す。壁は80°程の傾斜で立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－179

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸200cm、短軸68～86cm、深さ18cm程である。長軸方向は、Ｎ－5°－Ｅを示す。壁は55～75°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、黒色土の2層である。

ＳＫ－180

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸108cm、短軸68cm、深さ23cm程である。長軸方向は、Ｎ－8°－Ｅを示す。壁は65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は中央が浅く、壁際が深くなっており、壁との境ははっきりしない。

埋土は2層に分層される。

ＳＫ－181

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は、東西410cm程、北西－南東350cm程で東に開いたＹ字状を呈し、深さは74cm程を測る。壁は垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の3層と混合土1層の4層からなる。

出土した遺物のうち、焙烙1点、不明鉄製品1点を図示した。

ＳＫ－182

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－183よりも古い。

調査区際にあるため未調査の範囲もあるが、平面形は不整な長方形を呈するものと考えられ、長軸140cm、短軸90cm、深さ22cm程を測る。長軸方向は、Ｎ－87°－Ｗを示す。壁は70～85°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗褐色土の3層と黒色土ブロックを含む1層に分別される。

ＳＫ－183

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－182よりも新しい。

調査区際にあるため未調査の範囲もあるが、平面形は隅丸長方形を呈すものと考えられる。規模は長軸120cm以上、短軸54～60cm、深さ20cm程である。長軸方向は、Ｎ－6°－Ｅを示す。壁は70°程の傾斜で立ち

上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む2層である。

ＳＫ－184

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸146cm、短軸57cm、深さ42cm程である。長軸方向は、Ｎ－80°－Ｗを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面はほぼ平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含み、4層に分けられる。人為埋土の可能性がある。

ＳＫ－185

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－186よりも古い。

調査区際にあるため未調査の範囲もあるが、平面形は不整な方形を呈する。規模は南北130～140cm、東西100～120cm以上、深さ48cm程を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は、壁際よりも中央が低くなるものと考えられる。壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗褐色土の1層である。

ＳＫ－186

調査区の南西部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－185よりも新しい。

平面形は長方形を呈し、西側のコーナーは丸味を帯びている。規模は長軸211cm、短軸100cm、深さ40cm程である。長軸方向は、Ｎ－86°－Ｗを示す。壁は75～80°程の傾斜で立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、底面付近に黒色土が層状に堆積し、その上にロームブロック・ローム粒子を含んだ黄褐色土が埋まっている。人為埋土の可能性がある。

ＳＫ－187

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－188・ＳＫ－189・ＳＤ－193よりも新しい。

平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸150cm、短軸94cm、深さ26cm程である。長軸方向は、Ｎ－85°－Ｗを示す。壁は65～70°程の傾斜で立ち上がる。底面は北半は平坦であるが、南半は壁際から中央にかけて、緩やかに下っている。壁との境は明瞭である。

埋土は、暗褐色土の1層である。

ＳＫ－188

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する遺構としては、ＳＫ－187よりも古く、ＳＫ－189・ＳＤ－193よりも新しい。

平面形は遺存する範囲で判断すると、南辺が胴張り気味に掘られ、一辺150cm程の不整方形を呈するものと考えられる。深さは32cm程を測る。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－189

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－187・ＳＫ－188より古く、ＳＤ－193より新しい。

平面形は遺存する範囲で判断すると、隅丸長方形を呈する。規模は長軸150cm、短軸56cm以上、深さ32cm程である。長軸方向は、Ｎ－84°－Ｅを示す。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－190

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＤ－193よりも新しい。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸170cm、短軸98cm、深さ26cm程である。長軸方向は、Ｎ－82°－Ｅを示す。壁は60～75°程の傾斜で立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

出土した遺物のうち、内耳鍋1点を図示した。

ＳＫ－191

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＤ－193よりも古い。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸346cm以上、短軸100cm、深さ16cm程である。長軸方向は、Ｎ－82°－Ｅを示す。壁は45°程の傾斜で立ち上がった後、直角気味になって確認面に至る。断面形は皿状を呈する。底面は平坦であるが、壁との境は丸味をもっている。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗褐色土の1層である。

ＳＫ－192

調査区の南部にあり、台地の斜面に位置する。重複する他の遺構はないが、ＳＤ－193と接している。

平面形は不整な長方形を呈し、規模は長軸247cm、短軸118cm、深さ12cm程である。長軸方向は、Ｎ－87°－Ｅを示す。壁は35°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は凹凸があり、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗褐色土の1層である。

ＳＫ－202

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は楕円形を呈し、規模は長軸162cm、短軸93cm、深さ24cm程である。長軸方向は、Ｎ－8°－Ｗを示す。壁は65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は、北から3分の1程の位置で段差があり、北側が12cm程高い。

埋土は、ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－203

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は、中央がくびれた隅丸長方形を呈し、規模は長軸153cm、短軸60～73cm、深さ10cm程である。長軸方向は、Ｎ－36°－Ｗを示す。壁は70°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は、北東壁下10cm程の部分が4cm程低くなっている。壁との境は明瞭である。

埋土は、暗黄褐色土の1層である。

ＳＫ－204

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は、径82cm程の不整円形を呈し、深さは7cm程を測る。壁は10～30°程の緩い傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であるが、壁との境ははっきりしない。

埋土は、褐色土の1層である。

ＳＫ－205

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は、北西方向の短辺が胴張り気味の長方形であり、規模は長軸317cm、短軸76cm、深さ16cm程である。長軸方向は、Ｎ－28°－Ｗを示す。壁は60～80°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、褐色土の1層である。

ＳＫ－206

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は、短辺胴張り気味の長方形を呈し、規模は長軸365cm、短軸80cm、深さ12cm程である。長軸方向は、Ｎ－22°－Ｗを示す。壁は50～65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は僅かに凹凸が見られ、東壁のみ境が明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－207

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸162cm、短軸60～80cm、深さ20cm程である。長軸方向は、Ｎ－35°－Ｗを示す。壁は70～75°程の傾斜で立ち上がり、断面形は浅鉢状を呈する。底面は、中央部分が僅かに高くなっており、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－208

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸195cm、短軸54～74cm、深さ11cm程である。長軸方向は、Ｎ－32°－

Ｗを示す。壁は50～60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ロームブロックを含む褐色土の1層である。

ＳＫ－209

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複関係としては、ＳＫ－216よりも新しい。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸282cm、短軸60～75cm、深さ11cm程である。長軸方向は、Ｎ－28°－Ｗを示す。壁は40～60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－210

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸348cm、短軸67cm、深さ28cm程である。長軸方向は、Ｎ－26°－Ｗを示す。東壁は65°程、西壁は40°程の傾斜で立ち上がった後に、直角気味に立ち上がる。底面は中央やや西寄りの位置に段があり、西側が10cm程低くなっている。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－212

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸179cm、短軸60cm、深さ18cm程である。長軸方向は、Ｎ－37°－Ｗを示す。壁は北東辺を除く3辺で僅かにオーバーハングして立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－216

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複関係としては、ＳＫ－209よりも古い。

平面形は不整な長方形を呈し、規模は長軸543cm、短軸45～100cm、深さ10cm程である。長軸方向は、Ｎ－21°－Ｗを示す。壁は25～35°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であるが、壁との境ははっきりしない。

ＳＫ－218

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整な楕円形を呈し、規模は長軸360cm、短軸290cm、深さ40cm程である。長軸方向は、Ｎ－37°－Ｗを示す。壁は50°程の傾斜で立ち上がり、上端付近で30°程の傾斜に変わる。断面形は浅鉢状を呈する。底面は概ね平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む3層に分別され、人為埋土と考えられる。

出土した遺物のうち、瀬戸灰釉瓶子2点、在地系の甕2点、鉄製品（釘）1点を図示した。

ＳＫ－221

調査区の最北端にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸130cm、短軸62cm、深さ14cm程である。長軸方向は、Ｎ－21°－Ｅを示す。壁は50～85°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、暗黄褐色土の1層である。

ＳＫ－222

調査区の北部にあり、低地に位置する。

平面形は長方形を呈し、北西辺に比べ、南東辺の方が20cm程長い。規模は長軸390cm、短軸55～85cm、深さ18cm程である。長軸方向は、Ｎ－27°－Ｗを示す。壁は40～50°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であるが、壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－223

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸427cm、短軸95cm、深さ26cm程である。長軸方向は、Ｎ－9°－Ｗを示す。壁は65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は中央が窪んでいるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、暗褐色土を主体とする3層である。

ＳＫ－229

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整な楕円形を呈している。規模は長軸274cm、短軸60～130cm、深さ26cm程である。長軸方向は、Ｎ－50°－Ｗを示す。壁は20～45°程の傾斜で立ち上がる。底面は、北西辺より60cm程の位置に段があり、平坦ではない。

埋土は、粘土粒子・粘土ブロックを多く含む7層に分層される。

出土した遺物のうち、内耳鍋1点を図示した。

ＳＫ－230

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整な弓状を呈し、規模は長軸536cm、短軸43～130cm、深さ28cm程である。長軸方向は、Ｎ－23°－Ｅを示す。西壁は80°程、東壁は30°程の傾斜で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

埋土は、鉄集積物を含む褐色土の1層である。

ＳＫ－231

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複関係としては、ＳＤ－234よりも新しい。

平面形は不整な楕円形を呈し、規模は長軸265cm、短軸192cm、深さ30cm程である。長軸方向は、Ｎ－50

°－Ｗを示す。東壁は35°程、西壁は50°程の傾斜で立ち上がった後、15°程の緩やかな傾斜になって確認面に至る。断面形は皿状を呈する。底面は凹凸が見られるが、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む2層であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ＳＫ－232

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整な弓状を呈し、規模は長軸338cm、短軸40～110cm、深さ17cm程である。長軸方向は、Ｎ－8°－Ｅを示す。壁は25～40°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は中央部が最も深く、西半部分は10cm程高いレベルで平坦面がある。壁との境ははっきりしない。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む3層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－235

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸113cm、短軸80cm、深さ26cm程である。長軸方向は、Ｎ－84°－Ｅを示す。壁は70～80程の傾斜で立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は僅かに凹凸が見られ、壁との境ははっきりしない。

埋土は、2層であり、レンズ状堆積と考えられる。

ＳＫ－238

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整形を呈し、規模は長軸336cm、短軸114～160cm、深さ22cm程である。長軸方向は、Ｎ－3°－Ｅを示す。西壁は45°程、東壁は40°程の傾斜で立ち上がった後、80°程の角度で確認面に至る。断面形は浅鉢状を呈する。底面は僅かに凹凸が見られ、壁との境ははっきりしない。

埋土は、粘土ブロック・粘土粒子を含む4層である。

ＳＫ－239

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形は不整な楕円形を呈し、規模は長軸68cm、短軸48cm、深さ24cm程である。長軸方向は、Ｎ－68°－Ｅを示す。壁は30～40°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は丸底であり、壁との境は不明瞭である。

遺物は、16世紀後半に遡るとみられるかわらけ19点が出土し、図示した。

ＳＫ－240

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は不整形を呈し、規模は長軸540cm、短軸27～140cm、深さ40cm程である。長軸方向は、Ｎ－18°－Ｅを示す。西壁は50°程の傾斜で立ち上がり、上端付近で30°程の緩やかな傾斜となり、東壁は50～80°程の傾斜で立ち上がる。断面形は擂鉢状を呈する。底面は平坦であるが、壁との境ははっきりしない。

埋土は、鉄集積物を含む1層である。

ＳＫ－243

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はない。

平面形はＶ字状を呈し、長辺320～330cm、短辺80～100cm、深さ18～24cm程を測る。壁は45～60°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む3層である。

出土した遺物のうち、常滑大甕3点（内1点は砥石に転用）、在地系の擂鉢1点、内耳鍋2点を図示した。

ＳＫ－244

調査区の中央部にあり、台地の斜面に位置する。重複関係としては、ＳＫ－047よりも新しい。

平面形は不整な方形を呈し、規模は一辺100cmほど、深さ17cmほどを測る。壁は35～65°程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は僅かに凹凸が見られ、壁との境ははっきりしない。

埋土は、白色粘土・ロームブロック・ローム粒子を含む2層であり、人為埋土と考えられる。

ＳＫ－245

調査区の南部にあり、台地の縁辺部に位置する。重複関係としては、ＳＫ－171よりも古い。

平面形は遺存する範囲で判断すると、不整な長方形を呈するものと考えられる。規模は長軸94cm以上、短軸60～74cm、深さ33cm程である。長軸方向は、Ｎ－15°－Ｅを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

ＳＫ－246

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

平面形は長方形を呈し、規模は長軸112cm、短軸52cm、深さ17cm程である。長軸方向は、Ｎ－28°－Ｗを示す。壁は75°程の傾斜で立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

ＳＫ－247

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複する他の遺構はないが、類似する遺構が近接する。

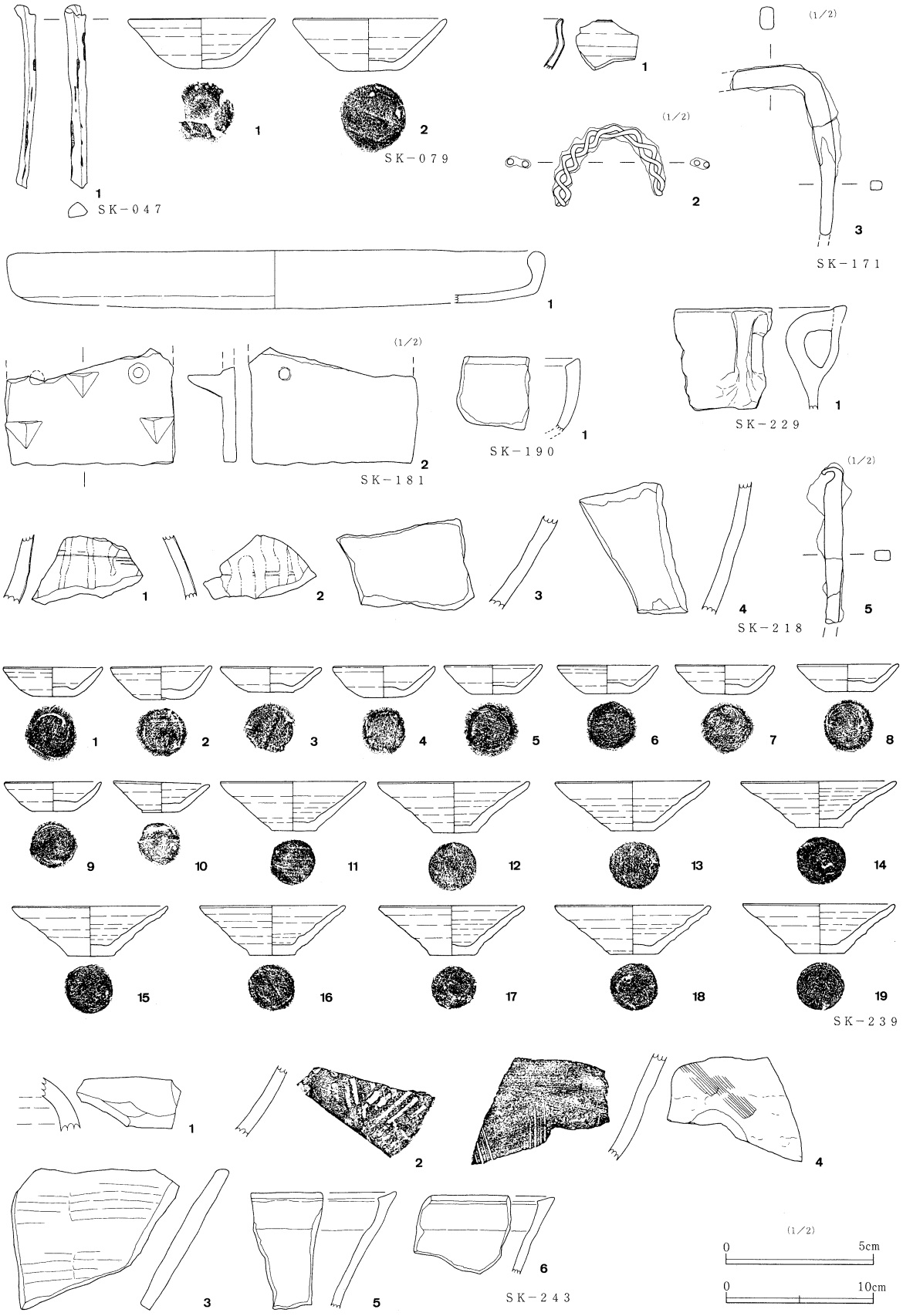
平面形は不整な長方形を呈し、規模は長軸318cm、短軸38～50cm、深さ7cm程である。長軸方向は、Ｎ－24°－Ｗを示す。壁は55°程の傾斜で立ち上がり、断面形は擂鉢状を呈する。底面は平坦であり、壁との境は明瞭である。

ＳＫ－249

調査区の北部にあり、低地に位置する。重複関係としては、ＳＤ－201よりも古い。

平面形は不整な楕円形を呈し、規模は長軸146cm、短軸126cm、深さ22cm程である。長軸方向は、Ｎ－15°－Ｅを示す。壁は25～35程の傾斜で立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面は丸味を帯びており、壁との境は不明瞭である。

埋土は、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土の1層である。



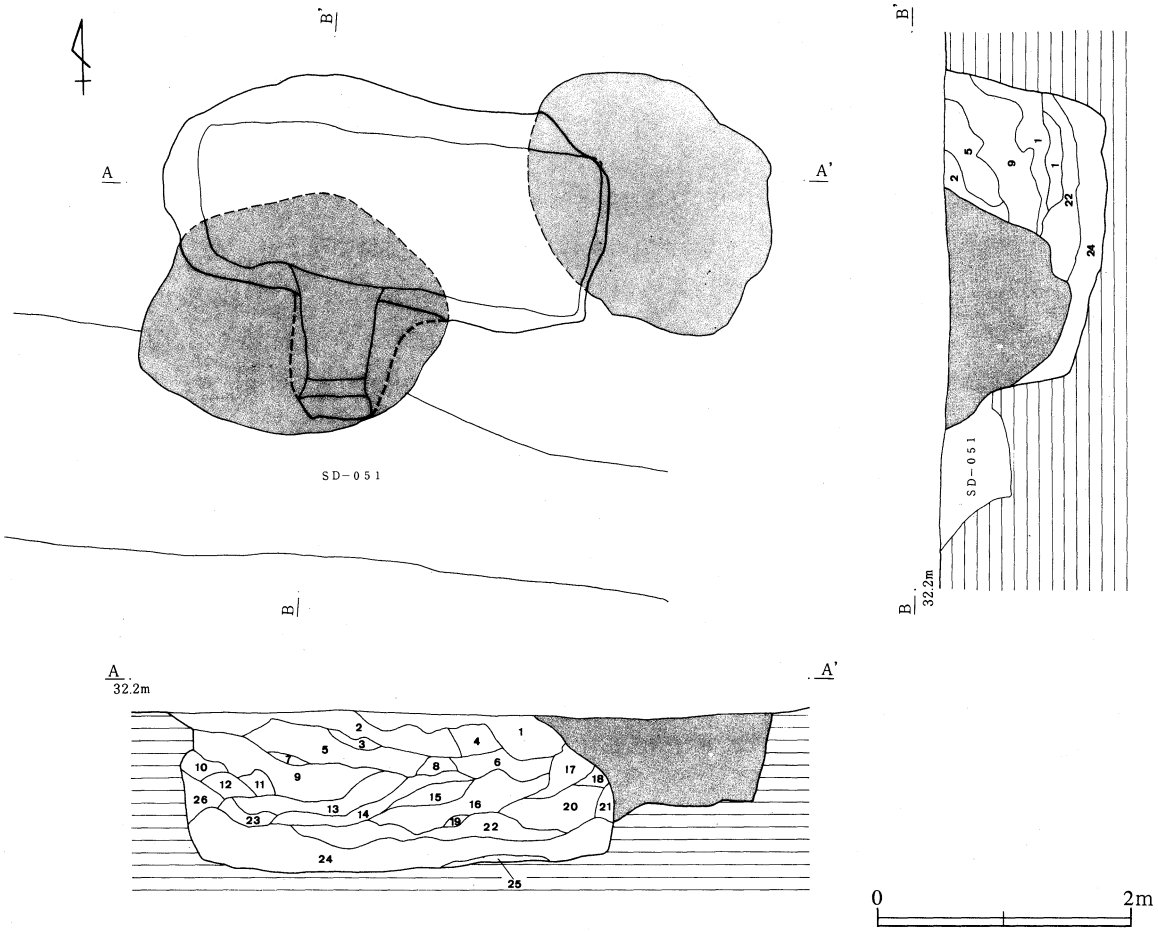
第67図　横倉遺跡土坑出土遺物実測図

(5) 地下式壙・性格不明遺構

ＳＸ－052

本地下式壙は、調査区の中央部南寄りにあり、小支谷の西側の台地斜面に位置している。付近では地下式壙は見られず、単独で存在する。ＳＤ－051と切りあっているが、倒木による撹乱のため新旧は明らかではない。

平面形は竪坑を南側にもち、北側に墓室をもつ「Ｔ」字形を呈している。墓室が1室の単室構造である。墓室の長軸方向はＮ－80°－Ｗを示し、規模は長軸3.6ｍ、短軸1.7～1.9ｍを測る。竪坑は、やや不整な方形を呈



土層説明

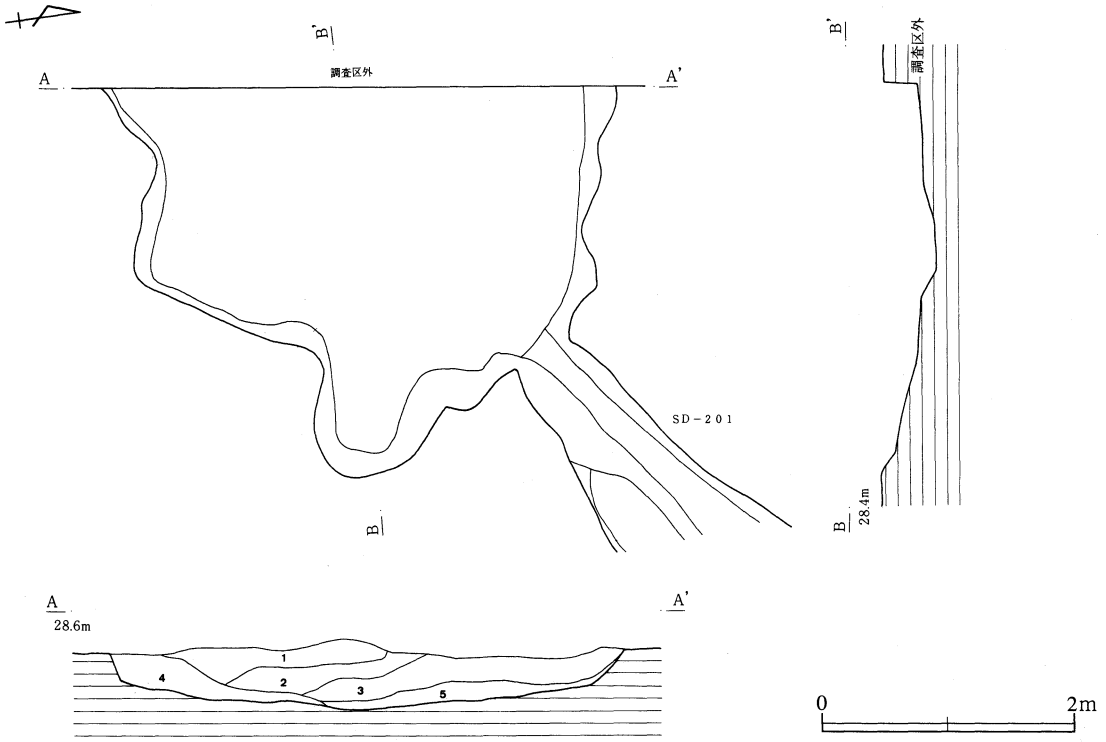
1　褐色土　ローム粒子多量・白色粒子少量・炭化物微量含み、しまりあり。
2　褐色土　ローム粒子多量・炭化物微量含み、しまりあり。
3　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりあり。
4　暗黄褐色土　褐色土・ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりあり。
5　褐色土　ローム粒子少量・炭化物微量含み、しまりあり。
6　暗褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。
7　褐色土　ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりあり。
8　褐色土　ローム粒子少量含み、しまりあり。
9　暗褐色土　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、ややしまりあり。
10　暗黄褐色土　ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりあり。
11　暗褐色土　ローム粒子・褐色土少量含み、しまりあり。
12　褐色土　ローム粒子・暗褐色土少量含み、しまりあり。
13　褐色土　ローム粒子多量・暗褐色土少量含み、しまりあり。
14　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりあり。
15　暗黄褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量含み、しまりあり。
16　褐色土　暗褐色土少量・ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりなし。
17　褐色土　ローム粒子少量・ロームブロック微量含み、しまりあり。
18　黄褐色土　ローム土多量・褐色土微量含み、しまりなし。
19　暗褐色土　ローム粒子・褐色土少量含み、しまりあり。
20　褐色土　暗褐色土ブロック・ロームブロック・ローム粒子微量含み、しまりなし。
21　褐色土　暗褐色土ブロック・ローム粒子微量含み、しまりなし。
22　暗黄褐色土　暗褐色土ブロック・ローム粒子微量含み、ややしまりあり。
23　暗黄褐色土　ローム土多量・褐色土少量含み、しまりあり。
24　黄褐色土　ローム土多量含み、ややしまりあり。
25　黄褐色土　ローム土多量含み、しまりあり。
26　暗黄褐色土　褐色土少量含み、ややしまりあり。

第68図　横倉遺跡ＳＸ－052実測図

しており、規模は幅0.6～0.9ｍ、奥行き1.1ｍ程である。撹乱のためはっきりしない点も残るが、竪坑の床面は15°程の傾斜で墓室へ向かい、基本的に墓室との間の段差はないものと考えられる。なお竪坑は墓室の中心よりも幾分西に寄っており、袖幅は竪坑側から右側でやや長く、左側で短い。墓室の床面は西側がやや深いが、全体的にはほぼ平坦である。北西・北東コーナーは、ゆるやかに曲がる隅丸形態を呈している。

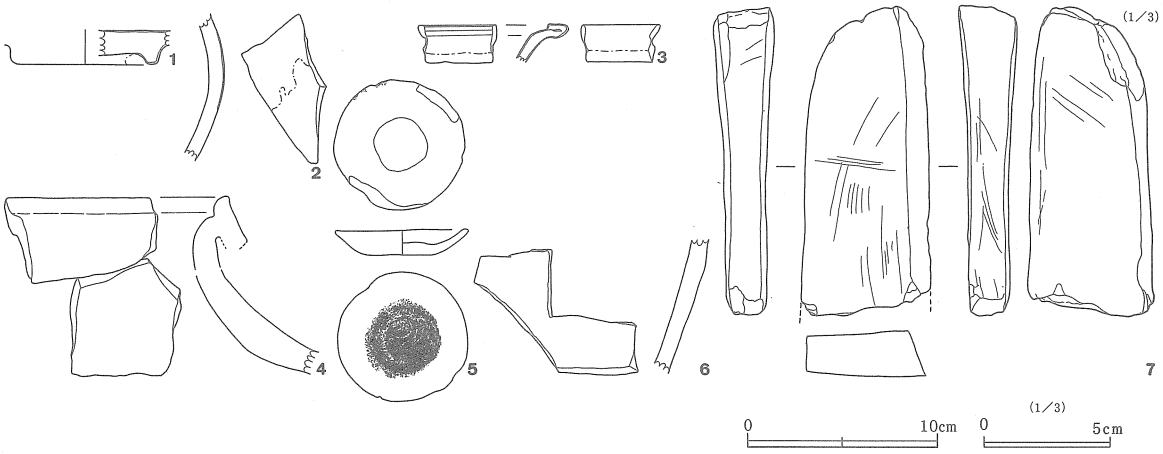
壁は、確認面から1.3ｍ程を残しているが、地下式壙としては掘り方が比較的浅い方である。概ね垂直気味に立ち上がるが、西壁では平面図には現れないが、一部オーバーハングが見られる。上端から確認面までの厚さと最下層の厚さが近似しており、24層が崩落した天井の可能性もある。底面から天井まで1.0ｍ程の低いものであったと考えられる。

埋土は、最下層が黄褐色のローム土であり、それより上層は褐色土を主体とし、所々にロームブロックを含む黄褐色土が見られる。ただし、竪坑の床面にも24層のローム土が遺存していることから、天井をもたない露天掘りによる地下式壙で、のちにローム土が混入した可能性も残る。



土層説明
1　褐色土　　ローム粒子・暗黄褐色土少量含み、しまりあり。
2　暗褐色土　ローム粒子少量・褐色土微量含み、しまりあり。
3　褐色土　　ローム粒子・暗褐色土少量・暗黄褐色土ブロック微量含み、しまりあり。
4　暗黄褐色土　ローム土・ローム粒子多量含み、しまりなし。
5　暗褐色土　ローム粒子・暗黄褐色土ブロック少量含み、しまりなし。

第69図　横倉遺跡ＳＸ－219実測図



第70図　横倉遺跡ＳＸ－219出土遺物実測図

ＳＸ－219

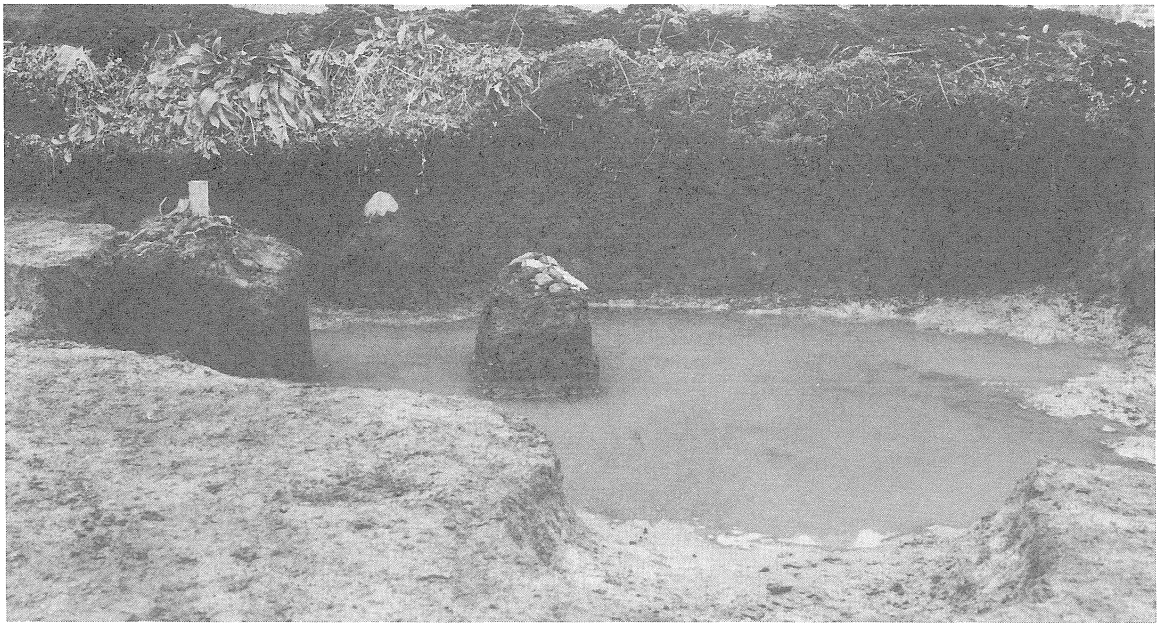
本遺構は、調査区の北部にあり、低地に位置する。ＳＤ－201と重複しているが、新旧は不明である。

未調査部分もあるが、平面形は南北3.7～4.1ｍ以上、東西1.8～3.2ｍ以上を測り、不整な方形をを呈する。東壁北寄りに80～90cm程の張り出しが見られ、入り口に係わる施設である可能性がある。17°程の緩やかな傾斜で床面に至る。また、南側の未調査区との境にも張り出しが確認されたが、性格等は不明である。

壁は60cm弱遺存しており、南壁は75°程、北壁は45°程の傾斜で立ち上がる。東壁やや北寄りに、確認面から30cm程下がり、80～90cm程の平面「Ｕ」字状に掘った、入り口施設に係わると思われる張り出し部分が遺存している。柱穴は検出されなかった。床面は細かい凹凸が見られるが、焼土や灰の堆積は確認できなかった。方形竪穴遺構の可能性も残るが、不明遺構とする。

埋土は5層に分層でき、堆積の状態から判断すると、人為的に埋め戻したものと考えられる。

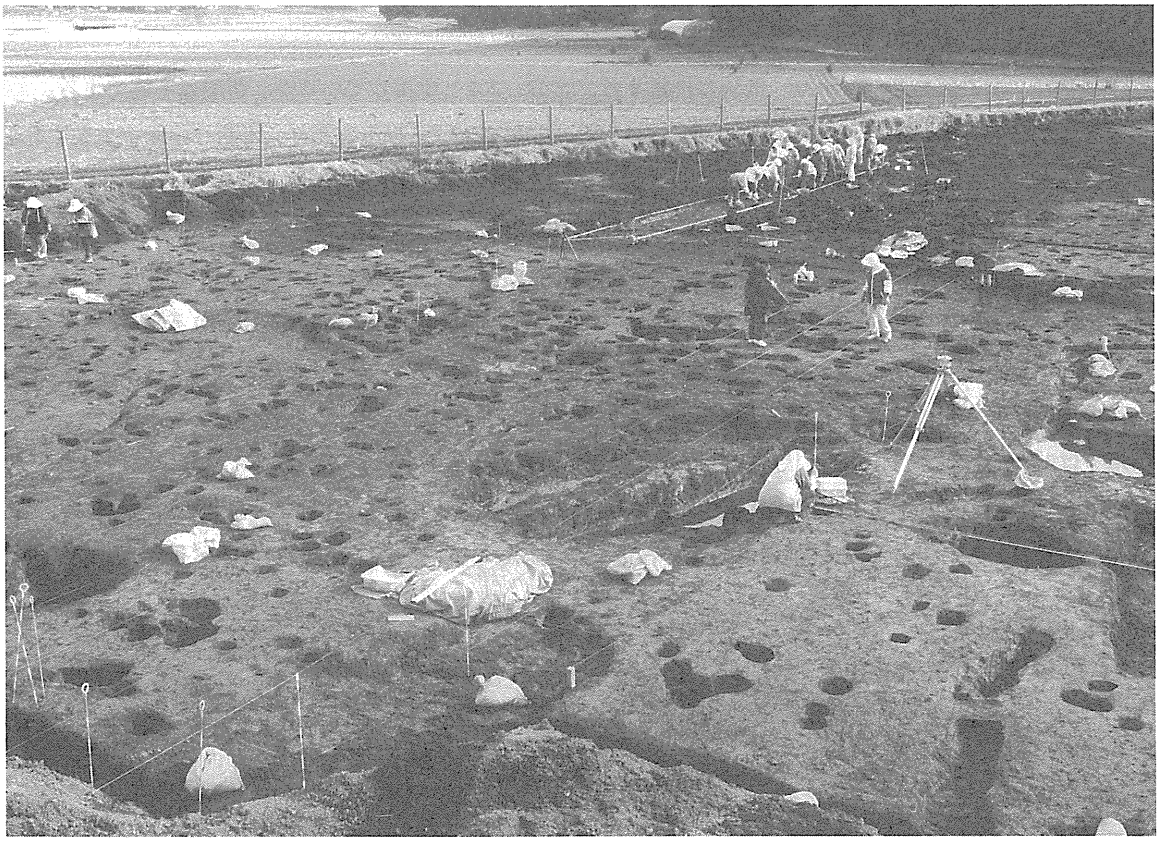
出土した遺物のうち、青磁高台付皿1点、14世紀後半まで遡るとみられる常滑甕1点、瀬戸灰釉瓶子1点、14世紀まで遡るとみられる瀬戸灰釉折縁鉢1点、在地系の甕1点、燈明具1点、砥石1点を図示した。



ＳＸ－219　完掘

(6) ピット群

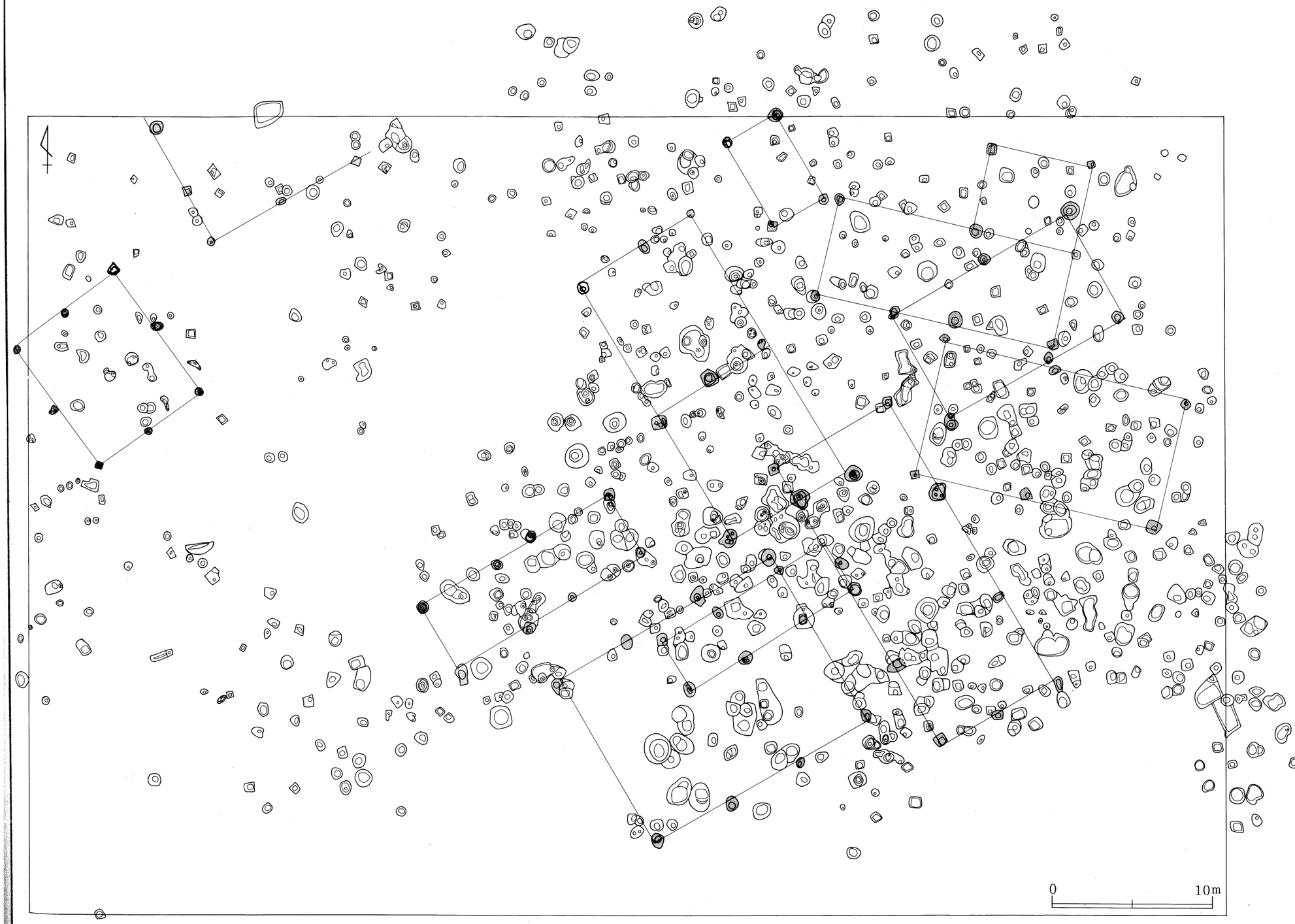
調査区北部の低地に、ピット群を検出した。その範囲は南北23ｍ程、東西35ｍ程である。多数のピットが検出され、掘り下げの結果、その深さや、配置等から掘立柱建物跡として確認されたものが11棟ある。ピットは平面形が方形を呈し、深さが30～45cm程のものが多く、かなりの重複も見られる。この範囲内には井戸跡4基、溝跡2条も検出されており、更に中世の時期と思われる遺物も出土していることから、中世の集落跡と考えられよう。



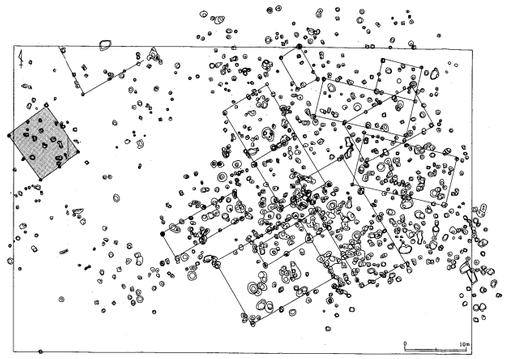
ピット群調査風景

(7) 表採遺物

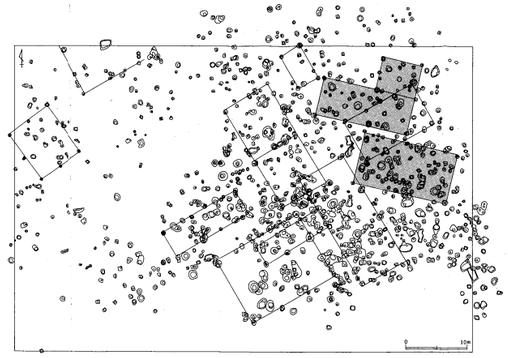
本遺跡の表採遺物を一括で図示した。古墳時代の土師器や石製模造品、近世の人形土製品・古銭、更に鉄滓なども含んでいるが、中世の遺物がほとんどであるため、本節にまとめて図示した。



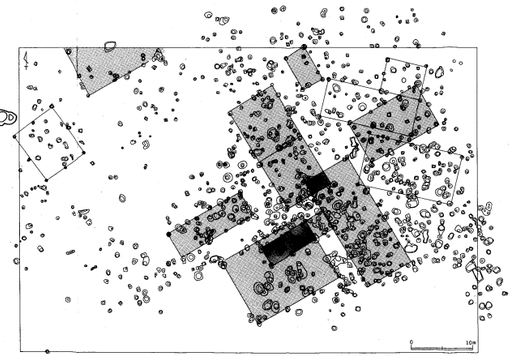
第71図　横倉遺跡遺跡掘立柱建物群・ピット群実測図



A群

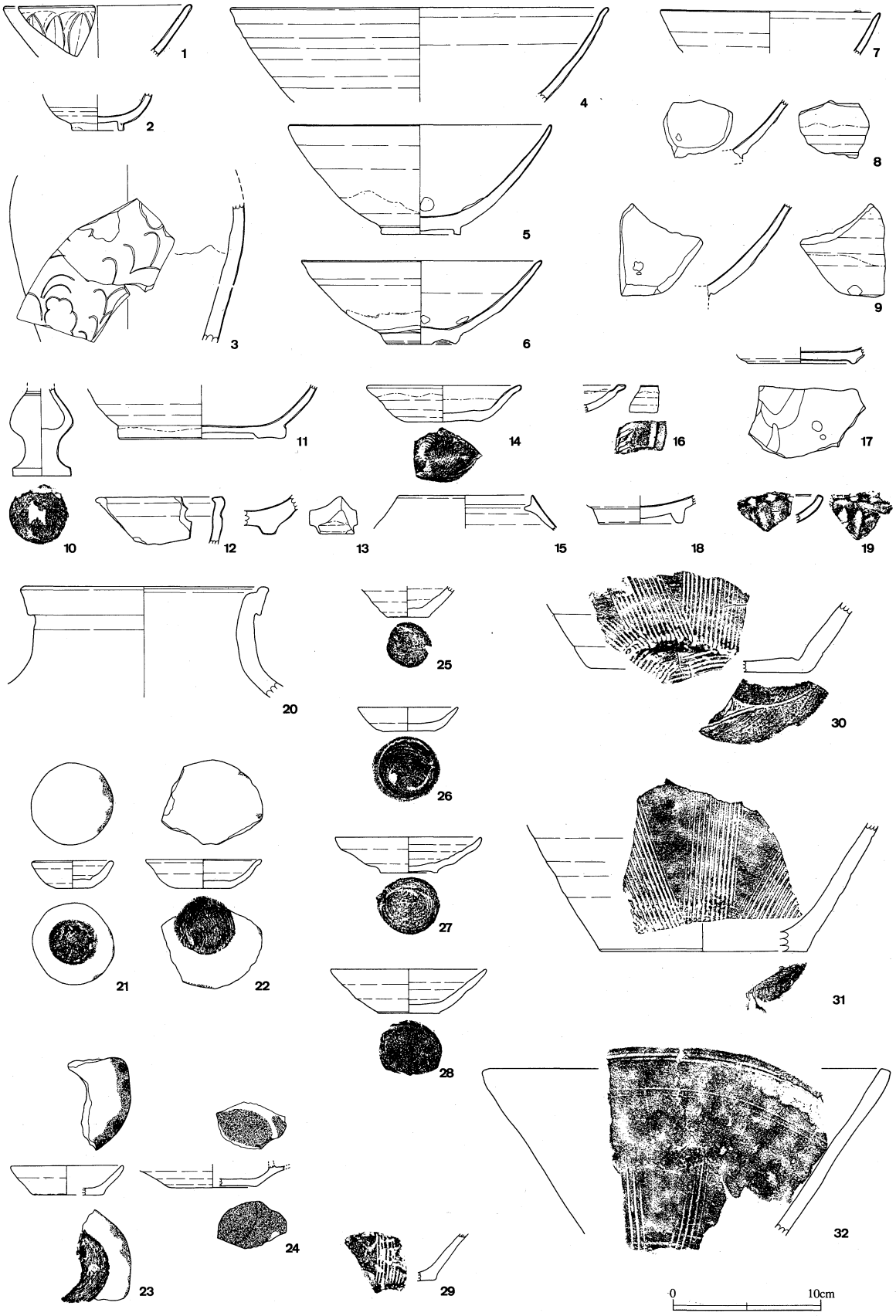


B群



C群

第71図　横倉遺跡遺跡掘立柱建物群・ピット群実測図



第72図　横倉遺跡表採遺物実測図（1）

第73図　横倉遺跡表採遺物実測図（2）

第４章　まとめ

前章まで、横倉遺跡の遺構・遺物について述べてきたが、各遺構・各遺物についてみると、検討すべき課題も少なからず残っている。最後に再び時代ごとの整理を行うとともに課題を確認してまとめとする。

旧石器時代の遺物は33点と出土量が少ない。遺物集中ブロックの検出もみられず、製品が出土しないことから時期の特定はできないが、石核などをみると縦長の剥片を取ろうとしていたことが窺える。このようなことから石刃技法の発達した後期の遺物である可能性が高いのではないだろうか。

縄文時代の遺構も検出されず、遺物のみが確認された。調査区の西側台地上でも多くの土器が表採されており、付近に遺構が存在することも考えられる。土器は早期から後期までの土器が出土している。早期撚糸文系土器・条痕文系土器、前期羽状縄文系土器、前期末葉から中期初頭の土器、中期加曽利Ｅ式土器、後期称名寺式期の土器・堀之内式土器・加曽利Ｂ式土器等である。土器の割合をみると中期から後期の土器が最も多く、その主体は中・後期であったものと予測される。小山市の国道50号線以南は、早・前期の遺跡が圧倒的に多く、本遺跡のように中・後期を主体とする遺跡の存在は希有な例である。小さな集落の一つとみなすことができよう。

弥生時代・古墳時代も遺構は確認されない。出土遺物は2点の石製模造品（単孔円板・未製品）と五領期の甕（口縁部）のみである。当該期の小山市は石製模造品の工房跡が多数確認されており、本遺跡の周辺でも西山遺跡、向野原遺跡、八幡根遺跡、善長寺遺跡（結城市）、田間東道北遺跡、塚崎遺跡等で調査されている。本遺跡とこれらの遺跡との関連も考えられよう。

本遺跡の主体は中世である。検出した遺構は、掘立柱建物跡12棟、井戸跡15基、溝跡9条、地下式壙1基、土坑164基、ピット群1ヶ所、不明遺構1基である。本遺跡の調査区東隣には土塁と堀の一部が遺存している。舌状台地をうまく利用しており、本遺跡のＳＤ－051やＳＤ－193との関連も考えられる。更に、鷲城周辺の館跡を地図上にドットで落としていくと本遺跡は、中久喜城、宿尻館、塚田館、黒田に所在する館、亀田遺跡で確認された館と同心円上に位置し、時期は特定できないが、鷲城を守る防衛ラインの一端を担っていた館と考えることも可能ではないだろうか。文献資料に登場するが確認できていない小山氏の家臣横倉藤倉の居館の可能性も推測される。一方、斜面を北に下った低地には掘立柱建物跡や井戸跡が密集した状態で検出された。掘立柱建物跡は主軸の方向により、概ね3時期に分けることができたが、遺物もなく、新旧を特定するには至らなかった。井戸跡も掘立柱建物跡に並んで確認された。一帯がピット群になっており、中世の集落跡であると考えられる。低地からは16世紀と思われるかわらけも出土しているが、遺物の年代から考えて、概ね館と集落との時期は大差ないものと考えられる。台地上に館が立ち、その北の低地に集落跡が存在する景観を描くこともできよう。遺物に関してみると、産地を特定できるものは33点図示した。青磁・瀬戸・瀬戸美濃・常滑である。また、産地を特定できない遺物の内、内耳鍋の金雲母の含有状態、口縁部を平坦に作り出す技法などから産地を特定できるのではないかというご示唆も頂いたが、今回の報告では課題解決できなかった。今後の検討課題としたい。

最後に本報告書の発行に当たり、報告者の力不足を補う貴重なご教授を頂きました研究者の皆様、調査及び整理作業にご尽力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

第5表　遺構一覧表

中世（掘立柱建物跡）

遺構番号	ピット番号	ピット径	深さ	主軸方向等
SB－001	P1	23 cm	9 cm	N－54°－W 2×2間の側柱
	P2	36 cm	28 cm	
	P3	26 cm	10 cm	
	P4	32 cm	10 cm	
	P5	25 cm	13 cm	
	P6	11 cm	17 cm	
	P7	10 cm	7 cm	
SB－002	P1	20 cm	30 cm	N－60°－W 2×2間以上の側柱
	P2	30 cm	20 cm	
	P3	22 cm	8 cm	
	P4	21 cm	7 cm	
	P5	30 cm	44 cm	
SB－003	P1	26 cm	25 cm	N－60°－W 1×1間の側柱
	P2	40 cm	38 cm	
	P3	25 cm	26 cm	
	P4	26 cm	23 cm	
SB－004	P1	30 cm	21 cm	N－60°－W 2×2間の総柱
	P2	38 cm	14 cm	
	P3	20 cm	11 cm	
	P4	40 cm	46 cm	
	P5	43 cm	26 cm	
	P6	24 cm	24 cm	
	P7	48 cm	38 cm	
	P8	48 cm	42 cm	
	P9	46 cm	33 cm	
SB－007	P1	23 cm	22 cm	N－60°－W 2×1間の側柱
	P2	30 cm	27 cm	
	P3	46 cm	52 cm	
	P4	44 cm	26 cm	
	P5	30 cm	27 cm	
	P6	30 cm	24 cm	
SB－009	P1	30 cm	36 cm	N－60°－W 2×3間の側柱
	P2	30 cm	12 cm	
	P3	36 cm	29 cm	
	P4	53 cm	24 cm	
	P5	50 cm	14 cm	
	P6	34 cm	22 cm	
	P7	21 cm	25 cm	
	P8	30 cm	27 cm	
	P9	38 cm	26 cm	
SB－012	P1	27 cm	38 cm	N－60°－W 3×1間の側柱
	P2	31 cm	30 cm	
	P3	26 cm	31 cm	
	P4	27 cm	39 cm	
	P5	40 cm	21 cm	
	P6	38 cm	32 cm	
	P7	24 cm	46 cm	
	P8	37 cm	46 cm	
SB－013	P1	33 cm	34 cm	N－60°－W 3×1間の側柱
	P2	68 cm	36 cm	
	P3	44 cm	45 cm	
	P4	45 cm	46 cm	
	P5	38 cm	32 cm	
	P6	38 cm	44 cm	
	P7	28 cm	23 cm	
	P8	29 cm	33 cm	
SB－016	P1	30 cm	27 cm	N－60°－W 3×1間の側柱
	P2	30 cm	30 cm	
	P3	30 cm	36 cm	
	P4	28 cm	40 cm	
	P5	53 cm	34 cm	
	P6	34 cm	26 cm	
	P7	20 cm	22 cm	
	P8	26 cm	31 cm	
SB－017	P1	28 cm	38 cm	N－12°－E L字状の側柱
	P2	19 cm	18 cm	
	P3	30 cm	34 cm	
	P4	26 cm	40 cm	
	P5	20 cm	43 cm	
	P6	24 cm	35 cm	
	P7	40 cm	45 cm	
	P8	26 cm	43 cm	
SB－056	P1	26 cm	40 cm	N－12°－E 2×1間の側柱
	P2	32 cm	34 cm	
	P3	26 cm	22 cm	
	P4	20 cm	30 cm	
	P5	30 cm	23 cm	
	P6	35 cm	44 cm	
SB－057	P1	74 cm	20 cm	N－10°－E 4×2間の側柱
	P2	116 cm	28 cm	
	P3	85 cm	33 cm	
	P4	70 cm	21 cm	
	P5	56 cm	18 cm	
	P6	75 cm	25 cm	
	P7	75 cm	24 cm	
	P8	128 cm	24 cm	
	P9	87 cm	40 cm	
	P10	68 cm	32 cm	
	P11	60 cm	10 cm	

中世（井戸跡）

遺構番号	確認面の径	底径	確認面からの深さ	遺構番号	確認面の径	底径	確認面からの深さ
SE－014	1.4 m	0.9 m	2．2m	SE－214	1.4～1.7 m	——	————
SE－015	1.1 m	1.0 m	1．2m	SE－215	1.6～2.0 m	——	————
SE－074	1.8 m	0.6 m	2．9m	SE－224	1.2～1.5 m	——	————
SE－093	1.5 m	0.6 m	2．8m	SE－226	1.4～1.7 m	——	————
SE－095	1.0～1.2 m	0.6～0.8m	2．5m	SE－227	0.8～0.9 m	——	————
SE－099	1.0～1.1 m	0.4～0.6m	3．3m	SE－228	1.0～1.2 m	——	————
SE－127	1.0～1.1 m	——	2．7m以上	SE－248	0.8～1.2 m	——	————
SE－153	1.0～1.2 m	0.8 m	3．1m				

中世（溝跡）

遺構番号	長さ	幅	深さ	遺構番号	長さ	幅	深さ
SD－051	36m以上	100～180 cm	51 ～ 75 cm	SD－201	10m	86～178 cm	20 cm
SD－145	23m以上	90～180 cm	26 ～ 62 cm	SD－213	10m	32～ 76 cm	18 cm
SD－146	14m	44～ 64 cm	26 ～ 30 cm	SD－220	11m	34～ 60 cm	22 cm
SD－147	8m	28～ 62 cm	12 cm	SD－234	9m	28～ 44 cm	12～18 cm
SD－193	60m	最大 136 cm	最深 132 cm				

中世（土坑）

遺構番号	長軸	短軸	深さ	長軸方向	遺構番号	長軸	短軸	深さ	長軸方向
SK－005	320cm	60cm	20cm	N－50°－E	SK－061	490cm	100cm	42cm	N－40°－E
SK－006	290cm	60cm	16cm	N－50°－E	SK－062	560cm以上	100cm	38cm	N－30°－E
SK－008	250cm	60cm	20cm	N－50°－E	SK－063	220cm	——	40cm	————
SK－018	160cm	100cm	16cm	N－5°－E	SK－064	130cm	108cm	30cm	N－25°－W
SK－019	92cm	——	30cm	————	SK－065	140cm	90cm	50cm	N－15°－E
SK－020	140cm	110cm	14cm	N－6°－E	SK－066	80cm以上	110cm以上	48cm	————
SK－021	160cm	90cm	18cm	N－43°－E	SK－067	110cm以上	80cm以上	30cm	N－30°－E
SK－024	170cm以上	110cm	15cm	N－35°－E	SK－068	120cm	——	30cm	————
SK－025	150cm以上	140cm	30cm	N－45°－W	SK－070	110cm	90cm	40cm	N－20°－E
SK－026	200cm	140cm	40cm	N－60°－W	SK－071	100cm	——	22cm	————
SK－028	240cm	90～120cm	90cm	N－65°－E	SK－072	120～130cm	——	18cm	————
SK－029	120cm	70～100cm	14cm	————	SK－073	100cm	80cm	45cm	
SK－030	90cm	——	14cm	————	SK－075	80cm	70cm	18cm	N－73°－W
SK－031	150cm	120cm	20cm	N－45°－W	SK－076	85cm	52cm	15cm	N－80°－E
SK－032	100cm	——	14cm	————	SK－077	110cm	——	33cm	————
SK－033	70cm	——	10cm	————	SK－078	70cm	——	15cm	————
SK－035	130cm	90cm	14cm	N－2°－W	SK－079	115cm	94cm	20cm	————
SK－042	100cm	——	16cm	————	SK－080	217cm	72～82cm	49cm	N－85°－W
SK－043	60cm以上	40cm	14cm	N－5°－W	SK－081	155cm以上	75cm以上	18cm	N－75°－W
SK－044	100cm	——	36cm	————	SK－082	275cm	90cm	23cm	N－80°－W
SK－045	80cm	——	12cm	————	SK－083	210cm	96～103cm	24cm	N－45°－W
SK－047	180～200cm	——	35cm	————	SK－084	140cm	112cm	8cm	N－65°－E
SK－049	90cm	——	26cm	————	SK－085	214cm以上	90cm	12cm	N－8°－E
SK－050	170cm	140cm	14cm	N－50°－W	SK－086	440cm	80～90cm	20cm	N－8°－E
SK－059	350cm	70cm	36cm	N－25°－E	SK－087	166cm	85cm	62cm	N－78°－W
SK－060	180cm	80cm	30cm	N－30°－E	SK－089	104cm	78cm	18cm	N－6°－E

中世（土坑）

遺構番号	長軸	短軸	深さ	長軸方向	遺構番号	長軸	短軸	深さ	長軸方向
SK－090	90cm	——	68cm	————	SK－151	100cm	62cm	24cm	N－88°－W
SK－091	70cm	——	14cm	————	SK－152	97cm	62cm	28cm	N－81°－W
SK－092	127cm	85cm	22cm	————	SK－154	128cm	60cm	30cm	N－10°－E
SK－094	236cm	70～80cm	50cm	N－2°－W	SK－155	100cm	68cm	27cm	N－30°－E
SK－096	332cm	75～104cm	18cm	N－65°－W	SK－156	123cm	73cm	21cm	N－4°－E
SK－097	140cm	——	24cm	————	SK－157	155cm	63cm	46cm	N－0°
SK－098	110cm以上	70cm以上	22cm	————	SK－158	182cm	64cm	20cm	N－86°－W
SK－100	208cm	64～76cm	16cm	N－89°－E	SK－159	184cm	74cm	56cm	N－86°－W
SK－101	265cm	72～88cm	16cm	N－14°－E	SK－160	162cm	60～65cm	80cm	N－82°－W
SK－102	112cm	90cm	21cm	N－3°－W	SK－161	50cm	38cm	27cm	N－11°－E
SK－104	76cm	68cm	13cm	N－1°－E	SK－162	286cm	112cm	22cm	N－54°－W
SK－105	62cm	——	22cm	————	SK－163	152cm	74cm	56cm	N－0°
SK－106	70cm	——	23cm	————	SK－164	190cm	74cm	63cm	N－22°－E
SK－107	55～65cm	——	17cm	————	SK－165	200cm	60cm以上	42cm	N－25°－E
SK－108	70cm	——	14cm	————	SK－166	228cm	80～90cm	33cm	N－23°－E
SK－109	127cm	60～92cm	14cm	N－0°	SK－167	210cm以上	80cm以上	48cm	N－18°－E
SK－110	95cm	67cm	18cm	N－60°－E	SK－168	180cm	104cm	70cm	N－15°－E
SK－111	158cm	82cm	20cm	N－5°－E	SK－169	256cm	105cm	48cm	N－15°－E
SK－112	62cm	——	24cm	————	SK－170	105cm	60cm	24cm	N－2°－E
SK－113	83cm	68cm	24cm	N－20°－E	SK－171	100cm	65cm	30cm	N－8°－E
SK－114	240	112～132cm	13cm	N－6°－W	SK－172	100cm以上	62cm	23cm	N－4°－E
SK－115	138cm	68～70cm	39cm	N－52°－W	SK－173	160cm	70cm	48cm	N－5°－E
SK－116	126～136cm	——	22～54cm	————	SK－174	144cm	68cm	65cm	N－86°－W
SK－117	144cm	70～85cm	32cm	N－68°－W	SK－175	174cm以上	70cm	63cm	N－83°－W
SK－118	88cm以上	72cm以上	33cm	N－22°－W	SK－176	155cm	54～62cm	21cm	N－82°－W
SK－119	190cm	133cm	33cm	N－19°－E	SK－177	180cm	66cm	50cm	N－8°－E
SK－120	132cm	37～82cm	16cm	N－16°－E	SK－178	146cm	70cm	30cm	N－0°
SK－121	112cm	77cm以上	15cm	N－8°－E	SK－179	200cm	68～86cm	18cm	N－5°－E
SK－122	128cm	70～80cm	25cm	N－16°－E	SK－180	108cm	68cm	23cm	N－8°－E
SK－125	96cm	58cm	32cm	N－86°－E	SK－181	410cm	——	74cm	————
SK－134	131cm	103cm以上	40cm	N－86°－E	SK－182	140cm	90cm	22cm	N－87°－W
SK－135	32～65cm	55cm	12cm	————	SK－183	120cm以上	54～60cm	20cm	N－6°－E
SK－136	103cm	80cm	26cm	N－78°－E	SK－184	146cm	57cm	42cm	N－80°－W
SK－137	44cm	——	10cm	————	SK－185	130～140cm	100～120cm以上	48cm	————
SK－139	50cm	——	9cm	————	SK－186	211cm	100cm	40cm	N－86°－W
SK－141	116cm	85cm	22cm	N－49°－W	SK－187	150cm	94cm	26cm	N－85°－W
SK－142	110cm	——	13cm	————	SK－188	150cm	——	32cm	————
SK－143	135cm	——	10～56cm	————	SK－189	150cm	56cm以上	32cm	N－84°－E
SK－144	60cm	50cm	16cm	N－7°－E	SK－190	170cm	98cm	26cm	N－82°－E
SK－148	190cm	107cm	80cm	N－72°－W	SK－191	346cm以上	100cm	16cm	N－82°－E
SK－149	138cm	92cm	20cm	N－64°－W	SK－192	247cm	118cm	12cm	N－87°－E
SK－150	116cm	80cm	128cm	N－13°－E	SK－202	162cm	93cm	24cm	N－8°－W

中世（土坑）

遺構番号	長軸	短軸	深さ	長軸方向	遺構番号	長軸	短軸	深さ	長軸方向
SK－203	153cm	60～73cm	10cm	N－36°－W	SK－229	274cm	60～130cm	26cm	N－50°－W
SK－204	82cm	——	7cm	————	SK－230	536cm	43～130cm	28cm	N－23°－E
SK－205	317cm	76cm	16cm	N－28°－W	SK－231	265cm	192cm	30cm	N－50°－W
SK－206	365cm	80cm	12cm	N－22°－W	SK－232	338cm	40～110cm	17cm	N－8°－E
SK－207	162cm	60～80cm	20cm	N－35°－W	SK－235	113cm	80cm	26cm	N－84°－E
SK－208	195cm	54～74cm	11cm	N－32°－W	SK－238	336cm	114～160cm	22cm	N－3°－E
SK－209	282cm	60～75cm	11cm	N－28°－W	SK－239	68cm	48cm	24cm	N－68°－E
SK－210	348cm	67cm	28cm	N－26°－W	SK－240	540cm	27～140cm	40cm	N－18°－E
SK－212	179cm	60cm	18cm	N－37°－W	SK－243	320～330cm	80～100cm	18cm～24cm	————
SK－216	543cm	45～100cm	10cm	N－21°－W	SK－244	100cm	——	17cm	————
SK－218	360cm	290cm	40cm	N－37°－W	SK－245	94cm以上	60～74cm	33cm	N－15°－E
SK－221	130cm	62cm	14cm	N－21°－E	SK－246	112cm	52cm	17cm	N－28°－W
SK－222	390cm	55～85cm	18cm	N－27°－W	SK－247	318cm	38cm～50cm	7cm	N－24°－W
SK－223	427cm	95cm	26cm	N－9°－W	SK－249	146cm	126cm	22cm	N－15°－E

中世（地下式壙）

遺構番号	長軸	短軸	深さ	長軸方向
SX－052	3.6m	1.7～1.9m	1.3m	N－80°－W

不明遺構

遺構番号	長軸	短軸	深さ	長軸方向
SX－219	4.1m以上	3.2m以上	60cm	————

第6表　遺構別出土遺物点数表

井戸跡

（　）は図示した遺物数を示す。

遺構番号	青磁	白磁	瀬戸碗	常滑甕	在地甕	内耳鍋	在地擂鉢	かわらけ	燈明具	鉄製品	古銭	その他	合計
SE-015	1 (1)				2			1 (1)				1 (1)	5 (3)
SE-074						1 (1)							1 (1)
SE-127		1	1 (1)				1 (1)					11 (10)	14 (12)
SE-214						14 (3)						1 (1)	15 (4)
SE-215						7 (1)		1					8 (1)
SE-224						1 (1)		2 (1)					3 (2)
SE-226						18 (2)		2 (2)	1 (1)				21 (5)
SE-228						3						1	4 (0)

※　他に木片や木製品が出土した。

溝跡

遺構番号	青磁	白磁	瀬戸碗	常滑甕	在地甕	内耳鍋	在地擂鉢	かわらけ	燈明具	鉄製品	古銭	その他	合計
SD-051				1 (1)				1 (1)		1 (1)			3 (3)
SD-193						2					1 (1)	2 (1)	5 (2)
SD-201			1 (1)									1	2 (1)
SD-213											2 (2)		2 (2)

土坑

遺構番号	青磁	白磁	瀬戸碗	常滑甕	在地甕	内耳鍋	在地擂鉢	かわらけ	燈明具	鉄製品	古銭	その他	合計
SK-047												1 (1)	1 (1)
SK-079						2 (2)							2 (2)
SK-168			1									1	2 (0)
SK-171			1 (1)		3					2 (2)			6 (3)
SK-181		1	1		3	6				1 (1)		5 (1)	17 (2)
SK-185								2					2 (0)
SK-190						1 (1)							1 (1)
SK-218					2 (2)	5				1 (1)		70 (2)	78 (5)
SK-223						4		1					5 (0)
SK-229						4 (1)							4 (1)
SK-239								20 (19)				1	21 (19)
SK-243				3 (3)		10 (2)	1 (1)						14 (6)

不明遺構

遺構番号	青磁	白磁	瀬戸碗	常滑甕	在地甕	内耳鍋	在地擂鉢	かわらけ	燈明具	鉄製品	古銭	その他	合計
SX-219	1 (1)			2 (1)	1 (1)			3	1 (1)			3 (3)	11 (7)

第7表　掲載遺物観察表

ＳＥ－015

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
45-1	青磁 碗	口（16.0）	良好 砂粒	良好	外　明緑灰 内　明緑灰	体部はやや内湾し、口縁部は直線的に開く。	外・内面に釉が厚く施される。発色は良い。外面に鎬連弁文が描かれている。	埋土中	口縁部一部
45-2	かわらけ	口（13.0）	良好 砂粒	良好	外　にぶい黄橙色 内　にぶい黄橙色	器厚は厚く、体部はやや内湾する。	体部外内面は撫で。	埋土中	口縁部一部
45-3	瀬戸 片口鉢	底（14.8）	良好 小石 白色粒子	良好	外　褐灰色 内　褐灰色	器厚は厚く、胴部はやや丸味をもって立ち上がる。	底部～胴下半部外面は撫でのち横方向の篦削り、内面はよく磨耗している。底部外面は篦削り。貼り付け高台を有する。	埋土中	底部～胴下半部一部

ＳＥ－074

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
45-1	内耳鍋	口（37.8）	良好 黒雲母 金雲母 砂粒 小砂利	良好	外　黒褐色 内　褐色	器厚は薄く、口唇部平坦面あり。	外・内面は撫で。内面に耳一個付ける。数不明。外面にスス付着。	埋土中	口縁部一部

ＳＥ－127

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
45-1	瀬戸 碗		良好 砂粒	良好	外　オリーブ褐色、黄褐色 内　浅黄色	器厚は薄く、体部は開き気味である。	体部の外・内面にロクロ撫で。外面に灰釉が流れている。釉の発色は良く、貫入がある。線が描かれている。	埋土中	破片
45-2	高台付 入子	口（6.0） 高（2.8） 底　3.0	良好 白色粒子 砂粒	良好	外　浅黄色 内　浅黄色	器厚は薄く、高台は高い。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	外・内面にロクロ撫で後、灰釉を施す。釉の発色は良い。貼り付け高台。	埋土中	1/3
45-3	高台付 碗	底（9.0）	良好 砂粒	良好	外　灰白色 内　灰白色	器厚はやや厚く、体部はゆるやかに立ち上がる。	外・内面にロクロ撫で後、灰釉を施す。釉の発色は良く、貫入りである。貼り付け高台。	埋土中	底部1/3と体部の一部
45-4	土鍋 在地系	口（40.0）	良好 輝石 白色粒子 砂粒	良好	外　にぶい褐色、黒褐色 内　黒褐色	器厚は薄く、胴部はやや開き気味に立ち上がり、口縁部は外側へ屈曲する。	外面胴部に篦削り、指頭圧痕あり。口縁部の外・内面と体部の内面に撫で。	埋土中	口縁部と胴部の一部
45-5	擂鉢 在地系	底（19.0）	良好 小砂利 砂粒	良好	外　明赤褐色 内　明赤褐色	器厚は厚く平底で、胴部は直線的に立ち上がる。内面の境界は不明瞭。	外面は撫で。内面に規則正しい摺目を全面に刻む。	埋土中	底部と胴部の一部
45-6	女瓦		良好 小砂利	良好	外　灰色 内　灰色	ゆるやかに湾曲している。	凹面布目、凸面撫で。周囲の破面と凸面が磨耗しており、砥石に転用したものと思われる。	埋土中	破片

45-7	石臼	径（29.0） 下皿径（13.0） 高　7.5				凝灰岩製。下皿には鋸歯状の溝がわずかに見られる。	下皿、粉受け部とも良く研磨されている。	埋土中	下皿 1/4
45-8	石臼	長　13.8 幅　6.0 厚　5.2 重　680 g				石臼の受け皿の部分の破片であろう。4面は破面で、1面には油煙が付着している。		埋土中	一部
45-9	砥石	長　4.4 幅　2.3 厚　1.1 重　17.42 g				長軸方向の4面を砥石とし、断面方形である。砥面には擦痕がみられる。		埋土中	長軸方向両端部欠損
45-10	砥石	長　4.3 幅　2.6 厚　1.4 重　31.21 g				扁平な砥石で、砥面は4面あり、表面と裏面の2面には擦痕がみられる。		埋土中	長軸方向下部欠損
45-11	砥石	長　6.5 幅　5.5 厚　4.2 重　257.05 g				断面台形を呈する大型の砥石で、砥面は3面で他は破面である。		埋土中	一部
45-12	砥石	長　8.2 幅　4.8 厚　4.9 重　338.95 g				1面を砥面としている砥石で、擦痕がみられる。		埋土中	下端部欠損

ＳＥ－214

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
45-1	内耳鍋	口（25.2）	良好 白色粒子 小石 金雲母	良好	外　黒褐色 内　褐色	胴部は開き気味で、口唇部に平坦面あり。口縁部内面端部は、やや突出している。外面にスス付着。	体部外・内面は撫で。内面に焼成前の篦記号。	埋土中	口縁部一部
45-2	内耳鍋	口（37.0）	良好 金雲母 白色粒子 砂粒	良好	外　黒褐色 内　にぶい赤褐色	器厚は薄く、胴部は開き気味である。口唇部は平坦。耳貼り付け跡あり。外面にスス付着。	外・内面に撫で。	埋土中	口縁部一部
45-3	内耳鍋	底（21.0）	良好 金雲母 黒色粒子 砂粒	良好	外　にぶい橙色 内　にぶい橙色	器厚はやや薄く平底で、胴部は開き気味に立ち上がる。外・内面にスス付着。	外・内面に撫で。	埋土中	底部の一部破片
45-4	砥石	長　8.4 幅　4.4 厚　1.5 重　60.90 g				長軸方向の3面を砥石としており、裏面は破面である。各砥面には擦痕がみられる。		埋土中	長軸両端部欠損

ＳＥ－215

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
45-1	内耳鍋	口（33.0）	良好 金雲母 白色粒子 黒雲母 砂粒	良好	外　にぶい褐色、黒褐色 内　にぶい橙色	器厚は薄い。口唇部は平坦。耳貼り付け1個で数不明。内面の耳の部分は、外側へ広げられている。接合部の外面に圧着痕。外面スス付着。	外・内面に撫で。	埋土中	口縁部一部破片

ＳＥ－224

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
46-1	かわらけ	底（4.0）	良好 砂粒	良好	外　にぶい黄橙色 内　にぶい黄橙色	底部内面は平坦で、立ち上がりを強く押さえている。外面の立ち上がりは不明瞭で、外へやや張り出す。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。	埋土中	底部1/3
46-2	瓦質内耳鍋	口（41.2）	良好 白色粒子	良好	外　オリーブ灰色 内　オリーブ灰色	器厚はやや薄く、胴部は直線的に開く。胴部と口縁部の境に沈線状の稜が巡る。外面にスス付着。	胴部外・内面撫で。口縁部外・内面は横撫で。	埋土中	口縁部一部

ＳＥ－226

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
46-1	燈明具	口（6.4） 高（2.0） 底（3.4）	良好 金雲母 橙色粒子 砂粒	良好	外　淡橙色 内　黒色	器厚はやや薄く、底部は上げ底になっている。体部は内湾気味に立ち上がる。内面の全体と外面口縁部に油煙付着。	外面底部に回転糸切り。外・内面にロクロ撫で。内面の立ち上がりを強く撫でている。	埋土中	1/4
46-2	かわらけ	口　9.8 高　3.3 底　3.0	良好 砂粒	良好	外　浅黄橙色 内　浅黄橙色	底部はやや厚く、体部はやや丸味をもって立ち上がり、外反気味に開く。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。内面底部に撫でがみられる。	埋土中	完存
46-3	かわらけ	口　10.4 高　3.5 底　3.0	良好 砂粒	良好	外　浅黄橙色 内　浅黄橙色	底部は厚く平底で、体部は直線的に立ち上がる。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。内面底部に撫でがみられる。	埋土中	完存
46-4	内耳鍋	口（30.8）	良好 金雲母 砂粒	良好	外　暗褐色、黒褐色 内　灰黄褐色	器厚は薄く、口唇部は平坦。体部は開き気味である。外面はスス付着。	体部の外・内面は無調整。耳貼り付け1個。数不明。	埋土中	口縁部一部
46-5	内耳鍋	底（19.4）	良好 金雲母 砂粒	良好	外　黒色 内　褐色	器厚は薄く平底で、胴部下半部は丸味をもちながら立ち上がる。外面全体にスス付着。	底部外面は横撫で。胴部下半部外面は指頭圧痕がある。底部から胴部下半部内面は撫で。	埋土中	底部～胴部下半一部

遺物観察表

SD－051

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
49-1	常滑大甕	口 30.4	良好 砂粒 白色粒子	良好	外 極暗赤褐色 内 暗赤褐色	器厚はやや厚く、口縁部で大きく外反する。口唇部は丸味をもち、口唇部内面が沈線となる。	外・内面は撫で。口縁部内面に自然釉付着。	埋土中	口縁部一部
49-2	かわらけ	口 12.0 高 3.1 底 4.0	良好 白色粒子	良好	外 にぶい黄橙色 内 にぶい黄橙色	器厚は厚く、体部はゆるやかに立ち上がる。口唇部で内湾する。外面は剥離が著しい。	体部外・内面は撫で。	埋土中	口縁部一部
49-3	鉄製品 刀子	長 18.9 幅 1.9 厚 0.3 重 36.05 g				両関で棟は直線的である。切先はふくろがあり刃部はやや研ぎ減りしている。刃部先端と茎先端が欠損している。		埋土中	刃部先端と茎先端欠損

SD－193

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
49-1	煙突	径 10～11	良好 橙色粒子	良好	外 褐灰色 内 黒色	円筒状であり、器厚はやや厚く、両端筒半分欠損している。スス付着。	外面撫で。内面輪積み痕。	埋土中	破片
49-2	古銭 天保？通宝					時代 江戸時代？		埋土中	1/2

SD－201

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
49-1	瀬戸 灰釉 盤	底（15.4）	良好 白色粒子	良好	外 灰白色 内 灰白色	器厚は厚く、底部は平底で、開き気味に立ち上がる。トチン痕あり。	底部～体部外・内面はロクロ撫で。体部外面と内部全体に灰釉が薄く施されている。わずかに貫入あり。発色は良好。トチン痕あり。	埋土中	底部 1/4

SD－213

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
49-1	古銭 紹（淳） 熙元宝					時代 南宋 初鋳 1190年 書体 楷書		埋土中	1/2
49-2	古銭 政和通宝					時代 北宋 初鋳 1111年 書体 楷書		埋土中	3/5

SK－047

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
67-1	骨	長径 12.6 短径 15.0 厚 1.0				獣骨	焦げている部分がみられる。	埋土中	一部

SK－079

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
67-1	かわらけ	口（10.2） 高 3.4 底 3.6	良好 砂粒	良好	外 灰白色 内 浅黄色	底部は中心が厚く平底で、丸味をもちながら立ち上がる。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。	埋土中	1/3
67-2	かわらけ	口 10.6 高 3.6 底 4.0	良好 白色粒子	良好	外 にぶい黄橙色、黒斑あり 内 にぶい黄橙色	器厚は全体に厚く、体部は内湾気味に立ち上がる。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り後、板目状圧痕。	埋土中	口縁部一部欠損

SK－171

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
67-1	瀬戸美濃天目茶碗		良好 白色粒子	良好	外 黒褐色 内 黒褐色	体部は開き気味で、体部上端でゆるやかに立ち上がり、口唇部でやや外反する。	外・内面はロクロ撫で後、鉄釉を施す。発色は良い。	埋土中	一部
67-2	不明鉄製品	重 3.12 g				2本の針金状の鉄を撚り合わせ、「U」字形に曲げている。		埋土中	破片
67-3	不明鉄製品	重 11.16 g				直角に折れ曲がっている。断面は方形。		埋土中	両端部欠損

SK－181

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
67-1	焙烙	口（36.8） 底（36.2）	良好 砂粒	良好	外 暗褐色 内 にぶい黄橙色	器厚はやや厚く、底部は丸味がある。体部はやや内湾し、口唇部は内側に肥厚する。	体部～口縁部外面は横撫で。底部～口縁部内面は横撫で。底部外面は無調整。	埋土中	底部～口縁部一部
67-2	不明鉄製品	長 5.8 幅 4.0 厚 0.4 重 50.57 g				厚手の鉄板に、刺状の突起3ヶ所、孔2ヶ所がみられる。			上部欠損

SK－190

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
67-1	内耳鍋	口（30.6）	良好 白色粒子 金雲母	良好	外 黒褐色、黒斑あり 内 褐色	体部は内湾し、口唇部に平坦面あり。スス付着。	口縁部外・内面は横撫で。	埋土中	口縁部一部

SK－218

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
67-1	瀬戸 灰釉 瓶子		良好 砂粒 白色粒子	良好	外 オリーブ黄色、明黄褐色 内 灰黄色	器厚は下位程厚い。	外面に灰釉を施し、釉の発色は良い。内面に撫で。外面に沈線が巡る。	埋土中	胴の下部 破片

67-2	瀬戸 灰釉 瓶子		良好 白色粒子 砂粒	良好	外　オリーブ黄色、明黄褐色 内　灰黄色	器厚は薄く、ゆるやかな丸味をもって頚部に至る。2条の沈線が巡る。	胴部外面に灰釉を施す。釉の発色は良好。胴部内面に撫で。	埋土中	胴の上部 破片
67-3	甕 在地系		良好 白色粒子 砂粒 小砂利	良好	外　にぶい黄橙色 内　灰黄褐色	器厚は厚く、胴部はやや丸味をもって開く。	外面に撫で。内面に横撫で。	埋土中	胴の下部 破片
67-4	甕 在地系		良好 白色粒子 砂粒	良好	外　褐灰色 内　にぶい黄橙色	器厚は厚く、胴部はやや丸味をもって開く。	外・内面に横撫で。	埋土中	胴の上部 破片
67-5	鉄製品 釘	重　5.02 g				頭部を板状にのばし、折り曲げている。下端部は欠損しており、断面方形。		埋土中	上部 破片

ＳＫ－229

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
67-1	内耳鍋	口（32.0）	良好 金雲母 白色粒子 砂粒	良好	外　赤黒色 内　にぶい赤褐色	器厚は薄く、口唇部は平坦。外面にスス付着。	体部の外面、内面は撫で。耳貼り付け1個、数不明。	埋土中	口縁部の一部

ＳＫ－239

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
67-1	かわらけ	口　6.8 高　2.0 底　2.8	良好 砂粒	良好	外　浅黄橙色 内　浅黄橙色	体部はやや丸味をもって立ち上がる。底部内面中央が厚く突出している。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。底部内面に撫で。	埋土中	完存
67-2	かわらけ	口　7.0 高　2.3 底　2.9	良好 赤色粒子 白色粒子 雲母	良好	外　浅黄橙色 内　浅黄橙色	底部の器厚は厚く、中央部が内面に突出している。体部はゆるやかな丸味をもって立ち上がる。	底部外面は回転糸切り後、板目状圧痕あり。底部内面に撫で。体部外面～口縁部外面はロクロ撫で。	埋土中	完存
67-3	かわらけ	口　7.0 高　1.8 底　3.0	良好 砂粒	良好	外　淡黄色 内　淡黄色	底部は平底で、体部は器厚がやや薄い。体部は丸味をもって立ち上がり、稜が明瞭である。底部内面が厚く突出している。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。板目状圧痕あり。底部内面に撫で。	埋土中	完存
67-4	かわらけ	口　7.0 高　2.2 底　2.8	良好 砂粒	良好	外　浅黄橙色 内　浅黄橙色	底部の器厚は厚く平底で、内面中央部が突き出ている。	体部外・内面にロクロ撫で。底部外面に回転糸切り。底部内面に撫で。	埋土中	完存
67-5	かわらけ	口　6.8 高　2.0 底　3.0	良好 砂粒	良好	外　浅黄橙色 内　浅黄橙色	体部は丸味をもって立ち上がる。平底で、内面中央が厚く突出する。	体部外・内面にロクロ撫で。底部外面に回転糸切り。底部内面に撫で。	埋土中	完存
67-6	かわらけ	口　7.0 高　1.9 底　3.0	良好 砂粒	良好	外　明黄褐色、黒斑あり 内　浅黄橙色	平底で、体部は丸味をもって立ち上がる。底部内面中央が厚く突出する。	体部外・内面はロクロ撫で。体部外面は回転糸切り。底部内面に撫で。	埋土中	完存
67-7	かわらけ	口　6.8 高　2.0 底　2.8	良好 砂粒	良好	外　明黄褐色 内　浅黄橙色	体部は丸味をもって立ち上がる。底部内面中央部が厚く突出している。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。底部内面に撫で。	埋土中	完存

67-8	かわらけ	口 7.2 高 1.9 底 3.4	良好 白色粒子	良好	外 淡黄色、黒斑あり 内 浅黄橙色	体部は丸味をもって立ち上がる。底部内面中央は厚く突出している。	底部外面は回転糸切り。体部外・内面から口縁部外・内面はロクロ撫で。底部内面は撫で。	埋土中	完存
67-9	かわらけ	口 6.6 高 2.0 底 2.8	良好 砂粒	良好	外 にぶい黄橙色 内 橙色	体部は丸味をもって立ち上がる。底部内面中央がやや厚い。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。底部内面に撫で。	埋土中	完存
67-10	かわらけ	口 6.8 高 1.8 底 2.4	良好 砂粒 赤色粒子	良好	外 浅黄橙色 内 浅黄橙色	器厚は薄く底部は平底で、体部は直線的に立ち上がる。全体に歪んでいる。	底部外面は回転糸切り後、板目状圧痕。底部内面に撫で。体部外面はロクロ撫で。	埋土中	口縁部一部欠損
67-11	かわらけ	口 10.0 高 3.4 底 3.0	良好 砂粒	良好	外 灰白色 内 浅黄橙色	底部の器厚はやや厚く平底で、体部は直線的に大きく開く。	体部外・内面にロクロ撫で。底部外面に回転糸切り。板目状圧痕がみられる。	埋土中	完存
67-12	かわらけ	口 10.4 高 3.5 底 3.4	良好 砂粒 金雲母	良好	外 浅黄橙色 内 浅黄橙色	器厚はやや厚く平底で、体部は直線的に開く。	体部外・内面にロクロ撫で。底部外面に回転糸切り。外面の稜は明瞭。	埋土中	完存
67-13	かわらけ	口 10.6 高 3.4 底 3.2	良好 砂粒 赤色粒子	良好	外 浅黄橙色 内 浅黄橙色	底部がやや厚く平底で、体部は直線的に大きく開く。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。	埋土中	底部～体部完存 口縁部1/2
67-14	かわらけ	口 10.8 高 3.2 底 3.2	良好 砂粒	良好	外 浅黄橙色 内 浅黄橙色	体部は直線的に開き口縁部で、やや内湾する。底部外面立ち上がりの稜は明瞭である。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。	埋土中	完存
67-15	かわらけ	口 10.6 高 3.4 底 3.2	良好 砂粒 雲母	良好	外 浅黄橙色 内 浅黄橙色	平底で、体部は直線的に開く。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。	埋土中	完存
67-16	かわらけ	口 5.0 高 3.4 底 3.0	良好 砂粒	良好	外 浅黄橙色 内 浅黄橙色	平底で、体部は丸味をもちながら立ち上がる。	体部は外・内面ともにロクロ撫で。底部外面回転糸切り。板目状圧痕あり。	埋土中	完存
67-17	かわらけ	口 5.0 高 3.4 底 3.2	良好 砂粒	良好	外 浅黄橙色 内 にぶい黄橙色	底部はやや厚く平底で、体部は直線的に開く。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。	埋土中	完存
67-18	かわらけ	口 10.6 高 3.3 底 3.2	良好 砂粒	良好	外 浅黄橙色 内 浅黄橙色	底部は厚く平底で、体部は直線的に開く。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面に回転糸切り。	埋土中	完存
67-19	かわらけ	口 10.4 高 3.4 底 3.4	良好 砂粒 金雲母	良好	外 浅黄橙色 内 浅黄橙色	平底で、体部は外反気味に立ち上がる。稜は明瞭である。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。	埋土中	完存

ＳＫ－243

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
67-1	常滑 大甕		良好 砂粒	良好	外 オリーブ黒色 内 灰色	器厚は厚く、肩部は少々丸味をもつ。	外面自然釉を施す。内面撫で。	埋土中	脚部上位破片
67-2	常滑 大甕		良好 白色粒子 橙色粒子 砂粒	良好	外 灰色 内 灰色	器厚はやや厚く、胴部は丸味がある。	内面に横撫で。外面に叩き目。	埋土中	胴部破片

67-3	常滑 大甕 砥石に転用		良好	良好	外　暗赤褐色 内　にぶい黄橙色	器厚は厚く、胴部は開き気味である。口唇部は丸味をもつ。	内面篦撫で。周囲は破面であるが、磨耗が著しい。	埋土中	脚部下位破片
67-4	擂鉢 在地系		良好 輝石 白色粒子 砂粒	良好	外　黒褐色 内　黒褐色	器厚はやや薄く、胴部は開き気味である。	外面に刷毛目。指頭による押さえ。内面に刷毛目、擂目。	埋土中	胴の一部 破片
67-5	内耳鍋		良好 白色粒子 金雲母 砂粒	良好	外　暗褐色 内　暗褐色	器厚は薄く、口唇部は平坦。胴部は直線的に開く。口縁部内面に稜線あり。	外・内面に横撫で。番号6と同一個体。	埋土中	口縁部と胴部の一部
67-6	内耳鍋	口（30.0）	良好 白色粒子 金雲母	良好	外　黒褐色 内　黒褐色	器厚はやや薄く、胴部は直線的で、口唇部に平坦面あり。口縁部内面に稜線あり。耳不明。	胴部外・内面に撫で。口縁部外・内面は横撫で。番号5と同一個体。	埋土中	口縁部一部

SX－219

挿図番号	種別 器種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
70-1	青磁 高台付皿	底（8.0）	良好 砂粒	良好	外　暗灰黄色 内　オリーブ灰色	器厚は厚く、体部は大きく開き、立ち上がりはみられない。	外・内面施釉。暗緑色を呈し、発色良好。釉は内面と底の一部に及ぶ。高台は貼り付け高台である。	埋土中	底部一部
70-2	瀬戸 灰釉 瓶子		良好 砂粒	良好	外　灰黄色、にぶい黄色 内　淡黄色	器厚はやや厚く、肩部は丸味をもっている。	外面体部は釉が薄く、発色がよい。外・内面に撫で。	埋土中	肩部の一部
70-3	瀬戸 灰釉 折縁鉢	口（25.0）	良好 白色粒子	良好	外　灰白色 内　灰白色	器厚はやや薄く、口縁部は外側に屈曲し、先端が内面に折れている。内面に稜縁あり。	外・内面はロクロ撫で後、釉を薄く施す。細かい貫入がある。	埋土中	口縁部一部
70-4	常滑 甕		良好 白色粒子 黒色粒子 砂粒	良好	外　黒褐色、灰褐色 内　黒褐色、灰褐色	頚部は厚く、強く屈曲する。上下にのびる縁帯を有する。	外・内面に撫で。外・内面に薄く自然釉あり。	埋土中	口縁部と頚部の一部
70-5	かわらけ 燈明具	口　7.0 高　1.4 底　3.2	良好 白色粒子 橙色粒子 砂粒	良好	外　にぶい黄橙色 内　にぶい黄橙色	器厚は薄く平底で、内面の中央部が突出する。体部は丸味をもって立ち上がる。内面口縁部に油煙が付着している。全体に歪んでいる。	外・内面にロクロ撫で。外面底部に回転糸切り。	埋土中	ほぼ完存
70-6	甕 在地系		良好 白色粒子 砂粒	良好	外　暗灰黄色 内　にぶい黄橙色	器厚はやや厚く、胴部は開き気味である。	胴部の外・内面に撫で。	埋土中	胴の下半部
70-7	砥石	長　12.3 幅　4.3 厚　2.3 重　188.62 g				扁平で細長い砥石で、砥面は4面ある。各砥面には擦痕があり、中央部が薄く磨耗している。		埋土中	長軸方向下端部欠損

表採

挿図番号	種別 機種	法量	胎土	焼成	色調	形態	技法	出土位置	残存
72-1	青磁 碗	口（12.8）	良好 砂粒	良好	外 明緑灰色 内 明緑灰色	体部は丸味をもって立ち上がり、直線的に開く。口唇部はやや外反する。	外・内面に釉が厚く施される。発色は淡緑色であり良好。外面に鎬連弁文が刻まれている。		口縁部一部
72-2	青磁 碗	底（3.6）	良好 砂粒	良好	外 灰白色、にぶい黄褐色 内 灰白色	器厚は薄く、高台は低く直立に立ち、体部はゆるやかな丸味をもって立ち上がる。	外・内面にロクロ撫で後、灰釉を施す。釉の発色は良く、貫入がある。貼り付け高台。		底部1/3 体部の一部
72-3	瀬戸 灰釉 梅瓶		良好 砂粒	良好	外 オリーブ黄色 内 にぶい黄橙色	器厚は厚く、体部はゆるやかな丸味をもっている。	外・内面にロクロ撫で後、灰釉が薄く施される。釉の発色は良く、貫入である。内面に輪積痕がみられる。	G-101、	胴一部破片
72-4	瀬戸灰釉 平碗	口（26.0）	良好 白色粒子	良好	外 オリーブ黄色 内 オリーブ黄色	体部はやや内湾する。	体部外・内面は、ロクロ成形後、灰釉を施す。発色は良好で貫入あり。	G-129	口縁部一部
72-5	瀬戸 灰釉 平碗	口 18.0 高 7.6 底 5.5	良好 白色粒子 黒色粒子 砂粒	良好	外 オリーブ黄色、灰白色 内 浅黄色	器厚は薄く、体部は内湾気味に立ち上がる。	外・内面にロクロ撫で後、灰釉が薄く施される。釉の発色は良く、貫入がある。貼り付け高台。内面の底部周辺に4ヶ所のトチン痕がみられる。		2/3
72-6	瀬戸 灰釉 平碗	口（16.4） 高 5.8 底 4.6	良好 白色粒子 砂粒	良好	外 浅黄色 内 浅黄色	器厚は薄く、底部中央がやや厚い。体部は内湾気味に立ち上がる。	外・内面にロクロ撫で後、灰釉が薄く施されている。釉の発色は良く、貫入がある。削り出し高台。内面体部にトチン痕あり。	G-129	1/5
72-7	瀬戸 灰釉 平碗	口（15.0）	良好 白色粒子 砂粒	良好	外 浅黄色、オリーブ黄色 内 浅黄色、オリーブ黄色	器厚はやや薄く、直線的に開く。	体部外・内面にロクロ撫で。外・内面に灰釉が施されている。発色が良く、貫入あり。	G-109	口縁部の一部破片
72-8	瀬戸 高台付平碗		良好 砂粒	良好	外 灰オリーブ色 内 灰オリーブ	体部はやや内湾気味に開く。高台の基部が残る。	体部外・内面はロクロ撫で後、灰釉が施される。発色が良い。貫入あり。内面にトチン痕。	G-42	体部破片
72-9	瀬戸 灰釉平碗		良好 白色粒子 砂粒	良好	外 オリーブ黄色、灰白色 内 オリーブ黄色	器厚は薄く、体部は丸味をもって立ち上がる。	体部の外・内面にロクロ撫で。外・内面に灰釉。釉の発色は良く、貫入あり。内面体部にトチン痕あり。	G-29	体部の一部破片
72-10	瀬戸 鉄釉 仏華瓶	底 4.0	良好 白色粒子 砂粒	良好	外 黒褐色、灰オリーブ色 内 にぶい黄橙色	器厚は薄く、体部はゆるやかな丸味をもち、脚部は強く外反する。	外面にロクロ撫で後、鉄釉が施される。発色は良い。外面底部に回転糸切り。	G-129	底部～体部
72-11	瀬戸 灰釉 鉢	底 11.8	良好 白色粒子	良好	外 灰白色 内 灰白色	器厚は薄く、高台は断面台形。	外・内面はロクロ撫で。高台は削り出し。体部内面～底部高台付近まで灰釉を施す。発色は良く、細かい貫入あり。トチン跡あり。	G-101	底1/2

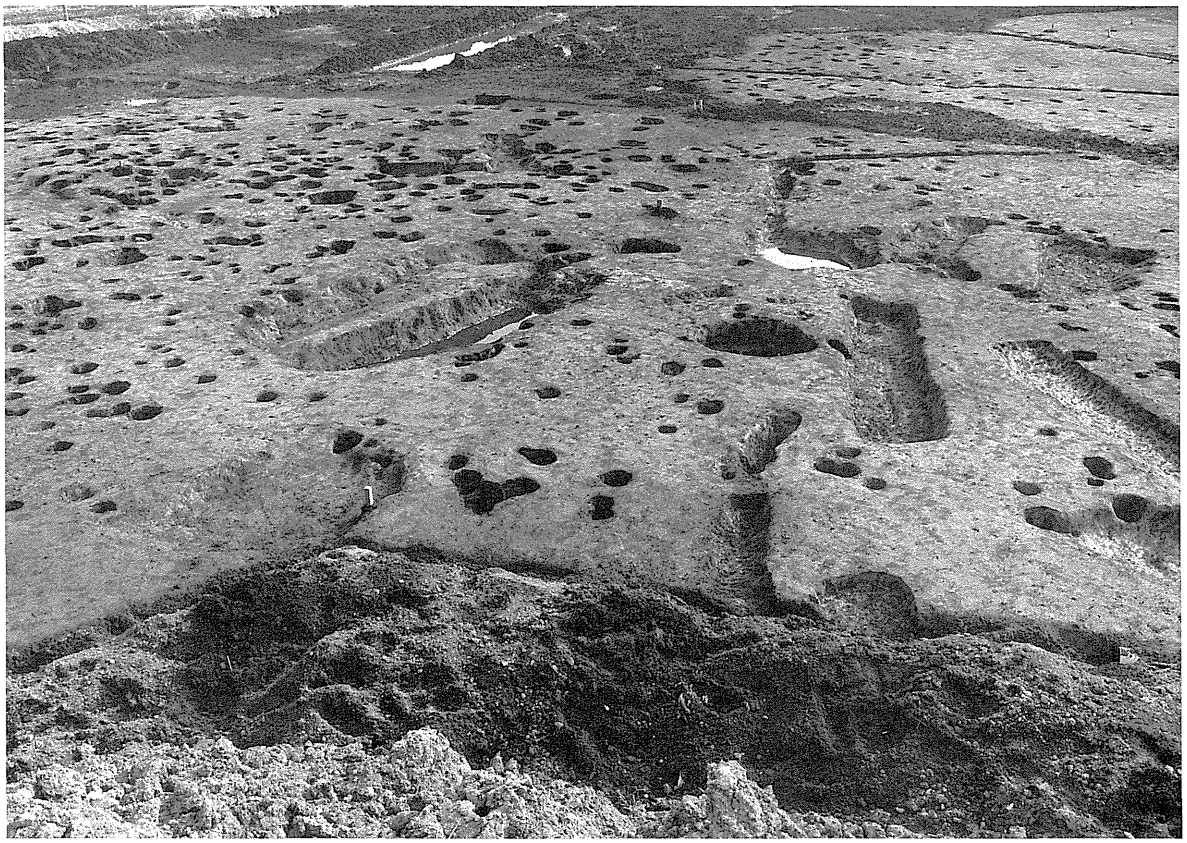
72-12	黄瀬戸 鉢	口（19.2）	良好 白色粒子 黒色粒子	良好	外　浅黄色 内　浅黄色	体部は直立する。口縁部直下外面に沈線があり、口唇部は平坦面となっている。内面がやや突出している。	体部外・内面はロクロ撫で後、灰釉が施される。	G-43	口縁部一部
72-13	瀬戸 灰釉 鉢		良好 白色粒子 砂粒	良好	外　浅黄色 内　浅黄色	器厚は厚く、体部は内湾気味に立ち上がる。	外・内面にロクロ撫で後、灰釉を施す。釉の発色は良い。貼り付け高台。	G-38	底部の一部
72-14	瀬戸 鉄釉 小鉢	口（10.6） 高　2.5 底（5.2）	良好 白色粒子 砂粒	良好	外　明黄褐色、褐色 内　褐色、黒褐色	器厚は薄く、底部は平底で、体部は外反気味に立ち上がる。	外・内面にロクロ撫で。口縁部の外・内面に鉄釉が施される。釉の発色は良い。外面底部は回転糸切り。	G-9	1/4
72-15	瀬戸 合子	口（9.2）	良好 砂粒	良好	外　オリーブ黄色 内　灰白色	器厚は薄く、口縁部は内傾する。内面に蓋受けを有する。	外面に灰釉を施す。釉は発色が良く、貫入あり。ロクロ撫で。	G-109	口縁部の一部破片
72-16	灰釉 おろし皿		良好 黒色粒子 砂粒	良好	外　灰オリーブ色、灰黄色 内　灰オリーブ色、灰黄色	器厚はやや薄く、体部は開き気味である。口縁部は折縁状になっている。内面口縁部に稜線あり。	外・内面にロクロ撫で。口縁部の外・内面に灰釉施される。釉の発色は良く、貫入がある。内面におろし目あり。		口縁部の一部破片
72-17	瀬戸 灰釉 皿	底（7.2）	良好 白色粒子	良好	外　灰白色 内　灰白色	高台は低い。体部は丸味をもって立ち上がる。内面に草文が描かれている。	体部外・内面・高台はロクロ撫で。高台は削り出し高台後、灰釉。貫入あり。トチン痕あり。		底部1/3
72-18	瀬戸美濃 天目茶碗	底（5.8）	良好 白色粒子	良好	外　灰白色 内　黒褐色	器厚はやや厚く、体部は丸味をもって立ち上がる。	体部内面はロクロ撫で後、鉄釉が施される。貼り付け高台。底部は篦削り。	G-102	底部1/2
72-19	菊皿		良好 白色粒子 砂粒	良好	外　浅黄色 内　黄褐色	器厚はやや薄く、体部はやや内湾する。	外・内面に灰釉が施される。釉の発色は良く、貫入もみられる。	G-127	口縁部の一部破片
72-20	常滑 甕	口（17.0）	良好 白色粒子 砂粒 小石	良好	外　灰色 内　灰色	器厚は厚く、口縁部は縁帯を有し、やや外反する。縁帯の上端がややのびている。	口縁部外・内面は横撫で。	G-129	口縁部の一部
72-21	かわらけ 燈明具	口　5.6 高　1.9 底　2.2	良好 輝石 白色粒子 橙色粒子 砂粒	良好	外　橙色 内　にぶい橙色	器厚はやや厚く、丸味をもった平底で、体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部の外・内面に油煙が付着している。	外・内面にロクロ撫で。外面底部に回転糸切り。	G-37	完存
72-22	かわらけ 燈明具	口　8.0 高　2.0 底　4.0	良好 輝石 白色粒子 砂粒	良好	外　にぶい黄橙色 内　浅黄橙色	器厚は薄く、丸味をもった平底で、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部でやや外反する。口縁部の外・内面に油煙が付着する。	外・内面にロクロ撫で。外面底部に回転糸切り。	G-129	1/2
72-23	かわらけ 燈明具	口（7.9） 高　2.0 底（5.0）	良好 輝石 砂粒	良好	外　にぶい黄橙色 内　灰黄褐色	器厚は薄く平底で、体部は直線的に立ち上がる。口縁部の外・内面に油煙付着。	外・内面にロクロ撫で。外面底部に回転糸切り。	G-29	1/3
72-24	かわらけ 燈明具	底（5.0）	良好 砂粒	良好	外　黒褐色 内　黒褐色	器厚は薄く上げ底気味の平底である。体部は大きく開き、口縁部内面に芯を置く突帯が巡る。外・内面と破面の一部に油煙が付着している。	外・内面にロクロ撫で。外面底部は回転糸切り。	G-38	底部と体部の一部

72-25	かわらけ	底（3.0）	良好 砂粒	良好	外　浅黄橙色 内　浅黄橙色	器厚はやや厚く平底で、体部は直線的に立ち上がる。	外・内面にロクロ撫で。外面底部に回転糸切り。稜は明瞭である。	G-33	1/2
72-26	かわらけ	口　6.8 高　1.6 底　3.4	良好 白色粒子 砂粒	良好	外　橙色 内　橙色	器厚は薄く、平底で、丸味をもって立ち上がる。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。		ほぼ完存
72-27	かわらけ	口　10.0 高　2.4 底　4.0	良好 輝石 白色粒子 黒色粒子 砂粒	良好	外　黄橙色 内　黄橙色	器厚は薄く、平底で、外面中央が窪んでいる。体部はやや内湾しながら立ち上がり、直線的に開く。	体部外・内面にロクロ撫で。底部外面に回転糸切り。		3/4
72-28	かわらけ	口　10.8 高　3.0 底　4.4	良好 砂粒 金雲母	良好	外　浅黄橙色 内　浅黄橙色	器厚はやや厚く、平底で、体部はやや内湾する。底部外面に段差あり。	体部外・内面はロクロ撫で。底部外面は回転糸切り。		2/3
72-29	擂鉢		良好 白色粒子 砂粒	良好	外　オリーブ褐色 内　にぶい黄橙色	器厚は薄く、平底で、胴部は直線的に立ち上がる。	外面は指頭によるおさえ。内面に擂目。		底部の一部破片
72-30	擂鉢	底（15.2）	良好 小砂利	硬質	外　暗褐色 内　暗褐色	器厚はやや厚く、平底で、体部は直線的に立ち上がる。	底部～体部外面はロクロ撫で。底部～体部内面は擂目。底部外面は回転糸切り。線刻がみられる。	G-102	底一部
72-31	擂鉢	底（14.4）	良好 小砂利	硬質	外　暗褐色 内　暗褐色	器厚は厚く、底部は平底で、体部は直線的に立ち上がる。	体部外面はロクロ撫で。内面は擂目。底部外面は回転糸切り。	G-127	底部～胴部下半部一部
72-32	擂鉢 在地系	口（28.0）	良好 白色粒子 砂粒	良好	外　にぶい黄橙色、黒斑あり 内　にぶい黄橙色	体部は直線的に開く。口唇部に平坦面あり。	胴部外面は無調整、指頭押さえ。内面は擂目あり。口縁部外・内面は横撫で。	G-36	口縁部の一部
73-33	内耳鍋	口（31.0）	良好 金雲母 白色粒子 黒色砂粒	良好	外　明赤褐色、灰褐色 内　明赤褐色	器厚は薄く、胴部はやや開く。口唇部は平坦。	外・内面に撫で。口縁部内面に焼成前の箆記号。	G-129	口縁部と胴部の一部
73-34	内耳鍋	口（31.2）	良好 金雲母 黒雲母 砂粒 小石	良好	外　灰黄褐色 内　灰黄褐色	器厚はやや薄く、口唇部に平坦面。	内面に耳1個。数不明。	G-29	口縁部一部
73-35	焙烙	口（33.0）	良好 金雲母	良好	外　浅黄色 内　暗灰黄色	器厚はやや厚く、体部は丸味をもって立ち上がり、口唇部は厚く丸味をもつ。	底部～口縁部外・内面は横撫で。外面にスス付着。底部は剥離している。	G-78	口縁部～体部一部
73-36	男瓦		良好 砂粒	良好	外　黒褐色 内　黒褐色	ゆるやかにカーブしている。	凸面と側面は無調整。凹面にかすかに目の粗い布目がみられる。	G-102	一部
73-37	鉄製品 釘	重　3.23…				断面長方形で、長軸両端を欠損している。ゆるやかに曲がっている。		G-36	上下両端部欠損
73-38	鉄滓 椀形滓	長　6.5 短　5.9 厚　2.5 重　121.3…			暗褐色	緻密な滓である。表面には流動単位化した部分があり、1㎜大の気孔が多くみられる。周囲は5面の破面がある。裏面は砂粒が多く付着する。一部に黒錆とひび割れがある。		G-151	

73-39	鉄滓 椀形滓	長　6.8 短　5.4 厚　2.4 重　78.47 g			暗褐色	地は緻密な滓である。表裏面とも泡状の凹凸が多い。2側面は破面であり、2～5㎜大の気孔が多くみられる。		G-29	
73-40	石製模造品 単孔円板	長　2.2 幅　1.9 厚　0.2 重　1.77 g				円形で表裏面とも擦痕がみられる。擦痕方向は表2方向、裏1方向、側は縦である。			完形
73-41	石製模造品 未製品	長　5.6 幅　4.6 厚　1.7 重　56.52 g				楕円形であり、周囲はうち欠き、中央を膨らませ、研磨を施している。擦痕方向は表に1方向のみ確認できた。			
73-42	石臼の受け皿	径（34.0）				下臼の受け皿と思われる。破面は2面あり、タール状の付着物がみられる。接着剤として用いた漆であろうか。		G-137	一部
73-43	砥石	長　12.2 幅　2.8 厚　2.0 重　76.83 g				短軸断面方形で、4面を砥面としている。各砥面には擦痕がみられる。		G-29	上端部欠損
73-44	砥石	長　9.9 幅　3.6 厚　1.7 重　111.50 g				細長く扁平な砥石で、表面・両側面・上面を砥面としている。各砥面には浅い擦痕がみられる。裏面は破面である。		G-22	裏面及び下部
73-45	砥石	長　7.7 幅　3.1 厚　1.2 重　46.68 g				長軸方向の4面を砥面とする扁平な砥石で、表面と両側面には筋状の擦痕がみられる。		G-38	下端部欠損
73-46	砥石	長　4.0 幅　2.3 厚　1.1 重　17.28 g				扁平な砥石で、砥面は4面ある。表面には長さ1.5㎝、幅0.2㎝の溝がみられる。		G-109	長軸方向両端部欠損
73-47	砥石	長　4.0 幅　2.1 厚　1.5 重　21.0 g				断面方形の砥石で、砥面は4面ある。幅2㎜、深さ2㎜の溝が表面、片側面に2本、裏面と片側面に1本みられる。砥面には浅い札痕が認められる。			長軸方向両端欠損
73-48	砥石	長　4.5 幅　1.6 厚　1.1 重　13.40 g				断面台形を呈する砥石で、砥面は3面で、各砥面には擦痕がみられる。			両端部欠損
73-49	砥石	長　3.4 幅　2.3 厚　1.8 重　26.27 g				断面方形の砥石で、砥面に使用しているのは4面。表面と両側面は上下方向に筋状の擦痕がみられる。		G-114	長軸両端部欠損

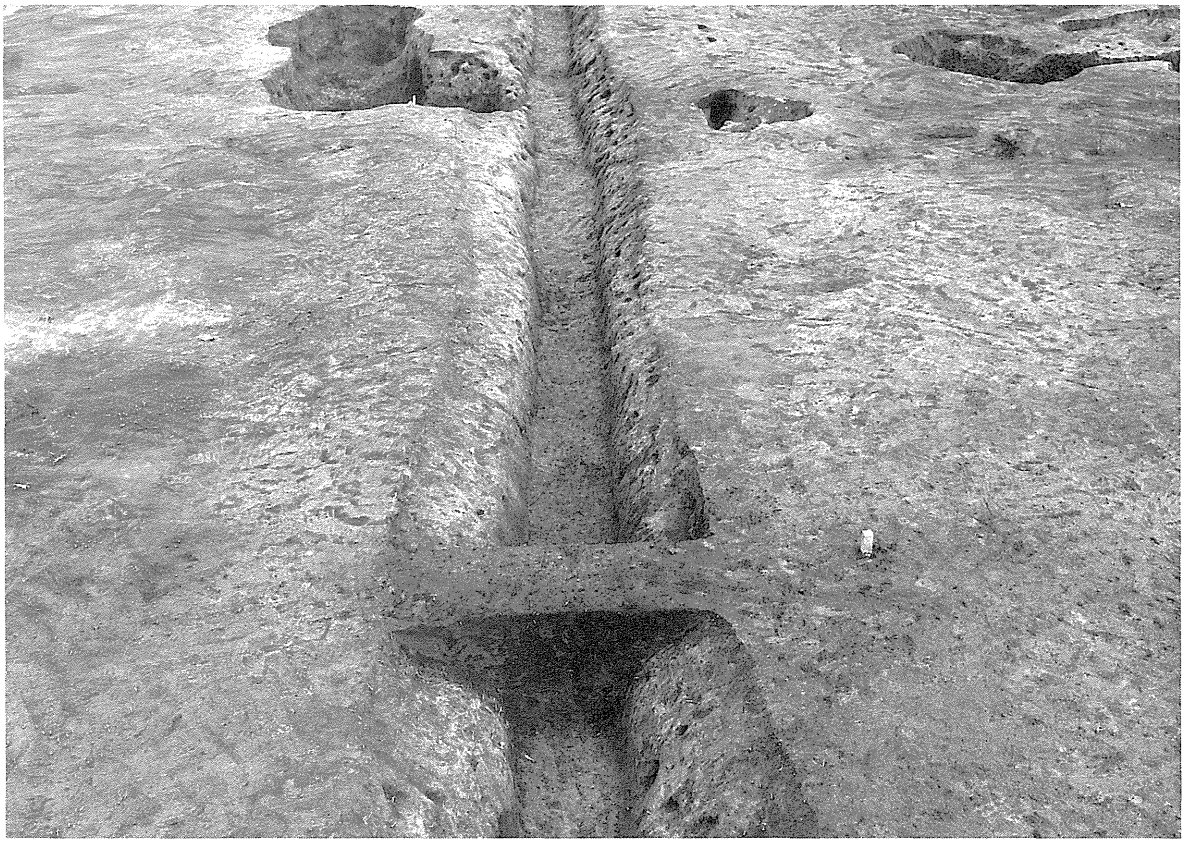
73-50	土師器 小形甕	口（15.0）	良好 白色粒子 橙色粒子	良好	外　明赤褐色、 灰黄褐色、 黒斑あり 内　明赤褐色、 灰黄褐色、 黒斑あり	器厚は薄く、口縁部は外反している。内面の口縁部の境に稜線あり。	外面口縁部に横撫で。胴部にハケ目。内面口縁部に横撫で、ハケ目。胴部に篦撫で、ハケ目		口縁部 1/3 胴の一部
73-51	土製品 人形	長　3.7 幅　2.9	良好	良好	外　にぶい黄 橙色 内　淡黄色		線は鋭い工具で描かれている。		
73-52	古銭 寛永通宝					時代　江戸時代 書体　楷書		G-39	完存
73-53	古銭 太平通宝					時代　北宋 初鋳　976年 書体　楷書		G-136	完存

図　　版



低地部分遠景

SX－052　完掘

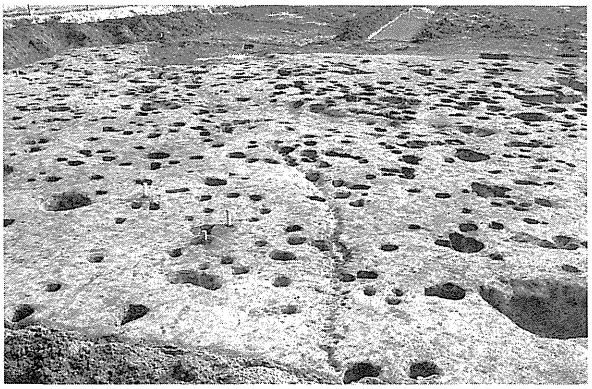


SD－051

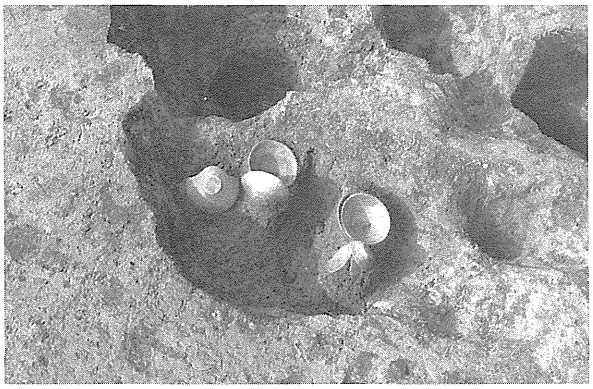
SD－193

SD－051　セクション

SK－239　遺物出土状況（1）

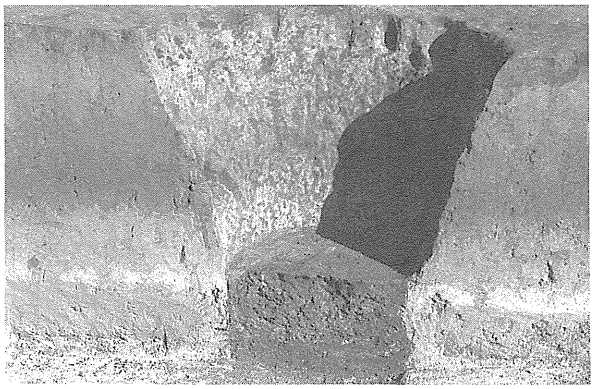


ピット群



SK－239　遺物出土状況（2）

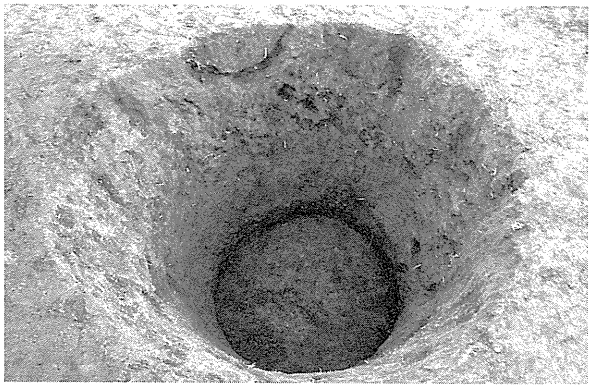
SD－193　セクション



SE－074　上部完掘

作業風景

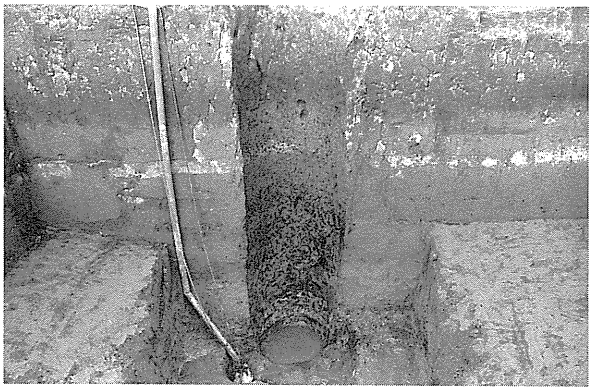
SE－074　下部セクション



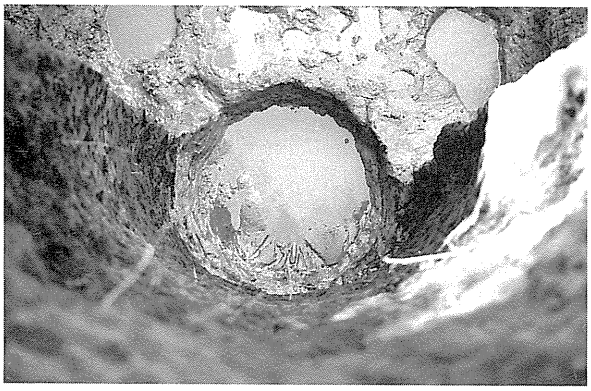
SE－093　上部完掘

SE－099　完掘（平面）

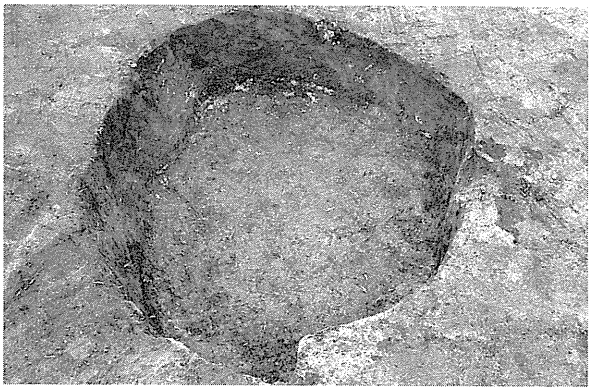
SE－093　セクション



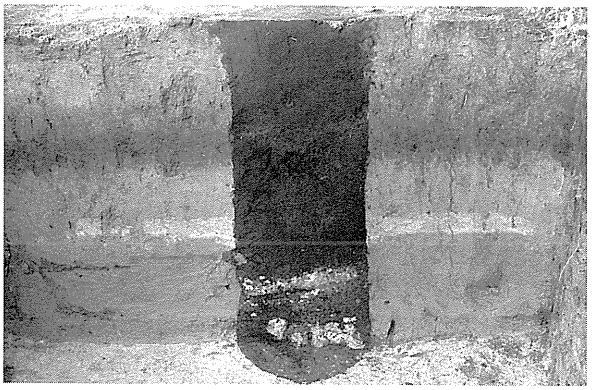
SE－099　完掘



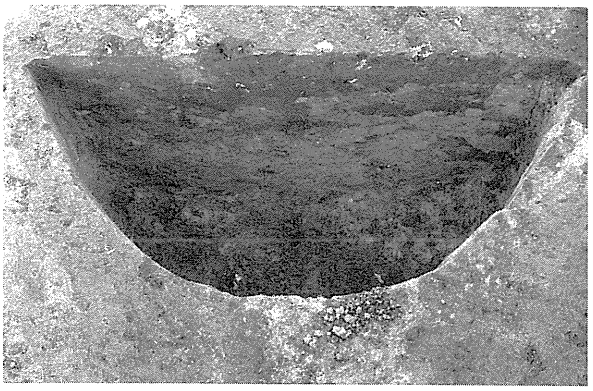
SE－153　完掘（平面）



SK－070　完掘



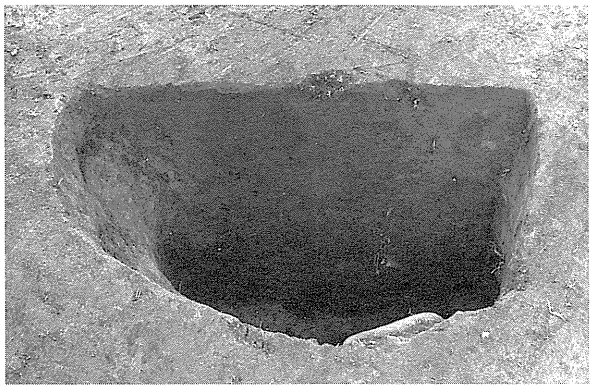
SE－153　セクション



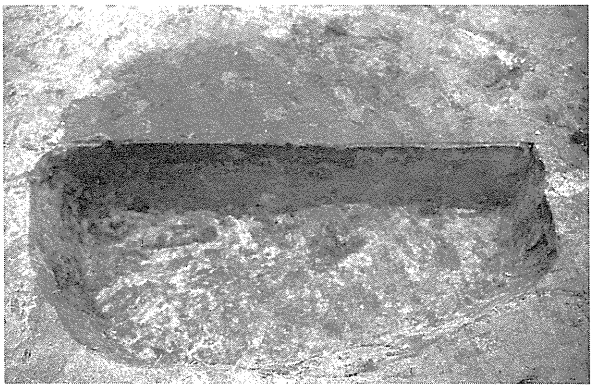
SK－070　セクション

SK－090　完掘

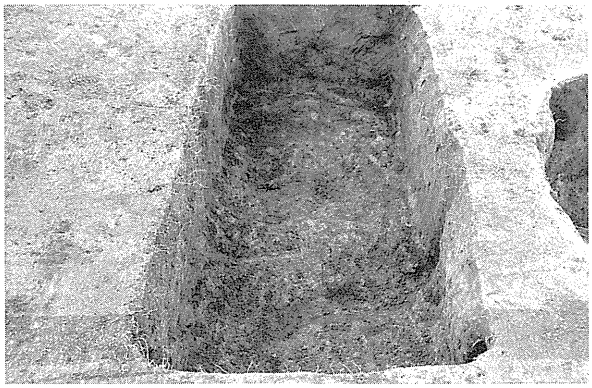
SK－097　完掘



SK－090　セクション

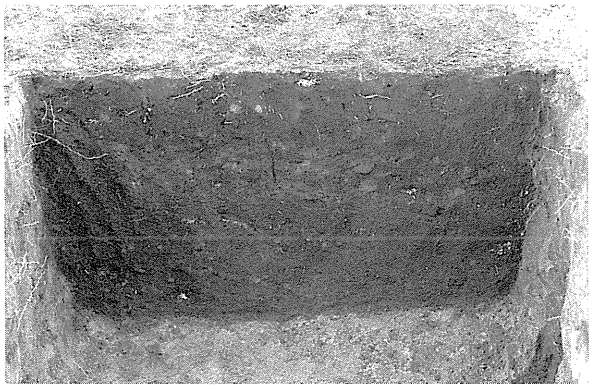


SK－097　セクション



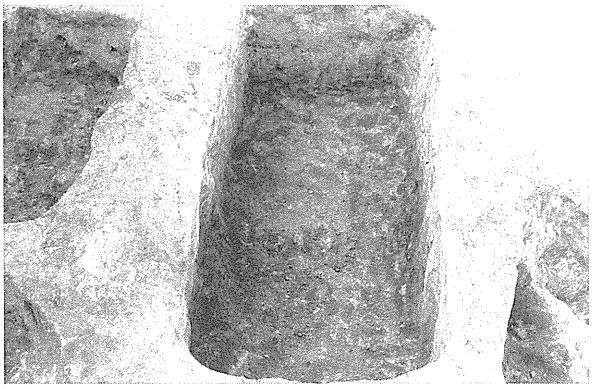
SK－115　完掘

SK－159　完掘

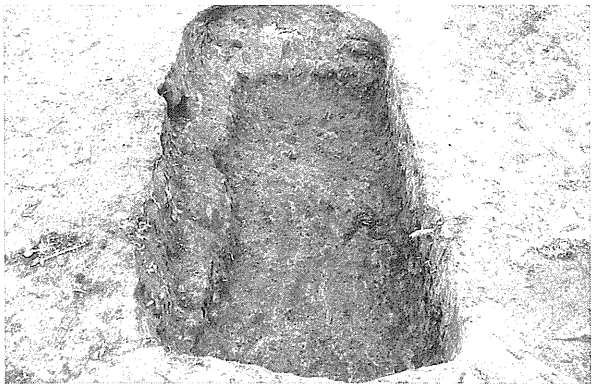


SK－115　セクション

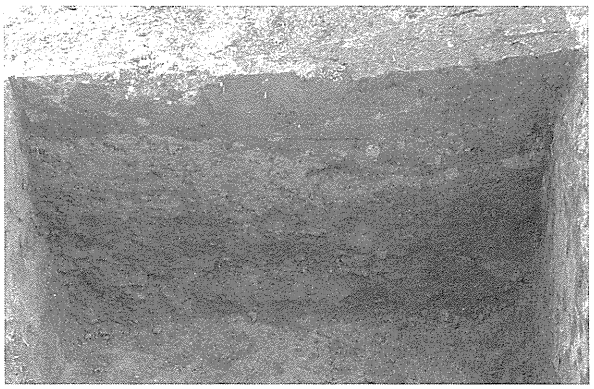
SK－159　セクション



SK－163　完掘

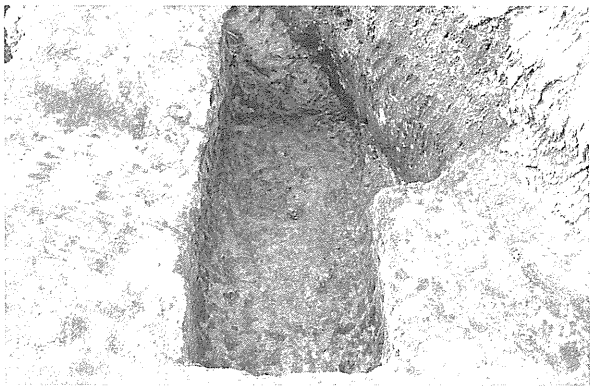


SK－166・167　完掘



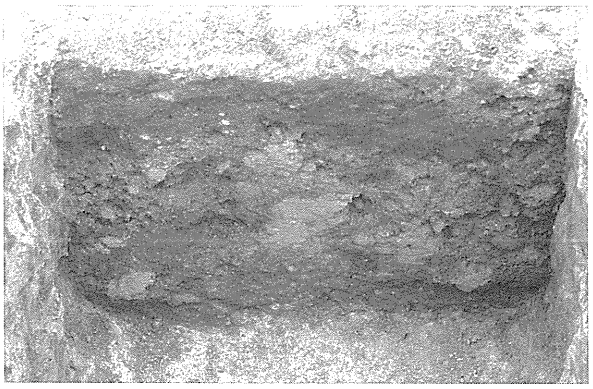
SK－163　セクション

SK－166・167　セクション



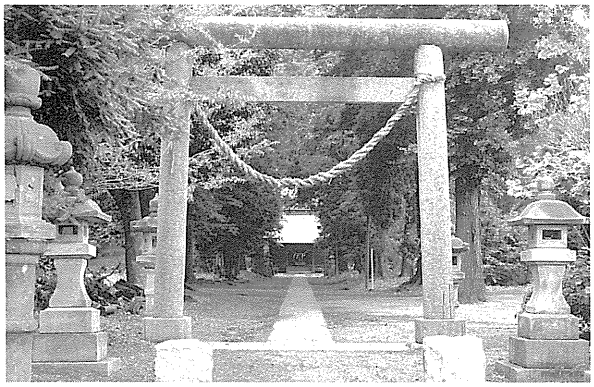
SK－184　完掘

SK－173～178　完掘



SK－184　セクション

作業風景



塚田館跡

三蔵神社館跡遠景

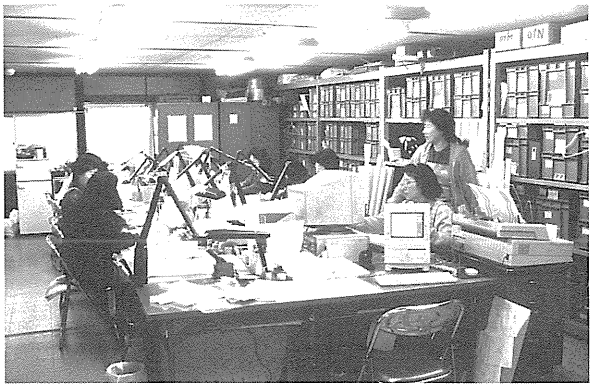
三蔵神社館土塁跡

三蔵神社館跡内涌水池

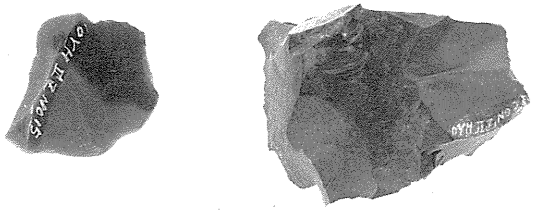
横倉館跡

旧鎌倉街道跡

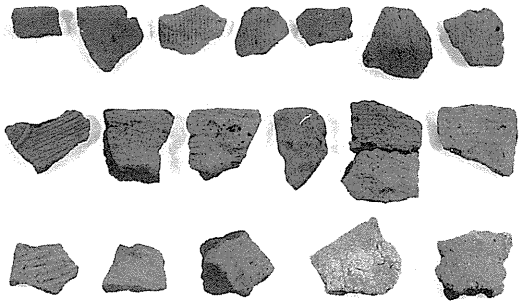
横倉遺跡現況



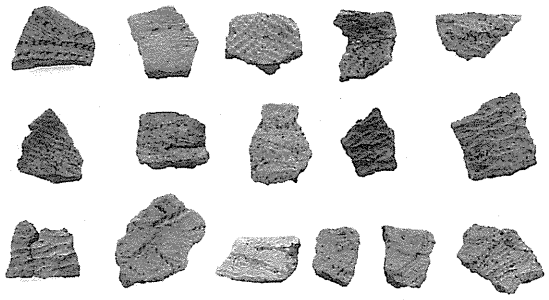
整理作業風景



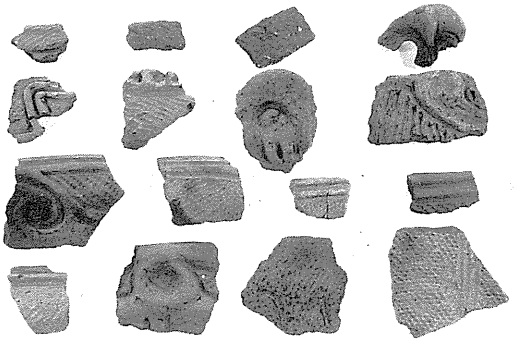
旧石器1・2



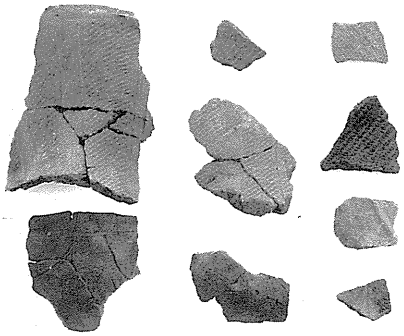
縄文土器（1）



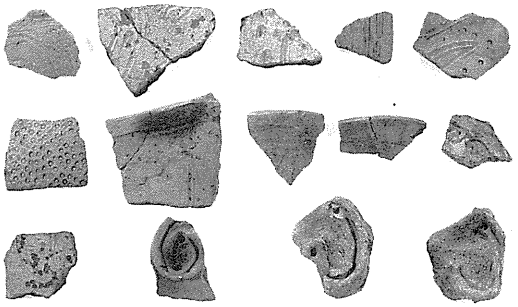
縄文土器（2）



縄文土器（3）1～16

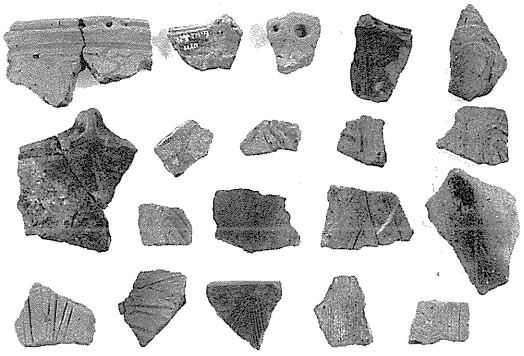


縄文土器（3）17～25

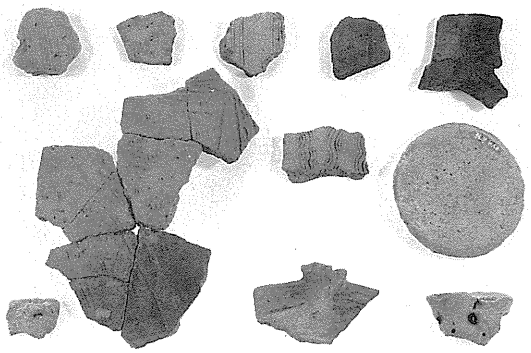


縄文土器（4）1～14

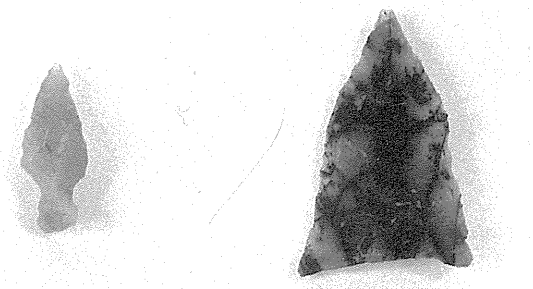
縄文土器（4）15～21



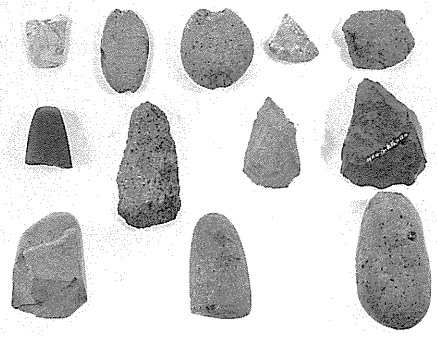
縄文土器（5）22～40



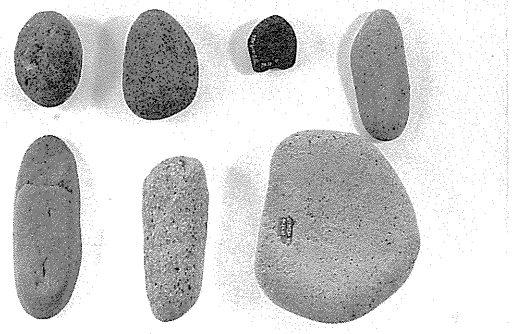
縄文土器（5）41～51



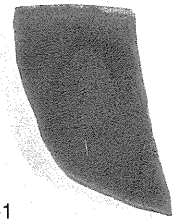
縄文石器（1）1・2



縄文石器（1）3～14

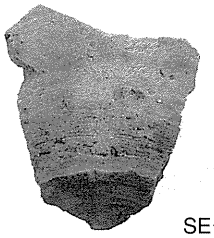


縄文石器（2）15～21

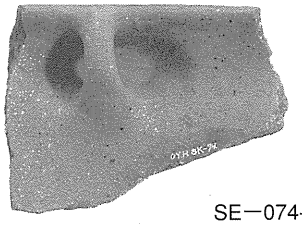


SE－015-1

SE－015-2

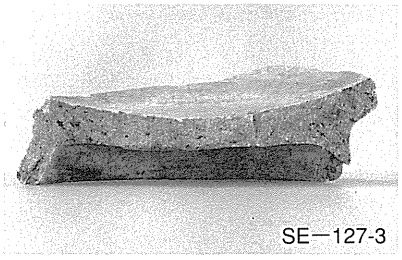


SE－015-3

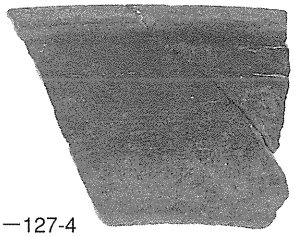


SE－074-1

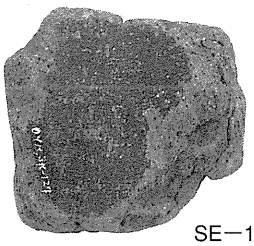
SE－127-2



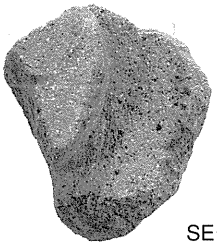
SE－127-3



SE－127-4

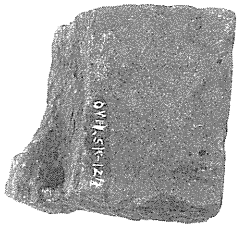


SE－127-6



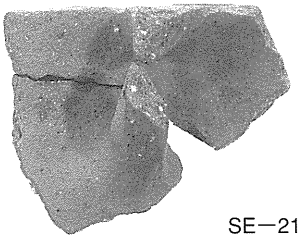
SE－127-7

SE－127-8

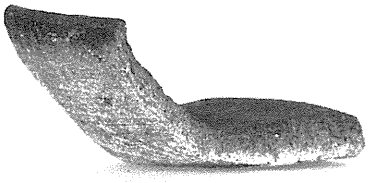

SE－127-11

SE－127-9

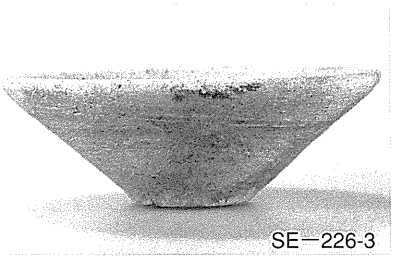
SE－127-12

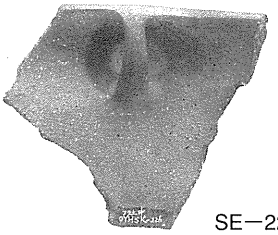

SE－215-1

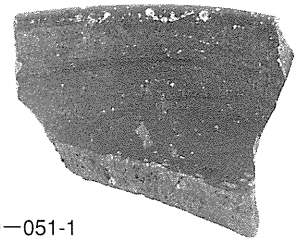
SE－224-2


SE－226-1

SE－226-2


SE－226-3

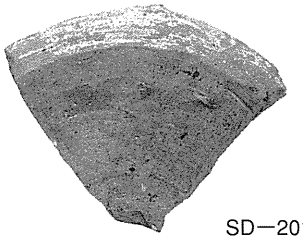

SE－226-4


SD－051-1

SD－051-2

SD－051-3

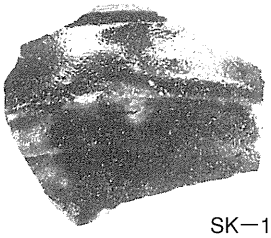
SD－193-2

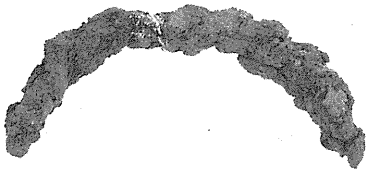

SD－201-1

SD－213-2

SD－079-1

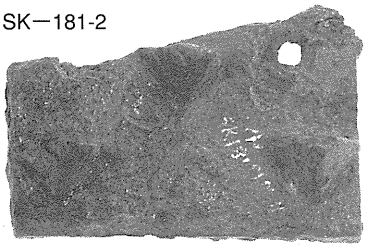
SD－079-2

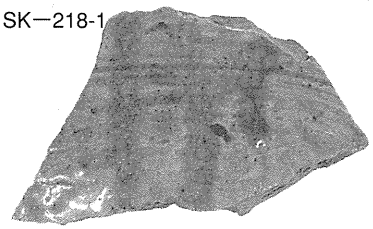

SK－171-1

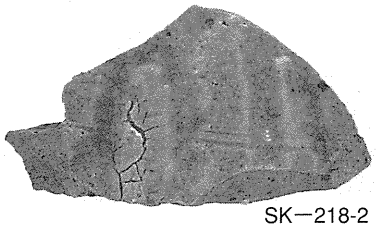

SK－171-2

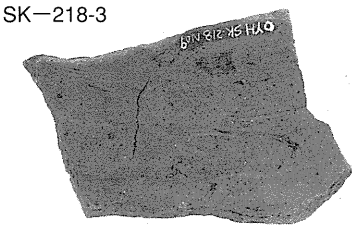
SK－181-1

SK－171-3

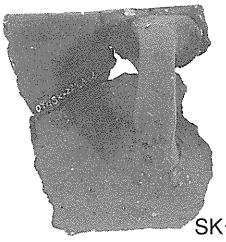

SK－181-2

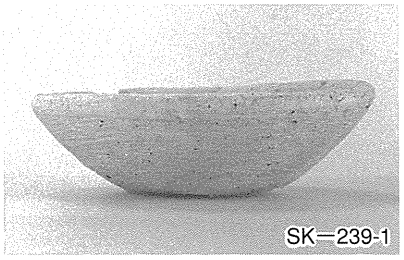

SK－218-1

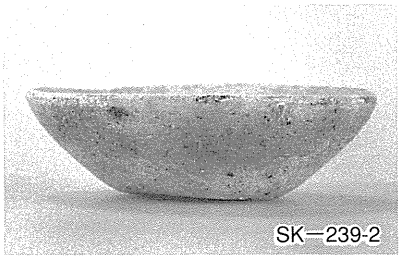

SK－218-2


SK－218-3

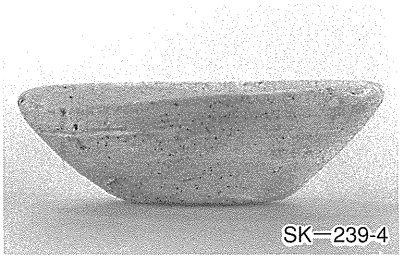
SK－218-5


SK－229-1

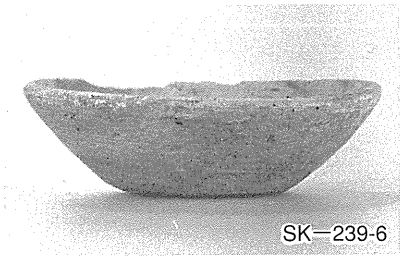

SK－239-1

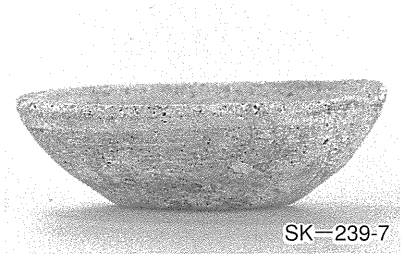

SK－239-2

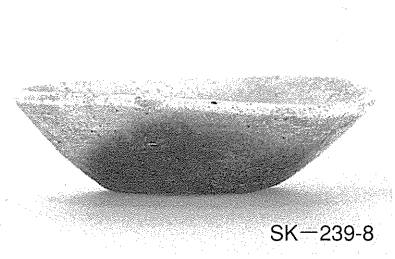
SK－239-3


SK－239-4

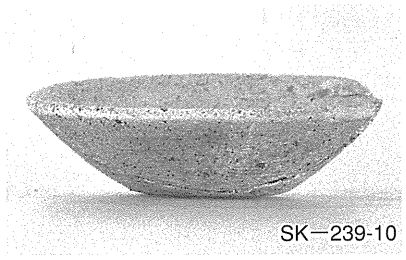
SK－239-5

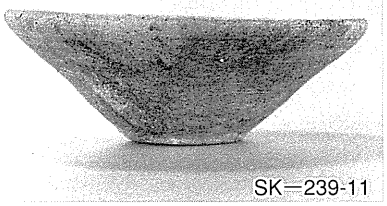

SK－239-6

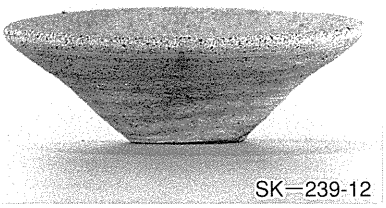

SK－239-7


SK－239-8

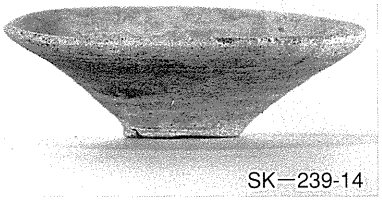
SK－239-9

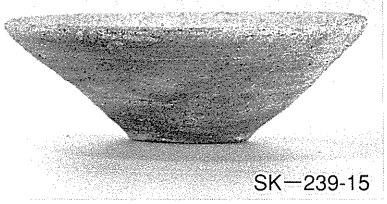

SK－239-10

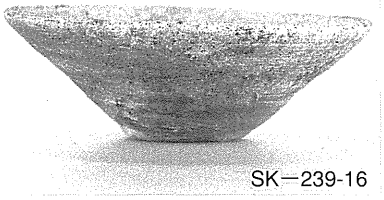

SK—239-11

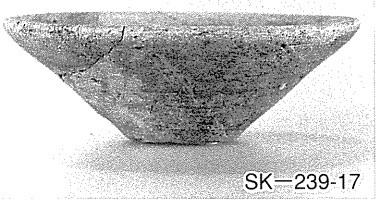

SK—239-12

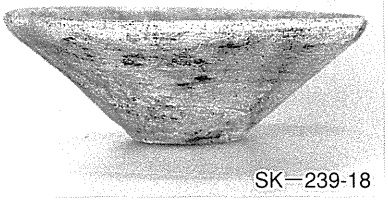
SK—239-13

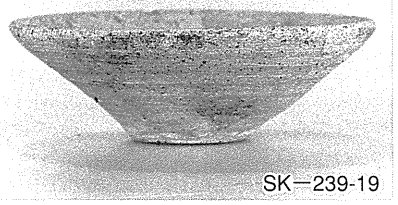

SK—239-14

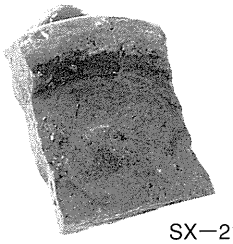

SK—239-15

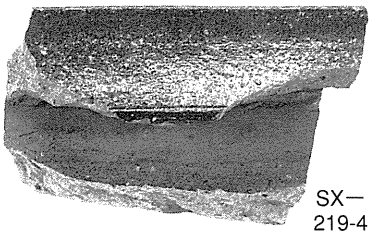

SK—239-16


SK—239-17


SK—239-18

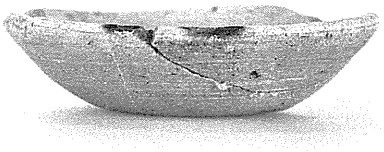

SK—239-19


SX—219-1

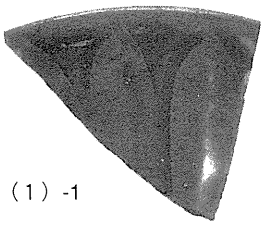

SX—
219-4

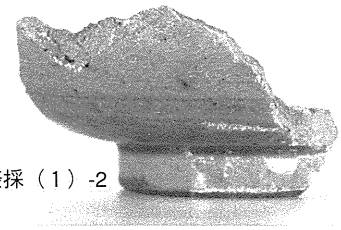
SX—
219-7

SX—219-2

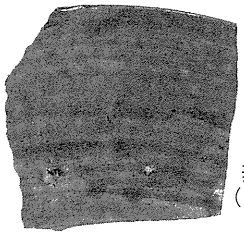

SX—219-5

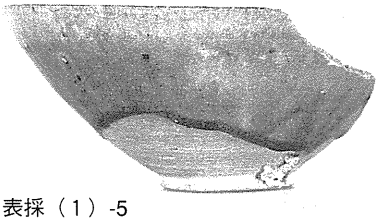
SX—
219-3


表採（1）-1

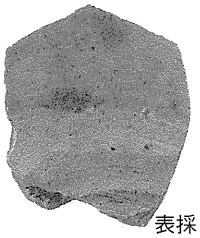

表採（1）-2

表採（1）-3

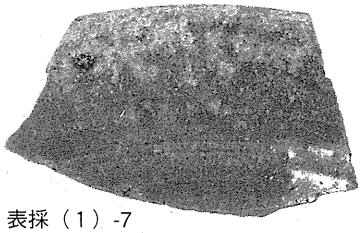

表採
（1）-4

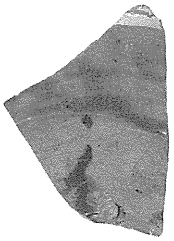

表採（1）-5

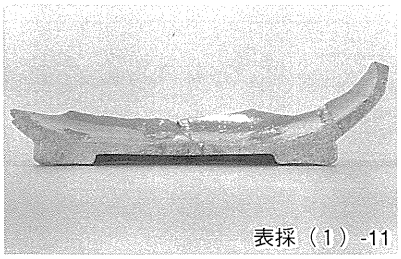
表採（1）-6


表採（1）-8

表採（1）-10

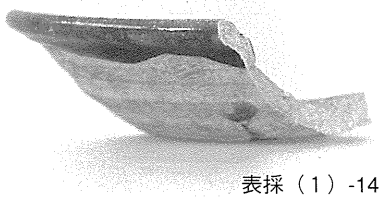

表採（1）-7

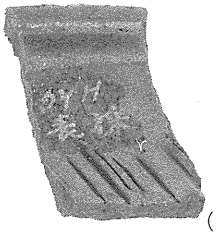

表採（1）-9

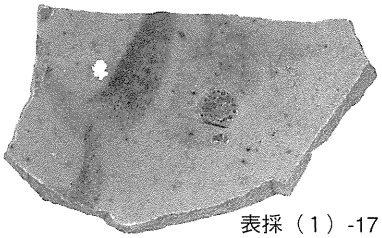

表採（1）-11

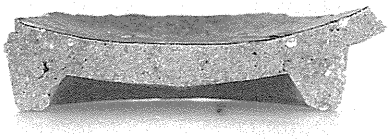
表採（1）-12

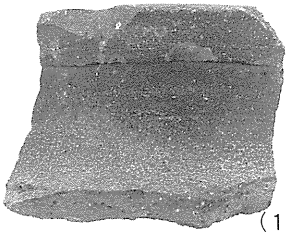
表採
（1）-13


表採（1）-14

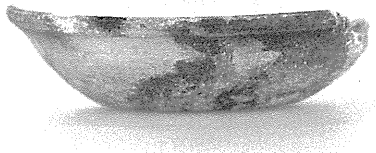

表採
（1）-16


表採（1）-17

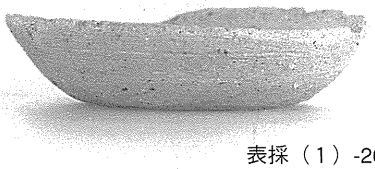

表採（1）-18

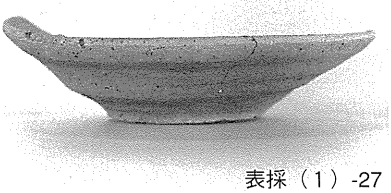

表採
（1）-20

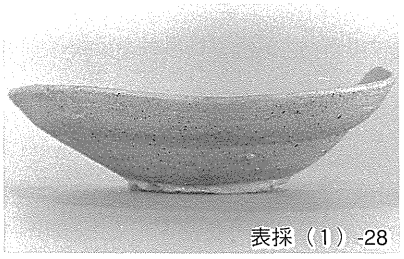
表採（1）-21

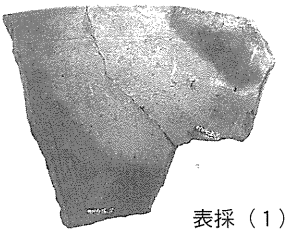

表採（1）-22

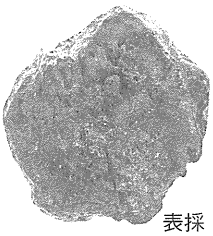
表採（1）-23

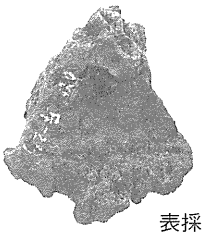

表採（1）-26


表採（1）-27


表採（1）-28

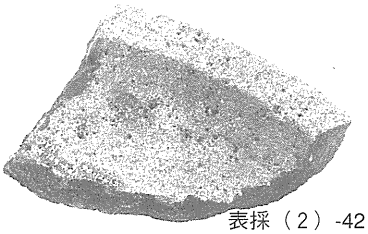

表採（1）-32

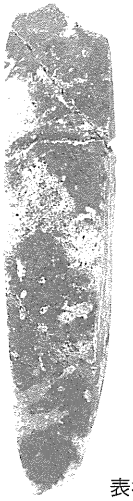

表採（２）-38

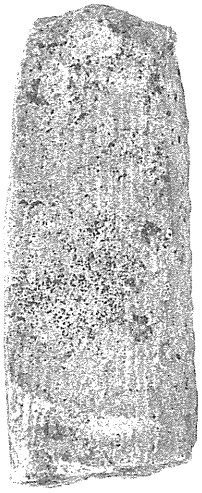

表採（２）-39

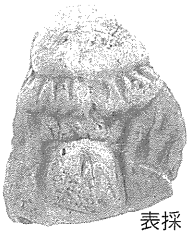
表採（２）-40

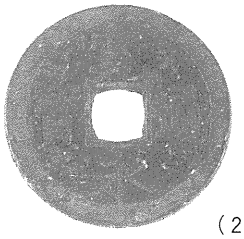
表採（２）-41


表採（２）-42

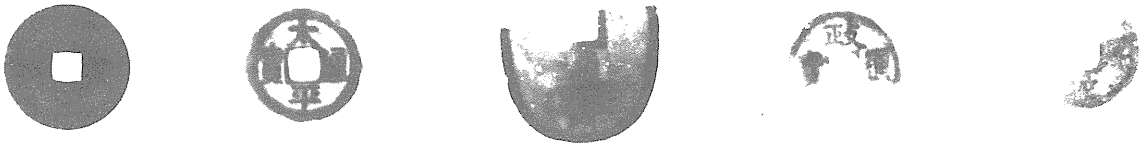

表採（２）-43


表採
（２）-45


表採（２）-51


表採
（２）-52

表採（２）-53


古銭X線写真

鉄製品X線写真

報告書抄録

フリガナ	ヨコクラ
書名	横倉遺跡
副書名	一般国道４号（新４号国道）改築に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第182集
編著者名	小筆一成、岩上照朗、亀田幸久、斎藤　弘
編集機関	財団法人栃木県文化振興事業団　埋蔵文化財センター
所在地	〒329-04　栃木県下都賀郡国分寺町大字国分寺乙474　TEL0285-44-8441
発行年月日	西暦　1995年９月30日　（平成７年９月30日）

フリガナ 所有遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
横倉（ヨコクラ）	小山（オヤマ）市横倉（ヨコクラ）字戸館（トダテ）長谷（ハセ）	09208		36° 16′ 43″	139° 50′ 21″	19880401～19910331	10,000	道路建設

所有遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
横倉	集落	縄文時代 古墳時代 室町時代 〃 〃 〃 〃 〃 〃	掘立柱遺物跡　12棟 井戸跡　15基 溝跡　９条 地下式壙　１基 土坑　164基 ピット群　１ヶ所 不明遺構　１基	縄文土器 石製模造品 かわらけ、内耳鍋 灰釉陶器、擂鉢 燈明具、砥石、石臼 古銭、鉄製品	

栃木県埋蔵文化調査報告書第182集
横倉遺跡
一般国道４号（新４号国道）改築に伴う埋蔵文化財発掘調査
発行　栃木県教育委員会
宇都宮市塙田１－１－20
TEL028（623）3424
財団法人　栃木県文化振興事業団
宇都宮市桜４－２－２
TEL028（621）1611
平成７年９月30日発行
編集　財団法人　栃木県文化振興事業団
埋蔵文化財センター
下都賀郡国分寺町大字国分乙474
TEL0285（44）8441
印刷（株）松井ピ・テ・オ・印刷